

- I1001 愛(あい・富田とみた、号;青楓、奥村忠順女)1721-90<sup>70</sup> 加賀金沢の富田良鄰(徳夫/終南、詩人)の妻、歌人;冷泉為村門、富田景周かげちかの母、家集「青楓秋露」著、奥村成象なりかた(1703-49)の妹、祖父;奥村又十郎易貞、富田景周かげちか(富田修和の養子/加賀藩士)の母
- 1000 愛(あい・田中たなか、愛女あいじよ、政詳[俳人草父]女)1781-1834<sup>54歳</sup> 出羽田川郡庄内大山の文筆家、和漢学;伯父朝陽門、歌人/琴を嗜む、伊勢参宮を兼ね諸国周遊、「参宮道の記」著、田中政均まさひら[万春ばんしゅん]の妹
- 愛(あい・久保) → 筑水(ちくすい・久保くぼ、漢学者/講説業) D 2 8 2 5
- 愛(あい・安西) → 赤松(せきしょう・安西あんざい、鑑定家) K 2 4 2 0
- あい(愛子・深見/村上) → 登之野(としの・深見、歌人) N 3 1 2 7
- 愛雨窓(あいうそう) → 玄齡(げんれい・田辺たなべ、医者/詩歌) N 1 8 1 4
- 欸雲(あいうん・林) → 道栄(どうえい・林/官梅、通事/書家) B 3 1 3 5
- 愛右衛門(あいえもん・入江) → 珍(うず・入江たいりえ、国学者) E 1 2 5 4
- 欸翁(あいう) → 埴南(いなん・武富たけとみ、儒者/詩文) I 1 1 1 3
- D1017 靄崖(靄崖あいがい・高久たかく、名;徴)1796-1843<sup>48歳</sup> 下野那須の農業/画;小泉斐門、鹿沼で絵師、鈴木松亭門/1823江戸の文晁門/大雅に私淑、南宋画様式を確立;巨匠となる、各地を遊歴、晩年は江戸で書画鑑定、「過眼縮図」「高久靄崖四君画冊」/1840「疎林外史画帖」著 [靄崖(;号)の字/通称/別号]字;子遠/遠々、通称;秋輔、別号;疎林外史/如樵/石巢、養嗣子;高久たかく隆古りゅうこ
- 愛嶽道人(あいがくどうじん) → 日智(にっち;法諱・通本院、日蓮僧) F 3 3 0 6
- 愛間堂(愛閑堂あいかんどう) → 閑叟(かんそう・新楽にいら、幕臣/蝦夷紀行) G 1 5 4 9
- 愛葵(あいき・山本) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6
- 愛吉(あいきち・桜井) → 盈栄(みつひで・桜井さくらい、商家/歌人) J 4 1 2 1
- 愛吉(あいきち・桜井) → 盈叙(みつのぶ・桜井さくらい/新井、国学) H 4 1 6 9
- 愛敬亭壽々成(あいきやうていすずなり) → 壽々成(すずなり・愛敬亭、茶番師) D 2 3 8 0
- 愛琴堂(あいきんどう) → 米華(べいか・中島なかじま、藩士/儒者) 2 7 1 5
- 愛薫(あいくん・長谷川) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3
- 噫慶(あいきい) → 噫慶(いきやう、真宗大谷派僧) F 1 1 2 4
- 愛敬(あいきい・藤原) → 愛敬(よしとか・藤原ふじわら、廷臣) E 4 7 0 4
- 愛敬(あいきい・土屋) → 愛親(よしとか・土屋つちや、藩士/和算家) E 4 7 5 5
- 愛景(あいきい・山崎) → 景雄(けいゆう・秋月庵しゅうげつあん、絵師/俳人) D 1 8 6 6
- 愛軒(あいきん・榎倉) → 石根(いね・榎倉えのくら、神職/国学/歌) K 1 1 0 1
- G1054 愛子(あい・跡部あとべ、忍照尼/心照尼?、諏訪頼深女)?-? 幕臣寄合の跡部新次郎正偏の後妻、諏訪頼哉よりあつの姪、歌;1798刊石野広通「霞関集」入(おじ頼哉と入集)、[契り置きて人待つねやの手枕にいくたび聞くも荻をぞの上風](霞関;恋772/秋契恋)
- C1044 愛子(あいこ、小野務の妻、号;薄園)1804-1865<sup>62</sup> 備中浅口郡長尾村の豪農小野務と結婚、歌人・木下幸文・小野務門、「薄園詠草」「からころも」著、
- 夫 → 務(つとむ・小野、柿園かきぞの、歌人) 2 9 9 8
- ☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[阿以女]と同一?、[たをやめの袖に乱れて降る霰かざしの玉の散るかとぞみる](大江戸倭歌;冬1235)
- I1037 愛子(あいこ、藤倉ふじくら、)1829-1902<sup>74</sup> 若狭小浜の古典・歌人;小浜藩士伴信友門、和歌会[八雲会]を指導、山川登美子の小浜在住期に和歌の師、山口久三著「藤倉愛子の遺詠並添削批語の拾遺」に資料入
- 愛子(あいこ・中山) → 續子(いさこ・中山なかやま、女房/日記) F 1 1 4 9
- 愛子(あいこ・深見) → 登之野(としの・深見/村上、歌人) N 3 1 2 7
- 哀公(あいく) → 斉脩(なりのぶ・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6
- 愛公(あいく・吉田) → 俊山(春山しゅんざん・吉田、絵師/鑑定) K 2 1 8 4

愛皐(あいこう・塩谷) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒官/詩人) 3 1 0 3  
 安威左衛門入道(愛-あいさえもんにゅうどう) → 性遵(しょうじゆん・安威あい、歌/連歌) N 2 1 5 1  
 安威[新]左衛門入道(愛-あい[しん]さえもんにゅうどう) → 性威(しょうい・神じん、歌) L 2 1 0 3  
 愛吾廬(あいごろ) → 竹坡(ちくは・川村、藩士/儒者/詩) D 2 8 7 0  
 愛吾廬(あいごろ) → 熊山(ゆうざん・鴨井かもし、儒者/詩文) C 4 6 0 1  
 愛吾廬(あいごろ・木村) → 信之(のぶゆき・木村きみら、歌人) I 3 5 1 4  
 安威左衛門入道(あいさえもんにゅうどう) → 性威(しょうい;号、神資脩、幕臣/歌人) Q 2 2 8 3  
 安威左衛門入道(あいさえもんにゅうどう) → 性遵(しょうじゆん;号、室町幕臣/連歌) T 2 2 0 5  
 愛三郎(あいさぶろう・北村) → 国雅(くにまさ・北村きたむら、国学/歌人) E 1 7 1 3  
 愛三郎(あいさぶろう・野口) → 秀波(ほなみ・野口のぐち、陪臣/国学) G 3 9 3 2  
 愛山(あいざん・山田) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9  
 愛山(あいざん・池田) → 玄斎(げんさい・池田いけだ、藩士/歌人) J 1 8 0 5  
 愛山(あいざん・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6  
 愛山(あいざん・三宅) → 経香(つねか・三宅みやげ/賀茂県主、神職/書・歌) G 2 9 4 4  
 愛紫(あいし・景山) → 青千(せいせん・景山かげやま/田中、俳人) J 2 4 0 5  
 愛七(あいしち・杉本) → 良承(よしつぐ・杉本すぎもと、藩士/国学) N 4 7 4 7  
 愛日庵(あいじつあん) → 旨恕(しじょ・片岡かたおか、俳人/連歌) E 2 1 0 2  
 愛日園(あいじつえん) → 鳴門(めいもん・田中、儒/詩人) 4 3 3 9

C1018 愛日斎(あいじつさい・古屋ふるや、名;鼎/鼎助、字;公鯨、安親男) 1731-9868 熊本藩士/儒者;父門、  
 秋山玉山門/徂徠学を主唱、宝暦1751-64頃に藩校時習館助教/近侍監/侍講、詩文に長ず、  
 「愛日斎随筆」「字考」「荀子説」「毛詩説」「礼記説」/1796「論語説」外著多数、  
 詩;孤山「楽洋集」入

愛日舎(あいじつしゃ) → 豊山(ほうざん・服部はつとり、藩士/儒者) B 3 9 0 7  
 愛日楼(あいじつろう) → 一斎(いっさい・佐藤、儒者) 1 1 2 2  
 愛日楼(あいじつろう) → 中玄(ちゅうげん・村田、医者) F 2 8 9 9  
 愛日楼(あいじつろう) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3  
 愛雀(あいじゃく・倉知) → 正修(まさなが・倉知くらち、国学者) P 4 0 4 7  
 愛雀軒(あいじゃくけん) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3  
 愛種(あいしゅ・中園) → 愛種(ちかたね・中園なかぞの/大蔵、国学者) B 2 8 1 8  
 愛樹(あいじゅ・千葉) → 正中(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌) Q 4 0 8 9  
 愛州(あいじゅう・萱生) → 由章(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌) J 4 7 7 2  
 愛樹堂(あいじゅどう) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 愛寿丸(あいじゅまる) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2  
 愛諸(あいしょ→ちかゆき・高橋) → 多一郎(たいちろう・高橋、藩士/尊王派) K 2 6 6 5  
 愛女(あいじょ・田中) → 愛(あい・田中、歌人/紀行) 1 0 0 0  
 愛松軒(あいしょうけん) → 紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行) E 3 5 6 8  
 愛松軒(あいしょうけん) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1

D1018 愛次郎(あいじろう・柴山しばやま、名;道隆、良庵男) 1836-62 斬殺27歳 薩摩藩士/儒者;藩校造士館訓導、  
 京伏見の寺田屋で義挙、1861-2「柴山愛次郎日記」著

愛次郎(あいじろう・飛鳥) → 本孝(もとたか・飛鳥あすか、国学・歌人) J 4 4 1 0

D1019 藹臣(あいしん・平野ひらの) 1786-1839 54歳 越後村松浜の出身/儒者;巻菱湖門、  
 詩人/書に長ず、「鷗辺詩抄」著、

[藹臣(;名)の字/通称/号]字;廷美、通称;安之丞、号;鷗辺

愛親(あいしん・土屋) → 愛親(よしちか・土屋つちや、藩士/和算家) E 4 7 5 5  
 愛親(あいしん・中山) → 愛親(なるちか・中山、大納言) I 3 2 4 5  
 愛親(あいしん→なるちか・山本) → 萩園(みえん・山本やまもと、儒者/書画) 4 1 5 2  
 愛信(あいしん・福田) → 峨山(がざん・福田、藩士/国学) L 1 5 7 2  
 安威新左衛門入道(あいしんざえもんにゅうどう) → 性威(しょうい;号、神資脩、幕臣/歌人) Q 2 2 8 3  
 愛水居(あいすいきよ) → 周竹(2世しゅうちく・平尾、俳人) I 2 1 0 8  
 会津中将(あいづのちゅうじょう) → 正之(まさゆき・保科ほしな、藩主/幕政/歌) I 4 0 1 9

- 会津屋佐兵衛(あいづやさへえ) → 一夢(初世いちむ・石川、講釈師/合巻) C 1 1 0 7  
 愛成(あいせい) → 愛成(ちかなり・善淵/六人部、廷臣/漢学者) B 2 8 4 2
- I1028 **愛石**(あいせき・松井まつい) 1764 - 1837?73? 紀伊出身?の文人;1796-1801頃大坂木村兼葭堂と交流、河内丹南郡野村の平田竹軒主宰の白鷗吟社に参加、1809(文化6)河内南河内郡西浦黄檗宗宝寿寺住職の敬之如顕(けいしにょけん)門;43後継;住職、絵師;紀伊藩絵師の野呂介石(1747-1828)門、文人画/山水画、介石・長町竹石と[三石]の称、門弟;高田秋斎・篠置ささおき易庵・大谷品崑(ひんがん)・中村四端・葛(服部)仏蓮・吉村撫松など、1837(天保8)大塩平八郎乱に連座?;獄死?、「楓林停車図」「箕山瀑布図」画、順石軒「盆山百景図」画、[愛石(;号)の別号]黙叟/真契
- 愛石(あいせき・中井) → 千尋(ちひろ・中井なかい、国学者/歌人) N 2 8 1 1  
 愛雪楼(あいせつろう) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3
- C1019 **愛宗**(あいそう) ? - ? 摂津の狂歌作者、1679行風「銀葉夷歌集」55首入
- C1046 **愛蔵**(あいぞう・坂東ぼんどう、二世佐野川市松) 1747-8539 歌舞伎役者、1767市松襲名  
 愛蔵(あいぞう・山下) → 正彦(まさひこ・山下やました、藩士/書家) G 4 0 5 0  
 愛代丸(あいだいまる) → 興雅(きやうが、真言僧/歌人) C 1 6 2 8
- 1052 **阿一**(あいち;法諱・如縁;字、上人)?-? 鎌倉期弘安-元亨1278-1324頃真言律僧;叡尊門、河内高安郡教興寺住僧、1281「異国襲来祈祷注録」1324「宗論」著、歌人;玉葉2242・風雅1789、[竜田山嵐のおともたかやすの里はあれにしてらとこたへよ](玉葉集;雑2242)、(河内の教興寺に住むにいつくのほどと尋ねられて返事)
- D1020 **蛙市**(あいち) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、[執しふの火の飛ぶ光なし今日の月](蓮実;337/名月の清冽な光;妄執の火も消える)
- 愛竹(あいちく・小本) → 政常(まさつね・小本おもと/金田一、藩士/国学) O 4 0 2 2  
 愛知丸(あいちまる・伊達) → 宗泰(むねやす・伊達だて、岩出山城主) D 4 2 9 3  
 愛長(あいちやう・甘露寺) → 愛長(なるなが・甘露寺かんろじ、廷臣/記録) I 3 2 4 6
- C1083 **愛貞**(あいてい・福養ふくよう) ? - ? 江前期上方の俳人、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、[十二釜火の用心よし神の留守](難波色紙;83/12の釜を並べ潔斎する湯立ての釜、巫女が熱湯に笹の葉を浸し振りかける/神無月は神の留守で禊ぎなく火も焚かない)
- 愛亭(あいてい→めでてい・美図垣) → 笑顔(えがお・美図垣みずがき、書肆/戯作) 1 3 5 2  
 愛宕(あいたう・久我) → 具房(ともふさ・久我こが、廷臣/歌人) Q 3 1 4 9  
 愛宕(あいたう・久我) → 通基(みちもと・久我こが/源、内大臣/歌) C 4 1 6 6  
 愛董(あいたう・大岡) → 春卜(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9  
 愛堂(あいたう) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3  
 愛道(あいたう・小川) → 愛道(よしみち・小川おがわ、和算家) H 4 7 4 0  
 愛宕庵(あいたうあん) → 鯨夫(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6
- D1021 **愛徳**(あいとく/よしり・花山院かざんいん/本姓;藤原、中山栄親2男) 1755-182975 花山院長熙ながひろ養嗣子、江中後期廷臣;1774従三位権中納言//権大納言/1814(文化11)内大臣/1815従一位、1820(文政3)右大臣、詩歌・書家、1803「製筆考」著、家厚の父  
 [愛徳(;名)の別名/号]初名;環たまき、号;通斎/大拙/書仙堂、法号;温恭院
- D1022 **靄漱**(あいとん・清川きよかわ、名;愷、玄道の父?) ?-? 1830-44頃江戸儒者;詩人、漢方医、「靄漱雑鈔」、「清川靄漱詩稿」「靄漱鈔録」「靄漱社中詩稿」「黄帝八十一難経輯釈備考」著
- 愛南(あいなん・田内) → 董史(董文ただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6  
 愛之丞(あいのじやう・内海) → 淡筋(たんせつ・内海/桜井、俳人) I 2 6 4 6  
 愛之進(あいのしん・千家) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2
- I1032 **愛之助**(あいのすけ・樋口ひぐち、号;容岳) 1842-192584 信濃諏訪郡の御岳神社祠官、国学者
- H1074 **愛之助**(あいのすけ・城子しろこ、通称;佐源治) 1850-9243 信濃伊那郡の国学者;平田鍬胤門  
 愛之助(あいのすけ・江幡) → 木鶏(もつけい・江幡えばた、儒者/易学) B 4 4 8 7  
 愛之助(あいのすけ・桑原) → 成徳(しげり・桑原くわばら、藩士/詩) S 2 1 1 6

- 愛之助(あいのすけ・新見) → 正登(まささだ・新見しんみ、幕臣/記録) C 4 0 5 6  
 愛之助(あいのすけ・谷村) → 昌武(まさたけ・谷村たにむら、藩士/海軍) D 4 0 4 3  
 愛之助(あいのすけ・門脇) → 重矩(しげのり・門脇かどわき、神職/国学) O 2 1 0 5  
 愛之助(あいのすけ・丹蔵) → 光業(みつなり・丹蔵たんぞう/杉原、神職/国学) J 4 1 7 3  
 愛梅子(あいばいし) → 西郭子(さいかくし、洒落本作者) E 2 0 8 8  
 愛姫(あいひめ・伊達) → 愛姫(めぐひめ・伊達/田村、政宗室/歌) 4 3 6 1  
 愛平(あいへい・可部) → 安都志(あつし・可部かべ、医者/詩歌) E 1 0 6 3  
 相覧(あいま・巨勢) → 相覧(おうみ・巨勢こせ、金岡男/絵師) C 1 4 6 5
- 1053 愛宮(あいまや、藤原師輔女/母; 雅子内親王) ?-? 平安前期歌人、源高明の後妻、  
 969夫高明の配流後に出家、蜻蛉日記・多武峯少将物語に歌入・拾遺498  
 [年を経てたちならしつる葦鶴あしたうのいかなる方に跡とどむらん](拾遺; 八498)  
 (左大臣道長の高松上[高明女明子、道長の妻]への不実を明子の立場で難詰?)
- 愛民(あいまん・新田) → 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者) J 4 0 9 4  
 愛民(あいまん・市川) → 行英(ゆきひで・市川いちかわ、和算家) F 4 6 4 1  
 愛茂(あいま・河北) → 藤茂(ふじしげ・河北かきた、度会、師職/国学) I 3 8 0 8  
 愛楽亭(あいらくてい) → 斉興室(なりおきのしつ・島津しまづ/池田、弥姫/周子/和漢学/歌) H 3 2 1 2  
 愛蘭堂(あいらんどう) → 伍草(ごそう・鈴木すずき、藩士/儒者) M 1 9 9 9  
 愛蓮社祐誉(あいれんしゃゆうよ) → 天従(てんじゅう; 法諱・愛蓮社、浄土僧) D 3 0 7 5  
 阿胤(あいに・伊達) → 墩子(とんこ・池田/伊達、歌人) M 3 1 3 7  
 安栄(あえ・中山) → 慶子(よしこ・中山なかやま、明治天皇生母/歌) N 4 7 2 9  
 蛙園(あえん・かわずのその) → 正兄(まさえ・福住/大沢、名主/報徳思想) B 4 0 3 4  
 蛙園(あえん・川合田) → 夏丸(なつまる・川合田かわいだ、歌人) L 3 2 6 8
- G1046 葵印(あおいじるし) ? - ? 川柳作者; [葵]から徳川家関係の人か?、  
 1783角力会に芝の組連[水せん]の取次で出句、  
 [大的をこそぐつて居る小さむらい](誹風柳多留; 一八)
- 葵溪(あおいのたに) → 是香(よしか・六人部むとべ、国学/神職/歌) 4 7 0 4  
 葵舎(あおいのや) → 是香(よしか・六人部むとべ、国/神道/歌) 4 7 0 4  
 葵舎(あおいのや) → 正典(まさのり・松浦まつうら/沢近、神職/歌) S 4 0 6 2  
 亜欧堂田善(あおうどうでんぜん) → 善吉(ぜんきち・永田ながた、絵師/銅版画) M 2 4 0 3  
 青衛門(あおえもん・藤原) → 孝善(たかよし・藤原ふじむら、廷臣/歌人) E 2 6 0 4  
 櫛丸(あおきまる・秦) → 櫛丸(あわきまる・秦、探検家/蝦夷記録) F 1 0 9 4  
 梧屋(あおざりや) → 精器(せいき・根本ねもと、鑄師/俳人) H 2 4 8 5  
 青侍従(あおじじゅう、青常) → 邦正(くにまさ・源みなもと、廷臣/歌人) B 1 7 6 2  
 青大将長虫(あおだいしょうながむし) → 安良(やすよし・山口、醸造業/国学) D 4 5 5 7  
 青葉(あおば・丸山) → 保秀(やすひで・丸山まるやま、庄屋/歌人) C 4 5 7 8  
 青葉岡老樵(あおばおかのろうしょう・青葉岡のあるじ) → 保秀(やすひで・丸山、歌人) C 4 5 7 8
- D1023 青彦(あおひこ) ? - ? 江戸後期俳人; 1810大魯33回忌追善「霜月十三日」編  
 青房(あおふさ) → 員九(いんく・児島、俳人) D 1 1 2 1
- D1024 桜男法師(あおほうし、通称; 法華寺靈彦) ?-? 江戸後期駿河花沢村の僧、1852「言霊彦集」著
- G1041 青柳(あおやぎ、組連) ? - ? 江戸本所四つ目の川柳の組連、  
 取次; 1759「川柳評万句合」入;  
 取次例; [何くはぬ顔で娘は綿をつみ](59万句合/前句; てうど能よ事々々)  
 (当時綿つみは綿製品を作る仕事に装った私娼)
- G1041 青柳(あおやぎ、組連) ? - ? 江戸芝の川柳の組連、  
 取次; 1759・61「川柳評万句合」入;  
 取次例; [密夫とはひぎへ上がりし猫で知れ](1761「万句合」/前句; ねんごろな事々々)
- 青柳監物(あおやぎけんもつ) → 監物(けんもつ・青柳、武道剣術) M 1 8 4 8  
 青柳散人(あおやぎさんじん) → 単朴(たんぼく・伊藤、談義本) 2 6 9 7  
 青山散人(あおやまさんじん) → 智好(ちこう、僧/詩人) E 2 8 1 2  
 青山散人(あおやまさんじん) → 日好(にちこう; 法諱・禅智院、日蓮僧) B 3 3 8 3

- 1054 **青人**(あおんど・上島うえじま、名;治房、鉄卵の兄)1660-1740<sup>81</sup> 伊丹酒造総本家の主人、鬼貫の従兄弟、伊丹派俳人;重頼門/伊丹派中興の長老、「野宮一々日万句」独吟百韻奉納、1686西吟「庵桜いおざくら」参加、92「伊丹生いたみき誹諧」編纂、1723百丸「在岡逸士ありおかいし伝」跋文、「西瓜三ツ」・1690嵐雪「其岱そのふくろ」1712知足「千鳥掛」/12長父・花天「鉢扣はちたき」入、1714月尋「伊丹発句合」四季入、  
[春や待つ我も枯野の驚虚瓢](伊丹発句;冬/虚瓢は号)  
[虫ぼしや花麗浪人蛇のうろこ](庵桜遺墨)、  
[青人(;号)の別号] 一搏四郎いっせんしろう/虚瓢/忘居士、常音、徳七・桃足・耳広の父  
青人(あおんど・斎藤) → 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4  
青人(あおんど・古今亭) → 音人(おとんど・鳴滝、狂歌作者) 1 4 9 8
- C1047 **亜槐**(あかい・柳営りゅううえい)? - ? 1231源実朝「金槐集」編、  
実名には諸説;頼経將軍・足利義政・一条兼良など  
靄厓(あがい・高久) → 靄崖(靄厓あがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7  
亜槐散木(あかいさんぼく) → 実隆(さねたか・三条西、古典学/書家) 2 0 4 0
- 1055 **赤猪子**(あかいのこ/あかいこ・引田部)?-? 記紀詠者、雄略説話:80年後「志都歌しつうた」を歌う  
關伽井宮(あかいのみや) → 道性(どうしやう;法諱、真言僧/歌人) F 3 1 4 0
- D1026 **阿嘉犬子**(赤犬子あかいんこ)?-? 伝説的オモロ歌唱名手/琉歌・三線の始祖、吟遊詩人、  
阿嘉は読谷山切(読谷村)の地名阿嘉に由来する/古謡オモロや初期琉歌の集団を指すか?、  
柳節[柳は翠花は紅/人は只情/梅は匂ひ/花の盛は三月四月/月のさかりは十五夜かさかり]  
赤右衛門(あかえもん・杉木) → 光貞(みつさだ・杉木/幸田/荒木田、神職/歌・俳人) D 4 1 4 5  
赤右衛門妻(あかえもんのつま・杉木) → 美津(みつ・杉木すぎき、光貞の妻/俳人) C 4 1 9 4
- C1020 **赤木勾当**(あかぎこうとう、号;観勇子)?-? 江戸中期1716-36頃備前の歌謡作者、  
地歌;1731「浜荻」/36「一葉船」/42「柳の糸」著
- D1027 **赤城山人**(あかぎさんじん・通称;本屋ほんや忠五郎)?-? 江後期江戸小石川小日向水道端住、  
洒落本・草双紙作者、狂歌作者:1787「狂歌才蔵集」入、  
1804「報親讐小槿本望」「白ねずみの双紙」/05「金剛力士武道礎」/09「僊窟史」著、  
[今はたゞわが身を恋のせめつゞみなるかならぬか調べてやみん](才蔵集;十一寄鼓恋)  
[赤城山人の別号] 赤城山家女/山家女/守信亭/物延於古足(もののべのおこたり;狂歌号)  
赤城翁(あかぎおう/せきじょうおう) → 徂徠(そらい・荻生おざむう、儒;古文辞学) 2 5 3 1  
赤城山人(あかぎさんじん) → 礪之進(いそのしん・白井しらい、藩士/紀行) F 1 1 8 9  
赤城樵者(あかぎしょうしゃ) → 無満(むまん・藍沢あいざわ、俳人/教育) D 4 2 0 1  
阿覚(あかく;法名) → 俊成(としなり/しゅんせい・藤原、廷臣/歌人) 3 1 4 7  
阿覚(あかく;法名) → 実教(さねのり・小倉おぐら、廷臣/歌人) D 2 0 4 3  
阿覚大師(あかくだいいし;諡号) → 安然(あんねん;法諱、天台僧/悉曇学) C 1 0 4 1  
藜庵(あかざあん) → 青岐(せいき・上野うえの、商家/俳人) 2 4 9 5  
赤坂成笑(あかさかのなりえみ) → 栗成笑(くりのなりえみ、狂歌師) B 1 7 7 7
- G1042 **あかし**(;組連) ? - ? 江戸神田の川柳の組連、取次;1760「川柳評万句合」入;  
取次例;[志道軒われも折々をかしがり]、  
(浅草名物辻講釈師の志道軒;男女の密事描写で有名、平賀源内「風流志道軒」あり)  
→ 志道軒(しどうけん・一無堂、深井、講釈師) F 2 1 2 7
- C1099 **明石組**(あかしぐみ;組連) ? - ? 小久保川真壁の雑俳の組連、  
取次;1738「収月評万句合」入/取次例;[君琥珀今は箒はうきのなされかた](万句合)、  
(前句みづくさい事々々/琥珀の塵は諺;吸付けて離さない/箒で塵を掃く;女漁り)  
明石(あかし・中村) → 勘三郎(2世・中村、歌舞伎役者) D 1 5 6 8  
明石(2世あかし・中村) → 清三郎(初世せいざぶろう・中村、2世勘三郎男/歌舞伎役・作者) B 2 4 7 0  
明石(あかし・中村) → 勘三郎(7世・中村、歌舞伎役者) D 1 5 7 3  
明石検校(あかしけんぎょう) → 覚一(かくいち、平曲・琵琶法師) E 1 5 1 2  
明石清三郎(あかしせいざぶろう・中村) → 清三郎(初世せいざぶろう・中村、歌舞伎役・作者) B 2 4 7 0  
明石殿(あかしどの) → 覚一(かくいち、平曲・琵琶法師) E 1 5 1 2
- C1021 **垢染衣紋**(あかしまのえもん、鈴木稲木女いなきじよ)1760-1825<sup>66</sup> 吉原の揚屋五明楼扇屋主人鈴木墨河の妻、

夫墨河ぼくが(棟上高見むねあげのたかみ)は狂歌作者、狂歌;吉原連、  
1785「徳和歌後万載」3首、

[さゝがにの糸のよるべの風をいたみ思はぬ軒に破る鳶凧とびだこ](後万載;一60)

[垢染衣紋(;狂号)の名/別号]名;稲木、別号;千广路せんげんろ

夫;

→ 棟上高見(むねあげのたかみ、鈴木墨河/狂歌) B 4 2 0 2

- 1001 赤染衛門(あかぞめえもん、平兼盛女、母の再婚の夫赤染時用の養女)957?-? 1041以後没 平安期歌人、  
出生をめぐり兼盛と赤染の母との相論が袋草紙に入(赤染の母が離婚時に時用と密通)、  
源雅信女倫子(道長の室)家の女房;赤染衛門名(当時養父時用ときもちが右衛門尉)  
976?大江匡衡まさひらの妻、尾張守の夫と2度尾張に下向/大江挙周・江侍従の母、1012夫没;  
出家、歌;1033賀陽院水閣歌合・35道長家歌合・41弘徽殿女御歌合など参加、  
「赤染衛門集」、「尾張紀行」著、「栄花物語」作者説有り、  
能因[玄々集]6首/寂超「後葉集」入/続詞花集13首(和泉式部との贈答歌入)/雲葉集3首入、  
勅撰93首;拾遺(316)後拾遺(32首14/68/193/264/以下)、  
金葉(Ⅲ4首)詞花(9首3/504以下)千(6首)新古(11首923/1179以下)新勅(956)続後撰以下、  
[やすらひで寝なましものをさ夜ふけてかたぶくまでの月を見しかな](後拾遺680)  
[夢や夢うつつやゆめとわかぬかないづれのよにか覚めむとすらん](続詞花;釈教460)

県居(あがたい) → 真淵(まぶち・賀茂、国学/歌人) 4 0 3 1

県犬養命婦(あがたいぬかのみようぶ、万葉歌人)→三千代(みちよ・県犬養橋宿禰) C 4 1 7 7

県主(あがたぬし) → 真淵(まぶち・賀茂、国学/歌人) 4 0 3 1

県満(県丸あがたまろ・賀茂)→ 真淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1

県麿(あがたまろ・斎藤) → 幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3

県麿(あがたまろ・三上) → 一彦(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人) V 1 5 8 2

- C1025 県守(あがたもり・多治比・丹比真人たじひのみひと、嶋男)668-737? 廷臣;太宰大貳/民部卿、  
万葉四期;万葉555;旅人の歌の題詞に入

暁鐘成(あかつきのかねなり) → 鐘成(かねなり・暁、戯作)初世-3世 C 1 5 9 3 / H 1 5 0 7 / H 1 5 0 8

- G1035 暁さしぐし(あかつきのさしぐし)?- ? 狂歌/1787「才蔵集」1句入;

[酒少しすぎやかざして初午の神もきげんに山笑ふころ](才蔵集;618)、

(酒少し過ぎ;杉や挿頭かざし/初午の稲荷参詣に神籬の杉枝を持帰る習慣/山笑は春季語)

暁/夢助(あかつきのゆめすけ) → 夢助(ゆめすけ・暁、俳人) G 4 6 1 1

- D1029 赤蜻蛉(あかとんぼ) ?- ? 洒落本作者;1788「女郎買之糠味噌汁」著(;千杏画/京伝序)

- G1040 赤邇(あかに・可部かべ、別名;顕胤/厳隆、安都志男)1844-81?38歳 石見美濃郡津和野の医者/国学者、  
皇典・神道・医術;父門、維新後は大阪住;平野社禰宜・大神社主典、歌人、  
1867「馭戎捷徑試論約説」、「多満迦豆羅」「古語対格」「古史略伝」「式社考」「夜碁刀廼夢」著  
[赤邇(;名)の通称/号]通称;並次/高次/剛造、号;華峰

- D1028 赤之御膳(あかのごぜん;狂歌号、姓;千村ちむら、名;政時/通称;藤右衛門)?-1857 尾張藩士/勘定奉行、  
寺社奉行/馬廻頭格/1853致仕、狂歌作者;「狂歌二十題画像集上之巻」編

- 1002 赤人(あかひと・山部宿禰/山辺)?- ? 聖武期宮廷歌人;724-36頃活躍/万葉三期、長13首/短37首、  
724紀伊玉津島/25難波宮/26播磨印南/34難波宮/36吉野離宮行幸に供奉;吉野讚歌は代表歌、  
下総葛飾/駿河/瀬戸内/伊予道後などに旅/拾遺下49首、「赤人集」「歌仙三家集」著、  
[み芳野の象山さきやまの際まの木末こぬれにはここだも騒ぐ鳥の声かも](万葉924)、  
[田子の浦ゆ[に]うち出でて見れば真白にそ[白妙の]富士の高嶺に雪は降るける[つつ]]  
(万葉318[新古今675])

垢人(あかひと・山根) → 祐行(すけゆき・笹木ささき、国学者) I 2 3 5 7

赤瓢箪(あかびょうたん) → 政信(まさのぶ・奥村おくむら、絵師/俳人) F 4 0 6 4

赤蒂(赤下手あかべた・今出) → 今出赤蒂(いまでのあかべた、狂歌) D 1 1 9 8

赤松日出成(あかまつひでなり) → 日出成(ひでなり・赤松亭、狂歌) D 3 7 5 0

赤間隠人(あかまのいんじん) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1

赤間密人(あかまのみつじん) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1

- 1057 赤麻呂(あかまろ・佐伯宿禰さえきのすくね)?-? 伝不詳/万葉四期歌人、相聞歌、万葉405・628/630、

[春日野に粟蒔けりせば鹿し待ちに継ぎて行かましを社やしし恨めし](万葉集;三405)

赤良(あから・四方)	→	南畝(なんぼ・大田、狂歌詩/戯作)	3 2 3 3
秋(あき;一字名)	→	尊信(そんしん;法諱、大覚寺門跡/連歌)	F 2 5 5 7
安藝(あき・伊達)	→	宗重(むねしげ・伊達だて/天童、領主)	B 4 2 4
安藝(あき・田村)	→	清年(きよとし・田村たむら、神職)	P 1 6 9 7
安藝(あき・伊達)	→	村倫(むらとも・伊達だて、領主)	D 4 2 9 5
安藝(あき・森本)	→	菅彦(すがひこ・森本/紀、国学者/歌)	F 2 3 8 7
安藝(あき・森本)	→	汎近(ひろちか・森本、菅彦男/国学/歌)	M 3 7 0 8
安藝(あき・和氣)	→	貞規(さだのり・和氣わけ、庄屋/歌人)	O 2 0 3 8
安藝(あき・玉田)	→	永久(ながひさ・玉田たまだ、国学)	N 3 2 8 2

[安藝(あき)]

- 1040 ① **郁芳門院安藝**(いくほうもんいんのあき、藤原忠俊女)?-? 母;藤原基房女、父は安藝守、のち祖父藤原基房(後妻;康資王母やすすけおうのは)の養女?、郁芳門院媍子(いし)内親王[1076-96]の女房、平安後期歌人;1089四条宮扇合参、1093郁芳門院根合/1095鳥羽殿前裁合歌合/堀河院艶書合参加、1106頃「郁芳門安藝集」、勅撰14首;金葉(Ⅱ66Ⅲ65)新勅撰(633/784)続後撰(139/743)新後撰(3首)玉(2首)以下[庭の花もとの梢に吹き返せ散らすのみやは心なるべき](金葉集;一66)、
- 1041 ② **待賢門院安藝**(たいけんもんいんのあき、別称;前斎院安藝、橘俊宗女)?-? 平安後期女房/歌人、待賢門院璋子[鳥羽天皇皇后1101-1145]女房、璋子女の前斎院統子内親王[1126-89]女房、歌人;1150久安六年御百首参加、後葉集/続詞花集入集、勅撰6首;詞花(397)千載(185/514/804/858)新古今(185)、[笹の葉を夕露ながら折りしけば玉散る旅の草枕かな](千載;八羈旅514/百首歌)
- 1058 ③ **崇徳院安藝**(すとくいんのあき・②と同一人か?)?-? 平安後期の女房歌人、崇徳天皇の代に鳥羽天皇皇女上西門院統子内親王[1126-89]が斎院の時に仕、待賢門兵衛と歌を贈答、新拾遺205(待賢門が斎院を訪ねた時、兵衛の歌への返歌)、[二葉なる千歳をそふるもろかづらしめのうちにはためしにぞ引く](新拾遺集;205)
- C1048 ④ **後白河院安藝**(ごしろかひのんのあき、巨勢(こせ)宗茂女)?-? 平安後期女房、源師光[1131?-1203?]妻、宮内卿[1185?-1204?]-具親(ともちか)の母、父は絵師
- 1042 **顕家**(あきいえ・藤原、九条三位、重家男/母;家成女)1153-1223 71 廷臣;右近少将/左京大夫/正三位、1215出家、歌人;1178別雷社/86経房歌合/91若宮社歌合/95経房家歌合/1200若宮歌合参、元暦校本万葉集校合を完成、言葉集/月詣/万代集入、勅撰7首;千載(294/772/889)新勅(185)続古今(1055/1829)続拾遺(974)、[月影は消えぬこほりと見えながらさぶなみ寄する志賀の唐崎](千載;秋294/湖上月)経家/有家と兄弟、六条知家[蓮性]/紙屋川顕氏の父
- C1049 **顕家**(あきいえ・北畠、親房男/本姓源)1318-38 戦死 21 廷臣/武将、1331参議/左中将/33陸奥守、正三位、父と任地で人心掌握/1334鎮守府将軍;尊氏に勝利、右衛門督/檢非違使別当、権中納言、義良親王(後村上天皇)と陸奥へ/美濃伊勢に転戦;和泉石津で戦死、「中尊寺建立供養願文」著
- 1043 **顕氏**(あきうじ・藤原ふじら、九条顕家2男/家号;紙屋川[-河]かみやがわ)1207-74 68 鎌倉期廷臣;内蔵頭、1243(仁治4)従三位/52(建長4)正三位/57(正嘉元)従二位、鎌倉幕府の行事に屢々参加、知家[蓮性]の弟、重氏(しげうじ)の父、歌:六条家の歌人;反御子左派、1274(文永11)没、1232石清水若宮歌合/46春日若宮社歌合参加、1248宝治百首/51影供歌合参加、1261宗尊百五十番参加、家集「顕氏集」、1253-4成立[雲葉集]入(正三位顕氏名)勅撰11首;続後撰(412/1168)続古(1358/1431)続拾(2首)新後撰(2首)続千(1916)風雅以下、[年経れどかはりもやらぬ名取川またむもれ木の数やそふらん](続後撰集;1168)
- 1059 **顕氏**(あきうじ・細川、通称;小四郎、頼貞男/本姓;源)?-1352 武将/幕府引付頭人;尊氏家臣、従四下、河内和泉守護;1347楠木正行に敗北/守護罷免;一時尊氏に反旗/52男山合戦総大将/急死、歌;自邸歌会催、1336春日社頭公武和歌献詠/44金剛三昧院和歌/50為世十三回忌和歌参加、頓阿と親交、藤葉集2首入、連歌;菟玖波3句入、経氏(つねうじ)の養父、勅撰7首;風雅(1514)新千(963/1799)新拾(1707/1821)新後拾(1519)新続古(1653)、

[いましかも夕だちすらし足びきの山の端かくす雲のひとむら](風雅;雑1514/夏歌)  
[よしさらば神にまかせて石清水すめる心を手向にもせん](新後拾遺;神祇1519)  
[顕氏の法号] 勝園寺戀興/雲戀道与

- C1097 **顕氏母**(あきうじのはは、顕氏の姓不詳、左中将顕氏の母)?-? 1365存 鎌倉南北期14c歌人、  
新待賢門院女房、参議通房の妻?or土御門顕実[1291-1329]の妻?、  
1365「点取三百首和歌」入(宰相中将顕氏母名)、新葉3首(784/1180/1386)、  
[色かへぬときはの山や年ふれどつれなき中のためしなるらん](新葉集;十二恋784)  
秋人(あきうど・腹唐) → 董堂(とうどう・中井、詩/狂歌) G 3 1 7 8
- H1083 **秋浦**(あきうら・田中たなか、旧姓;市村)1802-5049 飛騨高山の地役人、国学者;田中大秀門  
[秋浦(;名)の初名/字/通称/号]初名;彰、字;吉甫、通称;唯右衛門、号;高柳  
精浦(あきうら・永井) → 五十槻(いつき・永井ながい、神職) K 1 1 5 0  
顕恵(あきえ→けんえ・法印)→ 顕恵(けんえ、東大寺僧/葉室顕頼男) B 1 8 1 3  
明夫(あきお・渡辺) → 去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人) H 1 6 1 0  
明夫(あきお・大久保) → 狹南(きょうなん・大久保、幕臣/儒者) O 1 6 3 9
- D1030 **名臣**(あきおみ・神代かみしろ、名;敬珍)?-? 江後期1804-68頃京の医者/国学者/歌人、詩/画、  
「荷田大人啓文註解」著、維新後は東京住;教務省  
[名臣(;名)の字/通称/号]字;君預、通称;一作、 号;梅斎/富陽堂
- I1013 **秋香**(あきか・中村なかむら、)1841-191070 駿河府中の幕臣;1853(嘉永6)駿府城代与力見習、  
松木琴園門、国学・歌;祖父松木直秀門・八田知紀門、漢学;戸塚精齋門、  
維新後;1871愛知県に仕官/73教部権大録/79文部省出仕/90東京女子師範学校に奉職、  
1897(明治30)御歌所寄人(;高崎正風の推薦)1902唱歌選定委員嘱託、古典・歌の注釈書著、  
[秋香(;名)の号]不尽廼舎/槐陰雪屋/乾坤廬/今かくれが/松下庵
- H1055 **秋景**(あきかげ・河野こうの、通称;作蔵)1831-191888 肥前島原藩士、国学者/歌人;  
川村浄胤・中島広足・萩原広道/本居豊穎とよかい門  
昭景(あきかげ・宗) → 義智(よしとし・宗そう、藩主/対朝鮮貿易) F 4 7 4 6  
明影(あきかげ・大泉) → 歌寿彦(かずひこ・大泉おおいずみ、藩士/歌人) T 1 5 9 0  
顕景(あきかげ・上杉) → 景勝(かげかつ・上杉うえすぎ、武将/藩主) K 1 5 8 6
- D1031 **秋和**(あきかず・矢野やの/通称;善之丞)?-? 江戸末期尾張の蘭学者、「和蘭文典直訳」著  
秋風(あきかぜ・三井) → 秋風(しゅうふう・三井みつ俊寅、俳人) I 2 1 2 3  
秋風(あきかぜ・豊福) → 秋風(しゅうふう・豊福とよふく、医者/俳人) Y 2 1 2 7  
秋風(あきかぜ・服部/野呂瀬)→ 秋風(しゅうふう・野呂瀬のろせ、藩士/歌) I 2 1 2 4
- C1050 **秋風女房**(あきかぜにようぼう、加保茶元成妻まさ女、村田文楼養女)1764-182663 号;木綿子、  
江戸吉原妓楼主人の妻、狂歌;徳和歌後万載集5首、歌;加藤千蔭門、  
[秋来ぬと風が知らずや文月のふうじをきりの一葉ひとはちらして](万載集;三秋)  
(藤原敏行の歌を本歌、封じを切ると桐の一葉を掛ける)
- 1060 **明賢**(あきかた・源みなもと、大納言俊明男)?-1123 平安後期廷臣;弾正大弼/従四下、歌人、  
1121関白内大臣忠通家歌合参加、後葉集/続詞花(487;千載660)/夫木集入、千載660、  
[歎きあまりしらせそめつることのはも思ふばかりはいはれざりけり](千載;恋660)
- 1061 **顕方**(顕賢あきかた・藤原顕時/六条藤家、顕輔男/母;高階能遠女)?1104前-? 1159存 清輔同母兄、  
蔵人/信濃守/五位、歌;1134顕輔家/49家成家歌合参、後葉集/続詞花集6首/夫木抄入集、  
勅撰4首;千載(724/1041/1117)続後拾遺(344)、  
[我が恋は年ふるかひもなかりけりうらやましきは宇治の橋守](千載集;十二恋724)、  
(ちはやぶる宇治の橋守汝れをしぞあはれとは思ふ年の経ぬれば/古今;読人しらず)
- I1065 **昭方**(あきかた・山口やまぐち、)? - 1804 伊勢飯高郡の生/本居大平の叔父、国学者、  
伊勢松坂の書肆;柏屋、歌人;1759嶺松院会に出詠  
[昭方(;名)の通称]藤助/兵助、屋号;柏屋  
章賢(あきかた・中原) → 是円(ぜえん・二階堂、明法家) D 2 4 2 8  
在方(あきかた・賀茂) → 在方(あしかた・賀茂、陰陽家/暦学者) F 1 0 2 9
- D1032 **詮勝**(あきかつ・間部まなべ、初名;詮良/字;慈卿/慈郷、詮熙あきひろ男)1804-8481 越前鯖江藩主、  
兄詮充の嗣、1840西丸老中;59井伊直弼と対立/辞任、隠居謹慎、詩/書画/劍術/馬術、



1826「子叢摘芳」27「千代見草」34「浜の真砂」、「久能記」「松堂公詩文抄」「常足齋詩稿」著  
[詮勝(；名)の幼名/号]幼名；鉞之進えつしん、号；松堂/晚翠軒、常足齋、  
妻は浜田藩主松平康任女簾子れんこ→ 詮勝室(あきかつのしつ・間部/歌人) G 1 0 6 0

- G1060 詮勝室(あきかつのしつ・間部まなべ、簾/簾子れんこ、松平康任女)1802-8483 越前鯖江藩主間部詮勝の妻、  
歌人/号；玉雪、夫の死に殉ずる、1852蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[数ならぬ野辺の小草も春雨の恵みにもれぬ若みどりかな](大江戸倭歌；163)
- 1062 明兼(あきかね/-かぬ・坂上さかのうえ、範政男/中原氏)1071-114769 廷臣；明法博士/大判事/正五下、  
「法曹至要抄」「禁法略抄」「三十卷抄」「令序釈」著、1147(久安3)没、  
歌人；詞花243・千載464、寂超「後葉集」2首入、続詞花集入(千載と同歌)、  
袋草紙に関白忠通歌合詠[み空はれ所もわかず照る月の影もてはやす越の白山]俊頼判、  
[くれ竹のをれふす音のなかりせば夜ぶかき雪をいかでしらまし](千載集；冬464)
- 1003 顕兼(あきかね/-かぬ・源みなもと、初名；兼綱、宗雅むねまさ男)1160-121556 刑部卿/従三位、1211出家、歌人、  
説話集編纂、伝記作者、歌；1178別雷社歌合参加(；兼綱名)、1200石清水若宮歌合参加、  
1201十首和歌会参加、1212?説話集「古事談」編、「中外抄」写、明庵栄西の伝記を筆、  
新勅撰集985(；顕兼名)、  
[おのれなく心からにやうつせみの葉におく露に身をくぐらむ](新勅；十五恋985)
- I1092 顕兼(あきかね・藤原ふじわら、紙屋河、侍従顕教[?-1290従三位/99従二位/1315出家]男)?-? 廷臣；  
鎌倉後期；左近権中将/正四下、教氏(宮内卿/1316従三位/52没)の兄、紙屋河顕氏の曾孫、  
1315京極為兼[正和四年詠法華経和歌]参加、  
[うき身をももらさじとのみをしへおく法のみことをきくぞうれしき]、  
(詠法華教歌；213/囑累品)
- G1085 顕周(あきかね・田所たどころ/旧姓；海野、)1807-6054 紀伊日高郡田辺組の大庄屋、  
国学・歌人；本居内遠・加納諸平・八木立札・熊代繁里門、顕平あきひら・鳥山啓ひらくの父  
[顕周(；名)の通称/号]通称；三左衛門/弥惣右衛門/左衛土さえい、号；老柏/栗歌場茂樹
- 1063 明清(あききよ・山本やまと/本姓；竹田)1796-1837(一説1794-1835)42 江戸下谷車坂下の国学者、  
歌学者；岸本由豆流ゆずる門、「万葉集作者部類」「歌仙家集要」「暮春紀行」著、  
「古今和歌六帖標注」「四十二物諍しじゅうにものあらそい考証」著、「尚古仮字格かなづかい」編、  
[明清(；名)の通称/号]通称；瀧之助いのすけ/瀧之助/佐兵衛、号；東溪/宗亭古丸
- G1098 明清(あききよ・池田いけだ)1818-189477 讃岐高松の国学者；友部方升まさのり門  
[明清(；名)の通称/号]通称；千之助/柳平、号；松陽しょうお
- D1005 顕清女(あききよのむすめ・藤原、尾張局)?-1204後没 後鳥羽院の女房、明月記入：10、19
- 1064 顕国(あきくに・源みなもと、国信くにざね男/母；高階泰仲女)1083-112139 廷臣；四位左近少将/皇后宮権亮、  
堀河天皇近習、歌人；堀河歌壇/俊忠邸で活躍、歌合催、1121(保安2)没、  
1113-20内大臣忠通家歌合参加(袋草紙に逸話入)/16「雲居寺瞻西上人歌合参加、  
勅撰7首；金葉(Ⅱ 367/378/514/600)千載(110)新勅撰(406)続後拾遺(459)、  
後葉集/続詞花集入、連歌；菟玖波集の藤原顕国は源顕国の誤か？、  
[かくとだにまだいはしろの結び松むすぼほれたるわが心かな](金葉；七恋378)、  
(岩に言はずを掛ける/結ばれたまま心がはれない)
- H1086 顕国(あきくに・田村たむら、顕行あきゆき2男)1684-173653 陸奥仙台藩の国学者、清眞まよざねの弟、  
国学・歌；跡部光海てるみ(良顕よしあきら)門/神道・歌；正親町公通(風水軒白玉はくぎよく)門、  
[顕国(；名)の別名/通称]別名；清国、通称；卯八/平九郎/定之允さだのすけ/左覚  
秋国(あきくに・月輪) → 月輪秋国(つきのわのあきくに、狂歌) E 2 9 7 9  
秋邦(あきくに・江間・西村/長島)→寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5
- D1033 章子(あきこ・千葉ちば、桃三の女、幸子?)?-? 江中期和算家、1775「算法少女」編
- G1092 詮子(あきこ・井伊い、伊達重村3女の満姫)1770-184475 歌人、  
井伊直富(彦根藩主直幸3男1763-8725歳)の室；夫早世；長く守眞院(；法号)として生活
- G1075 秋子(あきこ・ときこ・広瀬ひろせ、幼名；安利あり)1784-1805早世22歳 豊後日田の生/広瀬淡窓の妹、  
重病に罹った兄淡窓を看病；命にかえて守ろうと祈願、  
のち京の後桜町上皇の女官風早局(兵衛佐局ひょうえのすけのつばね)に出仕；

腸チフスに罹病の局を看護;同じ病に罹り没

- D1034 **韶子**(あきこ/つなこ・有馬ありま、精宮あきのみや/精姫・韶姫あきひめ、有栖川宮韶仁あきひと王女) 1825-1913<sup>89</sup>  
徳川家慶の養女、筑後久留米藩主有馬頼成よりしげの妻、歌人、「有馬頼成室書状」著
- G1090 **詮子**(あきこ・有馬ありま、) ? - 1857 筑後久留米藩国老有馬陳次のぶつぐの妻、国学/歌人
- D1035 **昭子**(あきこ・鴨脚いちよう、通称;命婦/越後、下賀茂社司鴨脚秀豊女)?-? 江末期宮中に出仕;命婦、  
1864-66「鴨脚いちよう昭子日記」著
- G1072 **秋子**(あきこ・岡部おかべ) ? - ? 江後期;歌人、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[待宵の衣きぬにくゆらす空だきも更けてはむねのけぶりなりけり](現存百人一首;13)
- D1036 **明子**(あきこ・南部なんぶ、松姫[万津姫]、徳川斉昭女、盛岡藩主利剛としひさ室) 1836-1903<sup>68</sup> 歌人、  
「鹿島詣の道記」/1861「父君へ手向の歌」著、慶喜の姉、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(利剛としひさ朝臣室名)、  
[山里の竹のわれひのひまもりて心細くもたるひしにけり](大江戸倭歌;冬1159/樋米)、  
[明子の号] 好文/常盤園  
明子(あきこ・藤原) → 明子(あきらけい・藤原、良房女) 1 0 3 9  
明子(あきこ・藤原) → あきらけい子(あきらけい・藤原、宰相女) C 1 0 8 8  
章子(あきこ・津軽) → 信寧室(のぶやすのしつ・津軽つがる/松平、歌) J 3 5 0 9  
安藝御前(あきこぜん) → 義直室(よしなおのしつ・徳川とくがわ、紀行文) F 4 7 2 1
- C1084 **章言**(あきこと、あきとき、ふみとき・中原なかはら、章興男)?-? 南朝の廷臣/四位、歌人・新葉集1首;819、  
[いつはりのうきになれぬる夕暮れも思ひはなたずなどまたるらん](新葉集;恋819)
- D1037 **昶定**(あきさだ・清閑寺せいかんじ、益房みちふさ男/本姓;藤原) 1762-1817<sup>56</sup> 廷臣;1792参議/1803権大納言、  
1817従一位、1783「春日社造替雑記」、「昶定卿記」著
- G1065 **章貞**(あきさだ・高島たかしま、東水[玄潤]2男) 1804-69<sup>65歳</sup> 信濃安曇郡等々力村の代々医者;父門、  
学問を好み1810(7歳)上洛;桂園派歌人香川景恒(景樹男)の東塙塾入門、  
1817(文化14)上高地穂高神社奥社参詣;「穂高嶽記」著、1837(天保8)師の命で江戸出府;  
関東への桂園派敷衍を目指す/京橋に父と共に医を開業、佐久間象山らと交流;倒幕思想、  
1844(天保15)帰郷;医業の傍ら寺子屋[星園塾]を開塾、  
1854「俗通あめりか伝」58「寒郷炉譚」(穂高神社考/穂廟精考など)、61「星園和歌集」著、  
1869西園寺公望の命で上洛;近江国水口宿で毒殺、  
[章貞(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;挾武、字;以德、通称;祐桂、号;星園(;歌号)  
昭貞(あきさだ・松平) → 近禎(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人) N 2 8 8 4
- D1038 **顕郷**(あきさと・町まち、初名;経清、経時男/本姓;藤原) 1419-79<sup>61</sup> 室町後期廷臣;1464従三位治部卿、  
一条家家臣、歌;1443前摂政家歌合参、連歌;1451兼良「三代集作者百韻」参、  
一条冬良の異母兄教房の土佐幡多荘下向に随伴し同地に没、新菟玖波1句入、  
子息;顕基、女;一条冬良の母
- I1036 **秋郷**(あきさと・福島ふくしま、) ? - 1845 信濃伊那郡の商家;飯田藩御用達、  
歌人;桃沢夢宅門/国学;服部菅雄門、  
[秋郷(;名)の別名/通称/号]別名;良容/通愛/亮善、通称;利久弥/陸弥、号;閑斎
- D1039 **秋郷**(あきさと・和田わだ、通称;善兵衛/喜兵衛、本姓息長)?-? 江後期薩摩藩士、  
国学者;平田篤胤(1776-1843)門、  
1858「島門神跡考証」、「比流子神御伝記」著
- H1067 **秋郷**(あきさと・坂本さかもと、通称;朝次) 1820-1885<sup>66</sup> 肥前長崎の国学者;長崎会所に勤務、  
国学;中島広足・平田鉄胤門、筑後高良神社宮司/長崎諏訪神社祠官、権中教正  
広足中心の長崎伊勢宮連中による[十八番歌合]入(重道・藤村光鎮ら12人)
- H1059 **秋里**(あきさと・近藤こんどう、) 1689-1766<sup>78</sup> 伊予(新居浜)黒島神社祠官、国学者
- D1040 **明実**(あきざね・源) ? - ? 平安後期歌人;金葉解(拾遺)45、  
[さやかなる月をかくせる雲なれば心なき名もたつにやるらん](金葉集;拾遺45)
- C1085 **章実**(あきざね/しろうじつ、藤原資基[筑前入道蓮禅れんぜん]男) 1097-1179<sup>83</sup> 平安期大僧都、  
忠親「山槐記」入
- D1041 **昭実**(あきざね・二条にじょう、一字名;桐/次、後中院、晴良男) 1556-1619<sup>64</sup> 廷臣;1577内大臣/79右大臣、  
1585左大臣/86関白/関白を秀吉に譲渡/1605准三后、

江戸幕府の禁中並公家諸法度制定に参画、公家制札に精通、  
「踏歌節会次第内辨要」「文禄三年御八講次第」著、「慶安手鑑」に筆跡

- D1042 **明真**(昭真あきざね・小杉こすぎ、通称;五郎左衛門)1798-187780 徳島藩西尾家家臣/歌:加藤景範門、  
和学者、「詠草引付」評、楡邨すぎむら/おつその父
- G1058 **詮実**(あきざね・間部まなべ、詮勝あきかつ2男)1827-64早世37歳 越前鯖江藩主家の生、1841従五下、  
安房守、1862父の老中詮勝が安政大獄実施の責を追究され隠居;  
1862家督継嗣;8代鯖江藩主となるが、父に連座し自宅謹慎;1863赦免;翌年没、  
学問を好み詩歌・書画を嗜む、「待月亭漫筆」「待月亭間記」「待月亭雑誌」外随筆81冊著、  
正室;伊東祐相女の徽美(喜美子/歌人)、  
[詮実(;名)の号] 石巖/芳謙/子篤/松斎  
妻 → 喜美子(きみこ/徽美きみ・間部、藩主室/歌) S 1 6 8 5
- D1043 **秋実**(あきざね・西田にしだ、通称;守輔)?-? 幕末期長崎の国学者:中島広足門、「僧侶官位辨」著  
顕実(あきざね・池本) → 鴨眠(おうみん・池本いけもと、商家/歌人) C 1 4 7 0
- 1065 **顕実母**(あきざねのは・源/土御門、藤原為道女)?-?1356存? 鎌倉期大納言源雅長[1284-1312]家女房、  
雅長の子源顕実(権大納言/1329没)を産む、南北期歌人;1356延文百首参加、  
勅撰13首;新千載(8首184/281/959/1216/1458/1634/1990/2275)新拾遺(4首)新後拾(726)、  
顕実[1291-1329]は中将/中宮大夫/権大納言/正二位、  
息子没後も歌人として80歳頃まで活動、  
[久方の雲井のけふのあさ日影のどけき春のはじめとぞみる](延文百首;401)、  
[散る花をまづさきだてて日数さへうつりはてぬとくる春かな](同;420/新千;春184)  
秋三郎(あきさぶろう・佐藤/長谷川)→ 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家) H 3 7 4 6
- D1044 **章茂**(あきしげ・中原、章頼男)?-? 南北室町期廷臣;大判事/1348弾正忠、  
1416「大判事章茂記」著
- D1009 **明茂**(あきしげ/あきもち・半井なからい、初名;茂成、典薬頭半井明成男/本姓;和気)1401-8383 医;施薬院使、  
典薬頭/治部卿、従二位非参議/1476出家/天皇侍医、  
歌/連歌;1443兼良家歌合/44堯尋追善歌/50仙洞歌合/72玉津島社歌合に参加、  
伏見殿千首入集、新続古今1319、連歌;新菟玖波2句入  
[恨みわびうちぬる程の手枕に逢ふと見えつる夢をしぞ思ふ]、  
(新続古今;十三恋1319、和気茂成朝臣名)、  
[明茂(;名)の初名/法名]初名;茂成(もちしげ/しげなり/もちなり)、法名;常茂  
昭重(あきしげ・大給/松平)→ 近疎(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8  
鑑茂(あきしげ・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5  
秋篠僧正(あきしのそうじょう)→ 善珠(ぜんしゅ;法諱、法相僧/歌人) F 2 4 8 4  
秋篠月清(あきしのげつせい) → 良経(よしね・九条/藤原、摂政/歌人) 4 7 1 6
- G1078 **安藝女**(あきじよ/あきのむすめ)?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[待つ宵のきぬにくゆらす空だきも更けてはむねの煙とぞなる](大江戸倭歌;恋1527)
- 1004 **顕季**(あきすえ・藤原ふじわら、六条修理大夫、隆経男)1055-112369 母;親国女の親子(白河天皇乳母)、  
白河院側近、藤原実季の養子/六条藤家の祖、1094修理大夫/1111大宰大式/正三位非参議、  
1123出家、長実・顕輔の父、歌人;1078内裏歌合/1102堀河院艶書合参加、17実行家歌合判者、  
1118「柿本人麿影供和歌」創始、18「一会和歌纂」、19内大臣家歌合判者、  
1121長実家歌合判者(2度)、家集「六条修理大夫集(顕季集)」、「明月抄」編、  
後葉(6首)・続詞花集(7首)・雲葉集入、袋草紙に将作(修理大夫の唐名)として多数入、  
勅撰58首;後拾遺(631)金(Ⅱ20首1/7/12/47/72以下/Ⅲ14首)詞(4首)千(6首)新古以下、  
[うちなびき春はきにけり山河やまがはの岩間の氷けふやとくらむ](金葉集;一春1)  
顕季母(あきすえのは・藤原)→ 親子(しんし・藤原、藤三位、歌) E 2 2 3 4  
顕季室(あきすえのしつ・藤原)→ 長実母(ながざねのは、大夫の上/歌人) D 3 2 7 7  
顕季女(あきすえのむすめ);藤原宗通室(?-1150、伊通・季通・成通母)、  
源顕雅室(のち藤原仲実室)、

藤原経実室(?-1114)、  
藤原敦兼室(季行の母)、  
三条実行室(公教の母)→**顕季女**(あきすえのむすめ・藤原/歌人) C 1 0 5 1、  
源雅定正室

- C1051 **顕季女**(あきすえのむすめ・藤原)? - ? 三条実行(公実男/太政大臣)の室、公教の母、  
歌人;続詞花集入(八条入道太政大臣北方名/夫は4首入)、  
[露けさを思ひこそやれ彦星のけさ立ちかへるあまの羽衣](続詞花;秋163)
- 1005 **顕輔**(あきすけ・藤原・六条、**顕季**あきすえ男/母;経平女[長実母]) 1090-1155 66 母;藤原経平女、長実弟、  
廷臣;1123鳥羽上皇の院別当/27白河院の勘気で昇殿停止/29白河院没後復帰;中宮亮、  
中宮聖子の父藤原忠通の庇護下で1137従三位/39左京大夫/48正三位、1155(久寿2)没、  
顕方・清輔・重家・季経の父、**顕成**あきなり(実父;実行)の養父、  
歌人/歌学者;1116鳥羽院北面歌合参加/18**顕季**「柿本人麿影供」参加/28**顕仲**歌合参加、  
1134「中宮亮**顕輔**家ちゅうぐうのすけあきすけけのいの歌合」39「左京大夫**顕輔**家歌合」主催、49家成歌合判、  
1150「久安百首」出詠、1151「詞花集」撰者;奏覧、家集「**顕輔**集」、  
後葉(8首)・続詞花(10首)・万代・雲葉集入、袋草紙に左京として多数入、  
勅撰83首;金葉(Ⅱ14首10/14/41以下)千載(14首17/56以下)新古今(6首124/413以下)以下、  
[秋風にたなびく雲の絶え間よりもれいづる月の影のさやけさ](新古:413;久安百首)、  
[中納言家成家歌合に歌よみつつ判しけるに  
右歌の心ゆかぬことのみありけるつがひによめる、  
とにかくに右は心になはねば左かちとやいふべかるらん](続詞花;戯咲996)
- 1066 **顕資**(あきすけ・源、**資平**男)? - 1317 鎌倉期廷臣;蔵人頭/宮内卿/1305参議/正二位、  
母;源重助[重朝]女/親教の兄、歌人、新後撰577・玉葉955、  
[空さむき外山とやまの雲はなほとちて里よりはるる雪の朝あけ](玉葉集;六冬955)
- D1045 **顕允**(あきすけ・中川なかがわ、字;公修)?-? 江後期石見浜田藩士、  
1809「石室談草」-20「石見外記」著
- |                |   |                             |           |
|----------------|---|-----------------------------|-----------|
| 明輔(あきすけ・紀)     | → | 紀明輔(きのあきすけ、狂歌作者)            | S 1 6 1 6 |
| 顕輔(あきすけ・山崎)    | → | 立朴(りゅうぼく・山崎やまさき、医者)         | F 4 9 6 9 |
| 秋輔(あきすけ・川村)    | → | 正雄(まさお・川村/河村かわむら、国学者)       | B 4 0 3 9 |
| 秋助(あきすけ・野村)    | → | 稻守(いなもり・野村のむら、藩士/国学)        | K 1 1 5 4 |
| 章甫(あきすけ・望月)    | → | 望月秋吉(もちづきのあきよし、医者/狂歌)       | B 4 4 4 5 |
| 顕輔母(あきすけのは・藤原) | → | 長実母(ながざねのは・藤原、 <b>顕季</b> 室) | D 3 2 7 7 |
- C1052 **章澄**(あきずみ・中原なかはら/高倉、中原章久男)?-? 鎌倉後期明法家;明法博士、廷臣、  
1281頃大判事/正五上、1267「明法条々勘録」著
- D1046 **秋澄**(あきずみ) ? - ? 山城伏見の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- G1061 **秋澄**(あきずみ・臼井うすい、通称;采女)?-? 江後期旗本/幕臣、歌人、  
佐渡相川の地役人蔵田茂樹と交流、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[いとどしく匂へる花の朝しめり引きたわめても折りぞわづらふ]、  
(大江戸倭歌;春252/折花)
- 秋園古香(あきぞのひさか/あきぞのふるか)→古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9
- 1068 **顕隆**(あきたか・藤原ふじわら、**葉室**はむろ中納言、為房男) 1072-1129 58 母;源頼国女、1122参議/権中納言、  
1126按察使、白川院執行別当、「**顕隆**卿記」著、歌人;歌合主催、  
金葉Ⅱ155/215/366、**顕頼**/**顕能**/**顕長**の父  
[山里の門田かたの稲のほのぼのとあくるもしらず月を見るかな](金葉集;三秋215)
- D1047 **章堯**(あきたか・河合かわい) ? - ? 江中期岡山藩士、  
1700「武将伝記」-33「但馬湯嶋道の記」著/「有馬山温泉記追加」著、養嗣子;専堯もろたか
- I1049 **明喬**(あきたか・三浦みうら、明敬3男) 1689-1726 38 江戸の生/兄早世のため三河刈谷藩2代藩主、  
;1724(享保9)初代藩主の父隠居のため家督嗣;従五下備後守、美作勝山藩三浦家第4代、  
正室;鍋島吉茂の養女、1726(享保11)没;弟義利が家督嗣、  
[明喬(;名)の通称]吉五郎/百助/備後守/壱岐守
- 1067 **顕孝**(あきたか・葉室はむろ、頼寿男/本姓;藤原) 1796-1858 63 廷臣;1827参議/47権中納言/正二位、

- 1816-21賀茂下上社奉行、30「伊勢道の記」「葉室顕孝記」著、歌；「自筆詠草」、長順ながしの父
- I1082 **顕孝**(あきたか・渡辺わたなべ、通称；眞菅/号；五十槻) 1799-1875 77 周防佐波郡右田の熊野神社祠官、和学者
- D1048 **顕孝**(あきたか・田母神たもがみ、通称；兵吉、顕昌男)?-? 江後期岩代会津藩士、「久間伝之記」著
- I1072 **晟孝**(あきたか・山本やまと、本姓；藤原) 1808-1872 65 紀伊海部郡の木本八幡神社の神職、国学・歌人；本居内遠門、晟忠の父、[晟孝(；名)の通称]春千代/左馬之助/河内
- L1058 **陽隆**(あきたか・溝口みぞぐち、通称；壩柳よりゅう) 1829-1913 85 尾張春日井郡の国学者  
**顕孝**(あきたか・伊達) → **村和**(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5
- D1006 **顕隆女**(あきたかのむすめ・藤原ふじわら、藤原実能の室)?-1158 藤原公能きんとうの母、忠親「山槐記」入
- C1053 **昭武**(あきたけ/てるたけ・榎島まさしま、) ?-? 享保 1716-36 頃没 江前中期；江戸の国学者；故実/軍記作者、1698「北越軍談」「合類大節用集」編、1706「方丈記流水抄」、26「関八州古戦録」、「近史余談」著 [昭武(；名)の初名/通称/号]初名；郁、通称；彦八/孫八、号；駒谷散人
- G1059 **昭武**(あきたけ・寺山てらやま、通称；仲)?-? 江後期；幕臣？、「寺山昭武書簡」(福井藩士佐藤硯湖[1831-90]宛)著、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[しめじめと雨けもよほす北東風に梅が香寒ききさらぎの空](大江戸倭歌；春117)
- 1069 **顕忠**(あきただ・藤原ふじわら、富小路右大臣、時平男/母；源湛女；歌人) 898-965 68歳 廷臣；937参議、960右大臣、歌人；953内裏菊合参加、後撰614、道真の怨霊を畏敬；大和物語入、元輔の父、[鶯の雲井にわびてなく声を春のさがとぞ我は聞きつる](後撰集；十恋614)(女の元へ久しく通わなかいのため気落ちしていることを聞き詠む/さがはよくある性格)
- 1071 **章尹**(あきただ・森川/森河もりかわ、通称；対馬守、本姓；藤原) 1670-1762 京・新玉津島社社司；季吟の嗣、対馬守、歌；冷泉為村門、1763「幼記抄」、「肥州下向海陸記」「伊勢物語拾穂再註」著
- H1056 **明忠**(あきただ・越石こいし、) 1707-1737 31 近江彦根藩士、国学者/歌人；[彦根歌人伝・龜]入、[明忠(；)の通称]何右衛門(；代々の称)
- I1043 **顕忠**(あきただ・増田ますだ、) 1768-1856 89 江戸の田安家の御広敷御用、和学者、[顕忠(；名)の通称/号]通称；李太夫、号；不肅斎
- D1049 **顕忠**(あきただ・中川なかがわ、寄忠男) 1774-1815 42 加賀金沢藩士/1785父の遺跡嗣/92定火消、1801寺社奉行、1814家老、「公事場規矩」「公事場条目書上帳」「日記」著、[顕忠の通称]清次郎/清六郎/八郎右衛門、養嗣子；典義のりよし
- G1063 **顕忠**(あきただ・岡田おかだ、通称；李太夫/多門)?-? 幕臣；文政1818-30頃活動、田安御近習番頭、書家；中川忠英監修「清俗紀聞」(第一)筆写、福井藩主松平春嶽(1828-90)の書の師、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[夕立の過ぎし軒端の月影に露の玉ぬくささがにの糸](大江戸倭歌；夏674/夏虫)
- 1044 **顕忠**(あきただ・仲田なかだ/本姓；藤原) 1799or1801?-1860 62or60 幕臣/歌；海野遊翁門、桂園とも交流、歌人/歌学者、「仲田顕忠歌集」「江戸名所百首」「つくゑの塵」、「武蔵野集」「桂の落ち葉」、「雙玉類題」編、1810「喚子鳥考」/「喚子鳥追考」、1833「両日百首」46「和歌詞の枝折」、1857「墨田河桜百集」外著多数、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」10首入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[めづらしく春立つけふの子日とや千代のためしにまっはひかまし](大江戸倭歌；48)、[夕霧は野山をかけて立ちぬれどもものあはれはかくれざりけり](現存百人一首；12)[顕忠(；名)の通称/号]通称；藤右衛門、号；蓬園/歌淫、法号；忠先院、網野延平の師
- I1073 **晟忠**(あきただ・山本やまと、本姓；藤原、晟孝男) 1830-1912 83 紀伊海部郡の木本八幡神社の神職、国学・歌人；本居内遠・平田鍬胤門、[晟忠(；名)の通称]春楠/主馬/豊前守
- H1023 **章忠**(あきただ・大沢おおさわ、稲彦いなに男) 1846-1932 87 信濃伊那郡伴野村の庄屋；父を継嗣、1868(慶応4)菅沼直穂と共に上京；領主高須侯老臣中根帯刀に勤皇を説くが不受；帰郷、維新後；戸長、歌人；岩崎長世門/松尾多勢子と交流、平田先生授業門人姓名録に名あり、[章忠(；名)の通称]僊太郎

- 明忠(あきただ・松岡) → 明義(あきよし・松岡まつおか、故実家) E 1 0 1 3  
 顕忠(あきただ・桜井) → 魯玉(ろぎょく・桜井さくらい、俳人) 5 2 7 3
- 1070 顕忠母(あきただのはは・藤原ふじわら、源湛女、時平の妻)?-? 平安期歌人、後撰81・1129、  
 [鶯の鳴くなる声は昔にて我が身ひとつのあらずもある哉](後撰集;三春81)  
 (某所で疎遠にある夫時平の声を聞き贈った歌/時平の声は同じ;自分だけ変わった)
- C1022 彰民(あきたみ・藤井ふじい) ? - ? 淡路の地誌家;1825「淡路草」(藤井容信と共編)、  
 1825「淡路国風俗記」絵入編(弘賢:諸国風俗問状答入)
- H1039 秋為(あきため・豊田とよだ、)1823? - 188260? 美濃岐阜の絵師、歌人;氷室長翁・香川景恒門、  
 村瀬澹あわし・高橋古道と交流、息女冬子ふゆこも桂園派歌人、法名;無庵秋為居士
- D1050 秋足(あきたり・野村のむら、初名;正徳、旧姓;大橋、野村秀周の養子)1819-190284 尾張名古屋藩士;  
 1844家督/馬廻組/大番/60退隠、国学:鈴木腹あきら・植松茂岳門、尊王論を主唱し各地遊説、  
 1846「外舶瞬覧」、「伊勢参宮道之記」著、安藤因蔭の師、稲守いなもり(藩士/国学)の父、  
 [秋足(;)名の通称/号]通称:鍔つ次郎/八十郎、  
 号;琢斎/橘西/橘斎/葛廼屋、法号;花桜香精翁
- I1078 秋足(あきたり・横田よこた、)1838-191174 母;ふき女、武蔵川越の豪商;米穀商の家/町年寄、  
 横田政徳まさりの弟、歌人;尾高高雅門(母・兄も同門)、  
 [秋足(;)名の初名/通称]初名;明雅、通称;文三郎/徳三郎/文作
- H1037 秋足(あきたる・金田かねだ、)1836-188257 長門阿武郡福井村の金峯山神社神主、  
 仁壁神社祠官、中講義、  
 [秋足(;)名の別名/通称]初名;直之、通称;隼人
- 1072 明親(あきちか・大中臣おおなかとみ、宣親男)?-1206 平安末鎌倉初期の廷臣;左近将監/蔵人、  
 歌人;新古今1885  
 [いすず河空やまだきに秋のこゑ下はつ岩根の松のゆふかぜ](新古今;1885社頭納涼)
- D1051 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、初名;高義、親義男)1718-8669 播磨竜野藩士/医:修庵門、家督/藩医、  
 書/詩歌/俳諧を嗜む、1740「竜野志」著、  
 [明親(;)名の字/通称/号]字;以礼、通称;惣之助/与左衛門、号;磨崖/雪庵/梅居
- D1052 あきちか(・つつみ) ? - ? 江後期撰津在岡の郷土史家、  
 1833「在岡昔話余録」著
- D1053 顕比(あきちか・安井やすい、顕久男)1830-9364 加賀金沢藩士:改作奉行/軍艦奉行歴任、  
 1868藩主直言と上洛;長州藩と連合、「航海日記」/1864「諸事御用留帳及長州発向一件」著、  
 [顕比(;)名の字/通称/号]字;士順、通称;和介、号;青軒/綿山  
 顕允(あきちか・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1  
 朝月舎(あきつきしゃ→ちようげつしゃ) → 程十(ていじゅう・朝月舎、俳人) B 3 0 1 1  
 秋月(あきつき・舟橋) → 晴潭(せいたん・舟橋ふなはし、儒者/詩人) B 2 4 7 2
- I1058 秋世(あきつぐ・矢田やだ/本姓;源、)1834-191279 佐渡佐渡郡佐和田町の中原神社祠官、国学者、  
 [秋世(;)名の初名/通称/号]初名;春宗、通称;遠江正、号;雲斎、矢田求(1860生)の父?
- 1045 顕綱(あきつな・藤原、讃岐入道、兼経男)1029-1107?79? 母;順時女明子[弁乳母べんのめのと]、  
 道綱の孫、廷臣;丹波/讃岐/和泉/但馬守、正四下、歌人;白河・堀河歌壇に活躍、  
 1078内裏歌合/94高陽院七番歌合/95鳥羽殿前裁合参、1100頃出家;讃岐入道、  
 1104中将俊忠家歌合参加、法成寺の万葉集書写/古典本文を積極的に享受、[袋草紙]に逸話、  
 家集「顕綱集(讃岐入道集)」、後葉集(4首)・続詞花(5首)・万代集入、  
 勅撰25首;後拾遺(59/921/1098)金葉(142/467)詞(86/92/111/218)千(5首)新古(2首)以下、  
 [春たてば雪の下水うちとけて谷のうぐひすいまぞ鳴くなる](千載集;5/内裏後番歌合)  
 息子; → 道経(みちつね・藤原、歌人) B 4 1 8 8  
 息女; → 伊予三位(いよのさんみ・藤原兼子、歌人) B 1 1 9 2  
 → 讃岐典侍(さぬきのすけ・藤原長子、日記/歌) 2 0 3 0  
 → 実信母(さねのぶのはは・藤原、保実室、歌) D 2 0 4 2
- D1054 陽綱(あきつな・佐々木ささき、号;柳溪、徳綱男)?-1871 伊勢石薬師の医者/篆刻家、  
 「求古堂印譜」著、弘綱の兄
- D1055 顕綱王(あきつなおう/-のおおきみ・白川しらかわ/本姓;源、顕広王男)?-? 平安末期廷臣、仲資王の兄、

歌;1172広田社歌合;父と参加、

[わたのはら浪におりみる白雲のはるれば空ぞみぎはなりける](広田社歌合;廿一番左)

- 1051 **章経**(あきつね・中原なかはら) ? - ? 平安期廷臣/五位、歌人;金葉集Ⅱ460、  
[恋わぶる君に逢ふてふ言の葉は偽いつりさへぞうれしかりける](金葉集;八恋460)、  
(まだ逢って恋人にならぬ先に逢うといううわさがたつたので詠む)
- C1086 **顕経**(あきつね・千種ちぐさ/源、忠顕男)?-1377 南朝廷臣;1355参議/75権大納言、  
歌人;1365内裏四季歌合参、宗良親王住吉社三百六十番歌合参加、  
新葉集4首(64/422/488/1397)、  
[吹きまよふ嵐にさわぐ浮き雲のはや一かたは時雨てぞ行く](新葉集;冬422/住吉社歌合)
- I1066 **顕経**(あきつね・山崎まさぎ、通称;助太夫)?-1793 越中富山藩士、歌人;澄月(1714-98)・大江匡武門
- D1056 **明恒**(あきつね・藤原ふじわら) ?-? 1818存(60余歳) 香道研究家、1818「源氏薫香考」著
- D1057 **彰常**(あきつね・山路やまち/通称金之丞、諧孝ゆきたか男/本姓平)?-? 江後期幕臣;1846天文方/61家督、  
「重訂万因全因」改訂作業、「遠鏡図説」「太陰暦」「航海暦歩法」編、「太陰暦細草」著  
彰常(あきつね・庄司/野附)→七郎右衛門(しちろうえもん・野附のづき/庄司、大庄屋/儒詩)U 2 1 3 8  
秋津能屋(あきつね) → 文康(ふみやす・小林/有賀、国学者) E 3 8 1 0  
秋津麻呂(あきつね・森) → 貞温(さだはる・森もり、神職/国学) N 2 0 2 6  
鑑連(あきつね・戸次べつき) → 道雪(どうせつ・戸次/立花、武将) G 3 1 0 3
- D1058 **顕彰**(あきてる・勸修寺かじゅうじ、坊城ぼうじょう俊明男、経則養嗣)1814-6148 廷臣;1857左中弁/正四上、  
「顕彰朝臣記」、「勸修寺顕彰漢詩詠草」「勸修寺顕彰日記」著  
顕昭(あきてる・藤原、顕輔の養子)→ 顕昭(けんしょう・藤原) 1 8 1 8
- D1059 **章任**(あきとう/のりとう・中原なかはら、章継男)?-1321 鎌倉後期明法家/檢非違使尉/大判事/明法博士、  
侍読/修理権大夫/従四下、西園寺実兼家司/花園院に律令進講、「金玉掌中抄」著
- I1018 **明遠**(あきとお・成田なりた、)1691-172737 加賀金沢藩士、儒者;室鳩巢門、詩・歌を能くす、  
[今更に何か惜しまん誰とても限りありけるいのちとおもへば](絶筆)  
[明遠(;名)の字/通称/号]字;養晦、通称;宇兵衛、号;遜宇/済志
- I1068 **明遠**(あきとお・山田やまだ、月洲[君豹]男)1737-180266 薩摩鹿児島藩士、儒詩;父門/歌;芝山持豊門、  
1786(天明6)勘定奉行/1795(寛政7)家老就任、歌人、  
[明遠(;名)の初名/字/通称/号]初名;有儀、字;用晦、通称;彦八/司/伯耆、号;醉翁  
明遠(あきとお・中村) → 蘭林(らんりん・中村/藤原、幕医/儒者) D 4 8 2 9
- C1054 **顕時**(あきとき・藤原ふじわら、初名;顕遠あきとお、因幡守長隆男)1110-6758 母;高階重仲女、廷臣;  
1159参議、1160権中納言/67従二位民部卿、「中民記」著、平家卷三に逸話入、  
[顕時(;名)の通称] 中山中納言/栗田口帥あわたぐちのそら
- 1006 **顕時**(あきとき・北条ほうじょう/金沢かなざわ、実時男)1248-130154 鎌倉幕府評定衆、  
父の志を継ぎ金沢文庫を充実
- D1061 **晟時**(あきとき・松井まつい、別名;宗卿、七太夫男)?-1707 名古屋藩士/1658用人/65同心頭/76大寄合、  
1685致仕、弓/剣術;津田信之門/古橋良政門/江戸住;十智流の祖、「敬公徳義」著、  
[晟時(;名)の通称/号]通称;頼母/与兵衛/市之丞/市正、号;甫水、法諱;慈雲  
顕時(あきとき・藤原) → 顕方(あきかた・藤原/六条、歌人) 1 0 6 1  
章言(あきとき・中原) → 章言(あきこと/ふみとき・中原、歌人) C 1 0 8 4
- D1062 **章俊**(あきとし・藤原ふじわら) ? - ? 平安期廷臣;右京進、歌;1058公基歌合参加  
2 説 ①大蔵大輔為資男(実父邦光?)/大夫尉従五下出雲守  
②斎院長官定成男/勘解由次官従五下
- D1063 **顕俊**(あきとし・藤原ふじわら、初名;光成、号;四条/岩蔵、光雅男)1182-122948 鎌倉期廷臣;1211参議、  
1218権中納言/正二位/27出家、1211「顕俊朝臣記」著
- H1057 **明秋**(あきとし・越石こいし、)1732-180069 近江彦根藩士、国学者/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、  
[明秋(;名)の通称/号]何右衛門(;代々の称)、号;天遊/木下花成
- H1066 **明敏**(あきとし・齋藤さいとう、)? - 1851 陸奥会津藩士、国学・歌;芝山持豊(1742-1815)門、  
和歌所助教授、  
[明敏(;名)の通称/号]通称;与兵衛/吉次郎、号;葛生
- H1016 **顕駿**(あきとし・小野おの、)1802- 187170 備中倉敷の国学者、

- [頭駿(；名)の通称/号]通称；大太郎/丹右衛門/素三、号；椿之屋
- I1014 **秋福**(あきとみ・中山なかやま、)1713-178068 信濃飯田藩士、国学；依田正純門、歌；澄月門、  
[秋福(；名)の通称] 薨/藤左衛門
- 1074 **顕朝**(あきとも・姉小路あねがこうじ/葉室はむろ・本姓；藤原、宗房の長男)1212-6645 母；藤原清長女、廷臣、  
1238右少弁/九条道家・後嵯峨上皇の信任を得て昇進；上皇の伝奏/延暦寺との交渉役、  
1248(宝治2)参議/50権中納言/按察使/62(弘長2)中納言/65(文永2)権大納言、正二位、  
後嵯峨上皇側近としての実力/1266(文永3)病氣；没、妻；二条定高女、忠方・長政らの父、  
「顕朝卿記」著、歌人；1255自邸で続千首歌催、56基家百首歌合/65白河殿七百首参加、  
雲葉集入、  
勅撰16首；続後撰(1304)続古(7首78以下)続拾(2首)新後撰(161)新拾(1402)新続古(4首)、  
[夏衣すそののはらの草枕むすぶほどなく月ぞかたぶく](続後撰集；羈旅1304)
- I1048 **明友**(あきとも・松本まつとも/本姓；源、)1750-180253 近江彦根藩士、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、  
[明友(；名)の字/通称]字；雪遙/隠則、通称；何右衛門
- G1073 **且智**(あきとも・まさとも?・長瀬ながせ)?-? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[朝まだき麓の里は霧こめてほのぼの見ゆるをちの山の端](大江戸倭歌；秋814/山霧)
- L1061 **炳友**(あきとも・宮原みやはら、竜山[彬あきら]男)1796-186267 伊予松山の儒者；父(；松山藩儒)門、歌人、  
[炳友(；名)の字/通称/号]字；虎文、通称；守一郎/文太(父の称)、号；弦堂  
父 → 竜山(りゅうざん・宮原、彬あきら、藩儒) E 4 9 1 9
- D1010 **鑑寛**(あきとも・立花たちばな、蘭斎男/鑑備の養子)1829-190981 母；立花通厚女、  
筑後柳河藩主；1846家督、53沿岸警備；深川/長崎/上総に屯、63京護衛、戊辰戦役参加、  
左近将監/飛驒守、妻；田安斉匡女、歌・文雄門、「百ちぐさ」1853「飛難能道艸」著、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[炭がまの煙たえ行くこのごろはほのぼの霞む大原の山](大江戸倭歌；春58/山霞)  
[鑑寛(；名)の通称/号]通称；次郎/淳次郎/左近将監/飛驒守、号；対山、
- D1064 **顕豊**(あきとよ・北畠きたばたけ)?-? 戦国期廷臣；侍従、  
連歌；1470教具催「北畠家連歌合」(兼良判)参加、  
[もの思ふ身の枕かなしも  
月おそく人も来ぬ夜にひとり寝て](北畠家連歌合；恋百四十五番左、右は三枝幸高)
- H1035 **昭豊**(あきとよ・梶原かじわら、松田昭裕男)?-1869 江後期；尾張名古屋の国学者、佐々木弘綱の師、  
[昭豊(；名)の通称/号]通称；鍋吉、号；瑞斎  
顕豊(あきとよ・田所) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4
- D1065 **鑑虎**(あきたら・立花たちばな、別号；直茂/広茂/鑑茂、忠茂男)1645-170258 筑後柳河藩主/1664襲封、  
左近将監、出家；鉄文道智門、「英山公歌巻物」/1679「夢想之連歌」著、  
[鑑虎(；名)の通称/剃髮号]通称；勝千代/大助/左近将監、剃髮号；性俊しょうじゆん/英山
- I1017 **秋名**(あきな・長坂ながさか、)1794-186168 遠江白須賀の商家；旧家で問屋役(宿役人最高位)、  
国学/歌；夏目鸞磨みかまろ門、歌人；加納諸平「類題和歌鮫玉集」入集、広文ひろぶみの父、  
[香をとめて問ふ人もがなおぼろ夜の月ももれ来る窓の梅が枝](歌碑)、  
[秋名(；名/俳号)の通称/号]通称；久次郎/久治郎/久太夫、号；荻園  
商山人(あきないさんじん) → 緑樹園(りよくじゆえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7  
商元有(あきないのもとあり) → 緑樹園(りよくじゆえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7
- D1066 **詮直**(あきなお・のりなお・肥田瀬ひたせ、土岐直氏男/本姓；源)?-1399討死 美濃肥田瀬の武将/宮内少輔、  
侍所頭人、1390土岐康行女婿として参戦/99足利満兼に加勢；長森城で挙兵；  
同族土岐頼益に討たれた、歌；新後拾遺894、  
[行末の宿をやかねてさだめけん暮れていそがぬけふの旅人](新後拾遺；羈旅894/源詮直)
- H1080 **顕尚**(あきなお・関口せきぐち、通称；恒右衛門)?-? 江後期；上野桐生の国学者/歌人、  
国学・歌；加藤千蔭(1735-1808)・橘守部(1781-1849)門
- 1007 **顕仲**(あきなか・藤原ふじわら、資仲すけなか男/基家の養子)1059-112971 母；源経頼女、廷臣；左兵衛佐、  
従四下/1120(保安元)出家(；顕仲入道)、歌；「良玉集」撰、金葉集を非難し「良玉集」編、



1104俊忠歌合/16雲居寺結縁歌合、堀河百首/1118忠通歌合・顕季催「柿本人麻呂影供」参加、  
顕実の弟、能書家/管弦に秀づ、基俊/俊頼と交遊、逸話多し、顕実の弟、  
後葉集(4首)・万代集・夫木抄に入集、  
勅撰18首;金葉(Ⅱ3/138/226/525)千載(180/710)新古(972)新勅(2首)新続古(3首)以下、  
[いつしかとあけゆく空の霞めるは天の戸よりや春は立つらん](金葉集;春3)、  
[勝間田の池もみどりにみゆるかな岸の柳の色に映りて](白川殿御会/袋草紙に逸話)、  
[顕仲の通称] 佐顕仲、勝間田の兵衛佐

1008 顕仲(あきなが・源みなもと、顕仲王/伯顕仲、顕房男)1064-113875 母;藤原定成女/廷臣;1102従三位、  
左京大夫/越前権守/1122神祇伯、歌人;堀河天皇・中宮篤子の歌会・歌合に参加、笙の名手、  
自ら1128西宮歌合/南宮歌合/住吉社歌合など主催、堀河百首・1116永久四年百首等に出詠、  
「顕仲五十首和歌」、後葉集(2首)/続詞花集5首入、  
勅撰25首;金葉(10首87/141/147以下)詞花(401/411)千(1232)新古(2首)以下、  
[ぬるゝさへうれしかりけり春雨に色ます藤のしづくと思へば](金葉集;春87)

兄;雅実(母源隆俊女)・

弟;国信(母藤原良任女)・雅兼(母藤原惟綱女惟子)雅光(母別当清円女)、

子息;忠季・有房、

息女(顕仲女);伯女(はくのむすめ、重通妻)・待賢門院堀河・大夫典侍・上西門院兵衛

1077 顕長(あきなが・藤原ふじわら;北家顕隆流、顕隆男)1117-116751 母;源頼房女、平安後期廷臣;  
1158参議、1164権中納言/従二位、「顕長卿記」著、歌;新古今1574、顕頼の弟/長方の父、  
[世の中にあきはてぬれば都にも今はあらしの音のみぞする](新古今;雑1574/返歌、  
世間も秋の終りで嵐ばかりで都から出たいと思う/秋と飽き・嵐とあらしの掛詞、  
後徳大寺左大臣実定の岳父顕長への贈歌;山里に住み嵐の激しい朝の詠、  
夜半よはに吹くあらしにつけて思ふかな都もかくや秋はさびしき)

[顕長(;名)の初名/通称]初名;頼教/顕教、通称;八条中納言、

息子; → 長方(ながた・藤原憲頼、歌人) 3 2 0 6

11030 亮長(あきなが・氷室むろ、本姓;紀)?-? 江中期;尾張海東郡の津島神社神職、  
多田義俊(南嶺/1698-1750)門;神道・和学・有職故実・歌道を修学、  
津島社では社家の真野時縄ときつな(1648-1717)が和学・神道の考証的学風で活躍、  
津島神社神主;1728(享保13)就任;氷室長満を継嗣-1770(明和7)退任;氷室長英が後嗣

顕長(あきなが・中院/久世)→ 通夏(みちなつ・久世くぜ/源/中院、廷臣/歌) C 4 1 0 9

秋長(あきなが・若林) → 玄如(げんにょ;法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8

顕仲妻(あきながのつま・源/後葉集賀245/女の誤写)→ 顕仲女(あきながのむすめ・源/南宮歌合37) 1 0 7 6

1075 顕仲母(あきながのはは・源みなもと、藤原定成女)?-? 平安後期歌人、源顕房の室、神祇伯源顕仲の母、  
右大臣源顕房の前室には源隆俊女隆子[→顕房室]がいる、新続古今集1384、  
[君だにもせきとどめずは吉野川流れてはやくすみもしてまし](新続古今集;恋1384)

1076 顕仲女(あきながのむすめ・源みなもと、神祇伯源顕仲女)?-? 平安後期歌人、重通の妻[伯女はくのむすめ]か?、  
1128西宮歌合以下に出詠の[伯卿女]と同一か?、後葉集入(顕仲妻で入/南宮歌合37の歌)、  
勅撰4首;金葉(3首Ⅱ177/512、Ⅲ170/215/486)詞花(360)、  
[この世だに月待つほどは苦しきにあはれいかなる闇にまどはむ](詞花集;360/後葉500)

4人想定 → 伯女(はくのむすめ、重通妻、歌人) D 3 6 7 9

→ 堀河(ほりかわ・待賢門院、伯女はくじよ、歌人) E 3 9 8 2

→ 大夫典侍(だいのすけ・てんじ、金葉歌人) C 2 6 1 5

→ 兵衛(ひょうえ・待賢門院/上西門院) 3 7 3 7

D1067 顕業(あきなり・藤原ふじわら、俊信男)1090-114859 廷臣;1141参議/文章博士/東宮学士/佐大弁、  
「和漢兼作集」入、「願文集」著、母;菅原是綱女/俊経の父

J1000 顕成(あきなり・藤原ふじわら、実行男/顕輔の猶子)?-? 平安期廷臣;正四下/越前守or越中守(袋草紙)、  
清輔(1104生)より若く重家(1128生)より年長、  
袋草紙に関白藤原忠通の女房の薫物の囊ふくろの逸話入

D1068 明成(あきなり・坂上さかのうえ、明澄男)?-? 南北期検非違使/明法博士、「言上書」著

D1069 顕成(あきなり・白川しらかわ、顕成王、雅朝男)1584-161835 安桃江前期廷臣;1605神祇伯/従四上、

「御代官相伝切紙」受

- C1023 **顕成**(あきなり・阿知子あちし/山井やまのい、通称;作左衛門/号;林庵) 1635-7642 堺医者/連歌;宗因門、1652「天神750年忌法楽万句」参加/俳諧:談林、土橋宗静と親交、58「夢見草」入、1660「境海草さかいぐさ」72「続境海草」編、72「伝具利舟[手繰舟]てぐりぶね」編、1676西鶴「古今俳諧手鑑」入、1678西鶴「物種集」入; [紅葉もみぢ葉や北は南は三つの秋](手鑑/秋三ヶ月;見つを掛る)、 [雪舟一代やいと覚えず](物種集、前句;身に疵は絵にかことても御座らぬぞ/かこ;書こうとしても手本なし)
- D1070 **章成**(あきなり・中原なかはら/家名;勢多、治勝男) 1669-88早世20 廷臣;1678左衛門大尉/従五上、1674-8「中原章成日記」著
- 1009 **秋成**(あきなり・上田うえだ、名;東作) 1734-180976 大阪曾根崎の生/父;旗本の放蕩息子?(霞関掌録)、母;松尾富喜女のヲサキ、1737(4歳)堂島紙油商の嶋屋茂助[上田満宜]の養子、俳諧;紹簾/几圭門、青年期は俳諧に遊び放蕩生活、白話小説;勝部青魚門/歌;下冷泉家門、国学;加藤宇万伎門、読本・医;都賀庭鐘門、1760植山たま(1790出家;瑚蓮尼/1740-97)と結婚、1771(38歳)火災で家財焼失;医者・国学で生計、89姑と養母没/90左眼失明;妻剃髪、1793上京;住居転々/村瀬栲亭・木村兼葭堂らと交流、本居宣長と国学論争を展開、1797妻瑚蓮尼に死別、98右眼も一時失明;手術で少し回復、門弟唯心尼の招きで河内日下村に滞在療養;随筆「山霧記」著、帰京/晩年まで著作活動、1776「雨月物語」「春雨物語」、1805-7「藤篋冊子つづらぶみ」(70賀に門弟昇道編纂/版元須原屋)、1808「文反古」、随筆「胆大小心録」/外著多数、 [久方のはてなき空に朝霞たなびきわたり春立つらしも](藤篋冊子;立春71) [あなかまと青梅盗むきぬの音](続明烏)、 (中古の物語;若い女房をたしなめる姫/青梅は妊娠を暗示)、 [月や霰あられ其の夜の更けて川千鳥](去年こぞの枝折/慌だしい冬の宵;のちの静けさ)、 [秋成(;号)の幼名/別号]幼名;仙次郎、俳号;漁焉/無腸/余斎/鶉居うずらい、 戯名;三余亭/和訳太郎/剪枝崎人せんしきじん
- I1046 **顕業**(あきなり・松田まつだ/本姓;橘、名;嶺磨/通称;上野介) 1817-7963 周防山口の高嶺大神宮祠官、歌人;近藤芳樹門  
照成(あきなり・榊原) → 月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家) H 1 8 3 0  
昭音(あきなり・松平) → 武聴(たけあきら・松平まつだいら/徳川、藩主/歌) U 2 6 4 8  
顕成王(あきなりのおおきみ) → 顕成(あきなり・白川、神祇伯) D 1 0 6 9  
安芸入道(あきにゅうどう) → 長恒(ながつね・杉原、武将/連歌) E 3 2 5 1
- 1078 **秋庭**(あきにわ・田辺たなべ) ? - ? 万葉四期歌人;一五3638(:736年遣新羅使人)、 [これやこの名に負ふ鳴戸の渦潮に玉藻刈るとふ海人娘子あまをとめども](万葉;十五3638)
- I1038 **秋主**(あきぬし・二村ふたむら、通称;弥四郎) 1750-182172 筑前遠賀郡の国学者
- C1055 **秋主**(あきぬし・吉田よしだ) ? - ? 上州桐生の機業家/歌人:橘守部門、1838守部「心の種」刊の財的援助
- H1049 **明根**(あきね・小堀こぼり、旧姓;村瀬) ?-? 備前岡山藩士、国学;岡山藩儒医上田及淵しきぶち門、歌人、のち閑谷神社祠官/池田家家従、 [明根(;名)の通称] 勢之進
- 1056 **安貴王**(あきのおおきみ、春日王かすがのおおきみの男) 694?-? 奈良期廷臣;729従五下/745従五上、724頃因幡八上采女やかみのうねめを娶る;不敬罪で本郷くにに退けられる、妻は紀女郎きのいらつめ、万葉三期歌人:長短歌4首;306/534/535/1555/643題・988題、718伊勢従駕、拾遺141、市原王いちばらのおおきみの父、志貴皇子の孫、 [しきたへの手枕まかず間あひだ置きて年そ経にける逢はなく思へば](万葉集;四535反歌) 阿紀王(続紀;729従五下)および阿貴王(続紀;745従五上)と同一?
- 安藝守(あきのかみ・進藤) → 忠綱(ただつな・進藤、家司/連歌) P 2 6 8 5  
安藝守(あきのかみ・滝川) → 南谷(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人) J 3 2 0 0  
安藝守(あきのかみ・上司) → 延興(のぶおき・上司かみつかさ、神職) B 3 5 0 3

- 安藝守(あきのかみ・上原) → 和種(かすたね・上原うえはら、神職) M 1 5 2 8  
 安藝守(あきのかみ・岩橋) → 広持(ひろもち・岩橋いわはし/大江、神職/国学) I 3 7 3 8  
 安藝守(あきのかみ・浅野) → 長訓(ながみち・浅野あさの、茂長/藩主) K 3 2 8 0  
 安藝守(あきのかみ・榊原) → 忠知(ただとも・榊原さかきばら、幕臣/国学) X 2 6 3 8  
 安藝守(あきのかみ・朝山) → 義延(よしのぶ・朝山あさやま、廷臣/歌人) L 4 7 2 1  
 安藝守(あきのかみ・本庄) → 道貫(みちつら・本庄/松平、藩主/歌) B 4 1 9 1  
 安藝守(あきのかみ・上原) → 和世(まさよ・上原うえはら、神職/歌人) N 4 0 9 2  
 安藝守(あきのかみ・上原) → 和種(かすたね・上原うえはら、神職) M 1 5 2 8  
 安藝守(あきのかみ・出雲寺) → 信興(のぶおき・出雲寺いずもじ、神職/歌人) H 3 5 3 7  
 安藝守(あきのかみ・柏原) → 重禱(しげよし・柏原かしわばら/藤原、神職/国学) O 2 1 0 2  
 安藝守(あきのかみ・上司) → 延紘(のぶお・上司かみつかさ、神職/国学) H 3 5 9 3  
 安藝守(あきのかみ・北村) → 季才(すえのぶ・北村きたむら、神職/歌人) I 2 3 4 2  
 安藝介(あきのすけ・磯部) → 出雲(いずも・磯部いそべ、神職) F 1 1 7 4  
 安藝介(あきのすけ・山本) → 経為(つねため・山本たまと、神職/国学) G 2 9 6 8
- D1071 顕信(あきのぶ・北畠きたばたけ、通称;土御門/春日、親房男/本姓;源) ?-? 1375存 顕家弟/顕能あきよし兄、  
 南朝廷臣;左近少将/鎮守府將軍/内大臣/右大臣、  
 歌;1375「住吉社三百六十番歌合」参加/新葉集2首(411/1187)  
 [かねてきく日数ならずはさだめなき時雨を冬とたのまざらまし](新葉;411)  
 (;土御門入道前右大臣名)  
 詮信(あきのぶ・源) → 詮信(のりのぶ・源)
- H1017 顕允(あきのぶ・小野おの、季顕すけあきら長男) 1772-1837 66 備中倉敷の庄屋の生、国学者、顕世の兄、  
 [顕允(;名)の通称/号]通称;四郎左衛門/小左衛門、号:梅舎うめや
- D1072 彰信(あきのぶ・小田おだ、信州岩村田藩士後閑ごかん又右衛門男/幸治養嗣) ?-? 文化1804-18頃幕臣、  
 御持筒同心/御広敷添番、「思栄録」「廃絶録」「続撰武家補任」「続撰武家補任捷覧目録」著
- D1073 明信(あきのぶ・湯浅ゆあさ、字;伯有/通称仁兵衛、号;樗荘/博依) ?-1822 萩藩士;右筆/行相府手元役、  
 江戸勤務、詩人;菊池五山と交友、1804「古今服忌参考」/11「辛未紀行」著
- I1023 明陳(あきのぶ・能勢のせ、通称;軍治/号;自訟) 1790-1869 80 日向佐土原藩士/儒者;御牧みまき赤報門、  
 藩校学習館学頭;記録係を兼務、世子の侍読/学習館教主、能勢直陳なおのぶの父
- H1011 明誠(あきのぶ・魚住うおずみ、) 1809-1875 67 筑前早良郡の生/福岡藩士/国学者、勤王派、  
 病弱で次女の[こま](歌人)に活動を助けられる、  
 [明誠(;名)の初名/通称/号]初名;明実、通称;沖次郎/三郎八、号;楽処/楽只らくし  
 明順(あきのぶ・高階) → 明順(あきより/あきのぶ・高階たかしな、廷臣) D 1 0 6 0  
 明信(あきのぶ・加藤) → 主一郎(しゅいちろう・加藤、藩士/詩人) W 2 1 5 1  
 明信(あきのぶ・朝日) → 眞澄(ますみ・朝日あさひ、神職/神道家) N 4 0 1 4  
 詮信(あきのぶ・松平) → 信古(のぶひさ・松平/間部/大河内、藩主/記録) C 3 5 9 7  
 彰信(あきのぶ・石井) → 意伯(いはく・石井、医者) I 1 1 1 7  
 顕信(あきのぶ・常盤) → 謙斎(けんさい・常盤ときわ、儒者) I 1 8 9 6
- D1002 顕信女(あきのぶのむすめ・源みなもと、基通室) ?-1095 平安期/家実の母、「業資王記」入  
 秋の坊(あきのぼう) → 寂玄(じやくげん・秋之坊、藩士/僧/俳人) G 2 1 1 2  
 精宮(あきのみや、有栖川宮精姫) → 韶子(あきこ/つなこ・有馬、歌人) D 1 0 3 4  
 秋の舎(秋屋あきのや) → 豊穎(とよかひ・本居、国学/歌人) R 3 1 0 8  
 秋の屋(あきのや) → 永章(えいしょう・青木、玉園、神職/歌人) 1 3 3 5
- C1024 秋廻屋颯々(秋廻舎颯々あきのやさつさつ、伊東・伊藤いとう/本姓;藤原) 1782-1858 77 近江大津の鍛冶職、  
 大津七軒町に住/仏学;園城寺僧門、歌・俳諧・狂歌作者;鹿都部真顔しかつべのまがお門、  
 俳諧体一派を立てる、万葉集20巻註釈を著?、1854「古稀買」、「狂歌桂の於母影」著  
 [秋廻屋颯々(;号)の名/通称]名;巨規(おほり、通称;、通称;源兵衛  
 秋夜長樹(あきのよながき) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7
- D1004 顕憲(あきのり・藤原ふじわら、盛実男) 1098-1151 54 藤原通憲みちのり「本朝世紀」(1150-59)入  
 1079 顕則(顕範あきのり・赤松あかまつ/本姓;源、号;安峯/法名;祐泰、貞範or顕範男) ?-? 南北室町期武将;

越前守/伊豆守/中務少輔、歌;新後拾1346、  
[ともにすむ心もならへ山水をたよりとむすぶ柴のいほりに](新後拾遺;雑1346)

- D1074 **明卿**(あきのり・新井あらい/幼名;千太郎/字;大亮、白石男)1694-1741 48 儒者/1725家督/小普請、  
父白石の作品編集、「新井白石先生詩集」「白石先生余稿」編、「天爵堂寿言」「天爵堂寿詩」編、  
天爵堂は白石の別号、 [明卿の通称] 通称;伝蔵/法号;林覚
- D1075 **昭矩**(あきのり・塩田しおだ、重矩しげのり男)1701-68 68歳 岩代会津藩用所役/儒者;程朱を修学、  
柔術;小林歳重門/師範、当時の俊吏七人衆の1、「山内氏勝略伝」編  
[昭矩(;名)の通称/神号]通称;権六、神号;淳厚神靈
- D1076 **明矩**(あきのり・松平まつだいら、初名;義和、知清男)1713-48 36 磐城白河新田藩主;1721襲封、  
白河藩主基知の養嗣、1729本藩白河藩主襲封/41姫路移封、  
詩/書/画/茶/能楽を嗜む、「独醒居詩集」著、  
[明矩(;名)の号] 子成/播山/蘭谷、独醒居、法号;正眼院
- D1077 **秋告**(あきのり・林はやし、通称;安五郎/安太郎、養老館呂芳男)1784?-1814 30余歳 京の書肆(本屋)、  
国学者;本居宣長門、父と兄(養老館路産/林鮒主)は狂歌師、  
1815刊「林秋告遺草」、追善集「波耶資はやしの秋」
- I1071 **明則**(あきのり・山室やまむろ、旧姓;白井)?-? 江後期;讃岐高松藩士;先手頭格、  
歌人;木村定良(1781-1846)門、  
[明則(;名)の通称/号]通称;太市兵衛/斎、号;大海
- D1078 **明言**(あきのり・高松たかまつ、通称;滝蔵、号;天野屋/回翁)1800-73 74 信濃更級の国学者/漢学/歌人;  
回文歌を嗜む、国文頭、「更級田毎月影」「天之御柱常立百式」「天之御柱常立根及百式」著
- I1059 **昭徳**(あきのり・矢野やの、)1806- 1872 67 筑前福岡藩士;郡奉行/大目附、国学者、  
郡奉行のとき太宰府旧蹟碑建立に参画、  
[昭徳(;名)の字/通称/号]字;子晋、通称;元之丞/九十郎/九郎太夫/太左衛門、  
号;竹斎/鷗心
- D1079 **明德**(あきのり・善波よしなみ・ぜんなみ・ぜんぱ、通称;郡之丞、善波明貞の嗣)?-? 江後期会津藩士/歌人、  
「鎌倉枝折」著
- I1031 **昭規**(あきのり・飛田ひだ、) ? - 1894 陸奥田村郡三春の天日鷲神社神主、  
国学;平田鏡胤門、「国教大経」著、  
[昭規(;名)の通称/号]通称;上総、号;靈魂学士
- |                |   |                         |           |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 顕教(あきのり・藤原)    | → | 顕長(あきなが・藤原、廷臣/歌人)       | 1 0 7 7   |
| 秋舎(あきのや)       | → | 吾鬢(あずら・寺山、藩士/歌人)        | E 1 0 4 8 |
| 秋廻舎(あきのや・伊東)   | → | 巨規(なおのり・伊東いとう/藤原、鍛冶職/歌) | L 3 2 0 8 |
| 昭徳(あきのり・徳川/池田) | → | 慶徳(よしのり・池田いけだ、藩主/歌文)    | F 4 7 9 7 |
- I1093 **詮春**(あきはる・細川ほそかわ/幼名;九郎/本姓;源、頼春3男)1330-67? 38? 南北期;細川阿波守護家の祖、  
北朝廷臣;2代将軍足利義詮臣、讃岐守/左近将監、活動は不明な点多い;幕府宿老会議参加、  
頼之・頼有の弟/頼元(のち頼之の養子)・満之の兄、義之の父、  
のち禅宗帰依;妙照寺(井戸寺)再興;法名吉鼎、  
歌;1375以前細川家奉納[大山祇神社百首]に入、  
[おぼろなる月は残りて春の夜のかすめるかたに帰る雁がね](大山祇社百首;4)
- H1088 **顕始**(あきはる・田村たむら、宗良4男)1662-1706 45 母;仙台藩士山口重如女、建顕・建寛の弟、  
1696(元禄9)兄の旗本田村顕寛あきひろの没;養嗣として家督嗣;幕臣;旗本寄合、和学/歌、  
一関藩主家分家旗本田村氏第2代目当主、1701隠居;弟の顕普が家督嗣、  
[ふりをやむ隙も峰より吹きおろす嵐に積るたにの白雪](茂睡[鳥の迹]冬486/宗国名)、  
[顕始(;名)の初名/通称/号]初名;宗国、通称;千代熊(幼名)/右衛門、隠居号;一程
- D1080 **亮彦**(あきひこ・岡本おかもと/旧姓;小栗、字;子朗、通称;司馬、号;暁翠)?-? 江末期京の絵師;  
岡本豊彦門/師の養嗣子、「四季山水花鳥図」画
- G1095 **秋彦**(あきひこ・猪熊いのくま/本姓;卜部、方主かたぬし2男)1838-78 41 讃岐大内郡白鳥神社祠官家の生、  
国学者;友安三冬門、和漢学に通ず、画;越後の半山門、  
[秋彦(;名)の別名/通称/号]別名;冬彦、通称;鷲千代/次男、号;竹谷
- I1008 **秋彦**(あきひこ・中川なかがわ、)? - 1889 常陸笠間藩士、国学;堀秀成・井上頼国門、

陸奥の都々古別神社つこわけじんじゅ権宮司

- H1065 **斌彦**(あきひこ・佐藤まさとう、飯塚道別男)1843-9149 佐藤家の養子;上野群馬郡横堀村の里正、  
国学・歌;橋本直香ただか門、  
[斌彦(;)名)の別名/字/通称/号]別名;晋平/畝彦、字;応信、通称;雄平/扶桑太郎、  
号;白樞しらか園
- L1056 **秋彦**(あきひこ・水野みずの、)1849-188941 常陸笠間藩士、国学;三村安臣・鬼沢大海おのみ門、  
国学・歌;加藤千蔭・井上頼国・堀秀成門、維新後;陸奥棚倉の都々古別のつこわけ神社権宮司、  
のち香川県琴平の明道館教授、1889(明治22)没、  
[秋彦(;)名)の通称/号]通称;滝之助、号;二峯  
晨彦(あきひこ・松木) → 晨彦(ときひこ・松木/度会、神職/連歌) J 3 1 8 2
- D1081 **章尚**(あきひこ・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい、貞蔭男)?-? 南北期の外宮二禰宜・1369南朝方禰宜、  
「文保記」著
- C1026 **明久**(あきひこ・竹内たけうち、初名;明平/基久、鳥居大路諸平男)1487-155872 京の上賀茂神社神主;  
竹内栄久の養嗣子、従三位/刑部卿、「神主竹内明久享録元二日次記」著
- 1080 **鑑寿**(あきひこ・立花たちばな、鑑通あきみち5男)1769-182052歳 母;商家中村弥左衛門女の伊禰子、  
一時筑後柳川藩士立花通堅の養子、兄鑑一の早世により1793柳川藩世子となる、  
1797(寛政9)襲封;柳川藩主、伯耆守/左近将監/従四下、1810幕府に[立花家系譜]提出、  
妻は立花致真女的美勢子、歌;富士谷御杖門/詩;雪堂門、蘭齋(1801-38)の父、  
「鑑寿公詠草」、「立花鑑寿日誌」、「遠望閣道中日記」、「江戸柳川年中行事」、「遠望閣詩稿」著  
[鑑寿(;)名)の幼名/別名/通称/号]幼名;常之進、初名;通尹みちただ、通称;函書、号;遠望閣、
- G1069 **鑑寿**(あきひこ・小原おはら) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[ほととぎす待ちつる夜ごろ過ぎて後思ひたえたる寝覚めにぞ聞く]、  
(大江戸倭歌;夏449/寝覚郭公)  
頭古(あきひこ・碓井) → 梅嶺(はいれい・碓井うすい/中屋、商家/俳人) C 3 6 3 2  
詮久(あきひこ・尼子) → 晴久(はるひこ・尼子あまこ、武将/連歌) G 3 6 7 2  
精古(あきひこ) → 精古(せいこ/あきひこ/きよひこ・永井ながい、神職/国学) B 2 4 3 4  
上野正(こうづけのしょう・永井) → 精古(せいこ/あきひこ/きよひこ・永井ながい、神職/国学) B 2 4 3 4  
要栄(あきひこ・井上播磨少掾) → 播磨掾(はりまのしょう・井上、浄瑠璃太夫) 3 6 2 8
- D1082 **表秀**(あきひこ・三輪みわ、初名;秀精、秀奏ひでのり男)1737-180973 陸奥盛岡藩士/歌道;家学を修学、  
1798「湯の山婦み」1804「たむけくさ」著、「南雲老人百首」、「三輪表秀自筆歌集」著、  
「三輪表秀歌稿」著、  
[三輪門歌道]秀寿一秀奏ひでのり一表秀あきひこ一秀福ひでとみ一秀機ひでのり一秀憲ひでのり  
[表秀(;)名)の通称/号]通称;権吉/権之丞ごんのじょう、号;南雲斎、
- G1082 **秋英**(あきひこ・足立あだち)1825- 189571 豊後杵築藩士、国学・歌;物集高世門、  
絵師;十市石谷・田辺文琦(1801-69)門/1847藩主に随い江戸住;狩野探原・池田孤邨門、  
茶・禅を修学、藩主親良の師、維新後;姫島村戸長・大帯八幡祠官  
[秋彦(;)名)の幼名/別名/字/号]幼名;国太郎、別名;祐之、字;子英、  
号;臥雲軒/蕃龍庵/鈍々石
- H1018 **顕栄**(あきひこ・小野おの、)1835- 191177 備中倉敷の神職;阿智神社祠官、国学者、  
[顕栄(;)名)の別名/字/通称/号]別名;義雄/忠雄/蔚しげ、字;希信、通称;芳太郎/太宰、  
号;恕堂
- H1081 **顕秀**(あきひこ・田所たどころ、顕平男)1853-192068 紀伊田辺の鬮鶏神社神職;父を継嗣、国学者・歌人、  
国学/歌;熊代繁里門、「詠草」、  
[顕秀(;)名)の通称/号]通称;穂蔵/八郎(;)父の称)、号;梧窓  
顕仁親王(あきひとしんのう) → 崇徳天皇(すとくてんのう、保元乱/歌人) D 2 3 4 1  
精姫(あきひめ・有栖川宮、精宮) → 韶子(あきこ/つなこ・有馬、歌人) D 1 0 3 4
- 1011 **明衡**(あきひら・藤原ふじわら、字;蒼葉きらい/安蘭、敦信男)989-106678 廷臣;1004文章院入学/32対策、  
1041省試に不正;処罰/49出雲守/62文章博士/大学頭/従四下、後冷泉期代表学者、

- 藤原式家の地位確保、「本朝文粹」編、「本朝秀句」「新猿楽記」「明衡往来」「清水寺縁起」著、詩文多数；中右記紙背詩集/本朝無題詩/新撰朗詠集等入、続文粹入/後拾遺2首；166/423、[きのふまで惜みし花もわすられてけふは待たるる時鳥かな](後拾遺；夏166/四月一日)
- H1003 **秋平**(あきひら・稲岡いなおか、阿丘あきゅう男)1798-1860<sup>63</sup> 播磨宍粟郡山崎藩の医者；藩医、国学/歌；本居宣長門、山崎の和歌三秀(前野真門まかど・樽井守城もりきと)の1、[秋平(；名)の初名/字/号]初名；柳、字；章卿、号；櫟園れきえん/藪北そうぼく
- H1082 **顕平**(あきひら・田所たどころ/本姓；藤原、顕周あきかね長男)1828-75<sup>48</sup> 紀伊田辺組の大庄屋；父を継嗣、国学/歌；本居内遠・加納諸平・熊代繁里門、鬮鶏神社神職、歌人、鳥山啓ひらくの兄、1855(安政2)・56・57・58(安政6)に歌合催、[顕平(；名)の通称]八郎
- H1042 **秋平**(あきひら・莊野しょうの、)1831-1903<sup>73</sup> 讃岐高松藩士、国学；堀秀成門、神崎資訓すけのりの兄、のち石清水社社司、歌人、歌；植田竹次郎「雲根余影」入、[秋平(；名)の初名/通称/号]初名；知彰、通称；孫平次、号；莊園  
明平(あきひら・竹内) → 明久(あきひさ・竹内たけうち、神職) C 1 0 2 6  
昭平親王(あきひらしんのう) → 昭平親王(しょうへいしんのう、村上皇子/天台僧) B 2 2 4 4
- C1057 **顕広**(あきひろ・白川しらかわ、顕広王、顕康男/本姓；源)1095-1180<sup>86</sup> 平安後期廷臣；神祇伯、歌人；1172広田社歌合(；顕綱と参加)、白河尚齒会歌合催、日記「顕広王記」「白川家記」著、母；藤原憲房女、顕綱/仲資の父
- H1058 **明寛**(あきひろ・越石こいし/本姓；藤原、)1606-1661<sup>56</sup> 近江彦根藩士、国学者、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、[明忠(；)の通称/号]佐五郎すけごろう/何右衛門(；代々の称)、
- H1089 **顕寛**(あきひろ・田村たむら、岩沼藩主田村宗良3男)1659-96<sup>38</sup> 母；仙台藩士山口重如女、和学/歌、建顕の弟/顕始・顕普の兄、1678(延宝6)父没；兄建顕が家督嗣(；岩沼/一関藩主)、1694(元禄7)一関藩主田村家より分家；旗本田村家初代当主/幕臣；寄合、1696(元禄9)没、弟顕始あきはるが家督嗣、実子；娘(永井尚品の婚約者/夭逝)のみ、[顕寛(；名)の初名/通称]初名(諱)；宗辰むねとき、通称；七郎/主殿とのも
- D1083 **章弘**(あきひろ・小槻おづき/壬生、有馬綏尚男、小槻季連養嗣)1674-1717<sup>44</sup> 廷臣；1700主殿頭、1702左大史、11従四下、「章弘宿禰あきひろのすくね記」著
- I1070 **章弘**(あきひろ・山中やまなか、通道ゆきみち男)?-? 江中期；出雲松江の書家；父(松江藩筆道の祖)門、松江藩筆道師範；父を継嗣、歌道；烏丸光栄みつひで(1689-1748)門
- H1098 **秋広**(あきひろ・辻つじ、)1771-1791<sup>早世21</sup> 近江彦根の歌人；[彦根歌人伝・続寿]入、[秋広(；名)の通称/号]通称；五三郎、号；宇風
- D1084 **章広**(あきひろ・松前まつまえ、初名；敷広のぶひろ、道広男)1775-1833<sup>59</sup> 蝦夷松前藩主；1792襲封、従五下、若狭・志摩守、露・英船の来航相次ぎ幕府は1807-21蝦夷全域を幕府直轄とする；その間松前藩を岩代梁川に移封、1821蝦夷の旧領に復す；藩体制の再編と藩校設立、1822「松前志摩守書簡」27「公儀御達書及申立書其他」編、[章広(；名)の幼名/号]幼名；勇之助、号；維岳、法号；靈照院
- H1071 **暉熙**(あきひろ・柴田しばた、)1831-1899<sup>69</sup> 能登石動山の国学者、妻；こと(琴子/国学/歌)  
顕広(あきひろ・藤原/葉室) → 俊成(としなり/しゅんぜい・藤原、廷臣/歌人) 3 1 4 7  
昭裕(あきひろ・松田) → 棟園(ていえん・松田、藩士/儒者) 3 0 3 5  
顕広王(あきひろのおおきみ) → 顕広(あきひろ・白川、神祇伯) C 1 0 5 7
- 1012 **顕房**(あきふさ・源みなもと、六条右大臣、師房男/村上源氏)1037-94<sup>58</sup> 母；道長女尊子/中宮賢子の実父、廷臣；1061参議/従三位/83右大臣、94従一位、娘賢子を白河天皇に入内/孫堀河天皇即位；実権掌握/兄を凌ぎ村上源氏の主流、歌人；1055寛子春秋合参加、56顕房歌合主催；判者、1078内裏歌合；判、93郁芳門院根合；判、「六条右府記」著、俊房の弟、妻；源隆俊女・藤原定成女・藤原惟綱女惟子(因幡内侍)など、贈正一位、歌人；続詞花集入、勅撰14首；後拾遺(436/440/662/698)金葉(289/306/330/607)千(1037)新古(724)以下、[これも又千代のけしきのしるきかな生おひそふ松の二葉ながらに](後拾遺；賀436)  
(娘の中宮賢子が皇子敦文親王に加え皇女媞子を産んだ時の喜びの歌)  
息子；雅実(母；源隆俊女隆子)・顕仲(母；藤原定成女)・国信(母；藤原良任女)・

雅兼(母;藤原惟綱女惟子/因幡内侍)・雅光(母別当清円女)・信雅・顕雅・定海・隆覚・覚樹、  
息女;白河天皇中宮賢子(母;源隆俊女)・師子(同母)・藤原顕隆室

- D1085 **詮房**(あきふさ・間部まなべ/本姓真鍋、通称:右京/宮内、西田清定男)1666-1720<sup>55</sup> 甲斐府中藩士;小姓、  
改姓;間部/藩主綱豊の寵愛;1699用人/1704綱豊が将軍[家宣]に;幕臣/老中格;10高崎藩主、  
将軍側用人;幕政参与/1716罷免/17越後村上藩転封、1709-15「間部日記」、「漢蔡邕筆論」著
- H1012 **秋房**(あきふさ・白杵うけき、通称:亭助/亭蔵)1813-69<sup>57</sup> 肥後熊本藩士;櫛方吟味役/江戸住、  
国学;長瀬真幸まさち門/有職故実精通、昌平大学校教授
- 昭房(あきふさ・関根) → 白芹(はつきん・関根せきね、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6  
昭房(明房あきふさ・石井) → 宗澄(そうちよう・石井いひ、名主/歌人) C 2 5 5 5
- 1081 **顕房室**(あきふさのしつ・源みなもと、名;隆子りゅうし、六条右大臣北方、源隆俊女)1044-89<sup>46</sup> 右大臣源顕房室、  
久我太政大臣雅実・白河天皇中宮賢子の母、栄華物語;松下枝入、歌人:万代集/夫木抄入、  
勅撰6首;後拾遺(28/87/554)金葉(540/548)新古(1352)玉葉(1990詞書)、  
[袖かけて引きぞやられぬ小松原いづれともなき千代のけしきに](後拾遺集;春28)  
(1084年白河天皇が中宮の里内裏顕房邸滞在中の子の日に中宮母の立場からの詠)  
息 → 雅実(まささね・源/久我がが、太政大臣/歌) C 4 0 6 0  
女 → 賢子(けんし、中宮/堀河天皇母/歌人) J 1 8 2 9  
在藤(あきふじ・賀茂) → 在藤(ありふじ・賀茂、陰陽/暦学者/歌) F 1 0 7 4
- C1058 **明理**(あきまさ/あきみち・藤原ふじわら、藤原純素男)?-? 平安期歌人、941叔父伊予掾純友が天慶乱挙兵、  
歌人:986「寛和二年内裏歌合」左方人
- D1086 **証政**(あきまさ・渡辺わたなべ、号;東皐亭/一秋)?-? 江後期尾張の地誌家、  
1718「伊勢みやげ」、「古渡志」著
- D1087 **秋全**(あきまさ・清水しみず、善右衛門男)1706-66<sup>61</sup> 陸奥盛岡南部藩士/国学、  
歌道:高津友淳・風早実澄門、「武奥増補行程記」「神代文字四十二様之伝」「名所道順記」著、  
[秋全(:名)の別名/通称]別名;七実、通称;右衛門七/甚右衛門
- I1063 **章政**(あきまさ・山尾まよお/本姓:平、通称;衛守)1742-1822<sup>81</sup> 佐渡相川の絵図師、歌人、  
養子;定政さだまさ(1790-1861/絵図師/詩歌人)、  
[見るもうしみぬはた悲しいかにせん今はのきはの人のことのは]、  
(孫の没後その辞世を知りたくてその弟の許に遣る詠/[現在歌選]入)
- D1088 **明雅**(あきまさ・西川ししかわ、字;士章/通称;藤兵衛、恒山男)1778-1830<sup>53</sup> 佐渡の地役人;  
1792役所見習/目付役、1826与力格広間役、30致仕、詩、「佐渡之夢」「佐渡年代記」著
- D1089 **詮政**(あきまさ・長沼ながぬま、後名;安止)?-? 江後期信州佐久の和算家:小村松庵門、  
1815「練心胆」、「鈎弧適等」「算法記秘書品々」「長沼氏手控雑帳」著、  
[詮政(:名)の通称/号]通称;理十郎、号;観斎
- H1099 **明雅**(あきまさ・出島でじま、通称;甚太夫/号;竹斎)1823-94<sup>72</sup> 駿河安倍郡豊田村の名主、  
国学・歌;医者花野井有年(昌斎)門、維新後;静岡東照宮祠官
- 明雅(あきまさ・横田) → 秋足(あきたり・横田よこた、商家/歌人) I 1 0 7 8  
晨正(あきまさ・竹田/武田) → 晨正(とくまさ・竹田/武田たけだ、商家/歌) V 3 1 6 9
- 1082 **顕雅母**(あきまさのいは・源、藤原伊綱女)?-? 1107存 平安歌人、右大臣源顕房[1037-94]の室(妾)、  
大納言源顕雅/法印覚樹の母、金葉II 589(III 579)、  
[千歳まですまん泉のそこによもかげをならべんと思ひしもせず]、  
(金葉[二度本]589;顕房の造った邸の泉を見ることを勧められて詠んだ歌)
- D1090 **詮益**(あきまさ・毛利もうり、通称;隼之助、養幸男)1629-87<sup>59</sup> 金沢藩士;1641小姓/44射手与力、  
見聞した藩主利常の事蹟記録:1682「小松群談」「竜作夜話」編、「聞見記」著
- G1039 **審麿**(あきまる・風早かざはや、別名;富麿)?-? 平安前期安藝賀茂郡の人;[德行懿美・孝養自厚]、  
父母没後も孝養;833戸田祖を免除(続日本後記天長10年10月9日条)/頼杏坪「芸備孝義伝」入
- D1091 **秋麿**(あきまる、姓不詳、通称;旦夕、号;佗殿/步常亭)?-1819 名古屋の俳人;鷗沙門、国学/悉曇学、  
「たてぬき」著、1813「比刀太万肥」編、妻;いはほ(俳人)/門弟;さゝを(小沢こざわ)
- H1004 **秋麿**(あきまる・稲永いねなが、初名;八尋)?-? 江後期;筑前夜須郡の医者、  
国学/歌;青柳種信(1766-1835)門
- D1092 **明海**(あきみ・山中やまなか、通称;甚作、号;芳山)1755-1807<sup>53</sup> 伊勢宇治山田酒造業/本草・薬草栽培、

- 奇石蒐集、「明海山物図経」「明海視聽録」「禽獸形状漫記」「異事漫録」「南海異魚図」著
- D1093 **顕道**(あきみち・勸修寺かじゅうじ、高顕男)1717-5640 廷臣;1742参議/44権中納言/53権大納言/従二位、1740「内侍所御拝記」著
- D1094 **鑑通**(あきみち・立花たちばな、別名;俣香/鑑致、貞俣3男)1729-9769歳 母;柴田由井子、兄貞則の養嗣;1746(延享3)筑後柳河藩主、左近将監/従四下、武芸奨励、詩歌/俳を嗜む、1761「諸侍系図」編、「東行日記」、77「聖廟心願奉納千句」著、妻;松平継高女の清子、鑑寿あきひさの父、[鑑通(;)名)の幼名/通称/法号]幼名;万寿丸、通称;左京大夫、法号;大応院
- D1095 **顕道**(あきみち・小川おがわ、祐之、笙船の孫)1737-1816 江戸の医者;小石川養生所の肝煎、相模六浦・藤沢に住、信成[泰山たいざん]の父、「佐志茂草」「民家養生訓」、1773「養生囊」著、1809「瘡家示訓」14「塵塚談」著
- F1082 **顕道**(あきみち・荒井あらい、通称;清兵衛、道貞男)1814-6249 幕臣;小普請方手代、奥州/甲洲の代官、1860関東代官、1853「牧民金鑑」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[風の音は松の梢にをさまりて跡にしぐるる蟬のもろ声](大江戸倭歌;夏586)
- D1096 **昭道**(あきみち・長谷川はせがわ、金蔵正次男)1815-9783 松代藩士/1839世子近習/45郡奉行、開国派佐久間象山と対立;1853失脚/蟄居、64解除;京留守居役/勤王派;国事奔走、儒;竹内錫命門/兵学;山寺常山門/砲術;象山門、1861「皇道述義」62「攘夷独語」著 [昭道(;)名)の別名/通称/号]別名;正心/正義/元亮、通称;深美、号;戸隠舎/一峯/静儉陳人/東陽逸民/独柳子
- I1016 **秋道**(あきみち・長岡ながおか、旧姓;栗田)1843-192280 尾張熱田神宮宮人、国学者、国学;植松茂岳・野村秋足あきたり門、「樞園歌集」著 [秋道(;)名)の通称/号]通称;音熊/采女、号;樞園 明理(あきみち・藤原) → 明理(あきまさ/あきみち・藤原、歌人) C 1 0 5 8
- C1059 **顕光**(あきみつ・藤原ふじわら、関白兼通男/母;元平親王女)944-102178 廷臣;957参議、1017左大臣/従一位、堀河院邸めぐり頼定と争う;栄華物語入、娘達(元子/延子)も不運が重なる、不遇のうちに没、歌;拾遺1282、俗説;死後悪霊となり道長家に祟る、[こゝにだにつれづれに鳴くほととぎすまして子恋こゝの森はいかにぞ](拾遺;哀傷1282、源惟賢[伊尹男]の死に際し父伊尹に贈った弔問/右大臣名)、[顕光の通称] 堀川[河]左大臣/広幡左大臣、没後;悪霊左大臣(俗説) 妹 → 嬪子(こうし・円融天皇皇后) B 1 9 2 3 妻 → 盛子内親王(もりこないしんのう、村上天皇皇女) F 4 4 3 9 女(娘);元子(げんし) → 承香殿女御(じょうきょうでんのによご、一条天皇女御) M 2 1 7 0 延子(えんし) → 堀河女御(ほりかわのによご、小一条院敦明親王妃) E 3 9 8 7
- D1097 **韶光**(あきみつ・勘解由小路かでのこうじ/本姓;藤原、烏丸光雄男)1663-172967 勘解由小路資忠の養嗣、廷臣;1691従三位/1726権大納言/正二位、儒学/詩文を修学、1698義端「博桑名賢文集」「熙朝文苑」入、1679「応制題詠百首詩」/1705「桃薬編」、「衣笠全集」「道聴塗説」「韶光卿記」「朴所公文集」著、[韶光(;)名)の号/法号]号;朴所、法号;天光院
- I1009 **顕充**(あきみつ・中川なかがわ、通称;与右衛門)(1735-49)-(1804-18)70余歳 江戸の国学者、齋藤彦麿「竹箒たかははき」入
- H1045 **秋満**(あきみつ・倉田くらた、)1753-182472 伊勢津の商家;餅屋業、国学者;本居宣長門、国学;富樫広蔭門、[秋満(;)名)の別名/通称]初名;英林、通称;金十郎
- D1098 **煥光**(あきみつ・春木はるき、初名;根光、房光男/本姓;度会わたらい)1777-184367 伊勢外宮権禰宜、玉串大内人、正四上/将軍家師範、本草;小野蘭山門、菓草栽培、「周忌便覧」編、「格衣らくい浴衣考」、1814「春木煥光日記」/21「七十二候鳥獸虫魚草木略解」著、[煥光(;)名)の字/通称/号]字;子培/元麿/堯章、通称;三郎五郎/隼人/舜象、号;椿堂/榭亭/柳亭/三友堂/象軒/琴堂
- H1031 **秋満**(あきみつ・太田おおた、)1820-189980 讃岐小豆郡大鐸村肥土山の生、



1872池田亀山神社祠官/権少教正、国学;平田鉄胤門(篤胤没後門)/古学を修学、  
1894(明治27)土庄八幡神社社司、小豆島の地域振興に尽力、  
[秋満(;)名)の通称]彦左衛門/喜太郎

- H1072 **顕光**(あきみつ・柴田しばた、千町ちまち男)1838-191376 三河額田郡伊賀八幡宮神主、柴田家11代、  
国学;平田鉄胤門、歌人、顕正の父、加藤篤成(六蔵・子烈)遺詠[花のなごり]撰、  
歌;賀茂正久[類題三河歌集]入、市古永年の師、  
[顕光(;)名)の別名/通称/号]別名;正国/千箭ちや、通称;掃部かもん/主計かづえ/兵部ひょうぶ、  
号;楓園/靱舎(うづぼのや/ゆぎのや?)

顕光女(あきみつのむすめ) → 承香殿女御(しょうこうでんのによご) M 2 1 7 0

- 1083 **秋岑**(あきみね・紀き、善峰男?)?-? 平安期廷臣/歌人、古今158・324、  
[夏山に恋しき人や入りにけむ声ふりたててなくほとゝぎす](古今;三夏158)
- 1084 **顕統**(あきむね・北畠きたばたけ、持房男/本姓;源)??-? 1376存 南朝廷臣;蔵人頭/右大弁/内大臣、  
歌:1375南朝五百番歌合参加(春宮大夫名)/新葉集有力作者15首(51/79/130/256/以下)、  
[つらからむ後をばしらず訪ねゆく花のしるべに風をまつかな](新葉集;79/五百番歌合)
- C1060 **章棟**(あきむね・平たいら、通称;方穂平兵衛尉/貫穂平兵衛)??-? 武士;伊勢国司北畠教具の家臣、  
連歌;1461宗祇独吟百韻の発句、69教具「北畠家二百五十番連歌合」(兼良判)参加、新菟3句入、  
[妹があたりに迷ひこそゆけ

知るらめや我ぬるたまの恋の道](北畠家連歌合;恋百四十四番左、右は伝阿法師)

- D1099 **明宗**(あきむね・鷹栖たかす、朝倉あさくら宗滴男?/鷹栖たかす刑部の女婿)??-1613 加賀藩士、連歌作者;  
白山比咩社奉納連歌「白山万句」の主要作者

- E1000 **明致**(あきむね・善波よしなみ・ぜんなみ・ぜんば、通称;弥太郎、明久養嗣子)??-? 江中期会津藩士、「奥之海」著、  
1772頃「二十番歌合」(同藩和学師範安部井武と)、嗣子;明貞(明德あきりの養父)

鑑致(あきむね・立花) → 鑑通(あきみち・立花、藩主/詩歌俳) D 1 0 9 4

- 1085 **秋持**(あきもち・物部ものべ)??-? 遠江国造丁長下郡;755防人、万葉集廿4321、  
[恐かじきや命みこと被かがり明日ゆりや草かえがむた寝む妹いむなしにして](万葉;4321)  
(草かえがむたは萱かやと共に)

明茂(あきもち・半井なからい) → 明茂(あきしげ・半井/和氣、廷臣/医/歌) D 1 0 0 9

- 1086 **顕基**(あきもと・源みなもと、権大納言俊賢男)1000-4748 母;藤原忠尹女、藤原頼通の猶子(栄花物語)、  
平安中後期廷臣;1029参議従三位/蔵人頭左中将、後一条天皇の寵愛を受/1035権中納言、  
1036(37歳)後一条崩に出家;比叡山横川に参籠、法名;円照/号;横川、のち大原住、  
詩・歌文・舞楽・琵琶・弓射に通ず、隆国の兄、妻;藤原行成女(歌人)、資綱の父、  
在俗中より「罪なくして配所の月を見ばや」と語る(発心集・撰集抄・徒然草・袋草紙入)、  
別本和漢兼作集・和漢兼作集に入、  
勅撰4首;後拾遺(106/1029)新勅撰(457)続拾遺(997)、  
[我が宿の梢こぎばかりと見しほどによもの山辺に春は来にけり](後拾;春106、  
堀川右大臣藤原頼宗の別邸九条家にて山ごとに春[花]ありの心を詠む)

- E1001 **明基**(あきもと・坂上さかのうえ、兼成男)1138-121073 廷臣;檢非違使/1185明法博士/朝廷明法道の中心、  
1193伊勢二所皇太神宮雑務評定寄人、後鳥羽上皇の命で1207「裁判至要抄」編、  
「法曹至要抄」著、  
[明基の通称] 右衛門志/右衛門尉/越前権介/山城守

- E1002 **章職**(あきもと・中原なかはら、明法博士章重あきしげ男)??-? 鎌倉期明法博士/1255大判事/57大尉、  
1261伯耆権介、「服忌令」著

顕祖(あきもと・信夫) → 槐軒(かいけん・信夫しのぶ/源、儒/国学) I 1 5 5 8

- J1004 **顕基室**(あきもと・源、藤原行成[972-1027]女)??-? 母;源泰清女(姉)、能書家、  
1056(天喜4;夫[1000-47]没後)寛子[皇后宮春秋歌合]左方清書に予定;触穢により不参加

- 1087 **顕盛**(あきもり・安達あだち/本姓;藤原、通称;城六郎、安達義景男)1245-8036歳 母;飛鳥井雅経女、  
鎌倉幕府武将;1274加賀守/従五下、1278(弘安元)鎌倉幕府評定衆、兄泰盛と幕政に参与、  
安達頼景/泰盛の弟、歌:61宗尊家歌合参加、夫木抄入集  
勅撰3首;玉葉(1861)続千載(543/670)、  
[百千鳥鳴く声すなり我が宿の園の梅がえ今さかりかも](玉葉;雑1861)

- E1003 **顕盛**(あきもり・藤原ふじわら、初名;広信、親業男)?-? 鎌倉末南北期崇光天皇侍読/東宮学士、詩人;1314「詩歌合」(;左詩に参加)
- G1055 **秋守**(あきもり・渋谷しぶや、通称;主計かず/号;荻の籬)?-? 江後期安政頃越後頸城郡小木町の医者、国学;本居大平門/佐渡羽茂郡に住、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[花ぐはし桜の花の咲き匂ふ春山見ればあやにたぬしも]、  
(八十浦;723/花ぐはし;桜の枕詞)  
在盛(あきもり・賀茂) → 在盛(ありもり・賀茂、陰陽家/暦法) F 1 0 8 9
- D1007 **顕保**(あきやす・藤原ふじわら、家保男)?-1145 母;近江守藤原隆宗女、平安期廷臣;  
正四下/播磨守、家成・保説・保成・家房・宗房・頼保・忠宗室・内大臣源雅通室の兄弟、宗頼・頼実・顕修の父、「宇槐記抄」入、没後;続詞花集408新院(崇徳院)御製の哀傷歌あり
- I1079 **秋安**(あきやす・吉田よしだ、通称;松太郎)?-1841 上野吾妻郡の国学者  
鑑康(鑑安あきやす・朽網) → 宗歴(むねゆき・朽網くたみ/入田、武将) C 4 2 7 5  
昭休(あきやす・松平) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9
- N1002 **阿丘**(あきゅう・稲岡いなおか、通称;米屋次郎右衛門)?-1808 播磨宍粟郡の商家、国学者、秋平あきひらの父、  
[阿丘(;号)の別号]如水観
- D1003 **阿九**(あきゅう;号、法諱;智溪)?-? 江後期安藝乃美村青蓮寺住僧/御手洗にも住、俳人;1809六合追善「きさらき集」編/20南亭「郡山集」入、  
[有明や子をもつ鹿ののひあかり] («きさらき集»)  
阿吸房(あきゅうぼう;号) → 即伝(則伝そくでん;法諱、修験僧) J 2 5 4 9
- G1051 **章行**(あきゆき・高階たかしな、成章なりあきら・なりり[990-1058]男)?-? 平安中後期廷臣;中宮亮/阿波守、從四下、章親・為家の兄弟、章尋(;僧)・章行女(;勅撰歌人)の父、上総大輔(歌人)の従兄弟
- E1004 **章行**(あきゆき・中原なかはら、檢非違使能貞よしさだ男)?-?1255頃没 明法博士/大判事/越前権介/正五下、1231「美濃国大井庄下司職争論事」著
- H1087 **顕行**(あきゆき・田村たむら、)1657-1721 65 陸奥仙台藩の国学者、顕国の父、国学・歌;跡部良顕よしあきら(光海てるみ)門/神道・歌;正親町公通(風水軒白玉はくぎよく)門、  
[顕行(;名)の通称] 卯平次/図書ずしよ/内蔵允くらのすけ
- H1048 **顕之**(あきゆき・小寺こでら、神職の清先きよさき2男)1778-1813 36 備中笠岡の国学者;父門、  
[顕之(;名)の字/号]字;子允、号;謙菴
- J1047 **章行**(あきゆき・松野尾まつのお/本姓;松野)1836-1903 68 土佐高知藩士;御小姓、郷土史家、維新後;高知県庁に出仕;土佐の旧事・逸話蒐集、篆刻;壬生水石門、  
「皆山集」編、「南海之偉業」著(野中兼山一代記)、  
[章行(;名)の号]霜骨軒/皆山  
詮将(あきゆき・斯波) → 義高(よししたか・斯波しば/源、武将/歌人) D 4 7 9 0
- B1000 **章行女**(あきゆきのむすめ・高階たかしな、母;平為政女、藤原兼仲の妻)?-? 平安中期歌人、藤原俊兼(1060-1112)の母?(;尊卑分脈/藤原清長と関係があったか?)、後葉集1首(391)入、勅撰2首;後拾692、詞花258、  
[思ひやれ懸樋かひの水のたえだえになりゆくほどの心細さを](詞花集;恋258、男への恨/後葉集;391)
- E1005 **明世**(あきよ・坂上さかのうえ) ? - ? 1448 存 室町期檢非違使尉/大判事、「大判事明世記」著
- H1019 **顕世**(あきよ・小野おの、季顕2男)1779-1859 81 備中倉敷の庄屋、国学者、顕允あきのぶの弟、  
[顕世(;名)の通称/号]通称;七太夫/芳助/翁輔、号;桐蔭/桐園  
蛙類齋(あきよさい) → 克楨(かつさだ・神谷かみや、藩士/故実) N 1 5 3 2
- C1061 **顕良**(あきよし・藤原ふじわら、俊成の叔父)?-? 平安後期、六条院宣旨ろくじょういんのせんじ(1110?生)の父
- C1087 **顕能**(あきよし・北畠/本姓;源、親房男or中院貞平男)?-1383? 南朝廷臣/1338伊勢国司/51右大将、権大納言/從一位右大臣/准三后、歌人;新葉集18首(21/25/89/94以下;入道前右大臣名)、  
[くれぬなり名にながれたるみ吉野の滝のいとなく花を見るまに](新葉集;二春89)
- E1006 **昭良**(あきよし・一条いちじょう、/本姓;藤原、後陽成天皇9皇子)1605-72 68 一条内基養子、母;中和門院前子、1612從三位/21右大臣/29從一位・左大臣、関白/摂政、30氏長者、1636兼遐を昭良と改名/52剃髮、能書/歌・連歌を嗜む、「昌琢点仙洞点取」著、

1626二条城歌会参加、1621「左大臣三宮等夢想連歌」「昕叔剛外等聯句」参加、

1633東福門院百首御当座参加、

[昭良(；名)の幼名/初名/号]幼名；九宮、初名；兼遐かねとお、出家号；恵観、法号；智徳院

E1007 覺嘉(あきよし・神原かんばら、通称；一学)？-？ 江中期貞享-享保1684-1736頃相模牧野村の和算家、  
「算鑑記」著

E1008 明善(あきよし・湯浅ゆあさ、字；子誠/通称勝介/新兵衛、常山男)1748-99<sup>52</sup> 岡山藩士/1769家督/番士、  
町奉行兼寺社奉行/1795藩政改革建白書；98失脚謹慎、1782「常山楼集」編、「天明改政録」編、  
「類聚天明大政録」編/「風の諫」「備藩和意谷閑谷志」「備前国神名帳考」「続備藩典刑」編

E1009 昭美(あきよし・鳥居とりい/修姓；鳥ちう、千昭男)？-1803 尾張名古屋藩士；馬廻組/俳諧：暁台門、  
1782「留守懐紙」編、1768暁台「秋の日」5句/74美角「ゑぼし桶」1句/76几董「続明鳥」1句入、  
[秋の空澄みたるまゝに日暮れたり](続明鳥；乙516/亞満の号)、

[昭美(；名)の通称/号]通称；庄蔵/覚右衛門、号；亞満あま/鸚鵡亭/湖月亭、法号；昭美院

I1053 明祥(あきよし・向井むかい、通称；城右衛門)1763-1804<sup>42</sup> 伊勢度会郡の農業、国学者；本居宣長門、  
安長やすなが(1799-1869/槌柄たしからの大庄屋/国学者)の父

H1070 明善(あきよし・沢野さわの、本姓；藤原)1781-1836<sup>56</sup> 近江彦根藩士、国学/歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、  
[明善(；名)の通称]大吉/友次/友左衛門

E1010 明良(あきよし・田口たぐち、尚古堂/尚古主人/華陽洞人)？-？ 1804-18頃江戸芝の書肆、書誌学、  
1813「典籍奏鏡」編、「大蔵目録」編/「姓氏考」「煤外漫筆」著

E1011 秋良(安岐良あきよし・臼田うすだ、通称；弥右衛門、号；蛤翁/望廼舎)1801-84<sup>84</sup> 但馬出石藩士、  
国学；平田篤胤門、1867「産所之式」、「弓馬正説」「流鏑馬図式」著、梁子あやこの父

G1077 顕良(あきよし・伊吹いぶき) ？ - ？ 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[なすわざを半ば残して山の端に冬の日影は傾きにけり](大江戸倭歌；冬1337/冬日)

I1081 明彬(あきよし・吉用よもち、通称；権蔵)1809-41<sup>33</sup> 近江彦根藩士、国学者；山本昌蔭門、  
歌：[彦根歌人伝・続寿]入

E1012 明義(あきよし・岡田おかだ、通称；藤九郎)1824-75<sup>52</sup> 羽後由利郡岩野目沢の豪農/1836肝煎(13歳)、  
勸農家；1858蝦夷に渡る；ジャガ芋栽培・加工法を研修；土佐の平野一郎門、  
帰郷後；芋澱粉/味噌/醤油加工に成功、1860荒地開拓のため幕府に建白書；却下される、  
1861(文久元)自費出版「無水岡田開闢法」著；越後・蝦夷にジャガ芋栽培を普及、  
明治新政府民部省によりこの著書は全国に流布、1863「馬鈴薯利潤考」「桑茶栽培法」著

E1013 明義(あきよし・松岡まつおか/本姓；丹治、初名；明忠、行義3男)1826-90<sup>65歳</sup> 故実家(家学継嗣)、  
久留米藩主有馬家家臣/江戸住、幕臣に招聘；諸藩旗本などの故実礼法の師範、  
京の堂上諸家に従い研鑽、1870(明治3)神祇権大史、のち式部寮・女子師範学校勤務、  
皇典講究所教授・帝国大学御用掛歴任、1880(明治13)より「古事類苑」編纂に従事、  
「相考」「扇考」「差貫考」「馬印考」「松岡家蔵書目録」外著多数、  
[明義(；名)の通称/法号]通称；重三郎/太郎、 法号；仁光院

I1069 顕義(あきよし・山田やまだ、顕行長男)1844-92<sup>49</sup> 長門萩藩士；松下村塾修学/尊攘運動に参加、  
蛤御門変に敗北/品川弥二郎らと御楯隊結成；四国連合艦隊・第2次征討軍と対戦、  
戊辰戦争；奥羽・箱館五稜郭に転戦、東京住；1869(明治2)兵部省出仕/71年陸軍少将；  
岩倉使節団同行；欧州各国の兵制調査、1873東京鎮台司令長官/74佐賀の乱征圧に出征、  
1877西南戦争に別働第二旅団長で出征/78元老議官兼陸軍中将/79参議兼工部卿、  
内務卿/司法卿/84伯爵、1885伊藤博文内閣の司法大臣；条約改正のための法典編纂、  
1891天津事件に大逆罪を適用を主張、1892枢密顧問；病没、  
[顕義(；名)の初名/通称/号]初名；顕孝、通称；市之允いちのすけ、

号；狂痴/空齋/養浩齋/不拔/韓峰山人

明義(あきよし・田崎) → 草雲(そううん・田崎たつき、藩士/絵師) 2 5 5 9

秋吉(あきよし・望月) → 望月秋吉(もちづきのあきよし、医者/狂歌) B 4 4 4 5

秋吉(あきよし・稲垣/鶏田舎) → 千種庵(4世ちぐさあん、春告/狂歌師) D 2 8 0 4

秋芳(あきよし・壇) → 東郊(とうこう・壇だん、儒者/教育者) D 3 1 9 3

秋義(あきよし・河井) → 継之助(つぐのすけ・河井、藩政改革) 2 9 7 7

- 昭休(あきよし・松平) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9  
詮良(あきよし・間部) → 詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主/詩人) D 1 0 3 2  
顕嘉(あきよし・田村) → 斉義(なりよし・伊達だて、藩主) N 3 2 7 0  
顕美(あきよし・田中) → 華城(かじょう・田中たなか、医者/詩人) F 1 5 6 3
- D1008 顕能女(あきよしのむすめ・藤原ふじわら、雅教室)?-1196 藤原雅長の母、「三長記」入
- D1060 明順(あきより/あきのぶ・高階たかしな、成忠[923-998]男)?-1009 平安中期廷臣;播磨守/左中弁/正四上、但馬守/伊予守、7「枕草紙」入、妻;中将尼ちゆうじょうに(源清時女)、成順なりより・経重(つねしげ;新古今歌人)の父、積善(もりよし/詩人)・清昭(しょうしょう)の兄/高内侍貴子たかこ・高階光子(定子の女房)の兄弟、996(長徳2)二条宮で火災;藤原彰子は明順邸へ避難、1009(寛弘6)彰子と敦成親王を呪阻した事件;高階光子と明順が首謀者として糾問、道長に叱責;のちまもなく没
- 1088 明頼(あきより・高階たかしな) ? - ? 平安安後期歌人、廷臣;五位、金葉I319III325、[苗代なはしろの水は稲井いなぬにまかせたり民やすげなる君の御代かな](金葉集;賀319)、(備中稲井の地名と田に引く水を溜める所/まかすは水を引くと意に任すを掛る)
- 1089 顕頼(あきより・葉室はむろ/藤原、九条民部卿、顕隆男)1094-1148<sup>55</sup> 平安後期廷臣;白河・鳥羽院近臣、母;藤原季綱女の悦子(鳥羽天皇の乳母)、1131参議/34権中納言、39太宰権帥/41民部卿、正二位、「九民記」著、歌人;1134中宮亮顕輔歌合参、後葉集(2首)/万代集入、勅撰3首;続古(1066)玉葉(2641)新続古今(1565)、金葉解(5)、光頼/惟方/成頼なりよりの父、俊成の養父、顕長の兄、[逢ふことを身にかふばかりなげけどもつれなきものは命なりけり](続古;恋1066、顕輔歌合にて詠)
- H1029 章頼(あきより・大町おおまち、通称;備前)?-1748 陸奥(陸中)盛岡藩老/胆沢郡金ヶ崎の邑主;3千石、歌人、金ヶ崎大町家;大町元頼一定頼一永頼一頼直一章頼一朗頼一成頼一景頼一盛頼一殖頼
- 明随(あきより・加藤) → 明随(めいずい・加藤かとう/藤原、旗本/歌) 4 3 6 0
- E1014 明(あきら・源みなもと、姓かばね朝臣、嵯峨天皇皇子)814-852<sup>39</sup> 814賜姓源/廷臣;832大学頭/左京大夫、849参議、漢学;父門/850対策/諸子百家に通ず、詩;経国集入
- E1015 明(あきら・来らい/来田の修姓?、字;叔亮)?-? 江前期撰津池田の儒者;田中桐江門、詩人、1721桐江「東海漫詩稿」;同門岡部清江と編纂参加、「学詩法」著
- E1016 章(あきら・藤原ふじわら/修姓;藤とう、字;曼卿)?-? 江中期信州文筆家、「筑川先生記事」「-和凡十条」著
- E1017 章(あきら・中原なかはら/初姓;葛巻/本姓;多賀、字;士文、号;青柳軒/五柳)?-1790 尾張藩出奔/京住、歌;隅谷正雅門/花山院家仕;賜姓中原、儒;岡白駒門、武蔵青梅住、「三十番鳥歌合」参加
- 1013 臈(朗あきら・鈴木、山田重蔵男)1764-1837<sup>74</sup> 尾張枇杷島の代々医家の生/祖父の鈴木家を継嗣、初め医を修学/のち儒者;丹羽謝庵・市川鶴鳴門/国学;1792本居宣長・春庭門、1795尾張藩士;近習組同心/記録所書役、1821(文政4)尾張藩儒、1833藩校明倫堂教授並、明倫堂和学科が開設;最初の国学教授、語学に精通、茜部相嘉・野村秋足・笠亭仙果の師、辞書「雅言訳解」、「医事卮言」、「言語音声考」、「言語四種論」、「離屋文集」、「離屋和歌集」外著多、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含め6首入、[見渡せば浪の間ゆ見ゆ里ごとになくなるかげのよびつぎの浜](八十浦;480/海)[臈(;名)の字/通称/号]字;叔清、通称;恒吉/常介、号;離屋はなれや、法号;通靖院
- G1087 朗(あきら・荒居あらい) 1769-1834<sup>66</sup> 近江彦根藩士、詩歌;飯田彪はだら(公文)門、歌人、のち心疾を病み1834(天保5)に自殺、[朗(;名)の字/通称/号]字;高甫たかすけ、通称;弥次平、号;南湖
- L1054 煌(あきら・三宅みやげ、武右衛門平郷男)1782-1838<sup>57</sup> 備中浅口郡連島村大庄屋の直郷(直嗣)の弟、分家桂之舎を立てる/国学・歌;内藤中心ながご門、4女(都多・喜和・理恵・さち)の父、養子三宅美之男俊平義方が家督嗣、[煌(;名)の通称/号]通称;敬助、号;桂之舎
- H1024 斐(あきら・大島おおしま、勝蔵伴清の長男)?-1848 信濃阿島城主知久家の家臣、

大島家は代々大島郷の台城城主;丹後守為継が大島村に結庵;林叟院の開基となる、  
歌人;伊那歌壇で活動/鎮西清宣・北原因信と交流、座光寺村如来寺に奉納和歌の額あり、  
妻;飯田藩士中川弥五右衛門女、

[斐(;名)の別名/通称]別名;寧斐、通称;小六、法名;大賢詰庵居士

- I1083 昭(あきら・渡辺わたなべ、通称;孝六/利左右衛門、)1793-1881<sup>89</sup> 伊予の歌人
- E1018 明(あきら・松崎まつざき/本姓;源、字;士徳、元栄男)1796-1876<sup>81</sup> 三河西尾藩医/兄元春/大鶴活庵門、  
1828藩医/のち側医、儒学;秦滄浪門、国学/歌;中山美石門、茶道/詩文、1813「百花籠」編、  
[明の通称/号]通称;円蔵/元倫/見竜/竜淵/円竜/竜門/賢治、号;雲母山人/ゆづる葉園
- C1062 章(あきら・渡辺わたなべ) ? - ? 連歌、1818「菟玖婆之栞」(入門書)著
- E1019 明(あきら・渡辺わたなべ、通称;駒蔵)?-? 江後期美濃高須国学者:1827春庭門、「幽冥辨」著
- I1034 章(あきら・広見ひろみ、初名;正芳/通称;佐左衛門)?-1849 撰津武庫郡の寺小屋師匠、歌人、  
広見正雄の父
- I1035 彰(あきら・深井ふかい、旧姓;今村)1809-82<sup>74</sup> 讃岐高松の深井象山(修おむ)の養子;高松藩士、  
兵学(深井家学)・儒学・歌;養父象山門、  
[彰(;名)の字/通称/号]字;子明、通称;兵蔵/大平(養父の称)、号;松窓
- E1020 明(阿支羅あきら・寺沢てらさわ/本姓;藤原、旧姓;三沢)1809or10-? 紀伊和歌山藩士、  
国学:本居内遠・平田篤胤門、歌人、「奇談雑史次編」著、  
[明(;名)の別名/通称/号]別名;立敬/阿支羅/熙、通称;直輔/元章/宗哲、号;、桃乃舎
- I1006 彰(あきら・奈古屋なこや、)1815- 1882<sup>68</sup> 長門萩藩士、歌人、  
[野田の山むかし忍べばうれしさの中に悲しきふしもそひつゝ]([萩の歌人]入)  
[彰(;名)の初名/通称]初名;忠世、通称;与三/和哉
- E1021 顕(あきら・高橋たかはし、只右衛門勝吉男)1818-63<sup>46</sup> 三河西尾藩士/馬廻役/使者、  
1863江戸詰/病氣帰藩、儒;福島又三郎門/歌;中山美石門、「香園家集」著、  
[顕(;名)の幼名/号]幼名;鬼六郎/驥六郎、号梅庭/観瀾亭/竹風/閑画庵/洒落斎/香廼園
- H1000 章(あきら・市村いちむら、)1820 - ? 上野前橋の国学/歌人、  
歌;橋守部・橋東世子・尾高高雅門  
[章(;名)の通称/号]通称;良作、号;千草園/八十一翁
- E1022 顕(あきら・小西こにし、友直ともなお男)?-? 阿波藩士、父(1849没)の研究継承:  
1857淡路地誌「味地草」補填
- H1053 亮(あきら・上月こうつき、通称;亮之助/号;梶園しえん)?-1887 佐渡相川の佐渡奉行所地役人、  
歌人;臼井秋澄門/国学;佐渡奉行鈴木重嶺門、上月喬たかしの父
- I1057 彫(あきら・八木やぎ、) 1828 - 1910<sup>83</sup> 尾張名古屋郊外柳原の生/幼少より学問精励、  
犬山藩校敬道館教授/藩士;1862藩主成瀬正肥密命で江戸の幕閣を懐柔;  
謹慎中の尾張藩主徳川慶勝・田宮如雲らの幽閉解除に尽力、  
1864長州征伐時には正肥・如雲らと図り岩国で交渉;無血解決に導く、  
1868正肥の甲斐出陣に随従し塩尻へ、維新後;1869犬山藩参政/71新政府の諸陵権助、  
神祇省神祇大祿/教部省教部大祿/内部省社寺局;1891致仕/93奈良帝室博物館嘱託、  
名古屋住;詩人/のち岐阜県御嵩町に移住;没、「華堂存稿」著  
[彫(;名)の字/通称/号]字;鱗之、通称;銀次郎、号;柳陰/華堂/萃堂わいどう(墓碑号)
- I1045 癸(あきら・松崎まつざき、通称;誠蔵)1830-69<sup>切腹40</sup> 筑後久留米藩士、歌学;藩士戸田藤蔭ふじがけ門、  
今井栄の協力者;1866(慶応2)上海に密航/雄飛丸・千歳丸の初代艦長、  
1868藩では不破美作が暗殺され水野正名の尊攘派政権が成立;今井ら公武合体派追放、  
1869(明治2)今井と共に切腹;殉難十士と称される
- E1023 皓(あきら・鶴田つた、字;玄縞/号;斗南)1835-88<sup>54</sup> 佐賀儒者:草場佩川門/1853江戸;良斎・簡堂門、  
1856帰郷;郷校教諭/会津戦争従軍/法律;のち欧州派遣;司法制度研修、「阿蘇塔考」著
- E1024 明(あきら・福田ふくだ、通称;主税ちから/一太郎、理軒りけん(1815-89)男)?-? 幕末期数学者:実学、  
1861「春掲清水寺福田派算法図解」編、半はん(数学者)の兄
- H1075 亮(あきら・鈴木すずき、旧姓;土濃塚)1837-81<sup>45</sup> 出羽秋田郡の国学者;平田鍊胤門、  
[亮(;名)の別名/通称]別名;勝/勝信、通称;速三郎/庫之助/隼治
- I1044 詮(あきら・松浦まつうら、秋の長男)1840-1908<sup>69</sup> 1858(安政5)伯父松浦曜てらけ没;家督継嗣;

肥前国平戸藩12代(最後)の藩主、従五下肥前守、松浦家37代当主、1869版籍奉還で知藩事、  
 従四位下/1871廃藩置県で罷免/宮内省御用掛/伯爵/80猶興書院設立/貴族院議員、  
 書家/茶人;石州流鎮信しげの派家元/1898茶事[和敬会]設立、女子教育として学校で茶道指導、  
 正室;松浦皓女/継室;青山幸哉女の澄子(1843-1924/文筆家)、長男厚(1864-1934)が家督嗣、  
 [諡(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;朝吉、字;景武/義卿、通称;朝吉郎/源三郎/肥前守、  
 号;乾字/稽詢斎/心月庵/楽水/亀岡/蓬園/風月/柵園やまぶきその/含雪/鶴峯

☆平戸松浦家 → 静山(せいざん・松浦まつら、清きよし) B 2 4 7 6 参照

H1027 彰(あきら・大伴おおも、) 1843 - 1898 56 三河宝飯郡八幡村の八幡宮祠官、国学者

I1084 章(あきら・渡辺わたなべ、) 1846 - 1922 77 飛騨吉城郡古川の両替/生糸商の5代目、  
 1870(明治3)京の酒の旨さに惹かれ自ら酒造業;銘[蓬萊]として販売、国学者/歌人、  
 国学;山崎弘泰・蒲がま八十村(吉城郡で1840酒造再開)門/歌;野村健平たてひら・飯田年平門、  
 [章(;名)の通称/号]通称;文七郎/久右衛門、号;竹廼屋

明(あきら・小野)	→ 君山(くんざん・小野おの、書/篆刻)	D 1 7 6 5
明(あきら・吉田/望月)	→ 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人)	D 3 8 6 0
明(あきら・近藤)	→ 文溪(ぶんけい・近藤こんどう、医者)	F 3 8 0 7
明(あきら・山崎)	→ 蘭洲(らんしゅう・山崎やまさき、藩医)	C 4 8 5 8
昶(あきら・柏木)	→ 如亭(じよてい・柏木、大工棟梁、詩)	C 2 2 8 3
果(あきら・松浦)	→ 果(か・あきら・松浦まつら、藩士/歌人)	V 1 5 7 3
煥(あきら・中野)	→ 竜田(りゅうでん・中野なかの、儒者)	K 4 9 8 5
章(あきら・木村)	→ 卓堂(たくどう・木村、儒者)	O 2 6 1 6
章(あきら・深堀)	→ 仲慮(ちゆうりょ・深堀、歌人)	G 2 8 9 6
章(あきら・鈴木)	→ 道順(どうじゅん・鈴木、名主/医者)	F 3 1 1 6
章(あきら・安藤)	→ 箕山(きざん・安藤あんど、儒者)	I 1 6 5 5
章(あきら・堀江)	→ 半峯(はんぼう・堀江ほりえ、藩士/儒者)	I 3 6 5 3
章(あきら・亀田)	→ 鶴山(かくざん・亀田かめだ、商人/詩人)	J 1 5 9 2
章(あきら・秋山)	→ 富南(ふなん・秋山あきやま、郷土/地誌)	D 3 8 5 7
章(あきら・近藤)	→ 華溪(かけい・近藤こんどう、医者)	K 1 5 7 2
章(あきら・磯田)	→ 健斎(けんさい・磯田いそだ、儒者/書)	I 1 8 9 3
章(あきら・山崎)	→ 玄東(げんとう・山崎やまさき、蘭学/蘭医)	L 1 8 8 4
章(あきら・佐伯/田上/緒方)	→ 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育)	1 9 6 9
彰(あきら・香山)	→ 適園(てきえん・香山かやま、儒者/詩人)	B 3 0 8 7
彰(あきら・北山)	→ 橘庵(きつあん・北山きたやま、医/儒者)	F 1 6 8 8
彰(あきら・白木)	→ 半山(はんざん・白木しらき、儒者)	H 3 6 7 7
彰(あきら・小室)	→ 信夫(のぶお・小室こむろ、商家/政治家)	I 3 5 4 5
彰(あきら・市村)	→ 秋浦(あきうら・田中/市村、役人/国学)	H 1 0 8 3
晨(あきら・森本/大口)	→ 端山(たんざん・大口、商家/国学/歌)	I 2 6 7 6
昭(あきら・鳥飼)	→ 市兵衛(いちべゑ・3代吉文字屋、書肆)	D 1 1 6 2
朗(あきら・栗田)	→ 逸斎(いつさい・栗田あわた、儒/詩人)	H 1 1 1 7
朗(あきら・渡辺)	→ 去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人)	H 1 6 1 0
朗(あきら・度会)	→ 東明(とうめい・度会わたらい、笹山良意/藩絵師)	T 3 1 4 4
斌(彬あきら・宮原)	→ 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒)	E 4 9 1 9
晃(あきら・林)	→ 鶯溪(おうけい・林はやし、幕府儒官)	C 1 4 3 7
晃(あきら・諸葛)	→ 帰春(きしゅん・諸葛もろぐず、藩士/儒者)	I 1 6 6 0
晃(あきら・伊東)	→ 勃海(ぼっかい・伊東いとう、儒者)	E 3 9 5 4
晃(あきら・植木)	→ 玉厓(ぎょくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩)	C 1 6 9 8
晃(あきら・香川)	→ 琴山(きんざん・香川かがわ、藩家老/詩歌)	R 1 6 0 7
晃(あきら・前川)	→ 五嶺(ごれい・前川まえかわ、絵師/国事)	O 1 9 1 4
晃(あきら・小村)	→ 滋治(しげはる・小村こむら、藩士/国学者)	O 2 1 4 3
瞭(あきら・生田)	→ 万(よろう・生田いた、藩士/国学/救民)	4 7 4 2

- 輝(あきら・林) → 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4  
 焜(あきら・高橋) → 桐陽(とうよう・高橋たかはし、藩士/儒者) H 3 1 8 9
- 1039 明子(あきらけい・藤原、五条后、染殿后、藤原良房女) 828-900 73 文徳天皇皇后、清和天皇の母、  
 「手中和讃」著
- C1088 あきらけい子(明子あきらけい・藤原ふじら、典侍すけ、宰相女) ?-? 平安期;女官/938(天慶元)典侍、  
 歌人、父の宰相は不詳;左大臣藤原仲平説(勅撰作者部類など)は年齢上誤り、歌、  
 後撰1369(父の宰相に賀すため玄朝法師にもらった裳・唐衣がらぎぬを縫って遣す歌)、  
 [雲分くる天あまの羽衣うち着ては君が千歳にあはざらめやは](後撰集;二十賀1369)
- 明子(あきらけい、源高明女、道長妻、顕宗母) → 高松上(たかまつのうえ) D 2 6 7 7  
 明子(あきらけい・藤原順時女) → 弁乳母(べんのめのと) 3 9 0 7  
 慧子皇女(あきらけいこのひめみこ) → 慧子内親王(けいしなしいんのう、文武天皇皇女) N 1 8 3 2  
 秋人(あきんど/あきうど・腹唐はらからの) → 董堂(とうどう・中井、詩/狂歌) G 3 1 7 8  
 悪(あく;一字名) → 尊鎮親王(そんちんしんのう、天台座主/書家) E 2 5 9 7  
 安居院(あぐい) → 覚澄(かくちよう、安居院僧正) B 1 5 6 9  
 安居院法印(あぐいほういん) → 澄憲(ちようけん;法諱、天台僧/唱導の祖) 2 8 2 2  
 安居院法印(あぐいほういん) → 聖覚(せいかく/しょうかく、澄憲男、唱導家) 2 4 0 4  
 渥涯(あくがい) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1
- C1033 悪鬼(あくき・田中たなか) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [三途川さうがはの姥鬼の来ぬ間に衣更ころもがへ](難波色紙;79/  
 死者は三つ瀬を渡り地獄・餓鬼・畜生道に分れ行く;河畔に脱衣婆あり衣を奪う)
- 握虎(あくこ・和田) → 哲(てつ・和田わだ/中村、医者) C 3 0 1 2  
 握固(あくこ・巢見) → 来山(らいざん・巢見すみ、絵師) 4 8 4 7  
 悪左府(あくさふ) → 頼長(よりなが・藤原、政治家/左大臣) 4 7 3 4  
 悪三位(あくさんみ) → 道雅(みちまさ・藤原、伊周男/廷臣/歌) 4 1 1 6  
 悪七兵衛(あくしちひょうえ・平) → 景清(かげきよ・平たいら/藤原、武将) B 1 5 8 4  
 握星子(あくせいし) → 檜園梅明(かいてんうめあき、狂歌) I 1 5 4 2  
 芥舟(あくたぶね) → 信安(しんあん・植村、俳/歌人) D 2 2 4 3
- C1063 阿久垂粕(あくのたれかす) ? - ? 狂歌作者、徳和歌後万載集1首入、  
 [夕立にあふ嫁入りの行列はつぎつぎまでもぬれの相伴しやうばん](後万載;雑717)
- E1025 悪文舎他笑(あくぶんしゃたしょう) ?- ? 滑稽本;1865「鳴久者あくしゃ評判記」著;悪摺り批評
- E1026 あく丸(あくまる) ? - ? 連歌、1464?盛長催「熊野千句」参加
- 安久楽(あぐら・藤木) → 面堂安久楽(めんどうあぐら・狂歌) 4 3 4 8  
 悪霊左大臣(あくりょうのさだいじん) → 顕光(あきみつ・藤原、左大臣/歌) C 1 0 5 9
- 1090 阿契(あけい・中邑なむら、初名:安田蛙桂、中村閨助じゅんすけ) ?-? 江中期浄瑠璃・歌舞伎作:蛙文門、  
 1749「物ぐさ太郎」57「祇園祭礼信仰記」75「軍術出口柳」78「金門五三桐」著
- G1083 阿溪(あけい;法諱、号;三隠) 1817-75 59 讃岐山田郡の真言僧;牟礼六万寺住僧、  
 のち備中賀陽郡宮内普賢院の住僧、歌人/画を能くす
- 阿圭(あけい) → 凡兆(ぼんちよう・野沢、医者/俳人) 3 9 7 3  
 明輔(あけすけ・物事) → 金塚(きんらち・銭屋、両替屋/狂歌) E 1 6 9 0  
 明智[兵庫]入道(あけち[ひょうご]にゅうどう) → 玄宣(げんせん;法号、武士/連歌) C 1 8 5 4  
 阿月坊(あげつぼう) → 彰空(しょうくう;法諱、浄土西山派僧/歌) G 2 2 2 2  
 明の舎(あけのや) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0  
 明久(あけひさ・竹内) → 明久(あきひさ・竹内たけうち、神職) C 1 0 2 6  
 明房(あけふさ・石井) → 宗澄(そうちよう・石井いひ、名主/歌人) C 2 5 5 5  
 曙の侍従(あけぼののじじゅう) → 忠真(ただまね・大久保、藩主/詩歌人) F 2 6 0 9  
 曙廼舎(あけぼののや) → 千楯(ちたて・城戸、国学/歌人) 2 8 1 3
- 1014 曙覧(あけみ・橘たちなば/井手、正玄しょうげん五郎右衛門男) 1812-68 57歳 越前福井石場町の紙商(旧家)、  
 1813母(都留子)と死別/26父と死別、叔父山本金次郎が養育;日蓮宗妙泰寺明導門、  
 仏門を止め文学に志す;児玉三郎の塾に入門、家業を弟に譲渡、

国学/歌;1844高山の田中大秀門、1846足羽山黄金舎に隠棲;国典研究、49三橋町に移住、1858安政大獄で幽閉の福井藩主松平慶永(春嶽)に万葉集の歌を送る、61伊勢/上方周遊、中島広足・大田垣蓮月・与謝野尚綱と交流、敬神尊王の念篤く歌は万葉体を倣う、「困炉裡譚」著、家集「藁屋詠草」/「藁屋文集」/「沽哉集」/「花廻佐久等」著、「志濃夫廻舎歌集」(嗣子井手今滋刊行)、独楽吟多し、井手今慈いまげの父  
[たのしみは妻子にむつまじくうちつどひ頭ならべて物をくふ時](志濃夫廻舎集;558)、  
[曙覧(名)の幼名/別名/号]幼名;五三郎、別名;茂時/尚事なごこと、  
号;藁屋わらや/志濃夫廻舎しのぶのや/忍屋/賜松館/黄金舎こがねのや/松戸まつのと/霊隠/花奴、  
神号;青垣搔隠伊豆凝翁、法号;白雲嶺上埋剣居士

朱楽漢江(あけらかんこう) → 菅江(かんこう・朱楽、狂歌) 1 5 4 7

E1027 朱楽館菅人(あけらかんかんじん)?- ? 19c中期狂歌作者、1847「狂歌東の栄」著、  
越後新発田藩主溝口直諒か?→ 直諒(なおあき・溝口1799-1858、藩主) 3 2 5 9

1091 亜元(阿元/唾言/阿幻あげん;号、法諱;亮瑞りょうずい) 1773-1842 70 京の真宗本願寺派僧、  
歌:香川景樹門、木下幸文と親交、伊豆三島善教寺住職/江戸築地本願寺内妙泉寺住職、  
家集「亜元集」、「亜元詠草」、「六帖題和歌」、「二葉集」、「亜元日記」、「小竹園日記」著、  
桂門十哲の1、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、稲村三羽みづの師、  
[蚊遣火のけぶりもはやくなびくなり夕日かげらふ山もとの里](大江戸倭歌;夏593)、  
[亜元(号)の通称/別号]通称;民部卿、別号;玄阿/自在庵/一日庵/小竹園/葵園/覚林寺  
阿元(あげん) → 亀子(かめこ・安藤あんどう/山田、歌人) D 1 5 2 7

E1028 あこ(・今のあこいまのあこ)?- ? 平安前期歌人、宇多上皇亭子院に仕えるの童女、  
後撰1140(鞍馬の坂を越える時の歌)、  
[昔より鞍馬の山といひけるは我がごと人も夜や越えけん](後撰集十六1140)

1092 あこ(・傀儡のあこぐつものあこ)?- ? 尾張住の傀儡女くぐつめ、  
歌人;1434成立「新続古今集」900(続詞花集696と同歌;作者名は傀儡あこ丸)  
[死ぬばかりまことに嘆く道ならば命とともにのびよとぞ思ふ](新続古集;九離別900)、  
(尾張国に来た京男と親しくなったが 男が帰京するとき死ぬほどつらいと言ったので)  
阿光房(あこうぼう) → 行智(ぎょうち;法諱・慧日、修験道/歌) C 1 6 7 7

1093 あこぎ(・承香殿のあこぎしょうきやうでんのあこぎ)?-? 醍醐天皇女御源和子に出仕の童女、  
歌;後撰426(むかしの承香殿のあこぎ名)、  
[問ふことの秋しも稀まれに聞こゆるはかりにや我を人のたのめし](後撰集;七426)、  
(離れていった男の便りへの返歌/雁を詠み込む物名/人のたのめしは男が頼りにさせた)

G1027 阿漕引網(あこぎのひきあみ)?- ? 狂歌、1787「狂歌才蔵集」2首入(大関の虹が嶽への挽歌)、  
[百両の花よりもわが手向けにはたつた一ぶの経陀羅尼かな](才蔵集;哀傷337)、  
(虹ヶ嶽仙右衛門;阿波藩抱力士;1775大関/心付の花と手向花・経一部と金一步を掛ける)  
アゴスチノ(洗礼名) → 弁斎(べんさい・人見ひとみ、武芸者) B 2 7 2 2

C1064 腮長馬貫(あごながのうまつら)?- ? 狂歌作者、1785「徳和歌後万載集」3首入、  
[めぐり来てあふ日の首尾もよしず張りよそからさゝぬ水茶屋の中](後万載;八恋478)

C1065 腮垣金(あごのかきかね)?- ? 狂歌、1785「徳後万載集」3首入、  
[恋人にけふは添ひ寐の枕糸身を引きしむることぞわりなき](後万載;九恋535)  
(琴の縁語;糸・引き・しむる)

阿古丸(あこまる;幼名) → 邦忠親王(くにただしんのう・伏見宮、歌人) C 1 7 8 5

阿古屋(あこや・川北) → 丹霊(たんれい・川北かわきた、国学者) T 2 6 6 4

蛙斎(あさい・村井) → 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8

1094 朝家(あさいえ・ともいえ・藤原ふじわら)?- ? 平安末期歌人、五位、源通清と交流、新続古今2073、  
[すみよしと今はたのまじ津の国のなにはたがへる所なりけり](新続古;雑2073)、

(詞;源通清が熊野より帰京と聞き良い墨はあるかと尋ねるとあしきよき申したので)  
あさる笠(あさいがさ) → 守訓(もりのり・井面いのも/荒木田、神職/国学/歌) G 4 4 2 4

旭敬(あさいや・飯田/橘) → 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8

浅裏庵広好(あさうらあんひろよし) → 広好(ひろよし・浅裏庵、狂歌) H 3 7 7 1

浅右衛門(あさいえもん・永野) → 秀枝(ひでえ/ほつえ・永野ながの/橘、国学) I 3 7 3 7



- 浅右衛門(あさえもん) → 吉時(よしとき・山田2世、幕臣/据物斬) E 4 7 8 4  
 浅右衛門(あさえもん) → 吉睦(よしむつ・山田5世、幕臣/刀劍鑑定) H 4 7 5 5  
 浅右衛門(あさえもん) → 吉昌(よしまさ・山田6世、幕臣/刀劍鑑定) H 4 7 1 2  
 浅右衛門(あさえもん) → 吉利(よしとし・山田7世、幕臣/刀劍鑑定) E 4 7 9 3  
 浅右衛門(あさえもん・三浦) → 竜山(りゅうざん・三浦/黒坂、儒者/藩士) E 4 9 1 6  
 浅右衛門(あさえもん・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人) H 3 1 1 1  
 浅右衛門(あさえもん・小豆沢) → 勝興(かつおき・小豆沢あずきさわ、歌人) T 1 5 4 1  
 浅右衛門(あさえもん・泉) → 全斎(ぜんさい・泉いづみ/藤間、儒者/詩) F 2 4 4 3  
 浅右衛門(あさえもん・岡田) → 重定(しげさだ・岡田おかだ、故実家) N 2 1 8 4  
 浅右衛門(あさえもん・屋代) → 大軒(たいけん・屋代やしる、藩士/書家) J 2 6 8 1  
 浅右衛門(あさえもん・内堀) → 幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、藩士/歌人) G 4 6 6 5  
 浅右衛門(あさえもん・桜井) → 英輔(ひですけ・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 4  
 浅右衛門(あさえもん・匂坂) → 千足(ちたる・匂坂こうざか、国学) M 2 8 5 5
- H1015 安諦雄(あさお/あでお・小賀おが/こが、) 1814-1887 74 紀伊有田の千田神社社司/国学者/歌人、  
 [安諦雄(；名)の通称/号]通称;和助、号;映雲?/映雪  
 朝雄(あさお・宮後) → 朝雄(ともたけ・宮後みやじり/度会、神職) P 3 1 6 7  
 浅生庵(あさおあん) → 野坡(やは・志太、俳人) 4 5 1 2  
 浅岡(あさおか) → 初子(はつこ・三沢みさわ、藩主夫人/歌人) K 3 6 8 4
- G1047 麻岡檢校(あさおかけんぎょう、名;長歳) ?-1858 江戸の平曲家;前田流を修得、江戸宗匠、  
 [平家正節まぶし]修得のため上京;山本・中村檢校(荻野檢校門)門、江戸に平家正節を広める、  
 楠美太素の師、息女の[梅女]は歌人(大江戸倭歌集入集)
- C1066 朝起つらき(あさおきのつらき) ? - ? 狂歌作者;小石川連、1785「後万載集」1首入:  
 [あふ事もありやありやとまちけるにさらさらとんと君のそれ鞠]、  
 (後万載;607/寄蹴鞠恋)
- D1025 朝起成丈(あさおきのなりたけ) ? - ? 狂歌:1787「才蔵集」入、  
 [折も折ふたり子持のとまり客蚊帳をつるべのひとよ鮓かな]、  
 (才蔵集;114/吉野名物釣瓶形曲物に入れた一夜鮓のように寝る/義経千本桜鮓屋の段)  
 朝寝成丈との関係は不明 → 十右衛門(じゅうえもん・豊島屋とよしまや) W 2 1 7 1
- E1029 安盛(あさか・矢野やの、通称甚兵衛/専治) ?-? 江中期1751-64頃淡路洲本の砲術家;安盛流の祖、  
 宝暦頃「安盛流火術伝」著  
 薺亭(あさがおてい/しゅんてい) → 谷峨(こくが・初世梅暮里、洒落本) 1 9 2 6  
 薺亭(あさがおてい/しゅんてい) → 秋叢園(しゅうそうえん、本草家) X 2 1 9 4  
 槿堂(あさがおどう) → 蕉雨(しょうう・櫻井、俳人) L 2 1 2 9  
 朝顔の三逕(あさがおのさんけい) → 木児(もくじ・伊藤いとう、俳人) 4 4 9 0  
 薺の舎(あさがおのや) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
- 1046 朝風(あさかぜ・堤つつみ/本姓;源、通称;文五郎/三五郎) 1765-1834 70歳 幕臣;賄組頭、  
 国学:本居宣長・大平門、幕府の故実研究/蔵書家、  
 「名歌著述目録」「古学道の枝折」1811「近代著述目録」編/14「朝風集」著、  
 [朝風の号] 竹裏亭/正心斎/不占
- C1067 朝風(あさかぜ;号・葛目くずめ、守身もりみ/弘守ひろもり、通称;文内/兎次郎) 1794-1830 37 土佐藩士/  
 国学;鹿持雅澄門十哲の1/注釈、1824「訂正万葉集」別府信栄と共編
- E1030 朝風(あさかぜ・井上いとうえ) ? - ? 江戸末期歌人;佐久良東雄あずまお門、  
 「井朝集」「二大人集」「万葉短歌鈔」著
- 1095 朝勝(あさかつ/ともかつ・宮後みやじり/本姓;度会わたらい、朝泰男) ?-? 南北期伊勢外宮権禰宜五位、  
 朝棟あさむねの孫、歌;新後拾遺1527、  
 [みそぎするとよ宮河のしきなみの数より君をなほ祈るかな](新後拾;神祇1527)
- 1096 朝葛(あさかつ・狛こま) ? - 1331 鎌倉期雅楽家、近真の孫、「続教訓抄」著
- 1010 安積皇子(あさかのみこ、聖武天皇皇子) 728-744 夭逝 17歳 母;夫人県犬養広刀自、  
 交遊圈に家持がいた、  
 744聖武難波行幸従駕時に脚病を發し河内桜井頓宮から恭仁京に返り没;

藤原氏出身光明皇后の子は安倍内親王(孝謙天皇)のみ;仲麻呂の皇子毒殺説あり、  
万葉には詞書のみ:大伴家持による挽歌三475-480・1040、

- 1047 **晁樹**(あさき/ちようじゅ・西原にはら、別名;種長/種樹/朝樹、種森男)1781-1859<sup>79</sup> 筑後柳河藩士/国学者、  
1796国学侍講/99近習役/藩校伝習館国学教授/1849用人格、歌;浜臣門、篤胤/春海と交流、  
笛を嗜む、「和歌類題川隈集」、「宇太鷲多理」「みほの浦つと」「口宣問答」「五十音考葦牙」著、  
[晁樹の字/通称/号] 字;君静、通称;庄右衛門/釣彦、号;川隈漁叟/松陰  
浅吉(あさきち・野田) → 広足(ひろたり・野田のだ/菅原/大塚、里正/国学) J 3 7 0 2
- E1031 **浅黄堂染人**(あさぎどうそめひと)?- ? 江戸後期桐生の狂歌、浅草庵門、1823「鶯」編  
浅黄裏成(あさぎのうらなり:狂名、朋誠堂喜三二)→ 岡持(おかもち・手柄) 1 4 0 9  
浅黄裏成(2世あさぎのうらなり:狂名)→ 長根(ながね・芍薬亭) 3 2 1 4
- E1032 **浅草庵守舎**(2世あさくさあん・もりや、深沢/大垣)1777-1830<sup>54</sup> 上州大間生/江戸狂歌・初世門、1805判者、  
「狂歌人物誌」、「狂歌花月四帖」「狂歌坂東太郎」「狂歌紫のゆかり」「狂歌武蔵野百首」編  
[浅草庵2世の別号] 浅茅庵/六蔵亭/都響園  
浅草庵(初世あさくさあん) → 市人(いちんど・浅草庵) 1 1 1 8  
浅草庵(3世あさくさあん) → 春村(はるむら・黒川、国学、狂歌) 3 6 3 8  
浅草庵(4世あさくさあん) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4  
浅草庵(5世あさくさあん) → 伊平(いへい・岡野蓬室、国学/狂歌) I 1 1 2 3  
浅草庵(あさくさあん) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8  
浅草庵(あさくさあん) → 東朔(とうさく・三輪みわ、医者) E 3 1 4 8  
浅草閑人(あさくさかんじん) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3  
浅草堂(あさくさどう) → 五瓶(初世ごへい・並木、歌伎作者) 1 9 4 0  
浅草市人(あさくさのいちんど)→ 市人(いちんど・浅草庵) 1 1 1 8
- D1001 **浅草馬道**(あさくさのうまみち、-めどう、馬道雪解)?-? 狂歌作者;本町連、千草庵山中要助?  
浅草里人(あさくさのさとびと)→ 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6  
浅草干則(あさくさのほしり)→ 干則(ほしり・桑楊庵2世、狂歌作者) E 3 9 2 1  
浅倉森門(あさくさのもりかど)→ 森門(もりかど・浅倉、狂歌作者) I 4 4 4 3  
朝倉隠居(あさくらのいんきよ)→ 堵庵(とあん・手島てじま、心学者) 3 1 0 1  
朝倉霜台(あさくらそうだい) → 実備(さねなが・さねとも・沢崎、藩士/史家) L 2 0 1 4  
朝子(あさこ・藤原) → 朝子(ちようし/あさこ・藤原、信西妻/歌人) I 2 8 4 9
- 1097 **朝定**(あささだ・藤原ふじわら、左近将監重頭男)?-? 廷臣;五位/上杉弾正少弼、歌人、  
風雅814・909・1373、  
[我のみと夜深く越ゆるみ山路に先だつ人の声ぞ聞ゆる](風雅;旅歌909)
- 1098 **朝貞**(あささだ・名越なごえ・本姓;平/家名;北条、時基男/義時の曾孫)?-? 鎌倉後期中務権大輔、  
関東武家歌人、玉葉1907、  
[をしみかねせめても花の散るかたにまた誘はれてゆく心かな](玉葉集;十四1907)  
朝定(あささだ・太田垣) → 朝定(ともさだ・大田垣/日下部、武将/連歌) P 3 1 4 5  
朝定(朝貞あささだ・上杉)→ 朝定(朝貞ともさだ・上杉、武将/歌人) P 3 1 4 4  
朝定(あささだ・藤原/宇治)→ 蓮阿(れんあ;法諱、鎌倉幕臣/僧) 5 1 8 5  
朝貞(あささだ・宮後) → 朝貞(ともさだ・宮後みやじり/度会、神職) P 3 1 4 7  
浅茅庵(あさじあん) → 風律(ふうりつ・木地屋、商家/俳人) B 3 8 0 9  
浅茅庵(あさじあん) → 浅草庵守舎(2世あさくさあん・もりや、狂歌) E 1 0 3 2  
浅茅庵(あさじあん) → 臼人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
浅茅庵(あさじあん) → 羅山(らざん・民村たみむら、雑俳点者) B 4 8 3 6  
浅路庵(あさじあん) → 下蔭(したかげ・峯みね、国学者) Z 2 1 3 9  
浅茅生庵(あさじうあん) → 野坡(やは・志太/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
浅七(あさしち・清水) → 珍一(ちんいち・清水しみず/大野木、国学者) K 2 8 5 7  
浅七(あさしち・鈴木) → 光清(みつきよ・鈴木すずき、国学者/歌) J 4 1 3 9  
浅次郎(あさじろう・荒谷) → 亮通(りょうつう・荒谷あらたに、僧/歌人) L 4 9 9 8  
浅次郎(あさじろう・膳) → 好孝(よしたか・膳かしわで、商家/国学) M 4 7 1 9
- 1099 **朝隆**(あさたか・藤原ふじわら/葉室、通称;藤器/冷泉中納言、為房男)1097-1159<sup>63</sup> 平安後期廷臣、

母;法橋隆尊女の讃岐宣旨(関白忠通の乳母)、異母兄為隆の養子、1153参議、  
1156権中納言/正三位、関白忠通家の家司;歌会で活躍、  
1129「鳥羽院御錫紵記」54「久寿改元定記」著、「朝隆卿記」「仙洞年中行事」著、  
歌;詞花集(102)、

[引く駒にかげを並べて逢坂あふさかの関路よりこそ月はいでければ](詞花;秋102、

関白忠通家にて八月十五夜の心を詠/信濃望月の牧の駒引/馬の鹿毛と月影を掛る)

朝喬(あさたか・宮後) → 朝喬(とまたか・宮後みやじり/度会、神職) P 3 1 6 6

- 1015 **朝忠**(あさただ・藤原ふじわら/三条、土御門中納言、右大臣定方男)910-96657 母;藤原山蔭女、  
平安前期廷臣;蔵人/侍従/924左近将監、従三位/952参議/963中納言、笙を嗜む、  
歌人;恋愛贈答歌多数、36歌仙の1、家集「権中納言朝忠集」、960天徳内裏歌合参加、  
昌子内親王裳着屏風歌に詠進、金玉・新撰朗詠・万代・秋風・雲葉集入、  
金葉Ⅲ三奏本(3首3/15/95)、  
勅撰21首;後撰(70/828/884/962)拾遺(10/263/678)新古(1001)新勅(455/639/1017)以下、  
[逢うふことの絶えてしなくはなかなか人にをも身をも恨みざらまし]、  
(拾遺678;天徳内裏歌合)

- B1002 **朝尹**(あさただ・あさまさ・藤原ふじわら、懐通男)?-? 鎌倉末南北期廷臣;上北面/従四下能登守、  
左京大夫/蔵人、1319蔵人として神泉苑祈雨の勅使、大膳権大夫/右京大夫、  
親尹(正四下修理大夫)・懐衝・藤原永季室の父、歌人;藤葉集入、  
勅撰歌2首;新千載2353/新拾遺1748、  
[降る雨のめぐみにかかる唐衣たちみに御代をなほ祈るかな](新千載;廿慶賀2353)、  
(元応元[1319]年七月九日神泉苑雨乞の勅使の時降雨になり帰り着替えた時の詠)  
[かれはてて秋にはかへる色もなし霜の下なる野辺の葛原](藤葉;冬316)

浅太郎(あさたろう・池田) → 榛山(しんざん・池田いけだ、絵師/詩人) O 2 2 6 4

朝茶坊(朝茶房あさちやぼう) → 文鴛(ぶんい・戸田、俳人) G 3 8 5 0

- 1016 **朝綱**(あさつな・大江おおえ、後江相公のちのごうしょうこう、玉淵男)886-95772 漢学;紀伝道入門/922対策、  
文章博士、廷臣;民部大輔/左大弁/勘解由長官/953参議/正四下、大江音人の孫、  
詩人;渤海使と唱和/949「坤元録屏風詩」詩題設定;共詠、954撰国史所別当;  
「新国史」40巻編纂参、「後江相公集」「倭注切韻」著、祖父音人[江相公]に対し[後-]と称す、  
文章;本朝文粹44篇入、詩;扶桑集ほか入、歌;後撰3首(632/829/1120)、  
[大島に水を運びし早舟の早くも人にあひ見てしがな]、

(後撰集;恋829/女につかはしける/[一早舟の]までが早くもを導く序)

朝綱(あさつな・佐々木) → 松雨(しょう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8

- E1033 **朝経**(あさつね・藤原ふじわら、朝方男/朝隆孫)?-? 廷臣;左衛門権佐/歌;1195経房歌合参加

朝恒(あさつね) → 朝恒(ちようこう・小禄おろく、琉歌人) I 2 8 2 6

朝経(あさつね・赤沢) → 宗益(そうえき・赤沢、武将) G 2 5 2 3

- E1034 **朝妻檢校**(浅妻檢校あさつまけんぎょう、かう市)?-1690 京の三弦家、柳川檢校門、

長唄「恋づくし」「香づくし」作曲

朝光(あさてる・藤原) → 朝光(あさみつ・藤原、歌人、大納言) 1 0 4 8

- B1003 **朝任**(あさとう・源みなもと、二条別当、時中男)989-103446 母;藤原安親女/廷臣;右近中将・蔵人頭、  
1023参議、1029右兵衛督/檢非違使別当、赤染衛門と贈答/歌;後拾遺934、

[わたのはら立つ白波のいかなればなごりひさしく見ゆるなるらん](後拾遺集;934)、

(赤染衛門[赤染衛門集ではその娘]が怨んでいると聞き詠む/大海原と腹立つを掛る)

- E1035 **朝名**(あさな/ともな・度会たらい)?-? 伊勢外宮禰宜、歌;1321外宮北御門歌合参加、

[うき身をば人もゆるさぬ命もてあふにかへばと何頼むらん](外宮歌合;28番左/不逢恋)

- B1004 **朝仲**(あさなか・藤原/初名;朝宗、宗賢[堅]男)?-1184 太皇太后大進/正誤下/歌;月詣集入、  
千載集375、1172広田社歌合の朝宗と同一?

[色かへぬ松吹く風の音はして散るは柞はそのもみぢなりけり](千載集;秋375)

参照 → 朝宗(ともむね・藤原、1170住吉/72広田社歌人) Q 3 1 6 7

朝風(あさなぎ・柳操庵) → 幸盈(ゆきみつ・浦野うらの、和算家/狂歌) F 4 6 7 6

- E1036 **朝成**(あさなり/あさひら・藤原、定方男)917-97458 母朝忠女、平安前期廷臣;930従五下/931侍従、

942右少弁/948従四下右中将/左中将/955藏人頭/従四上内/958(天徳2)蔵頭兼任/参議、  
959備中権守/勘解由長官/960近江守兼任/962正四下/964法隆寺別当/965右衛門督兼任、  
967右衛門督・別当・伊予守・中宮大夫兼任/従三位、970権中納言/971(天禄2)中納言、  
973皇太后宮大夫兼任;974没、号;三条中納言、袋草紙;966(康保3)花の宴の記に入、  
歌;966内裏前栽歌合参加、

[咲きにほふ花のあたりの常よりもさやけかりけり秋の夜の月](内裏前栽;5/右衛門督名)

I1076 朝音(あさね・湯沢ゆさわ、旧姓:島村)1827-? 武蔵埼玉郡の国学者/神職;都賀郡の神職島村家の養子、  
下野都賀郡加蘇山神社祠官

朝寝成丈(あさねのなりたけ/春廼屋)→十右衛門(じゅうえもん・豊島屋、狂歌)W 2 1 7 1

C1068 朝寝昼起(あさねのひるおき) ? - ? 江戸狂歌作者;スキヤ連、徳和歌後万載集1首・34、  
[峯の松琴のねの日にひく哥も声をはるべや風のふき組](後万載;一春34)、  
(琴の音と子の日・小松引くと弾く・春べと張る・風吹きと蒞組[筑紫琴の唄名]の掛詞)

朝寝坊夢楽(あさねぼうむらく)→夢羅久(初世むらく・朝寝房、落語家) D 4 2 1 2

朝寝坊夢楽(あさねぼうむらく)→夢羅久(2世むらく・朝寝房、落語家) D 4 2 1 3

朝寝坊夢楽(3世あさねぼうむらく)→可楽(4世からく・三笑亭、落語家) F 1 5 9 2

浅之丞(あさのじょう) → 弥五左衛門(やごぞえもん・福井?、歌舞伎作者) 4 5 6 0

浅之丞(あさのじょう・熊沢)→鹿野(ろくや・熊沢くまざわ/奥田、藩士/俳) B 5 2 1 6

麻之丞(麻之丈あさのじょう・後藤)→尚豊(ひさとよ・後藤、庄屋/地誌) I 3 7 0 9

浅之進(あさのしん・猪熊)→夏樹(なつき・猪熊いのか、神職/国学/歌) P 3 2 1 4

朝之助(あさのすけ・森本)→如平(ゆきひら・森本もりもと、商家/国学者) H 4 6 3 7

あさの舎(あさのや) → 直中(なおなか・二瓶にへい、国学/歌/教育) O 3 2 1 9

麻舎(浅野屋あさのや) → 佐平(さへい・浅野屋/塩屋、国学/勤王) L 2 0 5 4

麻舎自唱(あさのやじしょう)→正樹(政樹まさき・浅島あさじま/源、藩士/国学) N 4 0 1 2

朝早市人(あさはやのいちんど)→市人(いちんど・朝早、狂歌) E 1 1 3 4

G1043 朝日(あさひ;組連) ? - ? 江中期江戸芝口源助町(現新橋付近)の川柳の組連、  
取次;1762「川柳評万句合」入;

取次例;[花嫁の箆笥の環くわんも音のよさ](前句;むつまじい事々々)

G1044 あさひ(組連) ? - ? 江中期江戸薬研堀の川柳の組連(両国の[あさひ]も同一?)、  
取次;779-80「川柳評万句合」入;

取次例;[おとめ殿どの甚六よりと又むしん](1779万句合/定め社こそすれ々々)、

(一般に末娘には末・留・捨の名)、

(放蕩し勘当された惣領甚六は跡取の末妹のお留にいつも無心)

晨彦(あさひこ・松木) → 晨彦(ときひこ・松木、神官/連歌) J 3 1 8 2

朝彦(あさひこ→ともひこ・松木)→備彦(ともひこ・松木、神官/連歌) Q 3 1 3 2

E1037 朝彦親王(あさひこしんのう、久邇宮くにのみや、邦家親王男)1824-9168 天台座主、公武合体運動、日記

朝日舎老人(あさひしゃろうじん)→玄鶴(げんかく・大野おのお、医者/地誌) I 1 8 2 7

C1095 朝英(あさひで・渡会わたらい、朝景男)?-? 南北期1370頃伊勢神宮八禰宜/歌:新葉1019、  
[君が代の春にあはずは青柳のいとかくまゆはひらげざらまし](新葉集;十六1019)

朝日寺(あさひでら) → 玄澄(げんちよう:法号、武将/連歌) L 1 8 3 1

G1052 朝日尼(あさひのあま) ? - ? 平安後期歌人;

1155-6成立「後葉ごよう集」/1165清輔[続詞花集]入、

[あくがれし子を思ふ道におりたちて塵にけがるる身とぞ成りぬる](後葉;580、  
法華経信解品の心を詠)

旭眞婆行(旭間婆行あさひまばゆき)→眞婆行(まばゆき・山旭亭さんきょくてい、商家/戯作) K 4 0 0 3

朝日山信寂(あさひやまのしんじやく)→信寂(しんじやく;法諱、浄土僧) O 2 2 7 2

朝成(あさひら・藤原) → 朝成(あさなり/あさひら・藤原、中納言/歌) E 1 0 3 6

麻布学究(あさぶがつきゆう) → 信斎(しんさい・大郷おごう、藩士/儒者) E 2 2 1 8

朝尹(あさまさ・藤原) → 朝尹(あさただ・あさまさ、藤原、歌人) B 1 0 0 2

麻満(あさまる・宇都宮) → 鏡男(かがみお・宇都宮うつのみや、神職) T 1 5 7 4

1048 朝光(あさみつ/あさてる・藤原ふじわら、関白兼通男)951-99545 廷臣;974参議/975権中納言/977権大納言、

987大納言/正二位、母；有明親王女能子or昭子、権門歌人；975自邸で歌合催、家集「朝光集」、藤原濟時/大江為基/藤原高光/馬内侍/小大君らと交遊、万代・秋風集入、勅撰29首；拾遺(512/557/1205/1306)後拾遺(541/948)新古(1188/1452/1735)新勅撰以下、[消えかへりあるかなきかの我が身かなうらみてかへる道芝の露]、(新古今；恋1188/小大君こおぎみ集)、

[朝光の通称] 堀川中納言/閑院大将/閑院大納言

**浅見の三傑**(あさみのさんけつ)；浅見綱斎けいさい門下の三人の優れた儒者

→ 観瀾(かんらん・三宅) 1674-1718 1 5 5 6  
→ 強斎(きょうさい・若林) 1679-1732 C 1 6 5 0  
→ 復斎(ふくさい・山本) 1680-1730 B 3 8 5 1

1017 **朝棟**(あさむね/ともむね・宮後みやじり、朝親男/本姓；度会わたらい) 1269-1341 73歳 伊勢外宮禰宜、1295九禰宜、1339(暦応2/延元4)一禰宜/外宮長官/南北期の外宮歌壇の中心、1340南朝より従三位、1321外宮北御門歌合；右方1番参/34(建武元)自邸[朝棟亭歌会]催、続現葉集入、勅撰4首；続千載(1936)風雅(2122)新千(2首)・新葉4首(420/945/1045/1269)、[ゆくすゑの名をこそ思へもしほ草かきおく跡の朽ちぬたのみに](続千載；雑1936)[月影や古りにし秋を移すらん神代も同じ五十鈴河上](朝棟邸歌会；22)、[朝棟(；名)の号]号；伊賀/曾禰/吹上

朝宗(あさむね・藤原) → 朝仲(あさなか・藤原、千載歌人) B 1 0 0 4  
朝宗(あさむね・藤原) → 朝宗(ともむね・藤原、住吉社歌合参/朝仲同一説あり) Q 3 1 6 7  
朝宗(あさむね・藤原) → 朝宗(ともむね・笠間/塩屋、鎌倉期歌人) Q 3 1 6 9  
朝宗(あさむね・藤原) → 朝仲(あさなか・藤原、平安期歌人) B 1 0 0 4

B1005 **朝村**(あさむら・伊達だて、行朝/行宗、基永男/本姓；藤原) ?-1348 伊達家7世/南朝五位；宮内大輔、歌人；続現葉/臨永/藤葉集入、勅撰4首；風雅(1709)新千載(953)新拾(1827)新後拾(769)[葛飾の真間の浦風吹きにけり夕波こゆるよどの継ぎ橋](風雅；十六雑1709)

B1006 **皆女**(あさめ/あさめ・服部はとり、服部部於田はとりへのおゆ/うえだの妻) ?-? 755武蔵の防人の夫との別離歌、万葉集；廿防人歌4422、[我が背なを筑紫へ遣るて愛うつくしみ帯は解かななあやにかも寝も]、(万葉集；廿4422/あやには怪しく心乱れる様子)

夫 → 於田(うえだ/おゆ・服部、防人/万葉4421) 1 2 0 0

B1007 **朝元**(あさもと・菅原すがわら/津戸) ?-? 廷臣；五位、歌人、1346成立「風雅集」1501、[ほととぎす鳴くべきころと思ふより雲にながめぬ夕暮れぞなき](風雅集；十五1501)朝もよひの紀迪(-きてき) → 紀迪(きてき・朝もよひ、狂歌) F 1 6 9 9

B1008 **朝康**(あさやす・文屋/文室ふみや、康秀男) ?-? 平安期廷臣/892駿河掾/902大舍人大允、歌人；「寛平后歌合」「是貞親王家歌合」参、古今下3首[白露に風の吹きしく秋の野はつらぬきとめぬ玉ぞ散りける](後撰308)

B1009 **朝頼**(あさより・藤原、右大臣定方男) ?-965? 母；藤原山蔭女、廷臣；左兵衛督/少納言/左大弁、勘解由長官/従四上、本院蔵ほんいんのくらと恋、歌；後撰1014[富士の嶺ねをよそにぞ聞きし今は我が思ひに燃ゆる煙なりけり](後撰；十四恋1014)参照 本院蔵 → くら(本院蔵ほんいんのくら、女房歌人) B 1 7 0 7

E1038 **浅利檢校**(阿佐利-あさりけんぎょう) ?-? 1661-81頃三味線名手、柳川門、「新曲唱歌」著

B1001 **亞杉**(あさん) ?-? 江後期安藝阿賀の俳人、1822筵史「はつたより」入；[鶏にわたりの喰さし捨て雀の子]

C1069 **鴉山**(あさん・肅月斎、田代七郎兵衛定直) ?-? 狂歌・米都べいと門、「国風邪撃壊集」著阿山人(あさんじん) → 木導(もくどう・奈越江なおい/上松、俳人) B 4 4 0 4

C1027 **蛙子**(あし、蛭子?) ?-? 越中富山俳人、1683例句集「四季題林」88「四季題林後集」編蛙之(あし) → 井左(せいさ・浅野あさの、俳人) I 2 4 1 5

阿直阿(あじあ・上田) → 好文(よしぶみ・上田うえだ、国学者) L 4 7 7 3

味右衛門(あじえもん・島崎) → 又玄(ゆうげん・島崎しまさき、御師/俳人) B 4 6 4 8

味右衛門(あじえもん・江幡) → 晩香(ばんこう・江幡/江幡えはた、詩人) H 3 6 6 0

H1079 **葦雄**(あしお・関せき、初名；盛世) 1834-? 信濃高島の茶道家；師範、国学；平田鉄胤門、

故実礼法;松岡明義門/平田国学;権田直助門、  
[葦雄(;名)の通称/号]通称;雲雪、号;孤峰庵

- H1063 **蘆臣**(あしおみ・佐々木ささき、佐々木義信男/本姓;中垣)1835-190167 筑後久留米藩士、  
国学;船曳鉄門(磐主)門/歌;萩原広道・中村良顕・通阿門、  
[蘆臣(;名)の通称/号]通称;熊吉/信平/武侯、号;蓬園

足軒主人(あしがるしゅじん) → 知亮(ともしげ・茂木もてぎ、藩士/歌/俳人) P 3 1 6 0  
阿直岐(あじき) → 阿直岐(あちき・阿知吉師、渡来学者) C 1 0 3 0

- C1028 **蘆国**(あしくに・浅山あさやま、通称:布屋忠三郎)?-1818 大阪の絵師;蘭林斎常政門/芝居挿絵、  
1807「蟹猿奇談」12「金屋金五郎全伝」14「芝翫帖」16芝叟「売油郎あぶらうり」などの挿画  
[蘆国の別号]蘆洲/蘆洲斎、青陽斎、蘭英斎、狂画堂、浅山蘆溪ろけい男説あり

紫陽花園(あじさいえん) → 資元(すけもと・石塚、神職/歌人) H 2 3 1 4  
萩園(あしぞの・山守/磯田) → 玉秋(たまき・磯田いそだ、医/国学者) K 2 6 3 7  
葦園正名(あしぞのまさな;号) → 正名(まさな・葦園あしぞの/福田、狂歌) E 4 0 9 4  
阿七(あしち・中村) → 陽斎(てきさい・中村/仲邨なかむら、儒者) B 3 0 8 8  
阿実尼(あじつに) → 千枝子(ちえこ・多田、歌人) 2 8 4 4

脚長蝨麻呂(あしながのいなごまる;戯作号) → 尚忠(ひさただ・山田、藩士/国学) B 3 7 3 1  
葦名大道(あしなのだいどう) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9

- H1093 **葦根**(あしね・高須たかす、元尚男)1790-186071 遠江敷智郡新居宿中町の油問屋;若林屋/吉田藩御用、  
高須家7代を継嗣/酒造業;家業に励み開墾事業に尽力/1827(文政10)年寄(問屋補佐役)、  
歌人;夏目甕麿みかまる門;葦根と号す、国学;本居大平・鈴木重胤門、  
1833(天保4)疥癬治療に遠州秋葉道の虫生むしゅうへ湯治;秋葉山・鳳来寺山・豊川稲荷参詣:  
旅日記「虫生湯治旅行記」著、1860(万延元)没/息子葛根つなねが家督嗣、  
[君が代のながきを友にいくみだけいく春秋を越えんとすらむ](短冊)、  
[葦根(;号)の名/通称/屋号]名;幸助(;幼名)/尚道、通称;嘉兵衛(代々の称)、  
屋号:若林屋

蘆借庵(あしのかりお) → 彦麿(ひこまる・斎藤、国学/歌) 3 7 0 3  
芦の丸家(あしのまるや) → 貞瑛(ていよ・松永、俳人) B 3 0 7 4  
芦舎(あしのや) → 利和(としかず・吉田、歌人) M 3 1 1 4  
葦廼舎(あしのや) → 蘆洲(ろしゅう・井上いのうえ、儒者/易学) B 5 2 7 2  
蘆舎(あしのや・蘆村) → 隆信(たかのぶ・蘆村あしむら、国学/歌人) V 2 6 2 1  
蘆の屋(あしのや) → 豊年(とよとし・太田、医/本草/国学) R 3 1 3 5  
蘆の屋(あしのや・高安) → 蘆屋(ろおく・高安/高、商家/儒・書家) 5 2 4 8  
蘆の舎(あしのや) → 穂足(ほたり・江碓えざき、神職/歌人) G 3 9 1 6  
蘆乃屋(あしのや) → 正富(まさとみ・磯部いそべ、神職/国学) N 4 0 6 5  
あしのや(・井上) → 景明(かげあき・井上いのうえ、国学/歌人) T 1 5 4 9  
あしのや → 致知(ゆきとも・片桐かたざり、商家/歌人) G 4 6 7 4  
蘆野屋麻績一(あしのやおみいち) → 麻績一(おみいち・蘆野屋、鍼医/国学) B 1 4 5 8  
阿斯能夜検校(あしのやけんぎょう) → 麻績一(おみいち・蘆野屋、鍼医/国学) B 1 4 5 8  
葦廼屋高振(あしのやたかふり) → 高振(こうしん・葦廼屋、洒落本作者) F 1 9 1 5  
蘆の丸屋貞瑛(あしのやていよ) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1

- E1039 **葦原王**(あしはらのおおきみ、山前王やまくまのおおきみの男)?-? 奈良期;761酒席で御使連麻呂を斬殺/  
王名除籍;竜田真人姓、多嶺島たねがしま流罪(続日本紀)

芦原蟹貫(あしはらのかにつら) → 蟹貫(かにつら・芦原、狂歌)) F 1 5 6 2  
蘆原蟹丸(あしはらかにまる) → 蟹丸(かにまる・蘆原、為斎、狂歌) C 1 5 6 5

- G1034 **足曳山丸**(あしびきのやままる) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入:504

[品川東海寺 どっしりとすはるお寺のかうの物げに沢庵のおもしろい塚]  
足彦(あしひこ・加藤) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1  
足彦命(あしひこのみこと;神号) → 豊平(とよひら・真鍋・藤原、神職/歌/一弦琴) R 3 1 5 2

- H1025 **蘆平**(あしひら・大平おおだいら、鎮西清濱5男)1769-184678 信濃伊那郡鎮西野村大山田神社神官の家、

1791(寛政3)同郡島田村八幡神社祠官大平おだいら長門の養子、八幡神社祠官を継嗣、  
書画;佐竹蓬平門、国学;太田中彦(文碩)/歌;森広主門、医;安江文迪門/詩;龍門寺梶嶺門、  
妻;佐竹蓬平の姪のまき;1807没/後妻;飯田藩士田中亮太夫女、  
俊治としはるの父、近藤舩齋(月仙門)の義兄、  
[蘆平(;名)の別名/通称/号]別名;清因/彦年/豊彦、通称;源之助/左馬之介、  
号;鳩嶺舎、

蘆辺田鶴丸(あしべのたづまる)→ 田鶴丸(たづまる・蘆辺、狂歌) 2 6 3 9

E1040 芦丸(あしまる・藤田、東淵舎、一風男)?-? 江後期河内枚方雑俳点者;1819「三国力瘤」編

E1041 芦麿(あしまる・豊川、高き[高城or高木]/修姓;高)?-? 江後期1813-32頃大阪博労町絵師;蘆国門?、  
役者絵、門弟多数、1815「眞壽加賀見東佛」画、  
[豊川芦麿(;号)の別号] 豊川芦丸/よし国/芳国/芳洲、岡丈堂/寿好堂

足麻呂(あしまろ→たりまる・丈部)→ 足麻呂(たりまる・丈部はつせべ、万葉防人歌人) H 2 6 7 7

安心院聖人(あじむしょうにん)→ 重清(じゅうせい・安心院あじむ、僧/連歌) H 2 1 8 7

I1019 蘆村(あしむら・南城なんじょう、通称;嘉六)?-1857 飛騨高山の和漢学者、歌人、  
国学・漢学;富田節斎(礼彦いやひに/1811-77)門、南城鞆雄の弟

阿寂(あじやく;法名)→ 資時(すけとき・源、廷臣/今様/郢曲) C 2 3 5 3

芦屋菟原処女(あしやのうないおとめ)→ 菟原処女(うないおとめ、万葉中伝説) 1 2 7 8

あしやの栄子(あしやのえいこ)→ 栄子(えいこ・あしやの、日記) C 1 3 7 2

阿闍梨(あじり、若狭阿闍梨)→ 隆源(りゅうげん、藤原通宗男) 4 9 0 8

阿闍梨法印(あじりほういん)→ 寂明(じやくみょう;法諱・恵日、真言僧/歌) G 2 1 3 8

阿洲(あしゅう)→ 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6

阿舟(あしゅう・小泉)→ 養正(よしまさ・小泉こいづみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2

E1042 鈎丈(あじょう) ? - ? 俳人;772几董「其雪影」1句入、  
[日盛ひざかりや蝉は眠りて滝の音](其雪影;巻尾308)

亞相公(あしょうこう;大納言の唐名)→ 利家(としいえ・前田、武将/藩主) M 3 1 0 7

阿性上人(あしょうじょうにん)→ 覚宗(かくそう、真言仁和寺僧) B 1 5 6 5

網代民部(あじろみんぶ)→ 弘氏(ひろうじ・足代、神風館初世、神職/俳) F 3 7 5 6

網代民部の息(あじろみんぶのそく)→ 弘員(ひろかず・足代、神風館2世、神職) F 3 7 6 7

芦原蟹貫(あしわらのかにつら)→ 蟹貫(かにつら・芦原あしわら、大阪狂歌) F 1 5 6 2

芦原蟹丸(あしわらのかにまる)→ 蟹丸(かにまる・芦原あしわら、大阪狂歌) C 1 5 6 5

E1043 阿人(あじん江原えはら、如此庵2世、牡丹庵)?-? 江戸後期駿河俳人・蓼太門、江戸住、  
1785「旦暮帖」/91「雪幸集」編

阿心庵(あしんあん)→ 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0

B1010 阿誰(あすい・箱島はこしま、名;布慶/通称;善右衛門/善兵衛) 1710-7263 下総関宿の商人、  
俳人;巴人・宋阿門、「反古衾」著、1731「薙髮集」著、

1755雁岩「夜半亭発句帖」巴人追善百韻入、72几董「其雪影」入、

[思ひやる時雨の中や筏さし](其雪影;巻尾408/時雨に濡れて筏を操る人の心を思う)

[阿誰の別号] 蛙吹/郢月泉えいげつせん(巴人より継承)、妻;曾代/閑鵞かんが[浙江]の父、

参照 浙江(せつこう)→ 閑鵞(かんが・箱島、俳人) G 1 5 1 5

E1044 蛙水(あすい・田原たはら、通称;善兵衛)?-? 丹波北山社中俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、  
[雲晴れて人の呼ぶまで月見かな](月の夜;24)

E1045 蛙水(2世あすい・柴田勝範、渭浜庵2世、初世蛙水男)?-1827 幕臣柴田家臣/江戸俳;2世素丸門、  
1792判者、1820・2「渭浜庵歳旦」「浜つと」編

I1026 蛙水(あすい・野村のむら、)?-?天保1830-44頃没 安藝広島藩侍医、和学・歌;近藤芳樹門、  
[蛙水(;号)の名/通称]名;有年/繁民しげたみ、通称;正精

G1064 阿誰(あすい・桜井さくらい) ? - ? 江後期歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[折りとりてかざさぬ袖も咲く菊の花の香うつす庭の秋風](大江戸倭歌;秋953)

[春きぬと三保の浦松霞むなりめ路ぢはるかなる波の緑に]、

(大江戸倭歌;春20/浦早春、現存百人一首24)

- H1052 **蛙水**(あすい・後藤かとう、旧姓;桐山) 1833-1908 76 飛騨高山の国学者/歌人;山崎弘泰門、  
[蛙水(;)の通称/別号]通称;利八、別号;第一楼芝仙
- E1046 **阿誰一**(あすいいち・山崎/田川)?- ? 江前期江戸将棋士/盲目、1713「将棋亀鑑」著  
阿誰軒(あすいけん) → 庄兵衛(しょうべい・初世井筒屋・重勝) B 2 2 4 6  
飛鳥井三位(あすかいのさんみ) → 雅綱(まさつな・飛鳥井、歌/蹴鞠) D 4 0 9 7  
飛鳥井中納言入道(あすかいちゅうなごんにゅうどう) → 雅世(まさよ・飛鳥井) 4 0 2 3  
飛鳥園(2世あすかえん) → 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6  
飛鳥園(3世あすかえん) → 一叟(いっそう・鈴木、俳人) H 1 1 5 4  
飛鳥園(4世あすかえん) → 一叟(いっそう・鈴木、俳人) B 1 1 5 7  
飛鳥園(5世あすかえん) → 一叟(いっそう・天老坊貞哉ていさい、俳人) C 1 1 9 0  
**飛鳥園の系統** → 一叟(いっそう・並木、俳人)の項 B 1 1 5 6
- G1045 **あすか川**(飛鳥川;組連)?- ? 江中期江戸小石川小日向(牛込?)の川柳の組連、  
取次;1784・85「川柳評万句合」入;  
取次例;[はやり風引いてしまつて安堵する](前句;本のことかな々々)  
飛鳥山館(あすかさんかん) → 隆庵(りゅうあん・小野おの、医者) C 4 9 6 4  
飛鳥山人(あすかさんじん) → 隆庵(りゅうあん・小野おの、医者) C 4 9 6 4
- C1089 **明日香采女**(あすかのうねめ)?- ? 平安前期醍醐天皇の宮中に出仕、実頼・右近と贈答歌/  
勅撰3首;拾遺1221/後拾遺540/新勅撰885、  
[池水の底にあらではねぬなはの来る人もなし待つ人もなし](拾遺;1221/実頼への返歌)、  
(底とそこ[あなた]を掛ける/「ねぬなはの」は根蓴菜;蓴菜を繰るから[来る]の枕詞)  
(藤原実頼の贈歌1220;人知れぬ人待ち顔に見ゆめるは誰が頼めたる今宵なるらん)
- 1049 **明日香皇女**(飛鳥皇女あすかのひめみこ、天智天皇皇女)?-700. 4. 4 忍壁皇子の妃、  
万葉集196-8(:人麻呂の詠んだ挽歌/長歌と短歌)
- B1011 **安宿王**(あすかべのおおきみ、長屋王男)?-? 母;藤原不比等女、廷臣;729長屋王変;死を免れる、  
737従五下/玄蕃頭/治部卿/中務大輔/751正四下/753播磨守/754内匠頭/756讃岐守、  
757橘奈良麿の変に連座;弟山背王の密告による/佐渡に配流;のち赦免、  
773高階真人の賜姓、万葉四期歌人;2首4301/4452(内裏南安殿での肆宴)、  
[娘子をとめらが玉裳裾引くこの庭に秋風吹きて花は散りつつ](万葉集;廿4452)  
参考 → 山背王(やましるのおおきみ・藤原弟貞、長屋王男、母不比等女) E 4 5 1 1
- H1040 **梓**(あずさ・川畑かわはた) 1835 - 1908 74 薩摩鹿児島島の国学・歌;山田清安・八田知紀門、  
歌人;香川景恒門、1885「養蚕手引書」著  
梓(あずさ・加藤) → 称平(みつひら・加藤かとう、商家/志士/歌) I 4 1 6 4
- C1070 **梓弓八中**(あずさゆみやなか)?- ? 狂歌作者、1785「徳和歌後万載集」1首入、  
[鶯の声も高菜をゝろぬきて畠はたけをあつちちこちにとび鳴く](後万載;春30)、  
(をろぬくは間引く;ここはついでむ)
- G1024 **あづま**(あづま・遊女)?- ? 1661-73頃大阪新町佐渡島の遊女/山本与次右衛門との恋;  
はやり歌となる(歌では山崎与次兵衛;1704「落葉集」入)/18近松浄瑠璃、  
狂歌;1787刊「狂歌才蔵集」に逸話入、  
[身は浪華なには心は都みやこ名はあづまのぼりつめたる山本のさと]  
東(あづま・西川) → 晩翠(ばんすい・西川にしかわ、心学者) I 3 6 2 0  
吾妻(あづま・東条) → 宗統(むねつぐ・東条とうじょう、国学者) E 4 2 0 1
- 1050 **東雄**(あづまお・飯島/佐久良さくら/桜/本姓:平、平蔵男) 1811-60 獄死 50 常陸新治郡浦須村庄屋の生、  
1819(9歳)新治郡下林村観音寺住職の康哉こうさい門;良哉と称す、  
1830(20歳)大和長谷寺豊山学林に仏道修学、康哉重病を知り看病/32没;師所蔵書を遺贈、  
1835常陸観音寺・土浦真鍋善応寺住持;36天保の飢饉に民衆救済に奔走;雅号東雄を使用、  
寺務の傍ら国学を講ず、藤田東湖らと交流/1842国学;平田篤胤門/43(天保14)還俗、  
姓名を佐久良靱負ゆぎえと改む、江戸で国学に専念/水戸藩奥医師鈴木玄兆女の輝子と結婚、  
1845上洛;渡辺資政の縁で大坂の坐摩いかり神社に寄寓;坐摩版出版;国学を普及/歌人、  
尊王派、1854再上洛;妙法院宮家人;中奥席格/57妻没/58神祇伯白川資則に入門;



神祇道学師を受、1860桜田門外変の高橋多一郎父子を匿い大坂東奉行所に捕縛；  
江戸伝馬町入獄；獄中に没、

「赤穂義士人の鑑」、40歌集「はるのうた」、「菫園歌集」、「佐久良東雄歌集」著、  
[朝日かげ豊栄とよさかのぼる日の本のやまとの国の春のあけぼの](佐久良東雄歌集)、  
[桜花咲きの盛りをうち見てもただ武士ものふは涙おちけり](佐久良東雄歌集)、  
[東雄(；雅号)の名/字/通称/別号]名；良哉、字；高俊、通称；静馬/靱負/健雄、  
別号；菫園きょうえん/神習舎/静廼舎しずのや

東雄(あずまお・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2

東雄(あずまお・福島) → 東雄(はるお・福島ふくしま、名主/郷土史) G 3 6 0 2

吾妻雄菟子(あずまおとこ) → 金鷲(金峨さんが・梅亭、吉田/瓜生、戯作) D 1 6 8 3

吾妻男一丁(2世あずまおとこいちよう) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作) B 1 1 3 7

吾妻男一丁(あずまおとこいちよう) → 春馬(初世しゅんば・三亭さんてい、戯作者/狂歌) 2 1 6 5

吾妻男一丁(3世あずまおとこいちよう) → 金鷲(金峨さんが・梅亭、戯作) D 1 6 8 3

吾妻路宮古太夫(あずまじみやこだゆう) → 一中(五世いっちゆう、一中節中興) C 1 1 9 7

E1047 東の紙子(あずまのかみこ) ? - ? 江戸浮世草子；1707「男色比翼鳥」著(；政信画)

奥村政信の変名? → 政信(まさのぶ・奥村、浮世絵師/俳人) F 4 0 6 4

東菊麿(あずまのきくまる) → 東菊麿(ひがしのきくまる、狂歌) H 3 7 8 6

東之助(あずまのすけ・朝山) → 嘉基(よしもと・朝山あさやま/勝部、神職) L 4 7 2 3

東の大道(あずまのだいどう) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9

東の頓作(あずまのとんさく) → 頓作(とんさく・かす市、噺家) S 3 1 2 1

B1012 東人(あずまひと/あずまと・置始連おきそめのむらじ)?-? 699存 大和藤原宮期廷臣；万葉二期歌人；

万葉集66(持統天皇に從駕)/204-206(弓削皇子への挽歌)、

[大伴の高師の浜の松が根を枕き寝ぬれど家し偲はゆ](万葉集；一66/難波宮行幸)

B1013 東人(あずまひと/あずまと・中臣朝臣、意美麻呂おみまろ男)?-? 奈良期廷臣；732刑部卿/33従四下、

万葉三期歌人、万葉集；四515、古今集720、

[独り寝て絶えにし紐をゆゆしみとせむすべ知らに音ねのみしそ泣く](万葉；515)、

(阿倍女郎あべのいらつめに贈る歌)

B1014 東人(あずまひと/あずまと・佐伯宿禰さえきのすくね)?-? 奈良期廷臣；732西海節度使判官/外従五下、

節度使は治安維持・対新羅政策の職/西海は藤原宇合の下に九州軍団を統括/判官は3等官、  
万葉三期歌人/万葉集；四622(；732西海節度使判官の時の歌)、

[草枕旅に久しくなりぬれば汝なをこそ思へ な恋ひそ我妹わがも](万葉；622/妻への返歌)、

参照

→ 佐伯宿禰東人妻(さえきのすくねあずまひとのつま/夫への贈歌) B 2 0 1 9

B1015 東人(あずまひと/あずまと・河[川]辺朝臣かわべのあそみ)?-? 奈良期廷臣；733憶良を見舞(万葉978)、

767従五下、770石見守、万葉四期歌人；八1440、

[春雨のしくしく降るに高円たかまどの山の桜はいかにかあるらむ](万葉1440)

B1016 東人(あずまひと・大伴宿禰おおともすくね)? - ? 奈良期廷臣；758従五下/弾正弼、

万葉四期歌人；六1034(；740年聖武天皇伊勢行幸に從駕/美濃多藝たぎの行宮での詠歌)

[古いにいゆ人の言ひける老人おいひとの変若をといふ水そ名に負ふ滝の瀬](万葉；六1034)

東人妻(あずまひとのつま・佐伯宿禰) → 佐伯宿禰東人妻(さえきのすくねあずまひとのつま) B 2 0 1 9

B1017 東麻呂(あずままる・小治田朝臣おわりだのあそみ)?-? 奈良期廷臣/万葉四期歌人；八1646(；雪の歌)、

[ぬばたまの今夜こよひの雪にいざ濡れな明けむ朝あしたに消けなば惜しけむ](万葉；1646)

1018 春満(あずままる・荷田かた/姓かばね；宿禰、羽倉はくら信詮男)1669-1736 68 母；深尾盛長女の貝子(後妻)、

山城紀伊郡稻荷社社家；祠官、社家神道・国学・歌学；大山為起門、

契沖「万葉代匠記」を修学；国家意識を強くし古道の解明を試みる、古典注釈研究、

1728(享保13)著作「創学校啓そうがくこうけい」を幕府に献上、賀茂真淵の師、家集「青葉集」、

「東麻呂家集」、「万葉集僻案へきあん抄」「万葉集訓釈」「万葉集和仮名訓」「日本書紀神代卷抄」、

「日本書紀歌口解」「神代和歌釈」「伊勢物語童子問」「令義解考」「春葉集」外著多数、

[嵐吹く音もおよばぬ雲の上はいかに静けく月のすむらむ]、

[春満の別名/通称/号]別名；信盛/東丸あずままる(東麿/東万侶/東麻呂)/東麿/幼名；鶴丸、

通称；斎宮/齋、神号；巖興靈、信友の弟/信名兄、在満ありまろ/蒼生子たみこの養父

父 → 信詮(のぶり/のぶあき・荷田かだ/羽倉、神職) C 3 5 7 0  
 母 → 貝子(かい・荷田/深尾、信詮後妻/歌人) U 1 5 1 4  
 弟 → 信名(のぶな・荷田かだ/羽倉、神職/国学) 3 5 1 1  
 娘 → 直子(なおこ・芝崎しばさき/荷田、国学/歌) N 3 2 3 2  
 養子 → 在満(有満ありまる・荷田かだ、羽倉高惟男/国学) 1 0 3 4  
 養女 → 蒼生子(民子たみこ・荷田かだ、羽倉高惟女/歌) G 2 6 5 8

吾妻楼手前(あずまろうのてまえ/あづま-) → 南北(なんぼく・東西庵、戯作/狂歌) 3 2 3 4

吾鬢(あずら・寺山) → 吾鬢(あづら・寺山、藩士/国学/歌) B 1 0 4 8

E1049 蛙井(あせい・桜木さくらぎ、名;家明、中村三之丞男/久右衛門尉養子) 1702-? 土佐津野川村出身、土佐中村住;随筆家、1775「大海集上」著、  
 [蛙井(;号)の通称] 福馬

B1018 蛙井(あせい・福隅軒) ? - ? 江中期京の浮世草子/洒落本作者;  
 1783「諸芸独自慢」「虚辞先生穴賢」著

蛙井(あせい・豊竹) → 肥前掾(ひぜんのかみ・豊竹、浄瑠璃太夫/座本) C 3 7 5 2

阿清(あせい;法名) → 時清(とききよ・佐々木/源、幕臣/歌人) J 3 1 0 8

亞靖(あせい・田中) → 千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人) G 2 4 5 0

蛙声斎(あせいさい) → 有物(うぶつ、石原、俳人) D 1 2 2 8

亞声房(あせいぼう) → 菟留(とりゅう・聴松庵、藩士/俳人) R 3 1 8 8

亜碩(あせき・花月庵) → 鷲雄(わしお・鈴木すずき、国学/歌人) 5 3 8 5

蛙夕(あせき・菅原) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5

蛙石坊(あせきぼう) → 曲川(きょくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6

B1020 按察(あせち・鷹司院、藤原光親女)?-? 1265出家存 鎌倉期後堀河皇后鷹司院長子[1218-75]女房、1221承久変で父斬首、光俊(真観)と兄弟、1265以前に出家?、  
 歌人:1248宝治百首/51影供歌合参加入、万代集・現存和歌六帖・秋風集・拾遺風体集入、  
 勅撰21首;続後撰(776/884)続古(7首109/329/579/1135/1368/1839/1844)続拾(1076)、  
 新後撰(23)玉(47/2094)続後拾(845)風(315)新千(1092)新拾(1098)以下、  
 [いかにせん富士のけぶりの年ふれど忘るるほどにならぬ思ひを](続後撰;恋776、  
 百首歌奏上るとき寄煙恋)

B1019 按察(あせち・恒明親王家つねあきらしんのうけ、白川資緒王女)?-? 鎌倉末南北期女房[父1297出家];  
 中務卿常盤井宮恒明親王(龜山天皇皇子[1303-51])に出仕、歌人;続千載1278、  
 [行末ゆくすゑの契りもよしやながらへて待つべきほどの命ならねば](続千;恋1278)

I1085 按察(あせち・寿成門院じゅじょうもんいん)?-? 寿成門院(嬪子内親王、後二条天皇皇女/1302-62)に出仕、  
 鎌倉南北期;女房歌人;藤葉とうよう集入、  
 [あふとみる夢もうつつにかはらねばしばしなぐさむ宵のうたたね](藤葉;恋556)

按察(あせち) → 典侍光子(すけのみつこ、藤原範光女/歌人) G 2 3 8 7

按察使(あせち・本多) → 忠胤(ただたね・本多ほんだ、国学者) Z 2 6 4 6

安察使大僧都(あせちだいそうず) → 長強(ちやうきやう、歌人/連歌) H 2 8 8 6

按察更衣(あせちのこうい) → 按察御息所(あせちのみやすどころ・村上更衣) B 1 0 2 1

按察僧都(あせちのそうず) → 経賢(きやうけん;法諱、僧/歌人) C 1 6 4 1

按察大納言(あせちのだいながん) → 実季(さねすえ・藤原、廷臣/歌人) D 2 0 0 7

按察使中納言(あせちのちゆうながん) → 公夏(きんなつ・八条、南朝廷臣/歌) R 1 6 5 6

按察入道(あせちのにゅうどう) → 公敏(きんとし・洞院とういん、廷臣/歌人) E 1 6 3 9

按察法印(あせちのほういん) → 覚算(かくさん;法諱、社僧/悉曇学者) J 1 5 8 8

按察法印(あせちのほういん) → 深賢(しんけん/じんけん;法諱、真言僧) D 2 2 9 2

B1021 按察御息所(あせちのみやすどころ、左大臣藤原在衡女)?-967 平安期・村上天皇正妃せいひ;更衣/女御?  
 致平昭平親王・昭平親王・保子内親王の母、藤原国光・博古の姉妹、  
 歌人;960天徳内裏歌合参加、勅撰2首;拾遺1259・新勅撰1018、  
 [世の中を常なきものと聞きしかどつらきことこそ久しかりけれ](拾遺;雑恋1259、  
 延喜?天皇の機嫌を損ねて久しので天皇の乳母にとり成しを頼む歌、延喜は天暦の誤、  
 乳母の返歌;つらきをば常なきものと思ひつつ久しき事を頼みやはせぬ)

- 畔道(畦道あぜみち・旦暮/畑の)→**旦暮畔道**(たんぼのあぜみち・艾屋、狂歌) I 2 6 6 0  
 麻生園(あそうえん) → **美波留**(みはる・長野/藤原、国学/歌) 4 1 3 6  
 麻生垣内(あそうかいと) → **眞榛**(まはり・池辺いけべ、国学者) K 4 0 0 4  
 阿曾美(あそび・板倉/中嶋)→ **隆功**(たかこと・中嶋、幕臣;領主/日記) L 2 6 8 7  
 阿桑門(あそうもん) → **祇空**(ぎくう・稲津いなう、俳人) 1 6 9 4  
 あそびのや → **長世**(ながよ・岩崎、歌/能/国学者) G 3 2 3 1  
 遊行女婦(あそびめ) → **遊行女婦**(うかれめ) 1 2 1 1
- C1029 **阿曾万呂**(あそまろ) ? - ? 江中期相模雑俳点者、1766前句付「さがみぶり」編  
 亜岱(あたい・殿村) → **正義**(まさよし・殿村、篆刻/書家/俳人) I 4 0 5 2
- E1051 **安宅**(あたく・谷口たにぐち、通称;平助)?-? 江後期丹波篠山藩士/鉄砲組小頭/関流の和算家、  
 「偶角総術」「招差定乗」「容円術」「四率分身剪管」著  
 安宅(あたく・鶴岡) → **安宅**(あたく・鶴岡、儒者/郷土史) G 1 0 1 4  
 安宅(あたく・脇坂) → **安宅**(やすおり・脇坂、老中/歌人) B 4 5 1 0  
 安宅(あたく・原) → **半右衛門**(はんえもん・原、藩士/写生/日記) H 3 6 2 9  
 安宅(あたく・柳井) → **龜山**(きざん・柳井、藩士/儒者/詩) K 1 6 5 9  
 安宅(あたく・大沢) → **秉哲**(のりあき・大沢おおさわ、幕臣/日記) E 3 5 2 4  
 安宅(あたく・丸山) → **作楽**(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3  
 愛宕(あたご→あいとう・久我)→ **具房**(ともふさ・久我こが、権大納言/歌) Q 3 1 4 9  
 愛宕(あたご→あいとう・久我)→ **通基**(みちもと・久我こが/源、内大臣/歌) C 4 1 6 6  
 愛宕庵(あたごあん) → **鯨夫**(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6  
 アダムズ(Adams、ウイリアム)→**按針**(あんじん・三浦、幕府顧問) C 1 0 1 4
- C1030 **阿直岐**(あちき・阿知吉師)? - ? 大和応神朝期百濟より派遣渡来/王仁を推挙、  
 阿直岐史の祖、良馬・経典・学者を伝来したという伝説
- E1052 **阿茶**(あちゃ;通称、法号;法位、文如ぶんによ光暉男)1766-1781夭折16歳 真宗西本願寺の僧、歌人、  
 「阿茶君歌集」あり  
 厚明(あつあき・加藤) → **洞庭**(どうてい・加藤かとう、医者) G 3 1 6 3  
 惇明(あつあき・浜地) → **春山**(しゅんざん・浜地はまじ、儒者) K 2 1 8 5
- 1019 **敦明親王**(あつあきしんのう・小一条院こいちじょういん、三条天皇皇子)994-105158 母;藤原済時女城子皇后、  
 1006元服/1011親王宣下/1016後一条天皇即位と共に立太子、  
 父三条院没後は道長を恐れ;1017東宮を辞退/18准太上天皇待遇と院号を受ける、  
 東宮時代の妃は藤原顕光女延子、東宮辞退後に道長女寛子(母;高松殿)と結婚、  
 以後は道長庇護下にある/寛子の同母兄藤原頼宗と親交;1025寛子没後頼宗女と結婚、  
 1041出家;法名;天舜、袋草紙に連歌/菟玖波1句入、歌人;歌会催、玄々集・後葉集入、  
 勅撰4首;後拾遺(918)金葉(350/Ⅲ362)詞花(290)玉葉(2425)、  
 [あか月の鐘の声こそ聞ゆなれこれをいりあひと思はましかば]、  
 (後拾遺;雑918/女のもとにてあかつきの鐘を聞いて詠む)、  
 藤原延子 → **堀河女御**(ほりかわのにようご、敦明親王妃) E 3 9 8 7
- B1023 **敦有**(あつあり・綾小路あやのこうじ、法号;了禅、有頼男/本姓;源)1323-140078 廷臣;1359参議/従二位、  
 1380出家、和琴/郢曲;1375「郢曲相承次第」/「神楽血脈」「和琴血脈」、「敦有卿記」、  
 歌;1370-76頃百番歌合参、勅撰3首;新千載(1726)新拾遺(1709)新後拾(1308)、藤葉集入、  
 1400菊葉集;12首入(宰相入道了禅名)、連歌;菟玖波2句入、崇光院の郢曲の師、  
 母;藤原光久女、成賢の兄、信俊の父、  
 [せき入れていくかになりぬ小山田の苗代水はみくさみにけり](新千載;1726/屏風絵)  
 [けさの雨にほころびにけり暁の風につれなき花の袂は]、  
 (菊葉;春122/伏見殿[後崇光院貞成親王家]五十首歌の時;花綻雨)
- B1024 **敦家**(あついえ・藤原ぶじから、兼経男、母;隆家女)1033-1090頓死58 廷臣、正四下/1068藏人頭左馬頭、  
 左近中将、管絃;箏篳の名手、金峰山詣の帰途没、妻;伊予三位(藤原兼子)、敦兼の父、  
 歌人;万代集入、千載1210・新古今42、  
 [夢覚めむそのあかつきを待つほどの闇をもてらせ法りの燈火ともしび](千載;釈教1210)、  
 (御嶽みたけ[金峰山]参詣;精進後に金泥法華経を書き奉納して詠む/この帰途に頓死)

- H1021 **篤雄**(あつお・大岡おおおか、)1813-188472 讃岐寒川郡末村真言宗日内山ひうちさん靈芝寺の僧、  
書画・狂歌を能くす、  
[篤雄(；名)の号]獅岳/六処隠士/無二菴/燧翁いろう/如翁  
獅岳(しがく・大岡) → 篤雄(あつお・大岡おおおか、真言僧/狂歌) H 1 0 2 1  
淳夫(あつお・山崎) → 淳夫(じゅんぶ・山崎、儒/医者) G 2 2 1 0  
淳夫(あつお・上田) → 威之(しげゆき・上田/藤原、書家/茶人) T 2 1 0 6  
淳夫(あつお・陰山) → 東門(とうもん・陰山/蔭山、儒者/和算) H 3 1 4 2  
淳夫(あつお・三浦) → 瓶山(へいざん・三浦みうら、藩儒) 2 7 3 9  
淳夫(あつお・小田) → 眞卿(しんけい・小田おだ/田、儒者) O 2 2 0 0  
醇夫(あつお・正墻) → 適処(てきしよ・正墻しょうがき、藩儒/詩) B 3 0 9 8  
篤夫(あつお・阿万) → 鉄崖(てつかい・阿万あまん、藩儒) C 3 0 2 1  
篤夫(あつお・平沢) → 随童(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5  
篤老[園](あつおい[えん]) → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) L 3 1 6 2
- H1006 **篤興**(あつおき・上杉うえすぎ、)1791-184757 越後蒲原郡小関村の庄屋、国学者；平田篤胤門、  
良寛と親交；「木端集」(良寛歌集)著、  
[篤興(；名)の初名/通称/号]初名；憲興、通称；六郎/八郎/菅兵衛、  
号；千森/巨樹/相乃屋
- H1026 **敦臣**(あつおみ・大塚おおつか、)1827-191182 筑後久留米藩士、国学者、  
[敦臣(；名)の別名/通称/号]別名；志厚/敦、通称；処平、号；淡齋  
蓋臣(あつおみ・香川) → 南浜(なんびん・香川かがわ、儒者) J 3 2 3 7
- H1043 **篤陰**(あつかげ・木村きむら、) ? - ? 江後期；長門豊浦郡の遊女屋；大阪屋経営、  
国学・歌；伊藤常足(筑前の神職・開塾/1774-1858)門、  
[篤陰(；名)の通称] 太郎右衛門、屋号；大阪屋
- E1053 **厚和**(あつかず・周防すおう、号；詞翫苑)1661-173979 江前中期；備中の歌人、  
追悼詩歌「草露集」(；井上為山序；1740刊)
- I1061 **敬一**(あつかず・安田やすだ、)1835-191581 撰津兵庫の熊本藩由緒本陣網屋安田敬直あつなおの嗣子、  
安田敬直(網屋屋惣兵衛)は撰津兵庫の浜本陣9軒のうちの1、国学者/歌人、
- B1025 **敦賢親王**(あつかたしんのう・小一条院敦明親王男)1039-77痲瘡急逝39 歌人、式部卿、新拾遺709、  
「在良朝臣集」の「故李部りほう大王」(女御の恋の相手)と同一か？、  
[大井川みかさやまさる亀山の千代のかげみるみゆきと思へば](新拾；賀709)、  
(1076[承保3]大井川行幸の日の詠)
- B1026 **敦兼**(あつかね・藤原ふじわら、敦家男)1079-? 1138存 廷臣/楽人；箏篳；父門、刑部卿/若狭守/尾張守、  
令子内親王家別当、母；伊予三位(兼子)、古今著聞集に今様で妻の心を得た逸話入、新勅83、  
[駒なめて花のありかをたづねつつよもの山辺のこずゑをぞ見る](新勅撰；春83)  
敦兼(あつかね・小槻) → 有家(ありいえ・小槻おつき/壬生、廷臣) F 1 0 2 0
- E1054 **篤記**(あつき・石川いしかわ克忠、通称；瀬兵衛せべえ/十太夫)?-? 江戸後期旗本近藤登之助家の家士、  
国学・1821篤胤門、29「宮比神御伝記」編  
厚紀(あつき・大奈言) → 裏住(うらずみ・大屋、狂歌) 1 2 9 8  
敦樹(あつき・可部) → 安都志(あつし・可部かべ、医者/詩歌) E 1 0 6 3
- G1062 **穆清**(あつきよ・石谷いしがや、直清男)1801-6969歳 旗本/幕臣；1817(文化14)家督継嗣；小普請、  
書院番/1837使番/44目付/49堺奉行/52大坂西町奉行/55(安政2)勘定奉行、因幡守、  
1858(安政5)江戸北町奉行；井伊直弼の安政大獄では五手掛の一員として裁断に關与、  
1862(文久2)一橋家家老/講武所奉行就任；安政大獄責任者一員として免職；隠居・差控、  
1865赦免；講武所奉行に再任；66免職、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[桜川散り浮く花をかざしにて浅瀬の水に蛙鳴くなり](大江戸倭歌；春341/川蛙)、  
[穆清(；名)の通称]鉄之丞/因幡守/長門守/大和守、石谷鉄之丞(幕臣)の父
- E1055 **淳国**(あつくに・源みなもと、初名；家遠いえとお、家光男)?-? 廷臣；文章生/勘解由判官/従五下、  
歌；1134常磐五番歌合/為忠朝臣家歌合参加、夫木抄入、金葉集；解説/橋本公夏本拾遺61、  
[惜しめども野辺の草木の枯れぬれば露だに秋はとまらざりけり](金葉集解；公夏本61)
- C1098 **敦子**(あつこ、掌侍ないしのじょう)?- ? 南北朝南朝歌人、南朝の女官；掌侍、新葉集878、

- [もれぬべき身の世がたりをいかがせん見しは夢ぞと思ひなしても](新葉;恋878)
- E1056 **淳子**(あつこ・伊達だて/鍋島なべしま、藩主伊達宗村女) 1739-61早世<sup>23</sup> 仙台の生、  
1758佐賀藩主鍋島重茂の室、男子出産後没、歌人;家集「靈松院殿御詠歌」、  
[淳子(;名)の幼名/法号]幼名;源姫、法号;芙蓉院寂顔眞馨/靈松院青岸慧浄大姉
- H1091 **温子**(あつこ・伊達だて、旧姓;渡辺) 1799-1885<sup>88</sup> 陸奥仙台藩の当主伊達斉宗(1796-1819)の側室、  
斉宗は病弱で早世(24歳)、歌人、  
[温子(;名)の別号/号]別名;広子(初名)/留尾/里、号;天性院/本光院
- E1057 **敦子**(あつこ・税所さいよ、林はやし篤国女/母;英子) 1825-1900<sup>76</sup> 京の歌人;千種有功門、  
1844薩摩藩士税所篤之あつゆきの後妻/52夫と死別;薩摩藩に出仕;藩主養女貞姫の老女、  
維新後宮内省出仕、1853「心つくし」63「松のさかえ」、88「御垣の下草」、「内外詠史歌集」著  
[はかなくも人の手馴のつま琴にうき玉の緒をかけてける哉](御垣の下草;恋/人づま)
- L1055 **淳子**(あつこ・山田やまだ、旧姓近藤) 1825-1907<sup>83</sup> 播磨加東郡の歌人、詩文;梁川紅蘭(星巖の妻)門、  
歌;若江薫子に私淑、山田修敬の妻、大田垣蓮月と交流、大阪高津の契沖隠棲所円珠庵主;  
契沖の遺跡を守り歌三昧の生活、1907(明治40)没(1906没79歳説あり)、  
[淳子(;名)の号]袖香/三足庵  
灌子(あつこ・藤原) → 灌子(かんし・藤原、尚侍/歌人) D 1 5 8 1  
篤子(あつこ・島津) → 天璋院(てんしょういん、篤姫、公武合体) B 3 0 7 0
- G1026 **悪口にく丸**(あつこうのにくまる)?- ? 狂歌;1787「才蔵集」入、  
[吉例をかゝさず市は万物のはじめて春の買物やせん]、  
(才蔵集;294/歳市とのいち;一は万物のはじめ)  
淳子内親王(あつこないしんのう) → 淳子内親王(じゅんしなしいしんのう、土御門天皇皇女/歌) J 2 1 8 3  
厚五郎(あつごろう・小西屋) → 維幾(これちか・中川ながわ、酒造/歌人) R 1 9 0 6
- E1058 **厚定**(あつさだ・高島たかばたけ、通称;源太郎/五郎兵衛、孫十郎男) 1753-1810<sup>58</sup> 金沢藩士;1762家督、  
新川郡奉行/盗賊改方奉行/御馬廻頭、  
「盗賊改方日記」「盗賊改方職事日記」「馬廻頭密事留」著  
敦定(あつさだ・高島) → 慶成(よしなり・高島たかばたけ、藩士/儒者) F 4 7 3 9
- B1027 **篤実**(あつざね・川畑かわばた、通称;平太左衛門)?-?文政1818-30頃没 大隅の郷士/島津藩士/歌人、  
1828「松操和歌集」編;島津藩300年間の詠歌1359首を編輯
- H1097 **篤実**(あつざね・竹村たけむら、) 1783-1828<sup>46</sup> 信濃伊那郡の歌人;桃沢夢宅・市岡猛彦門、  
歌;賀茂季鷹門、  
[篤実(;名)の通称]良蔵/三太夫  
篤実(篤真あつざね・碧川/平田) → 鉄胤(てついん、かねたね・平田、国学者) C 1 5 7 6  
敦実親王(あつざねしんのう) → 敦実親王(あつみしんのう、宇多天皇皇子) B 1 0 3 8  
篤三郎(あつさぶろう・曲江) → 梅賚(ばいひん・曲江いりえ/まがりえ、儒/詩歌) B 3 6 9 7
- E1059 **厚**(あつし・丹羽にわ) ?- ? 江後期尾張文筆家、1802「淑慎斎先生書話」編
- H1022 **篤**(あつし・大鐘おおかね、旧姓;印田いんでん) 1767-1840<sup>74</sup> 伊勢四日市の商家の生、  
尾張名古屋の商家大鐘家の養嗣子、国学/歌;本居春庭・本居大平門、古書を書写、  
大日本史を謄写、  
[篤(;名)の別名/字/通称/号]別名;清篤、字;士敬、通称;文吉/与兵衛、号;楓園  
屋号;江川屋、法名;周篤信士
- I1077 **敦**(あつし・横関よこせき/本姓;源、通称;官八郎/主馬) 1771-1837<sup>67</sup> 近江彦根藩家老庵原家の家臣、  
歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- E1060 **篤**(あつし・辻村つむら/通称順二、号;蓬萊山人)?-? 1844頃存 江後期近江友定村産科医;彦根開業、  
儒;猪飼敬所門/歌;香川景樹門、「鶏肋集」「蓬垣集」著
- E1061 **篤**(あつし・三島みしま) ?- ? 江後期京の歌人/歌学、1797私撰「和歌自摘集」撰
- E1062 **淳**(あつし・中台なかだい、字;子慎、直淳男) 1776-1854<sup>79</sup> 出羽庄内藩士/1805家督/代官/勘定目付、  
1836隠居、儒;石川朝陽門、囲碁、「葛園かつえん稿」「世の面影」「毛伝比興識」著、  
[淳の通称/号]通称;林之丞/甫平/少右衛門/少介、号;葛園
- I1033 **淳**(あつし・平田ひらた、) 1796 - 1879<sup>84</sup> 長門大津郡の国学者/長門萩藩士、  
藩校明倫館学頭座取計/1850(嘉永3)明倫館学頭、歌人、

[あし引の遠山もとは雪ながら霞立ちけり春のあけぼの]([萩の歌人]入)

[淳(；名)の字/通称/号]字；士厚、通称；新右衛門、号；涪溪ふけい/稀翠疎香書屋

E1063 **安都志**(あつし・可部かべ、) 1806-1873 68 石見美濃郡津和野の医者；大橋仰軒・長嶺道玄門、(先祖は熊谷太郎直純長子壱岐守十郎直隆で安藝安藝郡可部に住/のち石見津和野移住)、のち広島蘭医穴戸大春門/傍ら漢学；山口西園(恕介)門、1826(文政9)上黒谷で医を開業、長崎の檜林栄軒門/1851(嘉永4)津和野藩校養老館で講義/本道医師兼外科の免鑑を受、国学・歌人；1860(万延元)平田鉄胤門入門；皇典神道に通ず/岡熊臣門、赤邇あかの父、「医道源流」「鶴舎歌集」「鶴舎詩集」「鶴舎文集」「霜氷録」「美特理能小草」「筑紫日記」外著多、[安都志(；名)の通称/号]通称；敦樹/愛平/純庵、号；鶴廼舎(都留廼舎)つるのや

E1064 **篤**(あつし・正木まさき、号；鶏窓)？- ？ 江末期江戸浜松町蘭学者/詩人、1854「美理哥国総記和解」「英吉利国総記和解」「澳門月報和解」訳/59「万国地理書」著

I1021 **温**(あつし・西村にしむら、旧姓；日下部、) 1813-91 79 但馬養父郡の八鹿の郷士、国学、上京し医学；池田草庵門、京の富小路で蘭法医開業、コレラ治療法を発見し有名、田中河内介の義兄、梅田雲浜・頼三樹三郎と交流、勤王活動を支援、維新後；宮内省御用掛、[温(；名)の字/通称]字；仲恭、通称；敬蔵

E1065 **敦**(あつし・亀田かめだ、別名；貞勝、桂窠男/鶴山孫) 1818-83 66 加賀金沢の薬種商宮竹屋本家9代目、町年寄、儒/詩；銭立斎・林蓀坡そんぱ門、「耕寛釣寂集」著、[敦の通称/号] 通称；九十郎/伊右衛門、号；西湾/是庵/復堂/四未能軒、屋号；宮竹屋

B1030 **厚**(あつし・江村えむら、忠韶[襄山]男) 1832-64 斬首 33歳 周防徳山藩士、勤王派、1854藩主に意見書、興讓館句読師、57江戸；安積良斎門、帰藩後同志と国事奔走、「徳山略記」著、[厚(；名)の字/通称/号]字；秀徳/通称；彦之進、号；風月/醉顛かいてん、本城清[素堂そどう]の弟 参考 兄 → 素堂(そどう・本城、藩士/勤王派/処刑) K 2 5 2 6

H1033 **敦**(あつし・岡おか、旧姓；山本) 1836-65 早世 30 備前岡山藩老土肥典膳家の家臣、国学；平田鉄胤門、[敦(；名)の通称] 元太郎/嘉太郎

I1042 **厚**(あつし・益田ますだ、遇所男) 1836-1921 86 江戸の篆刻家；父(益田勤斎門；浄碧居派)門、国学者、1857(安政4)開国による条約締結用[国印]を製作、維新後；太政官の官印師；種々の公印を作成；日本銀行券[総裁之印]・[発券局長]印章は有名、[厚(；名)の初名/字/号]初名；重太郎、字；士章、号；香遠こうえん/宜軒

H1092 **篤**(あつし・大和だいわ、) 1849 - 1920 72 備後福山藩士、国学/歌；備後三原藩士鈴木直徳門、[篤(；名)の別号/通称/号]初名；近殷、通称；敬一郎、号；恕堂

厚(あつし・大沼) → 枕山(ちんざん・大沼、詩人) K 2 8 7 6

厚(あつし・笹島/柴田) → 艾軒(がいけん・柴田/笹島、心学者) I 1 5 6 1

厚(あつし・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0

厚(あつし・河村) → 正和(まさかず・河村かわむら、医者/国学) P 4 0 0 8

復(あつし・頼) → 支峯(しほう・頼らい、儒者) F 2 1 7 0

篤(あつし・人見) → 必大(ひつだい・人見/野/小野、幕臣医者) C 3 7 6 9

篤(あつし・近藤) → 西涯(せいがい・近藤こんどう、藩儒者) 2 4 8 7

篤(あつし・高尾) → 篤太郎(とくたろう・高尾たかお、儒者) L 3 1 1 8

篤(あつし・三木) → 半邨(はんそん・三木みき、藩士/儒者) I 3 6 3 6

篤(あつし・加門) → 恭輔(きょうすけ・加門かもん、医者) O 1 6 1 7

篤(あつし・高橋) → 竜蔵(りゅうぞう・高橋たかはし、儒者/詩人) F 4 9 0 6

篤(あつし・久米) → 習斎(しゅうさい・久米くめ、漢学者/詩人) X 2 1 3 4

篤(あつし・永井) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1

篤(あつし・向山) → 誠斎(せいさい・向山むこうやま/源、幕臣/歌) B 2 4 6 2

篤(あつし・森本) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5

篤(あつし・劉) → 貞諒(さだあき・劉りゅう、僧/国学者) P 2 0 7 5

敦(あつし・高瀬) → 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9

敦(あつし・林) → 友庵(ゆうあん・能美のうみ/林、医者) 4 6 5 2

敦(あつし・大塚) → 敦臣(あつおみ・大塚おつか、藩士/国学) H 1 0 2 6

- B1028 **淳茂**(あつしげ・菅原すがら、字;菅日、道真男)?-926 漢学;紀伝道門/901文章得業生/899父に連座;播磨配流/908召還/渤海大使の掌客使/大学頭/文章博士/正五下、918-22大学寮で漢書講義、詩:文粹・扶桑集入
- B1029 **篤茂**(あつしげ・藤原ふじわら、字;藤挙[or藤奉]、遂業男)?-? 平安中期廷臣/学者・詩人、凶書頭/従五下、959「内裏詩合」/963「善秀才宅詩合」判者/966守平親王詩宴序者、和漢朗詠集/文粹入
- I1097 **篤茂**(あつしげ・和気わけ、) ? - ? 鎌倉期;廷臣/医者、宇佐八幡宮奉幣使、正四下/大膳大夫(大膳職長官)、1322(元亨2)典薬頭、徒然草136段;後宇多法皇前で知才自慢から源有房の仕掛けに敗れた失敗談
- I1029 **篤成**(あつしげ・花岡なほおか、通称;理助)1807-7569 信濃諏訪郡の蠟燭屋;和泉屋/高島藩御用達、国学;松沢義章よしあきら門・牛山直房門
- H1051 **厚茂**(あつしげ・古森こもり/本姓;秦、河崎清厚2男)1813-8472 伊勢度会郡の外宮の神職;主典、国学;荒木田久守・足代弘訓門、中島広足と交流、歌人;数千首詠、[厚茂(;)名)の通称/号]通称;新之丞/金右衛門/内記、号;年魚/五十槻いそつき/鶴翁/享年  
厚次郎(あつじろう・田代) → 政典(正典まさのり・田代たしろ、藩家老) G 4 0 1 1  
日人(あつじん) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
惇典(あつすけ・松平) → 惇典(あつり・松平、家老/佐幕/詩歌) E 1 0 7 8  
篤資(あつすけ・細貝) → 栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者) B 4 9 6 1  
篤斐(あつすけ・内村) → 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7
- 1073 **敦輔王**(あつすけおう、敦貞親王男)1044-111168 三条天皇の皇曾孫、大叔父敦平親王の養子、神祇伯、歌人、1111(天永2)68歳で没、1095白河院催「鳥羽殿前裁合(郁芳門院根合)」参加(現存本には敦輔王の歌はない)、寂超「後葉ごよう集」入、[荻の葉にこととふ人もなきものを来る秋ごとにそよとこたふる](後葉集;165、白河院鳥羽にて前裁合の時の詠)
- 1020 **敦隆**(あつたか・藤原ふじわら/橘たちばな、橘俊清男)1071-112050 平安末期廷臣;1096大工助、歌学/歌人、万葉研究「類聚古集」編、1109右兵衛督師頼歌合・10源師時八条山荘「山家五番歌合」参加1118右兵衛督実行歌合参加、「和歌類林」著(散佚)、「類聚古万葉集作者目録」著、続詞花集入、藤原家の猶子?、女むすめ;源俊頼妻(俊恵の母)[秋の露我がもとゆひにむすばねどしもと成行くあさねがみかな](続詞花;雑878)
- H1094 **篤敬**(あつたか・高橋たかはし、) ? - ? 撰津西成郡の生/河内寝屋川の天領大和田庄代官、国学;敷田年治としはる・(1817-1902)門、妻;さだ(1844生/關祐忠女)、鉦太郎(1860生)の父、[篤敬(;)名)の通称] 俊太郎/貞吉
- I1002 **篤敬**(あつたか・富田とみた、通称;小藤太/号;篤翁)1838-190063 三河豊橋の国学者/のち大阪住  
敦高(あつたか・井本) → 免孔(めんこう・井本いもと、藩士/俳人) 4 3 0 4  
厚孝(あつたか・古森) → 亀淵(きえん・古森こもり、書家) J 1 6 7 4
- B1031 **敦輔王**(あつすけのおおきみ、敦貞親王男/敦平親王の養子)1044-111168 母;藤原定頼女、神祇伯/従三位、歌人、1095鳥羽殿前裁合参加、後葉集1首入、詞花集117、[荻の葉に言とふ人もなきものを来る秋ごとにそよとこたふる](詞花集;三秋117)
- 1021 **敦忠**(あつただ・藤原ふじわら、時平3男)906-94338 母;在原棟梁女/廷臣;蔵人頭/939参議、942権中納言、従三位、叡山西坂本に山荘/琵琶/歌:贈答歌、家集「敦忠集」、36歌仙の1、勅撰30首;後撰(10首106/237/506/613以下)拾遺(633/710/1176/1288)新古(2首)以下、[逢ひ見ての後の心にくらぶれば昔は物を思はざりけり](拾遺;恋710)、[敦忠の通称] 枇杷中納言/土御門中納言/本院中納言、 顕忠の弟/助信の父  
篤忠(あつただ・川瀬/桜井) → 東亭(とうてい・桜井さくらい、儒者/詩人) G 3 1 5 7
- B1032 **敦忠母**(あつただのは・藤原、在原棟梁女;本康親王女廉子説は誤)?-? 平安歌人、初め大納言国経妻、少将慈幹の母、美貌の故に甥時平に奪われ室[本院北方]/敦忠の母、大和物語入/後撰1129 [誓はれし賀茂の河原に駒とめてしばし水かへ影をだに見む](後撰集;十六1129) [誓ったのは藤原時平/本歌;ささのくま檜隈川に駒とめて・以下同じ[古今1080]]
- E1066 **篤胤**(あつたね・千葉ちば、別名;白雄)?-? 江中期羽前米沢白子大明神社司/地誌故実;1736「米沢事跡考」、「赤湯温泉記」著

- 1022 **篤胤**(あつね・平田ひらた、秋田藩士大和田おおだ祚胤男)1776-1843**68歳** 母;那珂交通女、  
 闇齋学;中山菁莪門/医;叔父柳元門、1795秋田を出奔/江戸で修学、歌人、  
 1801駿河沼津藩士石橋常房女の織瀬おせ(1782-1812/31歳没)と結婚  
 1806備中松山藩軍学師(江戸定府)平田篤穂の養子、医学以て松山藩江戸藩邸に出仕、  
 1804国学塾を開塾/05本居春庭門/宣長没後門、1823藩籍を離脱、独自の復古神道学樹立、  
 その思想を不穏とされ1831幕府より著述差止め・国元帰還を命じられる;失意の秋田住、  
 「古道大意」「歌道大意」「古史徴」「靈能眞柱たまのみはしら」「古史伝」、「気吹之舎歌集」著、門人553人、  
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
 [なせばなりなさねばならずなすわざをなさずといふぞなさぬなりける]、  
 (大江戸倭歌;雑1882/思ふ事有りて、上杉治憲「鷹山家訓」の重複)、  
 辞世[思ふことの一つも神につとめをへずけふやまかるかあたら此世を]、  
 [篤胤(;)名)の別名/通称/号]別名;元琢/胤行、通称;正吉/半兵衛/又五郎/大角/大壑、  
 号;玄瑞(;)医号)、屋号;眞菅乃屋/菅乃屋/気吹之舎いぶきのや/伊吹乃屋、  
 神号;神靈能眞柱大人たまのみはしらのうし
- E1067 **篤親**(あつちか・中山/本姓藤原、初名熙季、正親町おおぎまち実豊男)1656-1716**61歳** 中山英親猶子、  
 江前期廷臣;1684参議/96権大納言/1703致仕/従一位、  
 「篤親卿詠他十四首」「国郡ト定執筆要」著
- E1068 **篤見**(あつちか・久保/通称;為作)1820-? 磐城桑折国学:1941篤胤門、「古道学年譜」著
- L1060 **篤親**(あつちか・宮田みやた、旧姓;島崎)1821-96**76** 常陸多賀郡の生、  
 1838(天保9)河原子村の修験宮田謙養の養子、国学・神道;平田鍊胤門/漢学;藤田東湖門、  
 水戸藩の天保改革に協力、神職;各地の神社祠官/のち河原子村長幡部神社祠官、  
 1855(安政2)暇修館世話役;56大久保郷校と改称/改修;1857館主、郷校中心に神職組織化、  
 尊攘運動に活躍;1864天狗勢の拠点となり焼失/65廃校、水戸藩御見得格、  
 維新後;郷校再建の世話役/神祇官の再興に奔走、  
 [篤親(;)名)の字/通称/号]字;謙祥、通称;礼介/斎/斎宮、号;晚翠
- I1054 **篤親**(あつちか・本時もととき、通称;勘解由)1832-1904**73** 近江犬上郡の多賀神社不動院奉行、国学者、  
 歌;[鴉のうみ]入  
 敦親(あつちか・中山) → 親通(ちかのり・中山なかやま、大納言) B 2 8 6 1  
 敦親(あつちか・中山/足代) → 弘臣(ひろおみ・足代あじろ/度会/中山、神職/俳人) H 3 7 9 6  
 厚雍(あつちか・山内) → 豊雍(とよか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6  
 厚綱(あつちか・疋田) → 松塘(しょうとう・疋田ひきた/藤原、藩家老/詩文) R 2 2 5 5
- C1090 **敦経**(あつね・藤原、茂明男/母;中原広俊女)?-1183 平安後期廷臣;式部大輔、文章博士/従四上、  
 藤原頼長の家司?、歌人;月詣集入、勅撰2首;千載144・風雅1679、  
 [卯の花の垣根とのみや思はまししづの伏屋ふせやにけぶりたゝずは](千載;夏144)
- E1069 **篤恒**(あつね・森もり、字;士行/通称藤十郎)1750-1818**69** 水戸天文曆学家:山路徳風門、水戸藩士;  
 1773彰考館入、侍読/1812小十人組、  
 1791「上古曆草」87「古今曆集論」1808「本朝五曆法」著  
 篤任(あつちか・中屋/高山) → 寅吉(とらきち・高山、天狗小僧、国学) R 3 1 7 2
- E1070 **徳辰**(あつちか・井坂いさか/本姓;中臣、田瀬太治右衛門男/井坂家養子)1811-81**71** 伊勢山田の神職、  
 神典/古学;弘訓門、伊勢神宮神楽職;笛、歌、  
 1833「神楽歌考」35「神楽歌解」「続新名所百首」、「履制輯録」外著多数、  
 [徳辰(;)名)の通称/号]通称;丹波太郎/太郎左衛門/伝兵衛/伝太郎/伝太夫/伝司、  
 号;瑠山りゅうざん  
 淳時(あつちか・なおとき・内山) → 椿軒(ちんけん・内山、歌/狂歌) K 2 8 6 8
- B1033 **敦敏**(あつちか・藤原ふじら、実頼男/母;時平女)912-947**36歳** 廷臣;943蔵人/946左近少将/正五下、  
 歌;後撰1145、没後に父実頼の哀傷歌あり、佐理すけまさの父、  
 [万世を契りし事のいたづらに人笑へにもなりぬべき哉](後撰;雑1145)、  
 (病して心細しとて大輔につかはす歌/なおこの歌は定家僻案抄に宮少将説あり)
- I1067 **篤利**(あつちか・山崎まさき/本姓平、旧姓山口)1766-1838**73** 武蔵埼玉郡越ヶ谷の油商山崎家の養子、  
 油屋を継嗣;13代目、国学者;平田篤胤門/師の著作出版の経済的支援、



- [篤利(；名)の初名/通称]初名；美利、通称；銀次郎/油屋長右衛門
- B1034 **厚比**(あつとも・飯野いゆ)：本姓、初姓：木下/一時；松田)1797-1854<sup>58</sup> 国学者/1834松田勘解由の養子、翌1835離縁、本姓に復し飯野を名乗る/歌；香川景樹門、妻力子(玉虫厚茂女)も景樹門歌人、江戸不忍池の辺住、菊池容斎と交流、飯野孫三郎保教(田安家家臣)の弟、福田行誠の師、「時雨の巻」「若葉日記」、「嫩園どんえん歌集」「嫩園雑記」著、  
[厚比(；名)の初名/通称/号]初名；厚之、通称；秀作/予八郎、号；嫩園どんえん、  
法号；嫩園舎西誉一蓮居士
- I1055 **厚給**(あつとも・森もり) 1828 - 1892<sup>65</sup> 三河碧海郡の眼科医、国学者/歌人  
[厚給(；名)の別名/通称/号]別名；逸勝/豊秀、通称；逸之進/仙斎、号；春屋  
厚友(あつとも・狩谷) → 鷹友(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) M 2 6 4 8  
敦知(敦朝あつとも・松本/松田) → 録山(ろくざん・松田/源、銅版画師) 5 2 8 6  
厚豊(あつとよ・山内) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6  
敦寅(あつとら・富とみ) → 土籃(とらん・富とみ、狼狽窟2世、俳人) R 3 1 8 2
- C1071 **敦直**(あつなお・藤木ふじき/加茂県主、藤木敦直男)1582-1649<sup>68</sup> 山城愛宕郡の賀茂神社祠官、歌学；烏丸光広(1579-1638)門、書博士；大師流書・甲斐流の祖、1640「執筆法」、  
[敦直(；名)の通称/号]通称；甲斐守、号；正心斎
- I1060 **敦直**(あつなお・安田やすだ、網屋惣兵衛)?-1860 摂津兵庫の熊本藩由緒本陣の網屋経営、幕末摂津兵庫の浜本陣9軒のうちの1(他は福岡藩繪屋右近右衛門/薩摩藩小豆屋助右衛門、佐賀藩肥前屋粘右衛門/松山藩網屋佐左衛門/久留米府内藩壺屋七左衛門、岡山高松藩網屋新九郎/杵築延岡藩の網屋左右衛門/臼杵藩網屋三太夫)  
国学者/歌人、1860(万延元)没；敬一あつかずが嗣、  
[敬直(；名)の初名/通称/屋号]初名；直彦、通称；重次郎/惣兵衛/新左衛門、屋号；網屋
- B1035 **敦仲**(敦中あつなか・藤原/初名；憲成、敦頼[道因]男)?-? 1178存 上西門院蔵人/式部大輔/従五下、歌人；1160清輔家後度歌合/78別雷社歌合参加、「続現存集」撰、千載218/1244・新勅212  
[小萩原まだ花咲かぬ宮木野の鹿や今宵の月に鳴くらむ](千載；夏218/夏月如秋の心)、  
憲盛と同一? → 憲盛(のりもり、1165前「拾遺現存」撰) 3 5 1 6
- G1091 **篤長**(あつなが・有馬ありま/旧姓；吉田、通称；監物)1629-94<sup>66</sup> 筑後久留米藩士/国老、1637-38島原の乱では長崎出兵の総師/原城総攻撃に負傷、国学者
- E1092 **充長**(あつなが・井関いぜき)1736-1807<sup>72</sup> 阿波名東郡河内村出身//1763(宝暦13)神官、神道；京の吉田家入門/伊予守充美を名乗る/のち充長に改名、神官儀式・神事故例の研究、早雲伯耆・永井上野と交流、門弟多数、  
1773(安永2)「阿州一国二十二社巡」/1779(安永8)「神代神名書」、「中臣祓註釈」著、  
[充長(；名)の初名/通称/号]初名；充美あつよし、通称；雅楽うた/伊予守、  
号；倭道翁/大人彦おとなひ  
敦良(あつなが・親王) → 後朱雀天皇(ごさくくてんのう、歌人) C 1 9 1 8  
篤長(あつなが・甘露寺) → 篤長(かずなが・甘露寺、廷臣/記録) M 1 5 3 3
- E1071 **厚生**(あつなり・朝夷あさいな、井上信豊2男)1748-1828<sup>81</sup>歳 朝比奈与兵衛正明の養子、尾張藩士、仏書に精通、博識；独学で常師なし、平田篤胤も心服したという、  
1789「区内尻騒動記」編/1807「独坐謹記」08「日本開国志」09「日本武備考」12「釈氏古学考」、  
1815「釈迦一代実録」、「張州名勝志略」「葱嶺考」「崑崙考」「赤夷談」「仏国蘭説考」外著多数、  
[厚生(；名)の字/通称/号]字；君和、通称；甚三郎、号；如有子/雲霞楼、法号；至徳院  
惇成(あつなり・森脇/玉乃) → 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者) I 1 6 7 0  
厚之丞(あつのじょう・重野) → 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5  
篤之丞(あつのじょう・南部) → 信順(のぶゆき・南部なんぶ/島津、藩主) G 3 5 7 6  
敦之助(あつのすけ・秋良) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事) H 2 0 7 2
- B1036 **敦信**(あつのぶ・藤原、因幡守合茂男)?-? 母；大宰大弐源等女、平安期詩歌人、式家儒門祖、正五下/山城守・肥後守、986(寛和2)内裏歌合；左/1003道長歌合参加、麗藻入、  
[落ちつもる庭の紅葉は唐錦またしくものはあらじとぞ思ふ](内裏歌合；左勝)
- E1072 **敦山**(あつのが・土岐とき、字；長元/重元)1599-1683<sup>85</sup> 1647家康家臣/將軍家番医/77致仕、「医工入式」著、1652「輔養編」編

- E1073 **篤信**(あつのぶ・杉山すぎやま/本姓;源、青山常喬5男)1794-1847<sup>54</sup> 越前福城の生、碩潤・田中脩道の弟、1805(文化2)越前三国の医者杉山履信の養子、上京;皆川淇園門/医;小林常以門、大聖寺宮に儒医として出仕/1836典薬寮医師;従六上日向介、1838(天保9)御医に抜擢、「誠治要領」「痘科提要」「麻診綱要」著、信達・信文の父、  
[篤信(;名)の別名/字/通称/号]別名;信、字;子良、通称;良蔵、号;子齋/日州/九竜、諡号;思誠
- E1074 **惇叙**(あつのぶ・奥村おくむら、初名;礒吉/内膳、法号;良徳院、質直男)1802-46<sup>45</sup> 加賀藩士;1817家督、1820「誕生墓目之作」、「鷹司様へ返書之控」著
- H1062 **淳信**(あつのぶ・佐伯ささき、)1813-1855<sup>43</sup> 周防防府の右田神社祠官、国学・歌;足代弘訓・城戸千楯門、正親町三条家に出仕、  
[淳信(;名)の初名/通称/号]初名;敬信、通称;勝馬、号;烏米廼舎うめのみや/烏米加宜廼舎
- E1075 **篤信**(あつのぶ・栗山くりやま、通称;太平)1828-59<sup>32歳</sup> 箱根奉行支配組頭向山誠齋に従い蝦夷巡回、单身サハリン探検を決意;食尽き台風で黒竜江河口漂着病没、「北蝦行記」著
- I1010 **篤信**(あつのぶ・中川なかがわ、文右衛門直家男)1834-1914<sup>81</sup> 佐渡加茂郡歌代の漢学者;父門(家学)、維新後;1880(明治13)加茂歌代校事務掛/神道を修学;権大講義、天満天神社祠官、秋津の樹崎きざき神社祠官、御嶽教を信奉;1896小教正/地域の文教に尽力;門弟多数、  
詩歌・俳諧に長ず;「潜竜軒集」あり、妹の藤女・栢女も俳人、  
[美しきこころもちたし雉の声](句碑)、  
[篤信(;名)の通称/号]通称;長治ながはる、号;時習軒/潜竜/金岳翁  
篤信(あつのぶ・貝原) → 益軒(えきけん・貝原、藩士/儒者) 1 3 0 6  
篤信(あつのぶ・佐藤/長谷川) → 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家) H 3 7 4 6  
篤信(あつのぶ・穴沢) → 杏齋(ようさい・穴沢あなざわ、藩士/暦学) 4 7 9 1  
厚信(あつのぶ・平井) → 寛敬(ひろたか・平井ひらい、藩士/歌人) K 3 7 7 7
- E1076 **醇徳**(あつのり・片岡かたおか、正貞男)1628-1709<sup>82</sup> 播磨宍粟郡山崎の大庄屋;屋号米屋、町年寄役、儒学;中村恊齋てきさい門、郷土史研究/故実、「宍粟郡志」「宍粟郡守令交替記」著  
[醇徳(;名)の通称/号]通称;米屋五郎大夫、号;如軒、
- E1077 **篤敬**(あつのり・久田ひさた、通称清左衛門、貞右衛門男)1684-1756 金沢藩士;1726家督/表御納戸奉行、1747御細工奉行/54組外御番頭、「久田清右衛門書簡翰」「久田篤敬書状」著
- I1015 **篤則**(あつのり・中山なかやま、)1811-1890<sup>80</sup> 信濃飯田藩士、歌人、  
[篤則(;名)の通称/号]通称;峻一/沢之助/葦(代々の称)/藤左衛門(代々の称)、号;水枝
- E1078 **惇典**(あつのり・松平、通称孫三郎/号;棟山ていざん、徽典男)1825-88<sup>64</sup> 播磨姫路藩士/家老、佐幕派、漢学者/詩歌、維新後;家禄没収/処分/赦免;開塾;門弟2千人、河合道臣ひろおみ(寸翁)外嫡孫、「春山倚杖」著
- E1079 **厚載**(あつのり・金子かねこ、字;永貞/道存、徳田永武男/金子卯作養子)1826-67<sup>自刃</sup>42 筑前福岡藩士、1853藩命で長崎留学/蘭学/測量学、67長崎で英国水兵殺害、歌;葉山磯名門、「春琴歌集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[夏草なつぐさは心のままにしげりけり人もとひこぬ蓬生よもぎふの宿]  
(大江戸倭歌;夏566/閑居夏草)、  
[厚載の通称/号]通称;才吉/載吉、号;春琴/李窓主人/草堂主人/荒湾漁人
- B1037 **厚徳**(あつのり・林はやし、本姓平、通称栄次郎、号;東園/卓然堂)1828-90<sup>63</sup> 阿波徳島藩士;1869藩の政参、のち浜松県令、歌人、  
歌集「東園集」、「東園随録」「半ながたみ」「初老の巻」「難波の巻」著  
敦書(あつのり・青木) → 昆陽(こんよう・青木、儒/蘭学/甘藷研究) 1 9 5 5  
篤敬(あつのり・土井) → 篤敬(とくけい・土井、医/儒者) K 3 1 6 1  
敦仁(あつひと;名) → 醍醐天皇(だいてんのう、格式・歌集編纂) 2 6 0 3  
篤姫(あつひめ・島津) → 彦子(たごこ・近衛このえ/島津、広大院/家斉正室) U 2 6 3 6  
篤姫(あつひめ・島津) → 天璋院(てんしょういん、篤子、公武合体) B 3 0 7 0
- H1069 **敦寛**(あつひろ・真田さなだ、)1718-1791<sup>74</sup> 摂津西宮の国学者/歌人、  
[敦寛(;名)の字/通称/号]字;尚古、通称;太郎左衛門、号;兼叟
- E1080 **敦房**(あつふさ・藤原ふじわら、貞房男/業兼と再従兄弟)?-? 鎌倉期廷臣;少納言/右馬助、

- 歌;1200(正治2)石清水若宮歌合参加(:平業兼と)、  
[ひとすぢにはらひもはてじ朝ぼらけ花吹きおろす嶺の松風](若宮歌合;桜廿四番左)
- E1081 **淳房**(あつふさ・万里小路まへのこうじ、雅房男/本姓藤原)1652-1709 58 廷臣;1677参議/86権大納言、  
1691致仕、従一位、「敦房卿記」、1677「神宮奉行記」83「立太子記」著/84「職事補任」編、  
1706「雲上和歌集」編、「辨官至要統抄」著
- I1000 **敬文**(あつふみ・土井どい、通称;長十郎/号;金花山)1751-1819 69 筑前遠賀郡の国学者
- H1068 **当政**(當政あつまさ・相良さから、通称;市郎兵衛)1736-1805 70 薩摩鹿児島藩士、国学者
- E1082 **篤雅**(あつまさ・山辺やまべ/字;文伯)?-? 江中期豊前中津藩医/産科;賀川家入門、  
1779刊「傷寒論箋註」、「賀川口伝覚書」「経絡詳義」「婦科要訣」著、「産育論」著;舶来鉗子紹介
- 1023 **あつ丸**(あつまる、小金こがねの厚丸、黄金厚丸、武藤忠司)?-1829 神田紙問屋/狂歌/洒落本作者;  
1799「闇名月」1801「仇手本」「廓胆競」-02「通神蔵」著  
山旭亭主人と同一説あり→ 山旭亭主人(さんぎよくていしゅじん、洒落本) F 2 0 7 5
- E1083 **当見**(あつみ・押田おしだ、幕臣頼意男[1641-96])?-? 江戸中期文筆家、「武家玄元宝鑑」著  
篤見(あつみ→あつちか・久保)→ 篤見(あつちか・久保、国学者) E 1 0 6 8  
篤躬(あつみ・山田) → 足穂(たりほ・山田やまだ、神職/国学) 2 7 1 7  
敦美(あつみ・今井/長岡)→ 懐山(かいざん・長岡ながおか、医者) I 1 5 6 6  
淳美(あつみ・立川) → 雅生(がせい;字・立川たちかわ、儒者/地誌)M 1 5 6 3  
厚見王(あつみおう) → 厚見王(あつみのおおきみ、万葉歌人) B 1 0 4 0  
安都扉娘子(あつみおとめ) → 安都扉娘子(あとのとびらのおとめ、万葉歌人)B 1 0 4 9
- B1038 **敦実親王**(あつみ・あつざねしんのう、法名:覚真、宇多天皇第8皇子)893-967 75 母;藤原高藤女の胤子、  
室;藤原時平女、907親王/式部卿宮/八条宮/仁和寺宮、941一品/950(天曆4)出家;法名覚真、  
源家音曲の祖/諸芸に通ず;笛・催馬楽・蹴鞠、石清水八幡に帰依;仏像/荘園寄進/大和物語入、  
歌;913亭子院歌合参加;方人、後撰集1119(931[承平元]宇多法皇没後京極御息所の受戒時)、  
醍醐天皇および敦慶あつよし・雅明まさあきら・敦固あつもと親王と兄弟、  
源雅信/大僧正寛朝/雅慶/重信らの父、  
[京極のみやす所(時平女褒子よに) 尼になりて戒受けんとて仁和寺に渡りて侍りかれば、  
ひとりのみながめてとしをふるさとのあれたるさまをいかに見るらむ](後撰;雑1119)
- C1072 **敦通**(あつみち・久我こが、一字姓;橘、通堅男/本姓;源)1565-1624 60 廷臣;1578従三位/82権大納言、  
1587正二位、1599勾当内侍(四辻春子とは別人)と密通;勅勘/出奔、  
能書家;「円徳院御筆」書/「宗安小歌集」清書/奥書?、「東国紀行」著、  
連歌;1591紹巴と何人百韻/1623柳営連歌参加/23永喜応昌と漢和聯句、  
[敦通(;名)の別名/号] 別名;吉通/季通/枝通、号;有庵三休、法号;円徳院  
篤道(あつみち・生田) → 万(よろう・生田いた、藩士/国学/救民) 4 7 4 2
- B1039 **敦道親王**(あつみちしんのう・帥宮そちのみや、冷泉天皇皇子)981-1007 早世 27歳 母;藤原兼家女超子、  
三品;太宰帥、兄の為尊親王没後に和泉式部との恋/妃(済時女)の里帰り/病没、  
大鏡・和泉式部日記に逸話、歌人、  
勅撰6首;新古今(1169)新勅(641/823)続古(1174)新千(1739)新続古(1537)、  
[秋の夜のありあけの月の入るまでにやすらひかねて帰りにしかな](新古;恋1169、  
長保5年(1003)9月夜更けて和泉式部の許に行くが逢えず翌朝贈る歌/和泉式部日記)
- 1024 **敦光**(あつみつ・藤原、明衡あきひろ男)1063-1144 82 母;平実重女/兄敦基の養子/漢学・1094対策、  
1122文章博士/大学頭/式部大輔、堀河・鳥羽・崇徳三朝の儒臣、詩歌に堪能、  
1144(天養元)病により出家/臨終時に奇瑞、院政期代表儒者;官位は不遇、  
1118「柿本人麿影供記」、35「勘申」、「敦光朝臣記」著、「続本朝秀句」「本朝帝紀」著(散佚)、  
詩:本朝無題詩63首・続本朝文粹・朝野群載入/歌;崇徳天皇大嘗会和歌入、  
金葉集2首;316/317、  
[曇りなき豊よのあかりにあふみなる朝日のさとはひかりさしそふ](金葉;賀316)、  
(近江に会ふを掛る/近江の朝日の郷は大嘗会豊の明りの節会で詠まれる地名)、  
[国に九年の蓄たぐねなきを不足と曰ひ 六年の蓄なきを急と曰ひ  
三年の蓄なきを国その国に非ず急と曰ふ](1135勘申)
- E1084 **淳光**(あつみつ・柳原やなぎわら/本姓;藤原、藤原[町ま]資将男)1541-97 57歳 母;竹屋光継女、

1551柳原資定の養嗣;相統、廷臣;1563参議/69従三位/79(天正7)権大納言/97従一位、贈准大臣、「貫主拝賀次第」著、

[淳光(;名)の初名/法名/法号]初名;将光まさみつ、法名;心寂、法号;徳雲院

E1085 **当充**(あつみつ・石井、石井伊左衛門男/馬田九郎八養子)1743-? 蘭学者;養父門、1762稽古通詞、1771小通詞/86玄沢の江戸帰途に同道/松平定信家臣、蘭語教授、「波留麻和解」(;翻訳素稿)、「遠西本朝攬要」著、「遠西軍器考」訳  
[当充の通称] 恒右衛門/庄助、馬田清吉

E1086 **篤光**(あつみつ・新井あらい、通称升平、白蛾男)?-1809 加賀藩儒者;1792藩儒、明倫堂助教、1757「古易精義大成」98「古易精義指南」、「令義解講録」著

敦光(あつみつ) → 敦光(のぶみつ・秦) D 3 5 4 4

敦光(あつみつ・調子/富) → 土卵(とらん・富とみ、廷臣/洒落本/雑俳) R 3 1 8 1

敦光(あつみつ・久世) → 敦行(あつゆき・久世くぜ、本草家) E 1 0 9 1

厚光(あつみつ・古森) → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人) I 2 2 7 0

B1040 **厚見王**(あつみのおおきみ、出自不詳)?-?757存 奈良期廷臣;749従五下/55葬送装束司、少納言;55奉幣使として伊勢神宮に行く/757従五上、万葉四期歌人3首;669/1435/1458(久米女郎くめのいらつめと相聞)、新古161

[やどにある桜の花は今もかも松風速み地つちにちるらむ](万葉;八春相聞1458)

安都扉娘子(あつみのおとめ) → 安都扉娘子(あとのとびらのおとめ、万葉歌人) B 1 0 4 9

I1004 **戡**(あつむ・友近ともちか、通称;吉太夫)1845-8541 伊予松山の国学者・歌人;三上是庵ぜあん(景雄)門

E1087 **敦宗**(あつむね・藤原、実政男)1042-111170歳 母;藤原国成女、漢学;文章博士/大学頭/東宮学士、1084左少弁/86摂津守/87御書始尚復/88父流罪に連座/1098式部少輔/正四下丹波守、詩;中右記紙背漢詩集・新撰朗詠集・和漢兼作集・続文粹入

E1088 **暖茂**(あつもち・吉田、茂実しげざね男)1739-178749 金沢藩士;吉田流左近右衛門派弓術家、持弓頭/近習御用/用人、「吉田流弓法目録」編/「吉田流矢代之書」著

B1043 **敦基**(あつもと・藤原ふじわら、明衡あきひろ男)1046-110661 平安後期漢学者;1088文章博士、右京権大夫/上野介、「国後抄」/「柱下類林」編、本朝無題詩(21首)/中右記紙背詩集/和漢兼作集/続文粹入

E1089 **敦本**(厚本あつもと・美代みしろ、別名;元剛/重勝/重本、三白男)1662-173473 土佐高岡郡の儒者;儒;谷重遠(秦山)/浅見綱斎門、神道;中川経晃つねてる/渋川春海門、高知廿代町開塾/医者、家老山内氏興の賓師、「杏林随筆」「杏林私攷階梯」著、

[敦本(;名)の通称/号]通称;伝太郎、号;廿代山人にじゅうだいさんじん

G1088 **敦本**(あつもと・荒川あらかわ、通称;彦六/号;松下堂)?-? 伊予小松藩士/歌人

H1047 **淳素**(あつもと・桑名くわな、)1828-190275 土佐土佐郡の高知士族、国学、  
[淳素(;名)の通称] 金次郎/権蔵

B1042 **敦固親王**(あつもとしんのう、宇多天皇皇子)889?-92638? 醍醐天皇・敦慶・雅明・敦実親王と兄弟、891親王宣下/902元服、兵部卿、父の別院朱雀院住、源宗城むねき/むねざねの父、歌人;913亭子院歌合参加、後撰集38(紀長谷雄に宛てた贈歌;902[延喜12]以前の歌)、[梅の花今は盛りになりぬらん頼めし人のおとづれもせぬ](後撰;春38、21歳前後か、知人長谷雄が梅花の咲く時は必ず消息しようと言っていたのに便りないので詠む)  
[敦固親王の通称] 弾正五宮/朱雀院兵部卿皇子すざくいんのひょうぶきょうのみこ

E1090 **敦盛**(あつもり・平、経盛男)1169-1184戦死15歳 従五下;無官の大夫と称される、一谷戦で熊谷直実に討たれる;平家物語入/謡曲・浄瑠璃/歌舞伎等に脚色

B1044 **敦康親王**(あつやすしのう、一条天皇1皇子)999-1018早世20歳 母;藤原道隆女定子、大宰帥、歌合主催  
敦山(あつやま→あつのおぶ・土岐) → 敦山(あつのおぶ・土岐、医者) E 1 0 7 2

B1045 **淳行**(厚行あつゆき・伊香子[伊香いかご]/姓かばね;連、厚代男)?-? 平安期889-922頃雅楽頭/神祇大副、近江伊香具神社神職?、歌;古今373、  
[思へども身をし分けねば目に見えぬ心を君にたぐへてぞやる](古今;離別373)、(東に行く人に贈る歌)

B1046 **篤行**(あつゆき・平たいら、興我王男)?-910 平安期廷臣;886平姓/筑前守兼太宰少式、

従五上、父興我王は孝行天皇の孫、歌：古今447、  
 [ほとゝぎす峰の雲にやまじりにしありとは聞けど見るよしもなき]、  
 (古今；物名「やまじ」；ユリ科のハナスゲ[花菅]；名義抄[児草ヤマシ])

E1091 **敦行**(あつゆき・久世くげ、別名；敦光/字；子厚/号；松庵) ?-? 江後期紀伊の本草家；  
 1791「家蜂蓄養記」、「柑橘譜」「鯨譜」著

G1084 **篤行**(あつゆき・阿久沢あくさわ) 1783-1860 78 信濃飯田藩士/歌人；桃沢夢宅・香川景樹門、  
 同門の藩士赤川知至ともゆきと交流、  
 [篤行(；名)の別名/通称]別名；武俊、通称；銀弥/権平  
 参考 → 知至(ともゆき・赤川あかがわ、藩士/歌人) T 3 1 8 7

G1066 **敦行**(あつゆき・岡野くおか、通称；玄三郎) ?-? 江後期歌人、  
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
 [子の日すとしるもしらぬもむれてくる小松がはらは春めきにけり](大江戸倭歌；春47)  
 [ながらへば逢ふこともやと惜しからぬ身をさへ神に祈りつるかな]、  
 (大江戸倭歌；恋1403/祈身恋)

厚之(あつゆき・木下) → 厚比(あつとも・飯野いひ、国学/歌人) B 1 0 3 4

淳之(あつゆき・岡田) → 栗園(りつえん・岡田おかだ、藩儒) B 4 9 5 7

篤行(あつゆき・西村) → 太沖(たちゅう・西村/蓑谷、曆算家) R 2 6 4 8

E1093 **敦善**(あつよし・加藤かとう、辻つじ和常男、景範の養嗣) 1741-1815 75 大坂の歌学者；景範門；家学継承、  
 養父の遺草收拾/編纂；「国嗣叢録」(和文)、「秋露親筆」(歌)浄書、「仰葉集」著  
 [敦善(；名)の字/通称/号]字；子元、通称；新蔵/喜太郎/原助、号；棠齋

E1094 **篤好**(あつよし・小西こにし) 1767-1837 71 撰津佐保村で代々庄屋；豪農、  
 1781京遊学；儒/国学/帰郷後農学研究/柳川藩等で農業講義、將軍家齊から賞賜、  
 国学；1827平田篤胤門、「稻荷伝」、1809「農業余話」/19「農業余話鈔」著  
 [篤好(；名)の通称/号]通称；藤右衛門、号；藤齋、法号；釈誓諄

1025 **篤好**(厚義あつよし・五十嵐いがらし、之義男) 1790?-1860? 69 越中砺波郡内島村の惣年寄役、  
 算学/測量家；石黒信由門、1819讒言で罪；能登配流/歌；船木連老・大平門/国学；御杖門、  
 1822「かげろふ解環旅寝」、1826「古今集序爪櫛つまぐし」/31「さみだれの記」/39「歌学初訓」、  
 「臥牛齋詠草」外著多数、  
 [篤好(；名)の通称/号]通称；小五郎/小豊次/孫作(父名を継承)、  
 号；臥牛齋/香香瀬[花々瀬]/鳩夢/雉岡ちこう/鹿鳴花園/蟹瀬のふすしのや

E1095 **篤好**(あつよし・井上いのうえ、通称；関平) 1684-1735 52 撰津住吉神道家；山本復齋(信義)門、  
 1727「住吉明神出現考」32「稻荷伝同附考」編/「住吉神社考」「住吉考評閱」「八雲口伝密秘鈔」、  
 [篤好(；名)の号] 桂翁/升齋/李樹散人/峯松軒、田中信謹の師

G1093 **惇義**(あつよし・井狩いかり、通称；三郎兵衛) 1826-75 50 近江野洲郡北里村江頭の材木商；自代で廃業、  
 国学/歌；大国隆正門、和漢学を修学、村のために尽力；  
 1872地租改正時に地券取調掛を務める；県庁に出仕、

E1096 **篤慶**(あつよし・深見ふかみ、外山三輔長男) 1830-81 52 尾張愛知郡の生/三河碧海郡新堀村の木綿問屋、  
 三河刈谷藩御用達、国学；村上忠順ただまさ門、歌；守部/能代繁里門、  
 妻；師の村上忠順女の登之野としの(愛子/歌人)、尊王運動に奔走、酒戸神社祠官、蔵書家、  
 1864文雄「さきはひ草」入、篤行・篤恭・富子(篤志の妻)・広女の父  
 [篤慶(；名)の通称/号]通称；友三郎/藤十、号；松搗しょう

妻 → 登之野(としの・深見、歌人) N 3 1 2 7

充美(あつよし・井関) → 充長(あつなが・井関いせき、神道家) E 1 0 9 2

喩義(あつよし・饒田) → 西疇(せいちゅう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3

篤好(あつよし・御牧) → 赤報(せきほう・御牧みまき、藩儒/闇齋学) K 2 4 5 0

篤好(あつよし・櫟原) → 荳齋(せつさい・櫟原いちいはら、儒者/教育) E 2 4 2 7

篤慶(あつよし・山本) → 錫夫(せきふ；字・山本、医者/本草) K 2 4 4 4

篤義(あつよし・森) → 忠義(ただよし・森もり、藩士/記録) R 2 6 3 2

篤義(あつよし・山路) → 重信(しげのぶ・山路やまぢ、国学/歌人) V 2 1 4 2

淳義(あつよし・宮部) → 義淳(よしあつ・宮部みやべ、藩士/歌人) C 4 7 1 1

- B1047 **敦慶親王** (あつよしんのう、初名維蕃いば、中務卿親王/式部卿親王、宇多天皇第4皇子) 887-930<sup>44</sup> 二品、式部卿、母：藤原高藤女の胤子、異母妹の均子内親王[890-910夭逝]を妃とす、均子の女房伊勢との恋；大和物語入、源頼女と恋；後撰集入、歌人；913亭子院歌合参；9首入、921醍醐御時菊合参加(；いばのみこ名)、「式部卿宮前栽歌号」催?(伊勢集入)、後撰3首；548/680/1027、醍醐天皇および雅明まさあきら・敦実あつみ・敦固あつもと親王と兄弟、中務なかつかさ(母；伊勢)の父、[里ごとに鳴きこそ渡れ郭公すみか定めぬ君たづぬとて](後撰；恋548源頼たのむが女へ返歌)、(確かに私は多くの里で鳴いているが住居が定まらない色好のあなたを捜すためだよ)、(源頼女の贈歌；つらしともいかに怨みむ郭公わが宿近く鳴く声はせで)
- 伊勢 → 伊勢(いせ、伊勢の御、歌人) 1 1 1 3  
 頼女 → 頼女(たのむのむすめ・源、挙こざるの孫、歌人) G 2 6 5 1  
 敦慶親王家大和(あつよしんのうけのやまと) → 大和(やまと、歌人) E 4 5 4 0
- 1026 **敦頼** (あつより・藤原、清孝男) 1090-1182?<sup>93</sup> 母：藤原孝範女、平安後期廷臣；左馬助/従五下、歌；歌林苑派、1160清輔家歌合参、70住吉社・72広田社歌合勸進/暮春白河尚齒会和歌併序、1172出家(法名；道因)、敦仲の父、1179右大臣家歌合参加、歌道に執心し毎月住吉社に参詣(無名抄入)、藤原俊成・藤原清輔らと交流/風流人、「現存集」撰(散佚)、家集「樗散集」(散佚)、雲葉集入(道因法師名)、勅撰41首；千載(20首62/95/166/以下)新古(4首414/586以下)新勅(3首)続後撰(717)以下、[思ひわびさても命はあるものを憂きにたへぬは涙なりけり](千載集818)
- B1048 **吾鬢** (あづら・寺山てらやま、定四郎男) 1788-1869<sup>82</sup> 尾張名古屋藩士；1815家督嗣/美濃高須藩用人格、国学/歌；小林歌城門、尾張藩江戸詰/広敷用人格/藩主・公女の侍読、歌集1845「日抄」、1852「菅家影前扇合」判者、56「花街竹枝和歌集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[宮木きる丹生の杣人心せよきさ山桜花咲きにけり](大江戸倭歌；春274山中花)、[かりそめに植ゑてし背戸の袖垣に咲き余りたる夕顔の花](同；夏603)[力なき身を歎くかなもののふの世にたつか弓手にはとれども](現存百人一首；91)、[吾鬢の通称/号]通称；房之丞/房蔵/虎[寅]助/虎助兵衛/兵右衛門、号；占秋/秋舎あきのや、神号；宇麻志賢史吾鬢大人命
- 安殿(あて) → 平城天皇(へいぜいてんのう、詩歌人) 2 7 6 0
- E1097 **亞提** (あてい・亀峰斎) ? - ? 俳人；1789-1801頃「三家雋さんかしゆん」編  
 蛙亭(あてい・柏淵) → 嘉一(よしかず・柏淵かしぶち、儒/国学者) M 4 7 1 6  
 安諦雄(あてお・小賀) → 安諦雄(あさお・小賀おが/こが、神職/歌人) H 1 0 1 5  
 亜堂(あどう、阿道) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1  
 阿耨院(あどういん) → 円勢(えんせい；法諱、真宗僧/詩) F 1 3 1 0  
 阿耨院(あどういん；法号) → 門左衛門(初世もんざえもん・近松、浄瑠璃作者) 4 4 3 7
- E1098 **阿德** (あたく、樹雄亭) ? - ? 江後期1818-30頃大阪俳人；奇淵社中門、江戸；鳳朗門、相模蓑毛住、「舎笠集」著
- B1049 **安都扉娘子** (あとのとびらのおとめ/あつみおとめ、安都は姓?) ?-? 万葉四期歌人；卷四710、家持と関わり、安曇娘子あづみのおとめとも?、[み空行く月の光にただ一目相見し人の夢いめにし見ゆる](万葉；710)  
 阿都摩勇(あとまゆう) → 星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者) H 2 4 9 7
- C1073 **阿那可師古** (あなかしこ) ? - ? 江戸の狂歌作者、1785徳和歌後万載集1首入、[功名をとげしもぬけのから衣きまゝにあそぶ五湖の釣り舟](後万載；774/范蠡遊五湖)  
 阿那聒散人(あなかつさんじん) → 候兵衛(そろべえ・門田かどた、歌舞伎作者) E 2 5 5 9  
 あな女(あなじょ・小野) → 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 5  
 穴主(あなぬし) → 臍穴主(へそのあなぬし、狂歌) 2 7 9 4
- B1050 **穴穂皇子** (あなほのみこ・安康天皇、允恭天皇皇子) ?-? 記紀歌謡作者  
 兄彦(あにひこ・加賀) → 兄彦(えひこ・加賀かが/加藤、藩士/神職) U 1 3 0 6  
 兄久(あにひさ・為貞) → 櫛(いちい・為貞きためさだ、神職/歌人) J 1 1 7 8  
 姉(あね) → 柳川姉(りゅうせんあね、俳人) F 4 9 0 2

- 姉小路(あねこうじ) → 兼光(かねみつ・日野ひの、廷臣/歌人) D 1 5 1 0  
 姉小路宮(あねこうじのみや) → 良助法親王(りょうじよほつしんのう、天台僧) I 4 9 1 9  
 賀名生先師(あかうせんし→かうせんし) → 任遍(せんべん; 法諱・性紹、真言僧) N 2 4 7 2  
 賀名生殿(あかうどの→かうのう) → 後村上天皇(ごむらかみてんのう、南朝/歌人) D 1 9 9 1  
 穴太阿闍梨(あかうのあじり) → 聖昭(しょうしょう; 法諱、天台僧/穴太流祖) J 2 2 7 7  
 亜白(あはく・関) → 当義(まさよし・関せき、藩家老/財政再建) I 4 0 5 6
- E1099 阿彦(あひこ・植松うえまつ、加賀屋五兵衛) 1769-1837 69 信州松本の米穀商、俳人・士朗門、  
 「鶴芝集」(3編)編  
 あふち(→おうち・加藤) → 吉彦(よしひこ・加藤かとう、神職/国学/歌) M 4 7 1 1
- 1027 阿仏尼(あぶんに、実父母不詳) 1222?-83(4月8日) 62 平(奥山)度繁のりげ養女(娘説も)、鎌倉期歌人、  
 14-5歳頃後高倉院皇女安嘉門院の女房/失恋して出家、父の任地遠江に下向/奈良法華寺住、  
 慶政きょうしょう上人の庇護を受; 男女2人を出産/定覚じょうかくを出産/藤原為家の寵愛を受; 側室、  
 為家との間に1263冷泉為相・65為守を出産、為家の嫡男二条為氏と不和;  
 1275為家没:79為相の領地細川庄の相続訴訟のため鎌倉へ下向; 「十六夜日記」(1279-80)、  
 幕府裁定の未解決のまま没(のち1313為相勝訴)、鎌倉で客死or帰京して没か不明?、  
 「うたたね」「かへのうち」「庭のをしへ」、歌論「夜の鶴」、「安嘉門院四条百首」「柳風集」著、  
 「安嘉門院五百首」「藤川四百首」「藤川百首題和歌」「藤川五百首抄」「阿仏尼百首集」著、  
 「阿仏百首」「阿仏尼仮名諷誦」「阿仏尼文集」「阿仏尼秘抄」、1275「仮名諷誦」著、弘安百首入、  
 勅撰48首; 続古今(933/1556/1832)続拾遺(6首315/581以下)新後撰(236)、  
 玉葉(11首466/624/1134/1135/以下)続千(118)続後拾(1197)風雅(14首)新撰(2首)以下、  
 [さてもわれいかななるみのうらなれば思ふかたには遠ざかるらむ](続古; 羈旅933)、  
 (養父に随い遠江下向の途中鳴海の浦で詠む/成る身と鳴海の浦を掛る)、  
 [きぬぎぬのしのめ暗き別路わかれちに添へし涙はさぞ時雨けむ](玉葉; 1457; 為家へ返歌)、  
 [帰るさのしのめ暗き村雲もわが袖よりや時雨そめつる](同1456; 安嘉門院四条へ贈)  
 (暁の時雨に濡れて女の許より帰りてあしたにちかはしける; 為家)、  
 [阿仏(; 出家名)の別通称]女房名; 安嘉門院四条・越前・右衛門佐・右衛門督、  
 出家後の別通称; 北林禅尼
- あふみ(近江)すべて → 近江(おうみ)
- 油杜氏練方(あぶらとうじねりかた) → 練方(ねりかた・油杜氏、狂歌) 3 4 5 9  
 Abraham(アブラハム; 蘭名・馬場) → 佐十郎(さじゅうろう・馬場、通詞/洋学者) B 2 0 6 5
- B1054 蛙文(あぶん・安田やすだ、通称; 佐助)?-? 筑後久留米藩有馬玄蕃頭抱の色子、大阪で浄瑠璃作者、  
 西沢一風門/1726並木宗輔の助作/33-48大阪豊竹座歌舞伎者作、52江戸肥前座浄瑠璃立作、  
 1726「北条時頼記」34「本朝舞楽始」43「連理彼岸桜」56「宝尽恵方占」、「弘法大師詠歌集」著
- F1000 蛙文(あぶん) ? - ? 伏見俳人; 1777江涯「仮日記」1句入、  
 [梅最中さなか野風にもるゝ笛は誰](仮日記; 66)
- F1001 蛙文台(あぶんだい; 姓名不詳)?-? 浮世草子、永井堂亀友と交友、「世間侍婢気質せけんこしもとかたぎ」著  
 阿倍女郎(安倍女郎)は万葉集に5首と題詞2首がある・一応次の三つに分類する;
- B1051 阿倍女郎(安倍女郎あべのいらつめ)?-? 万葉二期?、情熱的歌人、卷三269:屋部坂の歌、  
 卷四505-6(安倍女郎名)、  
 [人見ずは我が袖もちて隠さむを焼けつつかあるらむ着ずて来にけり](万葉; 269)  
 [今更に何をか思はむうちなびく心は君に寄りにしものを](万葉; 505)  
 [我が背子は物な思ひそ事しあれば火にも水にも我がなげなくに](万葉; 506)
- B1052 阿倍女郎(あべのいらつめ) ? - ? 万葉三期歌人; 卷四514/516:中臣東人と贈答、  
 [我が背子が着せる衣の針目落ちずこもりにけらし我が心さへ](万葉; 514)  
 [我が持てる三つ合ひに縫はれる糸もちて付けてましものを今ぞ悔しき](万葉; 四516)、  
 (515; 紐が切れたことを嘆く中臣東人あづまひとへの答歌)
- B1053 阿倍女郎(あべのいらつめ) ? - ? 万葉四期; 1631題詞:久邇京より家持の贈歌、  
 [今造る久邇の都に秋の夜の長きにひとり寝るが苦しき](万葉; 八1631家持の歌)
- 阿閉皇女(あべのひめみこ) → 元明天皇(げんめいてんのう、万葉歌人) 1 8 2 9  
 阿部皇女(あべのひめみこ) → 称徳天皇(しょうとくてんのう、孝謙天皇) 2 1 9 9

- F1002 **安倍大夫** (あべのまへつきみ) ? - ? 万葉四期歌人; 卷九1772  
 [後れ居て我あははや恋ひむ印南野いんみの秋萩見つつ去いなむ児に故に] (万葉; 1772)、  
 (大神大夫が筑紫に赴任する時の送別歌)、  
 安倍広庭と同一? → 広庭(ひろにわ・安倍/阿部) 3 7 2 5
- C1074 **唾方** (あほう・松亭しょうてい) ? - ? 甲府勤番?、滑稽本作者、釣り好き、1845「鮎釣気」著  
 鴉峯(あほう・熊谷) → 令徳(よしり・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌) M 4 7 5 9  
 阿法(あほう; 法名) → 親元(ちかもと・源みなもと、廷臣/歌) C 2 8 0 1
- B1055 **阿保親王** (あぼしんのう、平城天皇皇子) 792-842 在原氏の祖/行平・仲平・守平・業平・大江音人の父、  
 文武・音楽に長ず、810菓子変に連座/811太宰府に配流
- B1056 **海人** (あま・高氏たかうじ: 高橋・高麗・高丘など?) ?-? 万葉三期歌人(; 五842); 730年旅人梅花宴参加、  
 730当時; 薩摩目さつまのさかん、  
 [我が宿の梅の下枝しげに遊びつつうぐひす鳴くも散らまく惜しみ] (万葉; 842/梅花宴)  
 亞満(あま・鳥ちよう/鳥居) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9  
 阿馬(あま・常産) → 常産阿馬(つねりみのあま、狂歌作者) B 2 9 7 4
- F1004 **天国** (あまくに) ? - ? 701-4頃大和の刀工/刀工の祖、  
 その刀は抜けば必ず雨が降るといふ伝承がある
- F1005 **尼子娘** (あまこのいらつめ、胸形部むなかたべ徳善女; 宗像系海人部氏族) ?-? 天武天皇の妃/高市皇祖母、  
 天武は安曇系大海氏の乳母に養育され大海人皇子と称され、幼少より海人部あまべと関係深い
- F1006 **天地根** (あまちね・橙果亭とうかてい、島慶次郎、無疑庵) ?-? 江後期大阪の狂歌師: 栗柯亭門、条果亭一連、  
 1813-22「狂歌三栗集」編、21刊「一橙集」
- B1041 **天津未曾良** (あまつみそら、佐野屋利兵衛) ?-? 狂歌作者、江戸本所相生町住、  
 1787「才蔵集」1首・230;  
 [九月九日酒を贈らる おくられし手紙に無事をきくの酒珍重陽にぞんじさぶらふ]
- B1022 **あまね** (・姓不詳) ? - ? 平安前期廷臣、歌人、898亭子院女郎花合参加、  
 [虫の音ねに鳴きまどはせる女郎花折れば袂に霧残りぬる] (女郎花合36)
- F1007 **周** (あまね・藤沢) ? - ? 江後期富山藩士/本草; 立山草木収集、1852刊「奇草小図」著
- F1008 **周** (あまね・西にし、名; 時懋/魚人/魯人、時義男) 1829-97 石見津和野の儒者/1854脱藩、  
 洋学; 手塚律蔵門、幕府初のオランダ留学生; 法学修学/1865帰国、  
 開成所教授; 「万国公法」訳、森有礼と明六舎創始、妻; 升子まこと、  
 [周(; 通称)の字/号]字; 寿専、号; 天根あまね/甘寐舎かんびしゃ/鹿城ろくじよう
- B1057 **洽子** (あまねい・春澄はるずみ/初名; 高子、春澄善繩よしただの女) ?-? 931存 平安期女官; 873従五上掌侍、  
 877(元慶元)正五下/改名; 洽子、887従四下典侍、902従三位/宇多天皇中宮温子の女房、  
 糸所別当、「寛平御遺誠」「貞信公記」入、歌; 古今107、  
 [散る花の鳴くにし止まる物ならば我鶯に劣らましやは] (古今集; 二春107/鳴くと泣く)、  
 後撰歌人の善繩女と同一? → 善繩女(よしただのむすめ・春澄はるずみ) E 4 7 3 1  
 天野久七(あまのきゅうしち) → 久七(きゅうしち・天満屋、歌舞伎役/作者) G 1 6 4 2  
 天野殿(あまのどの) → 光厳天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9  
 天淳中原瀛真人(あまのぬなはらおきのまひと) → 天武天皇(てんむてんのう) 3 0 1 5  
 安満廼門(天廼門あまのもん) → 都竜軒(とりゅうけん・山本、茶舗/狂歌) R 3 1 9 0  
 天野屋(あまのや) → 明言(あきのり・高松、国学/歌人) D 1 0 7  
 雨廼屋(あまのや) → 隣春(ちかはる・福島、藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6  
 雨盛(あまもり・多羅井) → 多羅井雨盛(たらいのあまもり、藤井孫十郎、狂歌) H 2 6 7 3  
 雨漏(あまもり・古屋) → 古屋雨漏(ふるやのあまもり、狂歌作者) E 3 8 7 0
- G1029 **雨夜賤丸** (あまよのしずまる) ? - ? 甲府狂歌; 1787「才蔵集」入; 430  
 [いや高き人をこふれば雁がねの文もとゞかず竿もとゞかず]  
 蛙麿(あまる・花の屋) → 五一(ごいち・達磨屋) E 1 9 8 2  
 亞満(あまん/あま・鳥ちよう/鳥居) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9  
 阿万(あまん・頼) → 杏平(きょうへい・頼、儒/藩士/詩) 1 6 3 8  
 阿万(阿満あまん・今枝) → 近義(ちかよし・今枝いまえだ、藩家老/国学) C 2 8 1 8  
 阿弥陀聖(あみだひじり) → 空也(くうや・こうや、光勝、念仏浄土教) 1 7 3 9



- 網利(あみとし・大家おおや) → かね延(兼延かねのぶ・おほ屋、随筆家) C 1 5 9 5  
 網破損針金(初世あみのはそんはりがね、狂歌) → 元木網(もとのもくあみ) D 4 4 7 5  
 網破損針金(2世あみのはそんはりがね、狂歌) → 静廬(せいろう・北、町人/国学) D 2 4 2 3
- G1030 網引方(あみのひきかた) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;421  
 [石ならば割りてやみせん我がこゝろ火の出るほどに君をこそ思へ]
- F1009 蛙鳴(あめい・草波亭) ? - ? 江後期信濃高遠の俳人:  
 1844高遠鉾持社に奉額;45「鉾持集」著
- F1010 蛙鳴子(あめい:姓不詳) ? - ? 歌人;1706梶女かじよ家集「梶の葉」序(;武陵遊士と)  
 あめの僧都(あめのそうじょう) → 仁海(にんかい;法諱、雨僧正、真言僧) G 3 3 1 8  
 天足彦(あめのたるひこ・河村) → 秀辰(ひでとき・河村/俵/藤原、藩士/国学) D 3 7 2 9
- F1011 天乃門都龍(あめのととりゅう) ? - ? 江戸狂歌作者;1862「狂歌三都集」共編: 苕兄かけい・春見と  
 雨廼屋(あめのや) → 隣春(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6  
 天命開別天皇(あめみことひらかすわけのすめらみこと) → 天智天皇(てんちてんのう) 3 0 1 2  
 アメリカ彦蔵(あめりかひこぞう) → 彦蔵(ひこぞう・浜田はまだ、漂流船員/日米交渉) 3 7 6 4  
 蛙面坊懸水(あめんぼうけんすい) → 秀安(しゅうあん・深津、医者/狂歌) G 2 1 7 7  
 蛙面坊茶町(あめんぼうちやちやう) → 茶町(ちやちやう・蛙面坊、鈴木作助/藩士/郷土史家) F 2 8 5 9
- F1012 天広丸(あめのひろまる、磯田いそた、名; 広吉、酔亀翁) 1756-1828 73 狂歌作者・橘州門、「狂歌酒百首」著  
 斐(操あや・前田) → 暢子(のぶこ・前田まえた、歌人) B 3 5 3 7  
 あや(・工藤) → 眞葛(まぐず・只野ただの/工藤、歌人/随筆) 4 0 6 3
- B1058 斐雄(綾雄/文雄あやお・菅沼すがぬま、字; 子英、北村政親[賢親]男) 1786-1834 49 備中吉浜庄屋の生、  
 上洛; 閑院宮出仕/一時香川景柄かげもとの養子/大阪の菅沼武八郎の養子/歌: 香川景樹門・  
 桂門四天王、「斐雄歌集」「桔梗園歌集」、「東路の記」「あづまの花見」「袖くらべ」「はなの雫」著、  
 「香川景樹大人東遊記行」著、  
 [夕月の影のうつろふ池水に降る雨見えてかはづ鳴くなり](斐雄歌集; 春深微雨夕)  
 [夕まぐれ淀野の沢をたつ鳴の行方さびしき水の色かな](桔梗園歌集; 水郷鳴)  
 [斐雄の通称/号]通称; 政之進/此面このも/頼母たのも、  
 号; 蘆渚/桔梗園/桔梗舎/梅月堂・法号; 妙徳院
- G1094 章雄(あやお・伊福いふく、通称; 市太夫) 1789-1822 34 筑後久留米藩士、国学・歌人; 中島広足門、
- H1076 綾雄(あやお・鈴木すずき、) 1818-1863 46 安房館山藩士/国学者、俳人; 蕉風俳諧、  
 1863(文久3)江戸藩邸に没、追悼集「おしまつき」(関為山外門人共編)、  
 [綾雄(;名)の字/通称/号]字; 敬義、通称; 源助/謙助、号; 老梅居
- H1030 文雄(あやお・大藪おおやぶ、初名; 忠親、延親男) 1838-1902 65 播磨明石郡の岩屋神社社司/権大教正、  
 国学・歌; 大国隆正門/漢学; 梁田葦洲門、詩歌人; 「篁邨詩抄」「和歌綾玉集」著、  
 [文雄(;名)の字/通称/号]字; 士礼、通称; 六兵衛/筑前、号; 篁邨/真玉舎
- G1068 斐雄(あやお・服部はっとり) ? - ? 江後期; 歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [大空はもよふし顔にくもれどもなかで日をふる山ほととぎす](大江戸倭歌; 夏424)
- G1081 章雄(あやお・) ? - ? 江後期; 歌人、伊福章雄と同一?  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [はかなさよ身はうつ蟬のこがくれてなくね知れぬ恋もするかな](大江戸倭歌; 恋1597)
- C1075 斐雄(あやお・吉田よしだ) ? - ? 狂歌作者、1855仙果「なみの日並」入  
 絢夫(あやすけ・野村) → 素介(もとすけ・野村のむら/有地、藩士/政治/書) K 4 4 9 2
- G1032 綾織地紋(あやおりのぢもん) ? - ? 江戸狂歌作者、1787「才蔵集」入;467、  
 [つゝめどもつゝむにあまる小風呂敷思はぬ恥をかきさらさ哉]、  
 (才蔵集;467/寄風呂鋪ふろしき恋/描かき更紗;手描き模様を染めた更紗;天明1781-89頃大流行)
- C1076 斐子(あやこ・三枝さいぐさ/土屋つちや、字; 子章、号; 清風/茅淵、三枝守保女) 1759-1830? 72 江戸の生、  
 漢学/国学/歌/歌文を修学、幕臣堺奉行の土屋廉直ただなおの妻、  
 1807「旅の命毛」/09「和泉日記」著、「列女伝拾遺」著、  
 夫 → 廉直(ただなお・土屋、大目付) Q 2 6 2 3
- I1020 綾子(あやこ・西原にしはら/旧姓; 滝、名; 婦美/号; 幻文) 1762-1810 49 讃岐香川郡の歌人/画

- I1040 斐子(あやこ・堀ほり、通称; 沢、旧姓; 岡田) 1786-1812 早世 27 讃岐寒川郡の歌人/香川郡に嫁ぐ
- H1001 言子(あやこ・到津いとうづ、名; 富重、小笠[長岡]一学女) 1821-89 69 肥後熊本藩士の娘、歌人、  
豊前宇佐八幡宮大宮司の到津公蝦きみとみの妻、到津公誼きみよしの母
- H1013 梁子(あやこ・臼田うすだ、) 1810-1879 70 但馬出石藩士臼田秋良あきよし(国学者)と結婚、  
出石郡の歌人
- I1039 あや子(あやこ・古屋ふるや、) 1828-1906 79 紀伊那賀郡の生/芸妓、歌人; 加納諸平門、  
和歌山藩士の古屋菅賢すがよし(1818-1906/国学/神職/歌人)の妻、  
[あや子の別名] 安益子/可能
- I1003 綾子(あやこ・富田とみた、富田節斎[礼彦いひこ]2女) 1840-62 早世 23 飛騨高山の歌人、富田道彦の妹  
文子(あやこ・ふみこ?・若江) → 薫子(におこ・若江わかえ、和漢学/歌) 3 3 1 2  
文子(綾子あやこ・工藤) → 眞葛(まぐず・只野ただの/工藤、歌人/随筆) 4 0 6 3  
あや子(あやこ・沢辺) → あやめ(4世菖蒲あやめ・芳沢、歌舞伎女形/狂歌) G 1 0 2 3  
綾子播磨(あやはりま: 法体名) → 東南(とうなん・近松、浄瑠璃作者) G 3 1 8 2
- C1045 綾助(あやすけ・沢村) ? - ? 上方歌伎役/1735作、講釈師、太閤記を読む  
1748中村座頭取-44「傾城千引鐘」著  
礼助(あやすけ・志村) → 天目(てんもく・志村しむら、篆刻家/俳人) E 3 0 4 0  
綾介(あやすけ・伊藤) → 稻置(いねぎ・稲木いなき・堀川、医者/国学者) I 1 1 0 5  
綾瀬(あやせ → りょうらい・亀田) → 綾瀬(りょうらい・亀田、儒者) 4 9 2 5
- 1028 綾足(あやたり・建部たけべ、旧姓; 喜多村、喜多村政方2男) 1719-74 56 津軽弘前藩家老の家、  
弘前に生/早く父と死別/1738(20歳) 嫂と密通事件露呈; 出奔/1739より諸国行脚; 41出家、  
東福寺僧、俳諧; 野坡・希因門、大阪・長崎住/1747江戸浅草に吸露庵を結び俳諧師; 涼袋名、  
1748還俗、50再度長崎で絵師; 熊斐・玄德門、51大阪で絵師; 眼疾/江戸金竜山下に結庵、  
1753母の勧めで豊前中津藩主奥平昌敦に絵師として出仕/藩命で再び長崎で画修業、  
山水画; 費漢源門/1756江戸へ/57深川の歌妓の紫苑しおん(のち伎都)と結婚;  
眼疾悪化; 中津侯汐留邸で療養、1758上毛遊歴/60下総佐原の楫取魚彦徒交流、  
1763(45歳)片歌説を唱道/俳諧を排す、反駁多く反論書も多数出る、  
国学: 1763賀茂真淵門、京で古典研究/国学を講ず、  
花山院常雅から[片歌道主]の称号を受、鳴海の下郷学海と交流: 学海は後援者となる、  
尾張俳壇と論争、1773京を出て上毛を遊歴; 旅中発病/江戸帰府後没、  
俳諧・片歌・歌・国学・読本などの多彩な著作活動、楫取魚彦・沢田一斎・下郷学海と交流、  
俳諧; 「枯野問答」「希因涼袋百題」「いせのはなし」「俳諧南北新話」「続三疋猿」「俳諧源氏」、  
「紀行俳仙窟」「角合」「古今俳諧明題集」「芭蕉翁頭陀物語」「春興集」「杖のさき」、  
「恋の百韻」「つぎほの梅」など、  
片歌/歌; 「片歌道のはじめ」「褒貶片歌」「片歌百夜問答」「片歌東風俗」「片歌磯玉藻」、  
「片歌くさのはり道」「片歌艸まくら」「片歌旧宜集」編、「とはじぐさ」「いはほぐさ」、  
「歌文要語」「田家百首」「はしがきぶり」「吸綾露庵歌集」「綾太理家の集」など、  
国学; 「旧本伊勢物語」「伊勢物語考異」「伊勢物語古意追考」「万葉綾足草」「万葉以佐詞考」、  
「詞草小苑」など、  
読本; 「西山物語」「本朝水滸伝」など、  
紀行・随筆; 「梅日記・さくら日記・卯の花日記」「寒葉斎道行風俗」「折々草」「すずみ草」など、  
絵画; 「寒葉斎画譜」「孟喬和漢雑画」「建氏画苑」「漢画指南」など  
[昼の蚊の夢や一筋薯蕷いもの蔓つる](支考「三疋猿」/葛鼠号)、  
[奥山は山鳩鳴きて花もしづけき](綾太理家の集; 片歌)、  
[建部綾足(; 名)の前名/号]前名; 喜多村金吾久域ひさむら、  
俳号: 葛鼠かつそ・都因といん・涼袋[袋]りょうたい・浅草庵/吸露庵、片歌道主、  
画号; 建凌岱・建長江・孟喬・寒葉斎、  
歌号・物語号; 砺波荒虫(越中砺波住; 1771「いはほぐさ」)/綾足  
兄 → 久通(ひさむら・喜多村、弘前藩家老/歌) J 3 7 2 4  
妻 → 紫苑(しおん、建部たけべ、伎都きつ、歌/絵師) B 2 1 2 8

- 綾太郎(あやたろう・犬上)→ 吉元(よしもと・犬上いぬがみ/伊織、神職) L 4 7 6 1  
綾知(あやち・言葉、狂名)→ 杜芳(とほう・岸田/櫻川、表具師、黄表紙) 3 1 5 6  
綾継(あやつぐ・文亭) → 桂素(けいそ・宮崎、俳人/人情本作者) 1 8 8 1  
あやつこ(；大和物語)→ 千兼女(ちかぬのむすめ/ちかぬがむすめ・藤原、歌) B 2 8 4 9  
文人(あやと・二宮) → 兼善(かねよし・二宮、藩士/和算/地誌) P 1 5 0 9
- B1059 **文成**(あやなり・橘宿禰たちばなのすくね、佐為男)?-? 奈良期：万葉四期歌人、卷六1014：737年正月宴の歌、  
[一昨日をとつひも昨日きのふも今日も見つれども明日あさへ見まく欲しき君かも](万葉；1014)、  
(君は宴の主催者弾正尹だんじょうのいん門部王かどべのおおきみ)
- B1060 **斐成**(あやなり・小林こばやし、通称；弥内、号；柳園)?-? 1826存 江戸の歌人：清水浜臣門、  
1798千蔭の万葉竟宴歌会参加、1822「ふるの中道弁」、「斐成歌文集」著、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
[手すさびにわが植竹も一むらの夏を忘るるかげとなりけり](大江戸倭歌；夏420/新竹)
- G1033 **綾織主**(あやのおりぬし) ? - ? 上州狂歌；1787「才蔵集」入；466  
[行燈のきゆる思ひにうば玉のよなよな君を待ちあかしけり]
- 綾小路(あやのこうじ) → 雅頼(まさより・源、猪隈中納言/歌人) I 4 0 7 9  
綾小路(あやのこうじ) → 尊性法親王(そんしょうほつしんのう、天台座主) E 2 5 9 1  
綾小路(あやのこうじ) → 性恵法親王(しょうえほつしんのう、妙法院主) W 2 2 4 2  
綾小路前按察使(あやのこうじさきのあざち)→ 生覚(しょうかく；法名、綾小路経資、廷臣/歌人) H 2 2 7 3  
綾小路三位(あやのこうじのさんみ)→ 行能(ゆきよし・世尊寺、鎌倉期歌人) 4 6 2 6  
綾之亮(あやのすけ・入間田)→ 一兮(いっけい・入間田いりまだ、俳人) H 1 1 0 2
- H1054 **文信**(あやのぶ・幸田こうだ、通称；直次郎)?-1866 石見大田の国学者/歌人、草臣くさおみ(1802-63)の弟
- I1041 **斐張**(あやはる・堀ほり、通称；弥五助/恒一郎) 1832-9160 紀伊田辺藩士；藩老、国学・歌；能代繁里門
- G1070 **綾彦**(あやひこ・綾部あやべ) ? - ? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[早苗とるみとしろ小田の朝しめり賤が小笠の重げなるかな](大江戸倭歌；夏488)
- 綾彦(あやひこ・千柳亭) → 唐麿(からまる・千柳亭、錦織、狂歌) F 1 5 9 6  
礼彦(あやひこ→いやひこ) → 筋斎(せつさい・富田、国学者) L 2 4 0 3
- F1013 **文仁親王**(あやひとしんのう、靈元天皇皇子) 1680-1711 32歳 江前中期；八条宮・京極宮、  
歌「文仁親王歌稿」、「神代聞書」著  
綾姫(あやひめ・津軽/松平)→ 信寧室(のぶやすのしつ・津軽つがる/松平、歌) J 3 5 0 9
- F1014 **綾平**(あやひら・松尾まつお、通称；弥右衛門、号；雀松原舎) 1816-8671 撰津五百崎の里正、  
国学；加納諸平もろひら/六人部むとべ是香よしか門、産土神社祠官、「広田神社考」著
- I1080 **綾文**(あやふみ・吉津よしづ、通称；弥七郎) 1832-1918 87 陸奥会津郡の国学者/神道；菊田和平かずひら門、  
国学；本居豊穎門/漢学・歌；小杉楡郵すぎむら門
- C1077 **綾丸**(あやまる・文狂亭) ? - ? 人情本：文亭綾継門、1827綾継「糸桜形見釵」序、  
1832「風縁情史桐の一葉」著  
綾丸(あやまる・筆、狂名) → 歌麿(うたまろ・喜多川、絵師) 1 2 7 0  
綾丸(あやまる・矢田良) → 矢田良綾丸(やたらあやまる、狂歌) E 4 5 5 0  
綾丸(あやまる・伊藤) → 義足(よしたり・伊藤/伊東、商家/歌人) E 4 7 4 4
- F1015 **綾麿**(あやまる・歌垣うたがき、名；隆度、九鬼隆郷男) 1800-5354 丹波綾部藩主/1808襲封/22隠居、  
狂歌；鹿都部真顔まがお門；師より歌垣の号を譲受/江戸苧環おだまき連の長、「苧環集」著  
綾麿(あやまる・千柳亭) → 唐麿(からまる・千柳亭/錦織、綾彦、狂歌) F 1 5 9 6
- H1041 **綾村**(あやむら・河原田かわらだ、) 1832-1905 74 陸奥会津郡の国学者、  
[綾村(；名)の通称/号]通称；幸七、号；倭文廼舎しづのや
- 1029 **あやめ**(初世菖蒲あやめ・芳沢よしざわ) 1673-1729 57 元禄期歌舞伎役者；女形・芸談「あやめ草」著
- G1023 **あやめ**(4世菖蒲あやめ・芳沢よしざわ)?-? 歌舞伎役者；女形/狂歌作者；  
狂名；沢邊さわあや子・あやめの真久良、1785後万載集1首入；755(沢邊あや子名)、  
[ざれ哥にきゝつたふ名は高ひこの君もはじめてきさらぎの比こる](後万載；755)、  
(如月の頃山道高彦が訪れたので詠む)

- 山道高彦(やまみちのたかひこ) → 高彦(たかひこ・山道、山口彦三郎/幕臣/狂歌) D 2 6 5 2  
 菖蒲(あやめ・曾根) → つや女(つやじよ・曾根そね/森山、俳/歌人) F 2 9 8 8  
 あやめの眞久良(あやめのまくら) → あやめ(4世菖蒲あやめ・芳沢) G 1 0 2 3
- F1016 文藻(あやも・小宅おやけ/清原、名;高保、高一男) 1793-1865 73 下野真岡木綿買継問屋、国学/歌・書画、  
 「英雄風雅真心記」「版下濫觴聞書」「水草雑記」「水草大和雑記」、「小宅文藻家集」著、  
 [文藻の通称/別号] 通称;喜太郎/喜兵衛/保兵衛、屋号;渋川屋、  
 別号;水草庵/日新斎(谷文晁より贈号)/立花園/毳翁(いお)翁/毳霞山樵(いかさんしょう)翁/毳霞老人  
 あやもち(古今1105) → 山茂(やまもち・凡、歌人) E 4 5 4 1
- I1056 斐之(あやゆき・吉島よしじま、) 1837-1915 79 飛騨高山の商家;代々生糸・繭の売買・金融・酒造業、  
 1875高山大火で類焼;再建/1905再び類焼/1907(明治40)豪邸再建;大工川原町西田伊三郎、  
 好学者/国学;上木清茂・富田節斎(礼彦(いやはこ)門、  
 [斐之(;名)の字/通称/号]字;貴敵、通称;休兵衛、  
 号;后村こうそん/天手扱廼舎/赤構園せきとうえん
- F1017 文宝(あやし・大地おおち、字;伯政/拙静、大地千吉の養子) 1777-1827 51 加賀藩士;1785家督、詩・書、  
 画;谷文晁門/墨蘭画、市河寛斎/大窪詩仏と唱酬、「孝行人等行状書」編、  
 [文宝の通称/号] 通称;文作/順之助/順左衛門/縫殿左衛門(ぬいざえもん、号;蕙斎(けいさい)  
 斐(あやる・神代/熊代) → 繡江(しゅうこう・熊代/神代くましろ、通事/絵師) H 2 1 3 6  
 斐(あやる・木村/小泉) → 檀山(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画) I 2 6 7 9  
 綾若(菖蒲若あやわか・藤原) → 頼長(よりなが・藤原、左大臣/日記) 4 7 3 4
- C1078 綾人(あやんど・庭訓舎/初号;筆綾人、久野くの与兵衛) ?-1813 50 余歳没 江戸書家;師範、  
 狂歌;本町側判者、英賀の師、1800「あたみ土産」/04「狂歌かゆ杖」編  
 阿唯(あゆい;法名) → 定為(さだため・安藤あんど、歌人) I 2 0 4 9  
 蛙遊(あゆう・翠柳軒) → 秀麿(ひでまろ・鈴鹿すずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
 年魚市人(あゆちじん) → 光葆(みつしげ・牧まき、絵師/国学) K 4 1 5 1
- B1061 年魚麻呂(あゆまる・若宮わかみや) ?- ? 万葉三期伝誦歌人;387-9・1429-30  
 万葉三期歌人;万387(柘枝仙媛伝説)388-9(淡路・敏馬の旅歌)・八1429-30(桜の歌)  
 [鳥伝ひ敏馬(あゆまる)の崎を漕ぎ廻みれば大和恋しく鶴たづさはに鳴く](万葉;389;誦詠歌)  
 啞羊子(あやし;号) → 宗胃(そうい;法諱・清庵;道号、臨濟僧) 2 5 5 0  
 荒井の入道(あらいのにゅうどう) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8  
 荒右衛門(あらいえもん・大久保) → 史邦(ふみにくに・中村なかむら、医者/俳人) D 3 8 8 5
- B1062 荒雄(あらお) ? - ? 遭難死 筑前糟屋郡志賀村の海人(白水郎あま)、  
 神龜年間(724-729)友人宗形部津麻呂の代行で対馬に食糧運送;暴風雨で遭難、  
 万葉3860-69(10首短歌連作)筑前志賀白水郎歌群(3869左注に経緯/山上憶良が妻の代作)  
 荒尾(あらお・鹿子田) → 清麿(きよたか・鹿子田かのこた、藩士/国学) P 1 6 8 0
- G1031 荒木田土持(あらかきたつちもち) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;445、  
 [くどけども落ちぬ心は石梨いしなしか返事にかたき芯をあらはす](才蔵集;445)、  
 (石梨は意志無し・堅き芯は堅き心を掛ける)  
 荒五郎(あらごろう・市川) → 桑太郎(くむたろう・中村、3世佐野川市松、歌舞伎役者) B 1 7 7 3
- E1048 嵐(あらし;組連) ? - ? 江戸愛宕下敷小路の雑俳の組連、  
 取次;1748「筑丈評万句合」入;  
 取次例;[美目みめ能よきは我に惚れつゝ縁遠き](万句合/前句いろいろか有り々々)、  
 (自己陶醉に陥る)  
 嵐(あらし・印南) → 博文(ひろふみ・印南いんなみ、神職/教育) I 3 7 5 6
- B1063 新(あらた・鈴木すずき、通称;好太郎/有之丞、達の長男) 1816-83 68 江戸一橋家臣;お伽衆/広敷用人、  
 国学・歌人;独学、主君慶喜の歌の師、蔵書家、  
 「冠辞目安」「蟋蟀考」「大宮の道の記」「苗代水」著
- I1062 荒田(あらた・安永やすなが、通称;荒太) 1827-94 68 筑後久留米藩士、  
 国学者/歌人;船曳磐主(いわた) (鉄門)門  
 璞屋(あらたまのや・たまや) → 可道(よしみち・宇井い、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0
- B1064 荒耳(あらみみ・大田部おおたべ) ?- ? 755防人/下野国火長(かちよう)、万葉廿4374

- [天地あめつちの神を祈りてさつ矢貫ぬき筑紫の島をさして行く我われは](万葉;廿4374)  
 荒虫(あらむし・礪波住1771「いはほぐさ」)→ 綾足(あやたり・建部) 1 0 2 8  
 荒虫(あらむし・礪波) → 今道(いまみち・礪波となみ/辻つじ、漆工/綾足門国学者) I 1 1 2 8
- G1025 蘭下照(あららぎのしたてる) ? - ? 上州高崎狂歌:1787「才蔵集」2首入;  
 [空に熨斗のし進上しんじやうもなくほとゝぎすさ少ながらとたつた一声](才蔵;117)  
 蘭の舎(あららぎのや) → 紀孝(のりたか・島村しまむら、商家/国学) I 3 5 7 0  
 あられ庵(あられあん) → 太呂(たいよ・安楽院、修験僧/俳人) L 2 6 2 0
- G1028 霰柿持(あられのかきもち) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入:420  
 [解けさうでとけぬなさけの薄氷げに川竹のはりの強さよ]、  
 (才蔵集;420/川竹;遊女の身の上/はりは意地っ張り)
- G1048 有明(ありあき・秦はた) ? - ? 平安前期廷臣;漢学者、  
 主典代;院中の記録・公文作成、本朝文粹入;  
 926(延長4)7月4日記在昌の「宇多院の河原院左大臣源融の為没後諷誦を修する文」を記録、
- I1091 在章(ありあき・菅原すがら、刑部卿淳高あつたか2男) 1206-68 母;藤原範綱女、鎌倉期廷臣;文章得業生、  
 民部少輔/少納言/大学頭/文章博士、1260(文応元/55歳)従三位非参議、龜山天皇侍読、  
 1263式部権大輔/65正三位/68(文永5)従二位;中風に罹患/出家;没、  
 良頼の弟/在匡(祖父淳高の養子)・在守(後宇多天皇侍読)・在元の父、  
 漢学/詩人;1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、  
 [千年水冷経行日 五障雲晴仏力風](定家追善二十八品並九品;25/提婆品)
- F1018 有秋(ありあき・堀尾ほりお/本姓源、庵原いおはら[千村]守富男)?-1805 尾張医者;堀尾秀斎しゅうさい養嗣、  
 1800「秀斎先生事状並遺事」編、「追遠正俗」  
 有彰(ありあき・桂) → 青洋(せいよう、含水園、商家/絵師/狂歌) J 2 4 6 9  
 有秋(ありあき・逸見) → 在綱(あつな・逸見へんみ、医者/勤王派) F 1 0 4 4  
 有秋(ありあき・中津川/玉川)→ 春庵(しゅんあん・玉川、医者/詩文) 2 1 9 6  
 有明(ありあき・紀) → 有朋(有友ありとも・紀、歌人) B 1 0 8 2
- G1049 有章(ありあき・藤原ふじわら、右大臣藤原恒佐男)?-? 平安前期廷臣;従五位上尾張守、  
 漢学者;大学寮学生がくしやう、正六上/941文章生試を受験せよとの勅が出ている、  
 大学寮での別称;藤群とうぐん、  
 本朝文粹入(;菅原文時の有章を讃える詩)  
 有明庵(ありあけあん) → 一之(いっし・白井、俳人) B 1 1 4 6  
 有明廼舎(ありあけのや) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0
- F1019 有言(ありあや・六条ろくじやう/本姓;源、初名榮保、久世通根みちね男) 1791-1846 56 江後期廷臣;  
 六条有家の養嗣子:1837参議/右近中将、従二位/1845致仕、法号;孝恭院、  
 1809-11「六条有言卿記」著
- 1030 有家(ありいえ・藤原、初名;仲家/法名;寂印、重家男) 1155-1216 62 母;家成女、1202大蔵卿/従三位、  
 少納言/1215出家、六条藤家有力歌人;1186経房歌合/90「花月百首撰歌」/93六百番歌合参加、  
 1199御室五十首/水無瀬殿恋十五首、1201千五百番歌合参加、13内裏歌合参加、  
 1215院四五番参加;出家寂印名、1201和歌所寄人、1205新古今集の撰者、詩;和漢兼作集入、  
 月詣集・玄玉集・万代集・秋風集・雲葉集(7首)・夫木抄入、  
 勅撰68首;千載(1154)新古(19首53/75/98/261/377以下)新勅(4首)続後撰(3首)続古以下、  
 経家(正三宮内卿)・顕家(正三少納言)の弟/成円(興福寺僧都)・仁快(玉泉坊)の兄、  
 有季・公経・有快・公縁(三井寺僧正)の父  
 [太宰大弑重家入道みまかりてのち山寺懐旧といへる心をよめる、  
 初瀬山いりあひの鐘をきくたびに昔のとほくなるぞかなしき](千載;雑1154)、  
 [散りぬればにほひばかりを梅の花ありとや袖に春風の吹く](新古今;春53)
- F1020 有家(ありいえ・小槻おつき/壬生みぶ、初名;敦兼/有兼、小槻通時男)?-1280 廷臣/1233主殿頭、  
 1252兄淳方の嗣;左大史/豊前守/修理東大寺大仏長官、「有家宿禰奏聞状」著
- F1021 有家(ありいえ・巨勢こせ・光康男)?-? 鎌倉後期絵師、「解脱明恵上人縁起絵巻」画
- F1022 在家(ありいえ・唐橋かはし/本姓菅原、初名在富、法号蘭園院、在廉男) 1729-91 63 兄在秀の嗣子;廷臣、  
 1751文章博士、64参議/76正二位/79権大納言、

1765「白詩明和抄」、「畢用録」、「在家卿記」著、「歴朝叢藻」編

息 → 在熙(ありひろ・唐橋、廷臣/詩人) F 1 0 7 0

- F1023 在氏(ありじ・菅原すがら、為俊男)?-? 鎌倉期兵部権少輔/豊後権介、  
歌;1246春日若宮歌合参、  
[君をのみ祈る三笠のみしめ縄万代よほかけて神もうけひけ](若宮歌合;三十七番右)
- C1096 有氏(ありじ・藤原ふじわら、氏綱男)?-? 南朝廷臣;阿波守?、歌人/四位、歌;新葉集583、  
[跡たれし神代久しき五十鈴川清き流れぞ今も絶えせぬ](新葉集;九神祇583)
- F1024 有榮(ありえ・津田づ、初名;有禎/良基、八郎右衛門男)1678-1761<sup>84</sup> 信濃上田藩士、  
儒;伊藤仁斎・東涯門、神道;笠英証・土屋文左衛門門、藩内祠官に紀神代巻を講義、  
藩主弟の松平忠容の養育係、1747致仕、  
「養生要歌」「徒然草解」「家塾小史」「心休雑話」「白雲抄」「芳林前集」「韻鏡私記」著、  
[有榮の号] 求己/心休、法号;教学院
- I1094 有雄(ありお・大神/おおが・おおみわ)?-? 南北期;歌人、細川家ゆかりの人、  
歌;1375頃細川頼之(1329-92)奉納[大山祇神社百首]出詠、  
[訪とへかしの籬の花に置く露の涙かずそふ秋のゆふぐれ](大山祇百首;77/秋夕)、  
[いかにせむこゑ弱り行く鈴虫のよそにのみなる人の契を](同;寄虫恋)
- C1031 有雄(在雄/蟻雄ありお・新井あらい、)?-? 江後期文化1804-18頃;尾張名古屋藩士、  
国学・1789宣長門、歌;田中道麿門、1792「畚舜問答筆録」著/「面話之次第」編、春風集入、  
[有雄(;名)の通称/号]通称;宇兵衛、号;白梅居  
有雄(ありお・甲斐) → 兼親(かねちか・甲斐かい、国学者) U 1 5 0 8  
有香(在香ありか・柏淵) → 松庵(しょうあん・柏淵かしづち、国学/歌人) G 2 2 6 1
- F1025 在数(ありかず・唐橋からはし/本姓;菅原、法号;忠良院、在治ありはる男)1448-96<sup>殺害49</sup> 室町戦国期廷臣;  
1485式部大輔/大内記/87文章博士、92大学頭/正四下、1496(明応5)九条殿里亭で殺害、  
「菅原在数消息」あり、連歌;1486三吟門何百韻(権帥葉室教忠・父中納言入道在治と)、  
新菟2句入、在名の父
- F1026 在一(ありかず・箕曲みのわ、字;必貫、箕曲荻斎養子)1813-68<sup>56</sup> 伊勢岩淵神職;御筥作用人/天文方弁、  
詩文/歌、「仮御樋代御用記外宮」著、  
[在一の通称/号] 通称:主馬/八蔵/甚太夫、号;千牛
- F1027 有一(ありかず・杉木すぎき弥一、字;得甫/通称;弥五郎、有恒男)1825-92<sup>68</sup> 越中新川郡石割村十村役、  
御扶持人十村/藩土木事業/百姓一揆鎮撫、1842「有峯村古文書写」編、「越中国誌」編、  
1842「有峯村登山日記」55「有峯村巨細帳」58「安政地震山崩」、「拾貳貫野新開濫觴」著  
有員(ありかず;狂歌名) → 千代有員(ちよのありかず) K 2 8 4 5
- J1001 有賢(ありかた・源みなもと、勘解由判官の政成男)?-? 平安後期廷臣;玄蕃頭、歌人、  
1083(永保3)四宮篤子内親王家歌合に参加;  
[日にそへてにはほひぞまさる藤の花千年の春をおもひこそやれ](四宮歌合;五番藤)
- B1065 有賢(ありかた・源みなもと、政長男)1070-1139<sup>70</sup> 楽家;郢曲・笛・和琴・箏・笙に通ず、三河守・阿波守、  
宮内卿/従三位、今様の名手;鳥羽院が伏見殿御行時に歌唱を賞美(郢曲相承次第入)、  
1105堀河天皇の殿上花合に桜人を唱う(古今著聞;卷19入)、  
大和葛城の里の豊浦とよら寺・榎葉井えのはい古跡で葛城を唱う(無名抄入)
- F1028 有方(ありかた・源みなもと、源[足助]太郎重貞男)?-? 三河足助の住人/連歌・  
1356成立「菟玖波集」2句(1131/1551)入、  
[うつりゆく世のならひこそ知られけれ](菟玖波;十六雑1551)  
(前句;あだなる花の色を見るにも)
- F1029 在方(ありかた/あきかた・賀茂かも、在弘男)?-1444 室町期陰陽家;宮内卿/暦博士・陰陽頭/1426正三位、  
1429-41(永享)頃足利義教の勘気;籠居、1414「掌中暦」、14「暦林問答集」著
- H1007 在方(ありかた・上野うゑの/大神、)1810-76<sup>戦死67</sup> 肥後熊本藩士/国学;林有道門、  
1876(明治9)敬神党に参加;反乱(神風連の乱)は鎮圧され戦死、  
[在方(;名)の通称/号]通称;堅吾/堅五、号;比山
- L1059 有位(ありかた・宮坂みやさか、伊三郎男)?-? 江中期信濃諏訪郡上諏訪の酒造業;志茂布屋しもぬのや、  
伊三郎(;父?)が創業1756(宝暦6)、国学者;荒木田久老ひさおゆ(1746-1804)門?

- [有位(；名)の通称]伊三郎(父の称)、恒由つねよし(1795-1858)の祖父  
 有方(ありかた・高野) → 隆礼(たかのり・高野たかの、和算家/教育) M 2 6 8 8
- F1030 在廉(ありかど・唐橋からはし/本姓菅原、法号安泰院、在隆男) 1687-1750<sup>64</sup> 廷臣;1721大学頭/文章博士、  
 1734参議/正二位、「在廉朝臣記」/1711「改元私記」、「寛保度改元勘文并僉議」著  
 有兼(ありかね・小槻) → 有家(ありいえ・小槻おづき/壬生、廷臣) F 1 0 2 0  
 有賀廻舎(ありがのや) → 米積(よねかず・高島たかばたけ、商家/国学) N 4 7 7 3
- H1014 有木(有樹ありき・内田うちだ、通称;武右衛門) 1803-79<sup>77</sup> 越前坂井郡の商家;惣右衛門家の分家、  
 歌人;内田庸もち(惣右衛門)門/国学;福田美楯みて門  
 有木居士(ありきこじ) → 良直(よしなお・岩月いわつき、藩士/歌人) L 4 7 6 8
- F1031 在清(ありきよ・箕曲みのわ、通称甚太夫)?-?1655-58頃没 伊勢岩淵曆算家、伊勢曆版行、  
 土御門家梅小路邸の曆術問答で不遜;投獄;赦免;冤罪?、「見行草案」著
- F1032 有清(ありきよ・阿部、字;伯周、貞右衛門男) 1821-97<sup>77</sup> 阿波石井町和算家;1833小出兼政門、  
 蘭学;高島耕斎/名村貞五郎門、天文;1856土御門家入門、1862徳島藩徒士;津田砲台築造、  
 徳島で子弟教育、1847「球欠積」/50「算法三台精解」61「新編加減表」外著多数、  
 [有清の通称] 虎吉/雄助/虎之助惟一  
 有清(ありきよ・佐伯) → 桜谷(おうこく・佐伯ささき、儒者/詩人) C 1 4 1 2
- B1066 有国(ありくに・藤原ふじわら、初名;在国ありくに、字;藤賢、大弍輔道4男) 943-1011<sup>69</sup> 平安中期廷臣;  
 年少寺は父に随い地方を転々とする受領階級/文章生;漢学を菅原文時門/大学寮;紀伝道、  
 963(応和3)文章得業/三善道統邸[善秀才宅詩合]左方で参加/964勸学会組織に参加、  
 962春宮雑色;守平親王に出仕/972播磨権大掾/973冷泉院判官代/藤原兼家の家司、  
 977従五下/978石見守/984越後守/従五上/986正五下左少弁兼五位蔵人;帰京/987従四下、  
 右中弁/従四上左中弁;兼家が平惟仲と共に[左右のまなこ]ち評す、986正四下右大弁、  
 勘解由長官兼任、990(正暦元)従三位蔵人頭/兼家後継をめぐる藤原道隆の恨みを買う;  
 蔵人頭・右大弁解任/991秦有時の暗殺計画連座;除名/992復位;従三位/994勘解由長官、  
 陰で妻で一条天皇の乳母であった橘徳子による一条天皇への働きかけがあったか、  
 995道長の政権;宋との交易拡大・西海道再建計画に在国を大宰大弍就任;九州統治を一任、  
 道長の家司/996(長徳2)有国に改名/正三位、997長徳変で大宰権帥左遷の藤原伊周を厚遇、  
 997-999高麗の入寇に対処/1001(長保3)従二位参議/1003勘解由長官/1010修理大夫、  
 一方で宋商人曾令文・豊後守穴太愛親などより在国の不正横領を奏上している、  
 漢学者、詩;善秀才宅詩合/栗田左府尚齒会参加、家集「勘解由相公集」、  
 詩:本朝麗藻16首/新撰朗詠入、江談抄に逸話、歌;玄々集入、  
 [(大宰府大弍)任はてて京にのぼる時 香椎社にて、  
 五とせはしるしの杉につかへてきことしはむめの花の都へ](玄々集44)、  
 [有国の通称] 勘解由相公/弼宰相
- B1067 有国(ありくに・浦井うらい、名;隆屋) 1780-1858<sup>79歳</sup> 京の刀剣の柄糸商/書肆業を兼ねる、  
 歌;富士谷御杖門、俳諧;入江斗雪門、古人の短冊蒐集;[短冊天狗]と称される、  
 1817「梅花帖」25「眺望集」著/37「新六歌仙」編、「月の友」著、  
 [有国(；名)の通称/別号] 通称;徳右衛門/五一郎/清右衛門、  
 別号;俳仙堂/諧仙堂/更新軒/緑亀庵、屋号;柳屋/上菱屋
- F1033 有邦(ありくに・川越かわごえ、衡山こうざん男) 1790-1827<sup>38</sup> 医者;1826医生/従六下/内匠少允、  
 「鶏林情盟」編
- G1071 有国(ありくに・森もり) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [涼しさよ立ち寄りみれば柳かげ風はよそよりかよふなりけり]、  
 (大江戸倭歌;夏649/柳下納涼)
- H1020 有邦(ありくに・大江おおえ、受山男) 1810-88<sup>79</sup> 近江愛知郡池庄の医者;父門/京山門、  
 長崎で檜林国手門/シーボルトに従い種痘の技を受く;郷里に種痘技術を普及、  
 歌人;[鴉のうみ]入、  
 [有邦(；名)の初名/通称] 初名;邦年、通称;太仲  
 有邦(ありくに・千賀) → 信立(のぶたつ・千賀ちが/せんが、家老/武術) B 3 5 8 8

- 在邦(ありくに・佐渡) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5
- B1068 **有功**(ありこと・千種ちぐさ/本姓;源、有糸ありえだ男) 1797-1854<sup>58</sup> 廷臣;1819和歌御人数、1827左近中将、1832正三位、歌人;一条忠良/職仁親王/久世通理門、四条派書画、景樹/季鷹すたかと交流、千蔭/翁満おきなまららとも交流、「有功卿家集」「秋野集」「千々廼舎集」「千有集」「千種のにしき」、「ふるかがみ」「耳なし艸」「赤穂義士像の和歌」「千種有功卿家集」「千種集」「和漢草」外多数、[いとどしく霞にけりな遠つあふみ浜名の橋の春の夜の月](千々廼舎集:春)、[有功の号] 千々廼舎ちぢのや/鶯蛙園/在琴、橘蔭道、法号;紫乘院、養嗣子;有文ありふみ  
有維(ありこれ→ありふさ・千種)→ 有維(ありふさ・千種/源、廷臣/大納言) F 1 0 7 3
- B1069 **有定**(ありさだ・藤原/家名;日野、初名;有房、実綱男) 1043-94<sup>52</sup> 母;源道成女、淡路守、関白師実家の家司、歌人;金葉Ⅱ347(Ⅲ358)、[恋しさはその人かずにあらずとも都をしのぶ中うちに入れなん](金葉集;六347)(わが恋は意中の人心の数に入らなくても都を懐しむ人の中には入れてほしい)
- H1028 **有定**(ありさだ・大西おおにし、旧姓;岡本) 1775-1856<sup>82</sup> 備前邑久郡豊原村長沼の南島神社祠官、歌;業合大枝門、絵師;人物画/書;大高家入門、村社の宇佐八幡宮外10社の神職兼任、邑久郡の神職組頭、絵師自得斎修得・武田五峰らと交流、子弟教育、[有定(;名)の通称/号]通称;民部、号;圭山
- F1034 **有貞**(ありさだ・藤岡ふじおか、字;子明/通称;雄市、童七男) 1820-49<sup>30</sup> 出雲松江藩士;1845家督継嗣、1849蘭学測量格別出精;病のため帰郷、和算:中溝利一門/測量・天文:内田五観門/地理;箕作阮甫門、1839「五明算法前集解」42「算法活問答」45「算法円理通」/46「渾発量地速成」、「算法瑚璉解」/「算法活問答後編」著/「天体略説」訳、[有貞の号] 観瀾/蘭圃/暘谷ようこく/景山/成象堂、法号;覚量院  
有貞(ありさだ・船曳) → 谷園(こくえん・船曳ふなびき、医者) E 1 9 9 1  
有禎(ありさだ・津田) → 有栄(ありえ・津田、藩士/儒/神道) F 1 0 2 4  
有定(ありさだ・中根) → 元珪(元圭げんけい・中根なかね、暦算家) B 1 8 6 3  
有定(ありさだ・小幡/鈴木)→ 重嶺(しげね・鈴木/穂積、幕臣/歌) C 2 1 6 5  
有定親王(ありさだしんのう) → 公寛親王(こうかんしんおう、天台僧) I 1 9 1 3
- F1035 **有郷**(ありさと・本居もとおり/長谷川/小津、春庭男) 1804-52<sup>47</sup> 伊勢松阪の国学者;家学、長谷川源右衛門猶子、小津石斎養子;1822離縁、歌人;「有郷詠草」「月次会歌集」「癸未年歌合」「戊子年月次歌合」著、[有郷の通称] 健蔵/与右衛門/源之助  
有郷(ありさと・金子) → 有卿(ありのり・金子かねこ、神職/歌人) H 1 0 3 6
- C1079 **有実**(ありさね・藤原ふじわら、良仁男) 847-914<sup>68</sup> 平安前期廷臣;蔵人頭/左中将/882参議、伊予・近江権守、左衛門督、歌人、913亭子院歌合左方人
- H1084 **有孚**(ありさね・田中たなか) 1744- 1806<sup>63</sup> 近江彦根藩医/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、[有孚(;名)の字/通称]字;無世/君甫、通称;沢庵/可庵
- I1074 **有実**(ありさね・山脇やまわき、)? - ?文化(1804-18)頃没 備前の医者/歌人;澄月門、京・江戸住、[有実(;名)の通称/号]通称;右膳、号;怡顔/懐順
- F1036 **有孚**(ありさね・横川よこかわ) ? - ? 江後期能登所口の医者;小森桃塙門、1818「中庸啓繹」著
- H1095 **有孚**(ありさね・高橋たかはし、) 1793-1864<sup>72</sup> 佐渡河原田の商家、上方(京阪)に往復;文士と交流、歌・連歌を能くす、交孚かたさねの父、[有孚(;名)の通称/号]通称;又右衛門、号;如文
- H1002 **有重**(有成ありしげ・大江おおえ、法師)?-? 平安後期;文章生/出家;法師、袋草紙;位署の書様の割注に江の進士有重法師曰く;[堀河院の御時の和歌に京極大殿位署を散位従一位藤原朝臣と書かしむ]云々、[袖中抄]の江進士有成法師と同一?
- B1070 **在茂**(ありしげ・菅原すがわら、是基or在長男) 1121-1200<sup>80</sup> 「猪隈関白記」669入
- B1071 **有季**(ありすえ・文屋ぶんや、別名;有材ありき)?-? 平安前期歌人、古今997、康秀説あり、[神無月時雨降りおけるならの葉の名におふ宮の古るごとぞこれ](古今集;十八997)、



(貞観御時ちやうぐわんのおほんとき万葉集は何時作られたかと聞かれて詠む/檜と奈良を掛る)

- 康秀(やすひで・文屋ふんや、古今歌人) 4 5 2 5
- 有季(ありすえ・藤原) → 寂忍(じゃくにん、僧/連歌師) G 2 1 3 5
- 有季(ありすえ・藤原) → 浄意(じょうい、廷臣/僧/歌人) Q 2 2 8 9
- 有栖川宮(4世ありすがわのみや) → 正仁親王(ただひとしんのう、歌人) Q 2 6 6 3
- 有栖川宮(5世ありすがわのみや) → 職仁親王(よりひとしんのう、歌人/書家) J 4 7 5 8
- 有栖川宮(6世ありすがわのみや) → 織仁親王(おりひとしんのう、書/歌人) D 1 4 3 5
- 有栖川宮(ありすがわのみや) → 幸仁親王(ゆきひとしんのう、歌人) F 4 6 4 3
- B1072 有輔(有助ありすけ・御春みはる)?-? 平安前期河内の人、902左衛門権少志さかん、  
912左衛門権少尉じょう、藤原敏行家の家人、歌人;古今集629/853、  
[あやなくてまだき無き名のたつた河わたらで止まむ物ならなくに](古今;恋629)
- B1073 有祐(有佐ありすけ・藤原ふじわら、頭綱男/実は後三条院皇子[今鏡説])?-1131 平安後期廷臣、  
母;侍従内侍(平経国女)、兵衛佐、甲斐・土佐・紀伊・近江の国司/皇后宮亮、  
歌;金葉II 705(III 597)、  
[あやめ草ねをのみかくる世の中にをり違へたる花桜哉](金葉集;補遺705/根と泣く音)  
(後三条院の諒闇中端午節句に桜の造花を挿した菖蒲を御帳にかけているのを咎めた)
- 有祐(ありすけ・三角) → 東圃(とうほ・三角みすみ、医者) H 3 1 1 2
- 有助(ありすけ・石井) → 鶴山(かくざん・石井いし、儒者) H 1 5 2 8
- 蕃祐(ありすけ・杉村) → 直記(なおき・杉村、家老) B 3 2 0 6
- D1012 有純(有澄ありすみ・六条ろくじょう、有広男/本姓源) 1604-44 41歳 廷臣;1636非参議/39参議;致仕、  
歌人/狂歌作者、1666行風こうふう「古今夷曲集」入、  
[奈良酒やその手作りを時宜げせしはとにもかくにもねぢ上戸かな](古今夷曲集;九雑)  
(奈良酒を勧められ初めは時宜[辞退]して後には大酒盛になった話を聞き作った歌)、  
(本歌[奈良坂や兎手柏このてがしはの両面ふたおもてとにもかくにもねぢけ人かな]《元は万葉3836》)
- L1057 在澄(ありすみ・水野みずの、旧姓;赤川) 1785-1868 84 信濃飯田藩士、歌人;桃沢夢宅・香川景樹門、  
[在澄(;名)の初名/通称/号]初名;在文、通称;紋弥、号;無庵
- 在澄(ありすみ・竹俣) → 義秀(よしひで・竹俣たけのまた/保科、家老) G 4 7 3 7
- 有瀬(ありせ・綾小路) → 有瀬(あるせ・綾小路/源、廷臣/日記) C 1 0 0 5
- 有磯(ありそ) → 藤範(ふじのり・千秋、金沢藩士) C 3 8 6 0
- H1009 有園(ありぞの・植松うえまつ、通称;狗次、茂岳げおか2男) 1829-82 54 尾張名古屋小船町の生/国学・歌、  
尾張藩士/維新後;1872愛知郡本井戸田の津賀田神社祠官/名古屋末広町若宮八幡社祠官、  
熱田神宮禰宜/1878神宮主典兼神宮教院副教授/82宮内省文学御用掛/東京住、  
歌文・書に長ず、藩命で「六国史」を校合、遺稿「後松蔭集」
- 阿里園(ありぞの、蟻園) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4
- B1074 在高(ありたか・菅原すがわら、在茂男) 1159-1232 74 母;藤原家基女、平安・鎌倉期廷臣;1199刑部大輔、  
1201文章博士/04大学頭/06式部大輔/10非参議/従二位、漢学/詩、1205元久詩歌合;詩参加
- B1075 有高(ありたか・近藤こんどう/本姓;藤原、資重男)?-1338 鎮西討死 廷臣;武家/後宇多院北面/左衛門尉、  
六位、1338(建武5)鎮西において戦死、歌:勅撰2首;続千載797/続古今1169、  
[かりねとも今は思はじ日数へて結びなれぬる草の枕を](続千載集;八羈旅797)
- H1078 有鷹(ありたか・鱸すずき、有飛[1756-1813]男)?-? 遠江浜名郡新居の宿屋尾張屋経営;父を継嗣、  
国学;父門/内山真竜・本居大平門、父の著述の整理に尽力、石塚竜磨・高林方朗と交友、  
[有鷹(;名)の初名/通称/号]初名;有高、通称;多武六/多三二/多惣治、号;桜園/蘆村、  
屋号;尾張屋
- F1037 有貴(ありたか・脇わき、字;叔良/永策、脇蘭室[1764-1814]養子)?-? 蘭室妻の甥/素淳もたとあつの義弟、  
儒者、蘭室著作の整理:1830「蘭室集略続編」編
- I1050 有孝(ありたか・三角みすみ) 1795-1856 62 京の廷臣;医官、  
[有孝(;名)の別名/字/通称/号]別名;愿恭、字;子徳、通称;薩摩介、号;柳東
- F1038 有孝(ありたか・山田やまだ/本姓;藤原、通称;伊豆/号;錦所、以文もちぶみ男)?-? 江後期天保1830-44頃;  
山城吉田村の故実家(家学)、母;源子/有年の父、「奉諸陵幣考」「登席簿」著
- 有敬(ありたか・珍田) → 祐之丞(ゆうのじょう・珍田ちんだ、藩士/歌) D 4 6 5 5

- F1039 **有武**(有竹ありたけ・永淵ながぶち、別名;保道/通称武兵衛)1715-8470 佐賀藩士/歌人;照光寺竹隠門、のち堺大安寺春山士蘭/利山元貞門、「永淵有武集」著
- C1080 **有武**(ありたけ・百種園) ? - ? 狂歌:1824丘山「狂歌現在奇人譚」入  
 有長(ありたけ、洒落本) → 大極道有長(おおごくどうのありたけ) B 1 4 4 0  
 有竹(ありたけ、狂歌) → 千枝有竹(ちえのありたけ) L 2 8 0 4  
 有長(ありたけ、狂歌) → 地口有長(ぢぐちのありたけ・星野、旗本) D 2 8 4 4  
 有武(ありたけ・高橋) → 有胤(ありたね・高橋、神職/国学) F 1 0 4 1
- D1014 **有忠**(ありただ・源みなもと;陽成流、清遠[?-996]男)?-? 陽成天皇の孫/平安前期廷臣;従五上長門守、歌、972女四宮規子内親王前裁歌合参加、  
 [暗部山くらぶやま麓ののべの女郎花露の下よりうつしつるかな]、  
 (四宮歌合;4/大系5/暗部山;鞍馬山の古名)
- B1076 **有忠**(ありただ・六条ろくじょう/本姓;源、有房男)1281-133858歳 鎌倉南北期廷臣;後二条天皇近臣、その子邦良親王にも近臣、1309従三位/1313山科小野庄の田地一町を吉田兼好に売却、1319権中納言;致仕/正二位、1324-25東宮邦良親王の即位を求め使者として鎌倉下向、1326親王死去;関東で出家;法名賢忠、一切経谷に隠棲;頓阿の来訪を受ける、季光/中院光忠の兄弟、有光・千種忠顕の父、歌人;後宇多院仙洞歌壇の構成員の1人/1314仙洞八十番詩歌合/19文保百首参加、1321仙洞三首歌会/23龜山殿七百首(36首)・十三夜仙洞歌会参加/24石清水社歌合参加、藤葉集3首入、連歌;菟玖波10句入、勅撰17首;玉葉(393)続千(506/1350/1880)続後拾(959)風雅(1611/1943)、新千(4首361/615/1026/1647)新拾(775/864)新拾(2首)新後拾遺(1首)新続古今(3首)、  
 [まだよひと思へばしらむ横雲にやがてまぎる短か夜の月](玉葉;夏393)、  
 [さゆれども夜半のさ衣打つかたの袖には置かぬ秋の初霜](藤葉;秋276)、  
 [有忠(;名)の通称/法号]通称六条中納言/禅林寺、法名;賢忠
- F1040 **有忠**(ありただ・土屋、秀世男)?-1879 飛騨高山地役人/国学:山崎弘泰門/歌、「官材画譜」編
- F1041 **有胤**(ありたね・高橋たかはし、後名;有武ありたけ/通称;城之介)?-1860 周防山口多賀社大宮司、国学;吉田家入門、「多々良能浜藻」著
- B1077 **有親**(ありちか・藤原ふじわら、笛大夫、元尹男)?-1082 平安中期廷臣;内匠頭/摂津守/加賀守/右馬助、東三条院判官代/従五上、笛を好む;笛大夫と称す、寧親(従四上冷泉院判官)の弟、歌人;歌合主催、後拾遺793、国行くにゆき(歌人)の父、  
 [あればこそ人もつらけれあやしきは命もがなと頼むなりけり](後拾遺;恋793)、  
 (自分が生きているからあの方は薄情/恋死にしたら同情してくれるだろう;自虐的)
- I1088 **有親**(ありちか・中山なかやま/本姓;藤原、親平男)?-? 南北期;廷臣/歌人、祖母は能円法眼女、☆藤葉集入の藤原有親と同一?、  
 [あすしらぬ命ならずは別れ路をこれぞ限と思はざらまし](藤葉;恋535)
- H1050 **有隣**(ありちか・小松こまつ)1735-177844 信濃松本の大名主、国学者/歌人、歌;冷泉為村門/国学;菅江真澄門、  
 [有隣(;名)の別名/通称]別名;民村、通称;三郎右衛門/平十郎
- E1050 **有親**(ありちか・不破ふむ、通称紋左衛門)1798-185861 加賀金沢藩士/1828聞番/42小将頭、1843宗門奉行/藩校経武館督学/44馬廻組頭役、「真竜院様御使者」「不破紋左衛門口上書控」著
- F1042 **有隣**(ありちか・南里なんり、十蔵男)1812-6453歳 肥前佐賀藩士/儒;父門/国学;和学講談所入門、1839藩校弘道館和学寮教授/私塾教授、「今様譜」「国風集」「田家集」「本朝古文鑑」外著多数、  
 [有隣(;名)の別名/通称/号]別名;元易/居易、通称;伝作、号;松門/北岸  
 有隣(ありちか・吉田) → 孤山(ござん・吉田よしだ、藩士/儒者) M 1 9 5 8  
 有隣(ありちか・深見、玄岱[高天漪]男) → 有隣(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学) E 4 6 0 9  
 有嗣(ありつぐ・塩路) → 貢(みつぐ・塩路しおじ/物部、薬/医/国学) D 4 1 3 0  
 有長(ありたけ・大極道) → 大極道有長(おおごくどうのありたけ) B 1 4 4 0
- F1043 **有綱**(ありつな・藤原ふじわら/家名;日野、実綱男)?-1082? 母;源道成女/有信・有定の兄、廷臣;

1053対策及第/左衛門尉/蔵人/撰津守/大内記/左少弁/中宮亮/文章博士/1075従四下、  
大学頭/正四下に至る、漢学者/詩人、1075(承保2)自邸で撰津守歌合を主催、  
詩;本朝無題詩/和漢兼作集/教家摘句/擲金抄/続文粹入、歌;万代・秋風集・夫木抄入、  
[生駒山尾越をどしに咲ける桜花下おりみる雲と人や見るらん](万代集;春267/遙見山花)

- G1056 **在綱**(ありつな・長坂ながさか) 1773-1813 41歳 紀伊和歌山藩士;田辺住/のち伊勢松阪住、  
国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[朝びらき漕ぎ出でくれば瀬戸の浦に鳴くなる千鳥我をよぶかも](八十浦;1008、  
文化八[1811]年夏警護の命で扇が浜より船出し瀬戸崎の浦にて詠)  
[在綱(:名)の通称] 富助/雲八/尚衛
- F1044 **在綱**(ありつな・逸見へんみ、字;有秋、季衡男) 1825-75 51 越後高岡の代々町役人/医者/勤王派、  
頼三樹三郎・小川忠篤らと親交/1864禁門変;忠篤に連座し投獄、  
「孝子弥三伝」著、「舩斎遺稿」あり、  
[在綱の通称/号]通称;直太郎/文九郎/又一、号;舩斎/方舟、屋号;高原屋
- B1078 **有常**(ありつね・紀き、名虎男) 815-877 63歳 平安前期廷臣;蔵人/周防権守、惟喬の伯父、  
伊勢物語入、歌人;古今419/新古1498、  
[ひととせに一たびきます君待てば宿貸す人もあらじとぞ思ふ](古今;419/伊勢82段)
- J1003 **有経**(ありつね・大江おおえ、本名;以実、大江公仲[1130以前没]の養子)?-? 平安末・鎌倉期廷臣、  
代々歌道の家、袋草紙に[公仲への能因の歌の心得を伝える逸話]入、  
養父公仲は京の宅地と相模早河荘を所有;1095(嘉保2)配流に当り領家職を有経に譲渡、  
しかし公仲没後;1130公仲の長女仲子との間で遺産相続・領家職争いが生じ仲子が勝訴
- F1045 **有経**(ありつね・藤原ふじわら、重綱男)?-? 母;重時女、平安末鎌倉期廷臣;皇太后宮亮、  
安房守;歌;1195民部卿経房家歌合参加、  
[ひるとのみ思ひはつべき月影をあらはしがほに鳴ぞ羽かく]、  
(経房歌合;暁月十五番右122)
- G1053 **有経**(ありつね・土方ひしかた) ? - 1825 駿河沼津藩士;1780(安永9)父跡を嗣ぎ家老、  
初代藩主水野忠友・2代忠成ただあきらに出仕、1818(文政元)忠成が老中となると幕政にも関与、  
良臣三介(丹羽貴明・河合道臣ひろおみ)の1、  
[有経(:名)の通称/号]通称;縫殿介ぬいのすけ、号;祐因
- F1046 **有恒**(ありつね・中川、斯文堂)?- ? 江後期1801-18頃京書肆、1803「米恩録」著
- F1047 **有恒**(ありつね・杉木すぎき) ? - ? 江後期;代々越中新川郡石割村十村役、  
1838「巡見上使昼所一件」編、「新川郡御縮高一件」著、有一ありがず[1825-92]の父
- H1010 **有経**(ありつね・植松うえまつ、茂岳しげおか5男) 1839-1906 68 尾張名古屋藩士/国学者/歌人、  
維新後;京都中学校国文科教師/1873太政官出仕/宮内省御歌所の参候兼録事・文学御用係、  
[有経(:名)の通称/号]通称;桂五郎、号;松蔭舎
- H1044 **有恒**(ありつね・久保田くぼた、号;蓬庵) 1841-1912 72 大坂の国学者/歌人;伊達千広・近藤芳樹門  
和漢文・歌・書を能くす、維新後;大阪相愛女学校教師
- |                |   |                          |           |
|----------------|---|--------------------------|-----------|
| 有常(ありつね・滝沢)    | → | 単山(たんざん・高斎、書家/詩)         | I 2 6 7 7 |
| 有常(ありつね・白木)    | → | 半山(はんざん・白木しらき、儒者)        | H 3 6 7 7 |
| 有常(ありつね・久保)    | → | 文々舎蟹子丸(2世ぶんぶんしゃかにこまる、狂歌) | G 3 8 3 9 |
| 有常(ありつね・滝沢/高齋) | → | 単山(たんざん・高斎こうさい/滝沢、書家)    | I 2 6 7 7 |
| 有常(ありつね・高橋)    | → | 古溪(こけい・高橋たかはし、儒者)        | M 1 9 2 9 |
| 有恒(ありつね・加藤/大原) | → | 観山(かんばん・大原おおはら、儒者)       | H 1 5 6 5 |
| 有恒(ありつね・丸山)    | → | 武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道)      | O 2 6 2 9 |
| 有恒(ありつね・山田)    | → | 道貞(みちさだ・山田やまだ、文筆家)       | B 4 1 5 4 |
| 有恒(ありつね・富田)    | → | 良穂(よしほ・富田とみた、藩士/神職)      | O 4 7 0 4 |
| 有恒(ありつね・奈島)    | → | 清良(きよよし・奈島なじま、神職/国学)     | U 1 6 8 9 |
| 有経(ありつね・丹波)    | → | 経長(つねなが・丹波たんば、医者/歌人)     | C 2 9 8 1 |
- B1079 **有常女**(ありつねのむすめ・紀き、業平の妻)?-? 平安期歌人、伊勢物語入/古今784;業平と贈答、  
姉妹に敏行の室、  
[天雲のよそにも人のなりゆくかさすがに目には見ゆるものから]

(古今集;十五恋784/昼来て夜出かける業平への恨みの贈歌/目と妻を掛ける)  
[業平の返歌;785行き返り空にのみして経ふことは我がある山の風早みなり]

- B1080 **在列**(ありつら・橋たちばな、字;卿/法諱;尊敬、秘樹男)?-953? 平安前期安芸介/弾正少弼、944叡山僧、  
詩:扶桑集/和漢朗詠/新撰朗詠集/文粹入、「沙門敬公集」門弟源順編、「尊敬記」「百枝縁起」著
- F1085 **在光**(ありてる/ありみつ・唐橋からはし/本姓;菅原、在経男)1827-7448 母;広幡経豊女、廷臣;1853文章博士、  
式部大輔、正三位/1858幕府の日米条約奏請時に改変要求の諸卿に参加、  
「革令并改元記」著
- H1096 **有任**(ありとう・千種ちぐさ、有文男)1835-189258 京の廷臣/国学者、  
1858(安政5)廷臣八十八卿列参事件参加/1866(慶応2)廷臣二十二卿列参事件参加、  
戊辰戦争の際は大阪に親征、維新後;1869右近衛権少将/70伊那県知事/宮内権大丞、  
群馬県御用掛/宮内省御用掛;東京住、御歌所参候、  
妻;正子(四辻公積女)、有冬・千種任子(明治天皇の権典侍)・有梁・美寿子の父
- F1048 **ありとき**(在原ありわら) ? - ? 平安前期保明親王の帯刀、  
歌;904-23頃「保明親王帯刀陣歌合」入、  
[花薄すきほのくれがたの露けきはうき世の中をそよとしればか](帯刀陣歌合;右16/薄)
- B1081 **有時**(ありとき・藤原ふじわら、恒興男)?-? 平安中期廷臣;従五上左馬介、  
944信濃諸牧駒牽に御迎助となる/950菊花宴に楽前大夫を務める、  
歌;拾遺952/970、  
[逢ふことのなげきの本を尋ぬればひとりねよりぞ生ひはじめける](拾遺集;恋952)、  
(歎きと投げ木/寝と根を掛ける、投げ木の縁語;もと・根・生ふ/独り寝のつらさ)
- F1049 **有節**(ありとし・鶴舎/鶴屋つるや;屋号、姓;武田、宇兵次男)1808-7164歳 陸奥津軽弘前の商人、  
豪商伊香八太郎家に仕える/俳諧・儒学;内海草坡門/のち三谷句仏に兄事、  
国学;1857平田鍊胤門、蔵書多数、「頭幽楽論」「書学階梯」「諸篇万語解」「磯の白玉」著、  
[有節(;名)の通称/号]通称;乙吉、号;千載庵、
- C1032 **有俊**(ありとし・綾小路あやのこうじ/本姓;源、山科行有男/信俊養嗣)1419-? 1468存 廷臣;1450非参議、  
1455権中納言、正二位、1468出家、郢曲/楽書作成、歌;「梁庵愚案抄」を兼良に需むとむ、  
1446「文安詩歌合」/50「仙洞歌合」参加、「有俊卿記」「有俊卿催馬楽秘譜」「諸社御神楽記」著  
1450(宝徳2)後崇光院貞成催[仙洞歌合]参加、  
[みかの原山風吹けばいづみ川紅葉ぞ色にわきて流るゝ]  
(仙洞歌合;九番左/瓶原・泉川;歌枕/泉と色に出づを掛る/湧き・分き・とりわけを掛る)、  
[有俊(;名)の号] 楽林軒/出家号;有璠
- G1057 **有載**(有年ありとし・米倉よくら)1773-184472歳 江戸の歌人;加藤千蔭門、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[こほりみし山水もけさとけて春を知れとや岩たたくらん](大江戸倭歌;春38/氷解)、  
[有載(;名)の通称] 所左衛門/諸左衛門
- C1081 **有年**(ありとし・山田やまだ、安房守、有孝男)?-1891 京の有職故実家(家学)、神祇官出仕;  
吉田家の公文くもんを兼任、山田以文もちみの孫;1834以文の口述「錦所談」編(1835刊)、  
維新後;皇学所講官/1869大学少博士/式部寮掌典/従五位、音楽を嗜む、  
「旧諸公事装束抄」著
- F1050 **有年**(ありとし・花野井はなおい、別名;稷通/稷、吉五郎男)1799-186567 駿河府中商家;家督を弟に譲渡、  
医者;漢・蘭方/1836皇国医方提唱、国学/歌;石川依平よりひら・海野遊翁門、薬草園八千種園設、  
「木葉集」「南金集」「蔵山集」、1837「富士百絶」、「駿河雑誌」編、52「医方正伝」、「薬名韻譜」著、  
[有年(;名)の通称/号]通称;昌斎/百昌、号;百昌斎/八千種屋
- I1022 **有年**(ありとし・西村にしむら/本姓;藤原、)1806-? 近江彦根藩士、佐渡奉行、歌人;[彦根歌人伝/鶴]入、  
蓮月尼と交流、  
[有年(;名)の別号/通称/号]初名;成信、通称;又十郎/又次郎、  
号;芳仙舎/好芳園/松竹楓菊園/権斎/白雲一片斎/松風清意竹露謹心軒
- I1064 **有稔**(ありとし・山県やまがた、中村喜左衛門男)1806-6055 長門萩藩士山縣尚政の養子;家督嗣、  
萩藩中間、国学者、妻;岡松子(岡治助女)、寿子(勝津兼亮妻)・有朋・雪子(森山久之妻)の父  
[有稔(;名)の通称/号]通称;三郎、号;汲月堂

- H1008 **有年**(ありとし・植田うぐいす、)1823-1895 73 讃岐三野郡金毘羅の医者、勤王家；  
 美馬君田・日柳燕石らと尊攘運動、讃岐琴平住、1868(慶応4)京都招魂社設立に参加、  
 維新後：軍務官・教部省出仕/東京招魂社(靖国神社)祠官、  
 [有年(；名)の別名/通称/変名]別名；尚義、通称；季吉/宗平、変名；井上文郁ぶんいく
- H1060 **有年**(ありとし・近藤こんどう、)1823-1902 80 備前邑久郡豊村五明の大里正(庄屋)、国学者、  
 [有年(；名)の通称/号]通称；尚太郎、号；千種園/草廬/尚叟  
 有年(ありとし・野村) → 蛙水(あすい・野村のむら、藩侍医/歌人) I 1 0 2 6  
 有年(ありとし・楠木/八木) → 静修(しずさね・八木/楠木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
 有年(ありとし・大田) → 稻香(とうこう・大田おた、儒者/砲術) D 3 1 9 4
- F1051 **有飛**(ありとび・鱸すずき)1756-1813 58歳 遠州浜名郡新居の宿屋経営；尾張屋、  
 国学者；語学研究/真淵や宣長を批判；ア行ヤ行のエ音分別(e/yeの区別)研究、  
 俳諧・狂歌・画を嗜む、息子有鷹ありたかに家業譲渡；有鷹は有飛の著述整理に協力、  
 「助辞本義」「花の塵歌集」「古今温燗解」「言觸げんけい」「志文字の説」「四十八音略説」、  
 「万葉正解」「美津保のわさ苗」「諄辞古義」「吟双紙」「中臣告辞解草稿」著、  
 [有飛(；名)の別名/字/通称/号]初名；房重、字；高栄/士竜/子遊、  
 通称；万七/与右衛門/半之丞/次五兵衛、号；泉谷園安斎/冠宙
- H1032 **有富**(ありとみ・太田おた、)1823-1907 85 陸奥(陸前)仙台の生/漢学；大槻平泉門、  
 国学；本田春雄門、歌人、維新後；金華山黄金山神社祠官、  
 [有富(；名)の通称/号]通称；兵弥、号；馬溪  
 在富(ありとみ・唐橋) → 在家(ありいえ・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 2 2  
 有富(ありとみ・日野) → 輝光(てるみつ・日野/藤原、廷臣/記録) C 3 0 9 9
- B1082 **有朋**(有友ありとも/有明ありあき・紀)?-880 平安歌人、友則父?、古今66・1029
- F1052 **有倫**(ありとも・飯田いだ/別名；忠林/字；子育/号；幽澗)?-1810 米沢藩儒医/佐藤中陵門、  
 1806医館好生堂総裁、儒；細井平洲門；師の看病、1801「旅のすさび」著
- F1053 **有朋**(ありとも・山県まがた、有稔ありとし男)1838-1922 85 長門萩藩士/松下村塾で修学、  
 尊攘派；騎兵隊軍監/1864連合艦隊と交戦；負傷/開国派、69渡欧/西南戦指揮/内閣組織、  
 「葉桜日記」、「椿山集」著、  
 [有朋の通称/号]通称；小助/小輔/小介/狂介/千束、  
 号；素狂/含雪/芽城山人/椿山荘主/新椿山荘主/無隣庵主/小洵庵主/古稀庵主
- H1085 **有友**(ありとも・田林たばやし、)1839-1886 48 出羽庄内の米問屋、国学・歌；藩士服部正樹門、  
 維新後；酒田県による官制買請石代納制(年貢米を買い現金で納税)の御用特権商人の1、  
 のちワッパ騒動の口実となる、  
 [有友(；名)の通称] 斧吉/重治郎/治助/半九郎
- F1054 **在豊**(ありとよ・唐橋からはし/本姓；菅原、在遠男)1391-1464 74 廷臣；文章博士/1444参議/56権中納言、  
 1460権中大納言/正二位、詩；1446文安詩歌合参、56「長谷寺造供養」著、在治ありはるの父  
 有声(ありな・林) → 宣敬(のぶたか・林はやし、藩士/国学/歌) B 3 5 7 5
- F1055 **在直**(ありなお・唐橋からはし/本姓；菅原、在敏男)1371-1459 89 南北室町期廷臣；文章博士/1429参議、  
 正二位、1452「享徳慶年号勘文」著
- F1056 **在中**(ありなか・都みやこ、良香男)?- ? 平安中期越前掾；渤海使に贈詩、  
 和漢朗詠集入/文粹入
- B1084 **有仲**(ありなか・源みなもと、齋院長官有房男/顕仲の孫)?-? 平安末鎌倉初期廷臣/従五位下、  
 歌人、新和歌集/夫木抄入、新勅1366/続後撰604、  
 [昔見しと山の里はあれにけり浅茅あさが庭に鳴の伏すまで](新勅；雑1366/錦の襖を詠)
- C1091 **在仲**(ありなか・菅原すむら、淳兼男)1285-1338 54歳 鎌倉後期廷臣；刑部/大蔵卿/正三位、文章博士、  
 歌人；新葉集559・747、  
 [古郷ふるさとにたちかへるとも今は又昔を語る友やなからん](新葉；羈旅559)
- F1057 **有仲**(ありなか・慈光寺じょうじ/本姓；源、家仲男/実父は祖父実仲?)1828-98 71 廷臣；従三位、  
 画；光文門、1856日米条約勅許反対派に参加、維新後下賀茂社宮司、「慈光寺有仲日録」著、  
 [有仲の号] 五巷堂一雲  
 在中(ありなか・高辻) → 福長(とみなが・高辻たかつじ、廷臣) O 3 1 9 0

- 有中(ありなか・越智) → 通清(みちきよ・越智おち、里正/歌人) I 4 1 3 0
- B1083 有長(ありなが・源みなもと、長俊男)?- ?1265前没 鎌倉期廷臣;播磨・土佐守/右馬頭/正四下、兼康/兼氏父、歌人:1215内大臣道家百首/32石清水若宮歌合・八月十五夜三首歌合参加、勅撰24首;新勅撰(746/795/1099)続後撰(874/1178)続古(1104)続拾(2首)新後撰(3首)以下、1253-4成立[雲葉集]3首入、[高砂の尾上に見ゆる松の葉の我もつれなく人を恋ひつつ](新勅;恋746、建保三年[1215]内大臣道家百首/名所恋)
- H1034 有長(ありなが・岡村おかむら/本姓;源、)1759-183274 近江彦根藩士;10代藩主井伊直幸外3代に出仕、1792(寛政4)目付役/造嘗掛;藩校稽古館完成に尽力、歌人;[彦根歌人伝]入、能書家;草蘆・玉澗・羅溪と交流、[有長(;名)の別名/字/通称/号]別名;有義、字;子之、通称;甚之丞、号;竜淵/青羅園
- F1058 有長(ありなが・綾小路あやのこうじ、俊資としげ男/本姓;源)1792-1881長寿90 母;権大納言前秀女、楽家;郢曲の家、歌・書に長ず、廷臣;1814権中將/1815(文化12)従三位/17正三位、1832(天保3/41歳)参議/33従二位近江権守/36東照宮奉幣使/40太上天皇御服を賜る、1842暦号定参仕/44(弘化元)改元定参仕/45元日外弁/48(嘉永元/57歳)権中納言;正二位、1849中納言辞任;按察使/58(安政5/67)権大納言;辞任/按察使/61本座、「催馬楽伝書」受、「朗詠伝授譜」「催馬楽歌曲相伝書並譜」著、歌;1861松平春嶽「古今百人一首」入、[掬ぶ手の袂にあかぬ涼しさは夏と岩間の水の月影](古今百人一首;38)
- G1076 有脩(ありなが・榊原さかさばら)? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[風さえて氷りはてたる山川に友なきをしの声のさむけさ](大江戸倭歌;冬1221)
- G1080 有脩(ありなが・村松むらまつ)? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[夕露を頼むのさとの花薄風のまにまに身をまかせつつ](大江戸倭歌;雑1983/遊女)
- 有長(ありなが・長谷川) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3
- C1092 在夏(ありなが・菅原すがら、公頼男)?-? 鎌倉南北期廷臣;少納言/式部大輔/従四上、二条派歌人;為明/頼阿らと親交、続草庵集に逸話、新拾遺1149、[つれなさのかぎりをぞ知る頼めつつ来ぬ夜の月の在明の空](新拾;恋1149/寄月恋)
- 在夏(ありなが・唐橋からし) → 顕覚(けんかく;法諱、廷臣/僧/歌) I 1 8 1 8
- F1059 有業(ありなが・藤原ふじわら、長門弁、行家男)?-1132 平安後期廷臣;1131右少弁/中宮大進/正五下、母;藤原永業女、行盛/宗国の弟、歌;金葉解(橋本公夏本拾遺)47(旅宿月)、[旅寝する難波の浦の苦屋かたもろともにしもやどる月かな](金葉解;公夏本拾遺47)
- I1089 有成(ありなが・荒木田あらかた)?- ? 平安鎌倉期;伊勢内宮神職/歌人、1233刊[御裳濯集]入、[あくがれていくよになりぬ草枕そらになれぬる月にとはばや](御裳濯集;秋417)
- M1046 有成(ありなが・倉田くらた、旧姓;桂)1748-179548 伊勢津の八王子神社神主、国学;本居宣長門、[有成(;名)の通称]山城守
- I1011 在成(ありなが・中沢なかざわ、通称;喜左衛門)?-1836 伊勢度会郡の国学者;本居春庭門
- B1085 有信(ありなが・藤原ふじわら/家名;日野ひの、実綱男)1040-9960 母;源道成女、有綱/有定の兄弟、平安後期廷臣/漢学者;文章得業生/1063対策/蔵人/東宮学士/98右中弁/99従四下和泉守、詩;中右記紙背漢詩集入、新撰朗詠集/本朝無題詩/和漢兼作集/続文粹などに入、歌;詞花404/千載576、後葉集・続詞花集入、[涙のみ袂にかゝる世の中に身さへ朽ちぬることぞ悲しき](詞花集;雑404/後葉;425)、(1068[治歴4]後冷泉院崩後の歌/もと側近だった者の悲しみと不安、後葉集では末尾;心地こそすれ)
- 1032 有信(ありなが・植松うえまつ、庄左衛門信貞男)1758-181356 尾張名古屋藩士;浪人、版木師となる;古事記伝版刻刊、国学者・1789本居宣長門、名古屋鈴屋門の中心、師没後;師の弟本居春庭門、1801「紀伊随行記」、「形喰草」「鈴屋大人の葬送記」著、「山室日記」「長閑日記」「形喰草」「有信歌集」、「歴代正語」著(散佚)、

本居大平「八十浦の玉」中巻9首入、  
養子：茂岳しげおか、妻；桜山左源太女の伊勢、弟；桜山典直のりなお、  
[有信(；名)の通称/号]通称；忠兵衛/市九郎/彦兵衛、号；松蔭、法号；潭月宗仰居士  
[夜もすがら御墓まもらひ朝鳥の音のみしなくも峰の庵に](八十浦；460/長歌の反歌、  
享和元[1801]年師宣長を山室妙心寺に葬り峰の庵に宿る時の詠；459長歌)

- G1079 有信(ありのぶ・松本まつもと) ? - ? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[いはずしてただに日をふる五月雨のはれぬ思ひはいかにしてまし]、  
(大江戸倭歌；恋1629)
- H1064 有信(ありのぶ・佐治さじ) ? - ? 京の仙洞御所官人、国学/歌；香川景樹(1768-1843)門
- I1024 有信(ありのぶ・野村のむら、旧姓；竹村) 1791-1868 78 信濃伊那郡飯田藩士/国家老の筆頭、  
国学；植松茂岳門、歌人；福住清風門、中川雄之助(戊辰戦御物頭)の父、  
[有信(；名)の別号/通称]別名；有通/良言、通称；勝弥
- L1053 有信(ありのぶ・三谷みたに/狩野、三谷勝波方信長男) 1842-1928 87 筑後久留米の絵師/三谷等哲末裔、  
画；1859(安政6)木挽町狩野家の狩野勝川院に入門/狩野姓を許可；狩野勝沢と称す、  
狩野芳崖・橋本雅邦と同門、久留米藩代々の御用絵師、国学；船曳磐主いぬし(鉄門)門、  
維新後；西洋画法の研究/久留米明善校図画担任教師/授産所赤松社創設/三瀧銀行重役、  
県会議員・初代久留米市会議長、内国絵画共進会などに出品、  
1907政界引退；画業に専念/1928(昭和3)東京に没、  
「筑後川水害絵巻」画/「筑後地理小誌」「三瀧上代考」著  
[有信(；名)の通称/号]通称；虎三郎、号；勝澤しょうたく  
在延(ありのぶ・四方) → 春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師) L 2 1 2 1
- F1060 有範(ありのり・藤原ふじわら、有信男?) ?-1176 親鸞の父、廷臣；皇后宮権大進、「長秋草」著
- B1086 有教(ありのり・源みなもと、有通男) 1192-1254? 63歳? 母；典薬頭丹波重長女、鎌倉期廷臣；1236従三位、  
1242正三位兵部卿/48従二位/大蔵卿、  
歌人；1247後嵯峨院歌合/48宝治百首/51影供歌合参加、  
万代/現存六帖/秋風抄/秋風集/雲葉集入、  
勅撰7首；新勅撰(1311)続後撰(1028/1268)続古(1270)続拾(704)新後撰(826)玉葉(765)、  
[忘るなよ浅間の嶽たけのけぶりにも年へて消えぬ思ひありとは](新勅；1311、  
信濃の国に罷りける人にたき物贈り侍りける)
- B1089 有範(ありのり・藤原ふじわら/家名；日野、藤範男) 1302or12-1363 漢学者；大学頭/文章博士/式部大輔、  
詩；1343五十四番詩歌合/44金剛三昧院奉納和歌/50玄恵追悼詩歌参加、  
歌；勅撰3首；風雅(953)新千(2082)新拾(1770)、  
[山ひめの紅葉の錦我にかせ故郷人にきてもみゆべく](風雅集；旅歌953/あづまへ旅立)
- F1003 有儀(ありのり) ? - ? 室町期神職；尾張熱田神宮の社官、  
連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(2句)、  
[かすまぬ空に過ぐるむら雲](熱田法楽；初裏12/春霞のない帰雁の空に村雨が過ぎる、  
前句；公覚；在明ありあけの雲路にみえて帰る雁)
- F1061 有儀(ありのり・柏淵かしづち/のち加藤かとう、字；公象、号；石門) 1722-71 50 美濃武芸家；正木利充門、  
剣術に長ず、京で仕官；加藤姓、1768「武功論」著
- I1027 有則(ありのり・長谷川はせがわ) ?- ? 江中後期；京の歌人；澄月ちやうげつ(1714-98)門、  
「長谷川有則文書請取状控」(醍醐寺伝来の橋木社文書が長谷川家に譲与の経緯を示す)、  
[有則(；名)の通称/号]通称；織衛おりえ、号；月叟居士
- G1099 有則(ありのり・石尾いお) 1775- 1859 85 備前岡山藩士/歌人、黒住教信者；黒住宗忠門、  
道心高く宗忠より受けた書翰多数、  
[有則(；名)の別号/通称/号]別名；弁済、通称；喜八郎/乾介、号；天丁/影見
- F1062 有制(ありのり・高木たかぎ、通称；守衛、高木左右次男) 1822-74 53 金沢藩士/国学者；  
1861藩校で国書講話、尊攘派、1864禁門変で藩論は佐幕；投獄、  
1868赦免；白山比咩しらやまひめ社権大講義、「北藩年始礼典」著
- I1051 有紀(ありのり・三角みすみ) 1828-1891 64 京の廷臣；典薬寮医師、国学、

[有紀(；名)の字/号]字；子綱/星光、号；槐陰/槐園

H1036 **有卿**(ありのり・金子かねこ、別名；有郷ありさと、物部神社社家金子有久2男) 1845-1923 79 出雲大社国造家、1864父隠居；家督嗣；石見国造/1868川合漢塾を設置；神道及び国漢教育、1871石見安濃郡川合村の物部神社権宮司、権大講義/大教正/神道大社教副管長を歴任、雅楽管弦・歌道に精通；御歌所講頌・御歌会参候を務める、1890貴族院男爵議員3期、妻；瀧子(綾小路俊賢2女)、有道(歌人)の父、

[有卿(；名)の通称]通称；建丈主

有則(ありのり・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5

有則(ありのり・佐々木) → 季遊(きゆう・佐々木、寄節ききょう、俳人) M 1 6 1 7

B1087 **有教女**(ありのりのむすめ・源みなもと) ?- ? 鎌倉期歌人、続拾遺833(大蔵卿有教女名)、[けぶりたつ浅間の嶽たけにあらねども絶えぬ思ひに身をこがすかな](続拾遺；833)

B1088 **有教母**(ありのりのは・藤原ふじわら、藤原清綱女、大納言藤原忠教の妻) ?-? 親忠/有教(初名；教良)の母、平安後期歌人；金葉Ⅱ212・393(三奏本なし)

[ながむればおぼえぬこともなかりけり月や昔のかたみなるらん](金葉集；秋212)

金葉歌人は教良母(詞花集歌人)説あり → 頼輔母(よりすけのは・藤原) I 4 7 8 2

F1063 **在治**(ありはる・唐橋からはし/本姓；菅原、在豊男) 1414-89 76 室町戦国期廷臣；文章博士/1456参議、1480権中納言/従二位、1452「享徳度年号勘文」著、在数ありかすの父

F1064 **有义**(ありはる・滝川たきがわ、字；子竜/通称；新平、有中男) 1787-1844 58 金沢藩士/和算；神谷定令門、さらに角間従之/馬淵文邸/会田安明門、門弟多数；犀川算聖と称される、1819藩算用者；師範家、24「未詳算法」「算術要法五箇条法則」31「精要算法別条」著、[有义の号] 規矩亭/崇山、友直/質直かたなおの父

F1065 **有久**(ありひさ・藤木ふじき/本姓；賀茂・大田社祝、堯久男) 1596-1668 73 山城愛宕郡の初代大田御師職、奈良神社禰宜、和学者、1658「神事次第覚書」著

[有久(；名)の初名/通称]初名；福増、通称；土佐守

F1066 **在久**(ありひさ・森もり、通称；治五右衛門) ?-? 江後期讃岐羽方華道家、

1704「生花葦の芽」36「生花初心伝」著

F1067 **在久**(ありひさ・唐橋からはし/本姓；菅原、法号；橘園院、在経男) 1809-50 42 廷臣；侍従/文章博士、東宮学士/正三位、1836/7「大内記在久日記」著

F1068 **在秀**(ありひで・唐橋からはし/本姓；菅原、法号；梅寮院、在廉ありかど男) 1710-40 31 廷臣；文章博士、1736少納言、大内記/文章博士/正四下、「近世内記文章」/1736「年号難陳」著

F1069 **在豪**(ありひで・小岩こいわ/宇多川うだがわ、通称；高右衛門、1739小岩在学養子) ?-? 江中期信州高島藩士、1748家督継嗣、63近習役、56郷土地誌「諏訪かのこ」著

有秀(ありひで・宮戸/松浦) → 羽洲(うしゅう・松浦まつうら、商家/俳人) C 1 2 8 1

有秀(ありひで・岸) → 粟里(ぞくり・岸きし、儒者) J 2 5 5 5

有秀(ありひで・蜂須賀) → 常栄(じょうえい・蜂須賀はちすか、神職) H 2 2 2 0

B1090 **有仁**(ありひと・源みなもと、輔仁親王男/後三条天皇の孫) 1103-1147 45歳 母；源師忠女、1119賜姓；源、臣籍降下；従三位/平安後期廷臣、白河上皇の猶子、1122内大臣/36左大臣/従一位/47出家、詩歌/管絃(琵琶・笛)/故実(に)長ず；忠通家歌会作文会参加、故実；「春玉秘鈔」「秋玉秘鈔」著、日記「園記」著、歌人；1136崇徳天皇法金剛院行幸和歌に詠進、後葉集・続詞花3首・月詣集入、勅撰21首；金葉(9首37/39/91/110/127/164以下/Ⅲ3首)詞花(43)千(5首)新古(3首)以下、[春ごとに松の緑に埋もれて風にしられぬ花桜かな](金葉；春37/松間桜花)、

[有仁(；名)の通称/法名] 通称；内大臣(；金葉集名)/花園左大臣(；仁和寺花園離宮住)、法名；成覚

妻も歌人 → 有仁室(ありひとのしつ・源、藤原公実女) B 1 0 9 0

女房たちも歌人 → 小大進(こだいじん、菅原在良女) D 1 9 2 2

→ 越後(えちご、藤原季綱女) 1 3 6 9

養子も歌人 → 有房(ありふさ・源、中将/歌人) 1 0 3 3

B1091 **有仁室**(ありひとのしつ・源みなもと、藤原公実きんざね女) ?-1151 母；藤原隆方女光子/待賢門院璋子の同母姉、平安後期歌人/出家；尼、今鏡に逸話、千載585・新古508(；鳥羽天皇に贈る菊につけた歌)、



続詞花集3首入(花園左大臣北方名)、  
[九重にうつろひぬとも菊の花もとのまがきを思ひわするな]、  
(新古今;五秋下508/続詞花;261)、  
[大納言公実(藤原/1053-1107)身まかりてとしへてよみ侍りける、  
かぞふれば昔がたりに成りにけり別はいまの心地すれども](続詞花;雑835)  
妹 → 璋子(しょうし・待賢門院、鳥羽天皇妃) N 2 1 1 3

- C1082 **在衡**(ありひら・藤原、大僧都如無男/伯父有頼養嗣) 892-970 79 廷臣;941参議/970左大臣/従二位、  
元輔を庇護、詩;969栗田左府尚齒会を催(栗田山荘)、新撰朗詠集/和漢兼作集入  
[在衡の通称] 栗田左大臣あわたのさだいじん/万里小路大臣までのこうじのおとど
- F1070 **在熙**(ありひろ・唐橋からし/本姓;菅原、在家男) 1757-1812 56 母;源長貞女、廷臣;1775文章博士、  
1804中納言、1810大納言/正二位、  
「栖竜閣詩集」「道乃しおり」、1780「便記」/89「在熙卿記」著
- F1071 **在寛**(ありひろ・長井ながい、馬淵喬行男/長井煖寛養嗣) 1779-1860 82 金沢藩士/1805家督/20書物奉行、  
1836藩校明倫堂助教/48致仕、書、「皇朝百代通略」編、「趙注孟子異同纂要」著、  
[在寛の字/通称/号] 字;寛郷/寛卿/子毅、通称;平吉、号;葵園/陶斎/董斎/董居
- F1072 **有裕**(ありひろ・山田やまだ、通称;十介/十助、号;鼎斎) 1785-1873 89 薩摩ぼ書家:鄭元偉門、詩文、  
1852-59鹿兒島藩校造士館教授、「山田有裕詩集」著  
有弘(ありひろ・久保、幕臣)→ 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃかにこまる、狂歌) G 3 8 3 8  
有裕(ありひろ・辻村/三角)→ 東圃(とうぼ・三角みすみ、医者) H 3 1 1 2
- 1033 **有房**(ありふさ・源みなもと、通称;伯大夫、神祇伯頭仲[1059-1129]男) ?-? 平安後期廷臣;正五下、  
1167齋院長官、歌人;1149山路歌合参加/1166重家歌合参加;侍従、歌林苑にも参加、  
玄玉集・夫木抄入集、勅撰5首;千載(94/680/933)新続古今(1174/1725)、  
[一枝ひとえだは折りてかへらむ山桜風にのみやは散らしはつべき](千載;春94)  
妻;大膳大夫源家範女/顕家・宗仲・有仲の父、忠季・待賢門院堀河・上西門院兵衛の兄弟
- B1092 **有房**(ありふさ・源みなもと、大蔵卿源師行男/母;藤原清兼女) 1131?-? 左大臣源有仁の養子、  
平安後期廷臣;但馬守/侍従/1178正四下/81左近中将/まもなく出家、歌人、  
自撰「有房集」著、1167平経盛歌合/78別雷社歌合/79治承三十六人歌合参加、  
新勅2首;699/1235、妻;平清盛(or忠盛)女、時房・聖慶(東大寺僧)の兄、  
[涙河袖のしがらみかけとめてあはぬ浮き名を流さずもがな](新勅;恋699/経正歌合)  
[有房(;名)の通称] 周防中将、
- 1038 **有房**(ありふさ・六条ろくじょう/千種ちぐさ/本姓;源、六条通有男) 1251-1319 69 母;藤原清定女、  
鎌倉期廷臣;1298従三位、1308(徳治3)権大納言;辞任/18従一位/19(元応元)内大臣;  
1319病床に後宇多法皇の臨幸、同年出家/翌日没、  
徒然草136段;才自慢の和気篤成あつげを仕掛けた問答で敗走させた逸話、  
歌人:1297後宇多院歌合参加、1304影供会主催、嘉元・文保百首入、歌学;「井蛙抄」に歌話、  
歌学に通ず/能書家、1295「野守鏡」/「六条内府家集」著、「歌苑連署事書」の著者説?、  
有忠/季光/中院光忠の父、菟玖波集11句入、  
勅撰24首;新後撰(344/589/1195)玉葉(436)続千(7首95/352/839以下)続後拾(2首)以下、  
[霧はるる伏見のくれの秋風に月澄みのぼるを初瀬の山](新後撰;秋344/百首歌)、  
[行く末を同じ心にいそげはやおくれすぎつるよその旅人](1319文保百首;雑1191)、  
[有房(;名)の通称/法名]通称;六条内大臣/禅林寺、法名;有真
- F1073 **有維**(ありふさ・千種ちぐさ/本姓;源、法名;豪山、権大納言有能男) 1638-92 55 母;権中納言久我通前女、  
江前期廷臣;1666従三位/84武家伝奏/85従二位/91権大納言、「ちくさ」著  
有房(ありふさ・藤原/日野)→ 有定(ありさだ・藤原、歌人) B 1 0 6 9  
有房(ありふさ・土佐) → 経隆(つねたか・土佐/春日/藤原、絵師) C 2 9 3 3
- F1074 **在藤**(ありふじ/あきふじ・賀茂かも、在春男) ?-? 鎌倉期陰陽家;陰陽権助/暦博士/正四下、  
歌人;藤葉集2首入、勅撰2首;新後撰1377/玉葉1088、  
[うきことの聞こえござらむ山かげを誰にとひてか身をかくさまし](新後撰;雑1377)、  
[いける身の為とぞ思ふあふ事を命にかへてかひやなからん](藤葉;恋515)
- F1076 **有藤**(ありふじ・六条ろくじょう/本姓;源、初名;雅共/有慶、有和男) 1672-1729 58 廷臣;兄房忠の嗣子、

1704従三位/14権中納言/26正二位、画を嗜む、「元禄試筆」「三十六歌仙」著、  
1701(元禄14)田村建頭催[田村家深川別業和歌]に祝歌(深川別業守護の神意)を贈る；  
[瑞垣みづがきに幾代をかけて神も見む植ゑし手向の花のしらゆふ](有慶名)

F1075 有藤(ありふじ・佐藤さとう、通称；定五郎)?-? 江後期1830-60頃江戸四谷の国学者/歌人、  
「楚人石」著、1826(文政9)「堀河御時百首和歌」校輯・書写奥書、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[あはれしる人もなき世と思ひ寝の枕にひとり聞く時雨かな]、  
(大江戸倭歌；冬1064/夜時雨)

F1077 有文(ありふみ・長谷川はせがわ、通称；甚平)1763-1807<sup>45</sup> 長門萩藩士/密用方右筆末家岩国掛内用兼務、  
武備強化を主張、1793「旌旗考」「秘府旌旗考」著

F1078 有文(ありふみ・千種ちぐさ/本姓；源、今城定成男)1815-69<sup>55</sup> 母；吉田良長女、千種有功ありこと養嗣、  
廷臣；1851侍従、56左近権少将/公武合体派；60和宮降嫁尽力/尊攘派から非難；62蟄居出家、  
1867赦免；還俗、歌：「千種侍従有文朝臣詠草留」著、「梅香歌合」判、有任ありとうの父  
[有文(；名)の字/号]字；子和、号；髡和尚、法号；自観

有文(ありふみ) → 白観堂有文(はくかんだうありふみ、狂歌) C 3 6 9 1

在文(ありふみ・水野) → 在澄(ありずみ・水野みずの/赤川、藩士/歌) L 1 0 5 7

B1093 有文(ありふみ・藤原ふじわら、氏宗男)?-?939or945? 母；多治門継女平安前期廷臣；878図書頭、  
治部少輔、884伊勢権守/従五上、歌人；後撰集677、

[片時も見ねば恋しき君をおきてあやしや幾夜ほかに寝ねぬらん](後撰；恋677/片違の時)

F1079 ありまさ(藤原ふじわら) ? - ? 平安期保明親王の帯刀、  
歌；904-23頃「保明親王帯刀陣歌合」入、

[朝の空雁の鳴き来る雲居をばよそなる人の文とこそ見れ](帯刀陣歌合；左11/雁)

B1094 有政(ありまさ・源みなもと) ? - ? 1106存 平安後期廷臣；右近将監/崇敬寺と争う、  
歌人；金葉集Ⅲ147/解8、

[禊する川瀬に立てる井ぐひさへすがぬきかけて見ゆる今日かな](金葉Ⅲ；夏147)

B1096 在昌(ありまさ・紀き・淑信男)?-? 平安期廷臣/詩人、938文章博士、文粹・扶桑等に入

C1094 在匡(ありまさ・菅原すがわら、在章男)?-? 鎌倉中期廷臣；文集博士/刑部卿、歌人・続拾388、  
[染め残す木の葉もあらば神無月なほも時雨の色は見てまし](続拾遺；冬388)

H1061 有正(ありまさ・近藤こんどう、通称；直助)1787-1820<sup>34</sup> 備前上道郡の国学者/歌；木下幸文たかぶみ門

G1074 有政(ありまさ・渥美あつみ) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[あられ降る玉の横山雲過ぎてあかつき寒く月出でにけり](大江戸倭歌；冬1178)

有政(ありまさ) → 算木有政(さんぎのありまさ、国学/狂歌) F 2 0 7 2

有政(ありまさ・浅野) → 主計(かづえ・浅野あさの、医者) F 1 5 1 8

有政(ありまさ・榎本) → 清蔭(きよかげ・榎本えのもと、藩士/国学) T 1 6 6 3

1035 有間皇子(ありまのみこ、孝徳天皇皇子)640-658絞首刑(19歳) 母；阿倍倉梯麻呂女の小足媛こたらしひめ、  
657狂人を装い紀伊の牟婁の湯(白浜湯崎)に療養/帰京後伯母斉明天皇のその効を説く、  
658冬天皇らが牟婁行幸時に留守官蘇我赤兄宅で密議、当の赤兄に捕縛され牟婁に護送、  
皇太子(のちの天智)に訊問；「天と赤兄あか兄とのみが知る」と答え帰京途中に藤白坂で絞首刑、  
万葉一期歌人141-2、

[岩代の浜松が枝を引き結びま幸くあらばまたかへり見む](万葉；二141挽歌)

[家があれば笥けに盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る](万葉；142)

1034 在満(有満ありまる・荷田かだ/字；持之、羽倉高惟[多賀道員みらかず]男)1706-51<sup>46</sup> 国学・歌学/故実、  
叔父春満あづままる養子/1728江戸；田安宗武の家臣、38大嘗会に幕府忌諱；閉門、  
1742「国歌八論」/「国歌八論再論」著；田安宗武・賀茂真淵と国歌八論論争、  
「大嘗会便蒙」、「白猿物語」「在満歌文集」「在満雑筆」著

[それ書を解するには書を以て相照しまま発明をくはふるの外なし、

何の伝授といふ事かこれあらん](国歌八論)

[在満の通称/号] 長野大学/東之進/藤之進、号；仁良齋/三峯

蟻麻呂(ありまろ・仲上) → 法策(ほうさく・仲上/馬田江、俳人) 3 9 9 4

G1050 在躬(ありみ・菅原すがわら、淳茂男)?-? 菅原道眞の孫、平安前期廷臣/漢学者；対策及第、

932式部大丞/941右少弁/944文章博士兼任/946左少弁/948式部権大輔/大和守/従四上、  
本朝文粹;954橘直幹の上表に文章博士兼任の例として入

有躬(ありみ・里村/成井) → 昌周(しょうしゅう・阪/坂、幕府連歌師) S 2 2 9 1

有躬(ありみ・長谷川) → 蟠桃(ばんとう・山片やまがた、商人/実学者) I 3 6 4 3

在躬(ありみ・和気) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学) 3 2 2 3

F1080 有道(ありみち・源みなもと、有房男)?-? 1198右近少将/1210非参議/1211出家/  
歌;1200若宮歌合参

D1013 在通(ありみち・唐橋からはし/本姓菅原)1563-1615<sup>53</sup> 安桃江初期廷臣;民部少輔/従五上、  
狂歌;1666行風「古今夷曲集」入

[売買ばいばいの利欲にまぎれ礼義まで破れ袴の町人まうどの体で] (古今夷曲集;九・商人)

B1095 蟻道(ありみち・森本もりもと・丸屋五郎兵衛、号;柳隠観)1664-1711<sup>48</sup> 撰津伊丹の酒造家/俳人;重頼門、  
「無尽経」編、「野梅集」漢和入、「伊丹生誹諧」「旅寝論」「去来抄」「句兄弟」入、  
追善「鉢扣はちたき」弟長父(億曆)編;[弥兵衛とは知れど哀れや鉢扣]

F1081 有通(ありみち・林はやし、別名;通誼/通良、通英男/本姓越智)1797-1870<sup>74</sup> 肥後熊本の国学者;  
長瀬眞幸門、家塾原道館開;子弟教育、尊攘思想、熊本藩校時習館に出仕;講師、  
河上玄明はるあきの師、

「宇気比考」「桜園答書稿」「東遊日記」著、荒木季治・木村弦雄つるお・沼沢豊貫の師、

[有通の通称/号]通称;藤次、号;桜園/千葉城老人/原道館、諡号;国津彦稜威千別根命

G1067 有道(ありみち・深見ふかみ/本姓;高、通称;寿太郎)?-? 江後期;幕臣、本所林町小普請組、  
1852(嘉永5)屋敷全焼(怪火という)、  
歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[宿からん里は見ゆれどいざここに旅寝やせまし梅のこのもと](大江戸倭歌;春135)

F1083 有道(ありみち・河波かわなみ、通称豊太郎/号;棕園、有之男)1822-90<sup>69</sup> 加賀本多家に出仕、  
儒;村田蔵六門、1868藩校明倫堂助教、梅塙塾開;実業の鼓吹、1855「手習近道」著

有通(ありみち・野村) → 有信(ありのぶ・野村のむら/竹村、藩士/国老/歌) I 1 0 2 4

在道(ありみち・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4

B1097 有光(ありみつ・六条ろくじょう、称;禅林寺、有忠男/本姓;源;村上流)1310-57<sup>48</sup> 母;西園寺実俊女、  
鎌倉南北期廷臣;1331参議/32従三位、33足利尊氏の六波羅攻めに光厳天皇東下に供奉、  
1335従三位に復す/43権中納言/44辞任/46従二位、千種忠顕の兄、連歌;菟玖波集8句入、  
歌人;1323龜山殿七百首(9首入)/31三首歌会/46仙洞詩歌会・仙洞三首歌会参加、  
1350東宮直仁親王詩歌会・為世十三回忌和歌に参加、延文百首・拾遺現藻集・藤葉集入集、  
勅撰8首;風雅(1723)新千載(1119/1652/1836)新拾遺(228/1400/1549)新後拾遺(813)、  
[にほの海や霞みて遠き朝明けにゆくかた見えぬあまの釣りぶね](風雅;雑1723)

F1084 有光(ありみつ・日野ひの/本姓;藤原、法名祐光、資教男)1387-1443<sup>57</sup> 室町期廷臣;1411参議;  
後小松院の執権、1421権大納言/25従一位;出家、1443尊秀王の南朝再興挙兵に呼応;  
禁裏の乱入し神璽宝剣を奪取/叡山根本中堂に籠もる;幕府追討軍により誅殺、  
息子資親も誅殺される、歌;「有光太上皇応制和歌」著

在光(ありみつ・唐橋) → 在光(ありてる・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 8 5

B1098 有岑(ありみね・紀き) ? - ? 平安前期歌人、889以後「寛平御時后宮歌合」入、  
[夏山に恋しき人や入りにけむ声ふりたてて鳴く郭公](后宮歌合;右56/夏歌)

G1086 有岑(ありみね・竹内たけうち) ? - ? 歌人;香川景樹門、

1815(文化12)景樹「六十四番歌結うたむすび」参加入

[年月の涙のまこと玉ならば拾ひ置きても見せましものを]、

(六十四番歌結;三十八番左/寄玉恋)

F1086 在六(ありむつ・箕曲みのわ/本姓;秦、字;百蟾ひやくせん、通称;甚太夫/主水)1773-1831<sup>59</sup> 伊勢岩淵曆算家、  
画;古俣蠖庵かくあん門/書/詩、「御蔭参宮文政神異記」編

B1099 有宗(ありむね・源みなもと、資定男)?-? 1099存 平安後期廷臣;白河院別当/陸奥守/四位、  
歌人;新続古466/1919、

[さらしなや姨捨山の峰までも思ひやらるる夜半の月影](新続古;秋466/月多遠情)

I1098 有宗(ありむね・安倍あべ、晴宗男)?-? 鎌倉南北期の陰陽師(安倍晴明10世の子孫)、

- 織部正/正四下/陰陽頭/入道/鎌倉住、吉田兼好と知友;徒然草224段に兼好邸での知見入
- F1087 **有茂**(ありもち・藤原ふじわら、恒尚男)?-? 平安前期廷臣;主殿助従五下/歌人、  
921醍醐御時菊合参加、  
[霜の置きただたびごとに菊の花惜しみぞそめし今日にあふまで](菊合;25)
- F1088 **有庸**(ありもち・六条ろくじょう/本姓;源、有榮男)1752-1829 母;山本実観さねみ女、江中後期廷臣;  
1792権中納言/1809権大納言/従一位、  
「巴詩」「野詩」、「叙任録」、「六条有庸卿記」「六条有庸詩稿」著
- C1000 **有基**(ありもと・津守つり、国基男)?-? 1118存 平安後期神職/1077法勝寺佛像造、対馬/日向/大隅守、  
五位、箏/方磬ほうけいの演奏、景基の兄、歌人;後葉集/続詞花集入集、千載506・新古今1994、  
[住の江に待つらんとのみ歎きつゝ心づくしに年をふるかな](千載集;羈旅506)、  
(大隅国司任果てたのに大宰府大式から解任の命が来ていないため歎く望郷の歌)
- H1077 **有本**(ありもと・鈴木すずき、)1833-1896 越後蒲原郡粟生津あおう村の医者(儒医)、  
維新後;大講義、  
[有本(;名)の別名/通称]別名;原、通称;仙之丞  
有本(ありもと・村瀬) → 立斎(りつさい・村瀬むらせ、医者) B 4 9 9 4
- F1089 **在盛**(ありもり/あきもり・賀茂かも/勘解由小路、在貞男)1412-79 室町期陰陽家/暦・漏刻博士/陰陽頭、  
刑部卿/大膳大夫/従二位、暦法の権威、「在盛卿記」「日法雑書」著、1458「吉日考秘伝」著?
- F1090 **存守**(ありもり・ながもり・内藤ないとう/幼名;舍利、常令男)1831-1902 甲斐巨摩郡宮本村の神職;  
御嶽山金桜かなざくら神社嗣官、国学:鉄胤門、宮内属御歌所出仕、内藤信起のぶおきの弟、  
「内藤存守随筆」「古事記講義録」「日文問答ノ歌集」著、  
[在守の通称/号] 通称;誉次郎、号;城山/来信/隆継
- C1001 **有安**(ありやす・中原なかはら、号;筑州、頼盛男)?-? 1195存 平安末期;楽人、筑前/飛騨守、  
1194楽所預/五位、九条兼実家司/鴨長明の琵琶の師、歌;「寒玉集」編(散佚)、  
1191若宮社歌合参加、  
千載1247(詞書;満三七已乗六牙白象の心を詠める;  
法華経修行21日目に普賢菩薩が六牙の白象に乗って現れ教えを示す)、  
[待ち出でていかになれしく思ほえむ二十日あまりの山の端の月](千載;釈教1247)
- I1086 **在康**(ありやす・賀[加]茂かも、道榮男)?-? 鎌倉南北期;神職/宣平(1182月詣集入集)の孫、  
歌人;1345刊[藤葉とうよう集]入、  
[なほざりの契をたのむ命かなあはずはさても思ひきえなで](藤葉;恋449/契不逢恋)
- I1097 **在康**(ありやす・賀茂かも、在重or在基or定弘or定世男)?-? 室町期廷臣;図書頭、1448従三位、  
刑部卿/非参議/1451(宝徳3)正三位/1463(寛正4)以後不明
- I1012 **有恭**(ありやす・中西なかにし、旧姓;横橋)1842-96 伊勢度会郡の伊勢神宮祠官、  
神道・国学・歌;御巫みかんなぎ清直門、権少教正/世木せぎ神社祠官、  
[有恭(;名)の通称/号]通称;官太夫、号;篁斎  
有安(ありやす、狂名) → 紀有安(きのありやす、狂歌) G 1 6 0 6  
蛙柳(ありゅう・俳名) → 良輔(りょうすけ・並木、浄瑠璃/歌舞伎作者) I 4 9 3 6
- C1002 **有世**(ありよ・土御門つちみかど/本姓;安倍、泰吉男)1327/37?-1405 廷臣;権天文博士/陰陽頭、  
1379「僧正光濟追福諷誦文」編/88刑部卿/従二位、91明德乱を予言、歌;新続古1919、  
[祈りこし君がめぐみにくらみ山代々よにもこえて登りぬるかな](新続古;雑1919)、  
(位山は笏材のいちい[一位の木]を産する飛騨の山)
- C1004 **有好**(ありよし・藤原ふじわら、大納言定国男)?-930? 母;参議有実女、廷臣;左馬介/従五下、  
歌;921醍醐御時菊合参加、後撰790/987(ただ790の歌は新勅撰では伊勢の作)、  
[白雲のみな一群ひとむらに見えしかど立ち出でて君を思ひそめてき](後撰集;恋987)、  
(月下の白衣の女性達を見ての朝あしたに一人の許に贈る歌)
- C1003 **在良**(ありよし・菅原すがら、北野三位、定義男)1041-1121? 母;藤原定方女、漢学;紀伝道門、  
廷臣;紀伝道修学/1974対策及第/77式部少輔/大内記兼任、97文章博士/1111式部大輔;  
鳥羽天皇侍読/従四上/氏長者、没後贈従三位、詩歌;法性寺関白藤原忠通邸の作文会参加、  
「在良朝臣集」、「懐中抄」著(散佚)、中右記部類紙背漢詩集入、「本朝無題詩」入、続文粹入、  
勅撰5首;新勅撰(204/214/286)続千載(1026)続後拾遺(1010)、

[山里は葛の裏葉を吹き返す風のけしきに秋を知るかな](新勅;秋204、  
中納言中将忠通邸にて山家秋早の心を詠む)

- F1091 **有義**(ありよし・富塚とみづか、通称;半兵衛/兵馬) 1757-9135 仙台藩士/歌人、1778「漂海録」著
- I1052 **有儀**(ありよし・三瀬みせ、) 1762- 181150 伊予大洲の商家(塩問屋;麓屋)/国学者/歌人、  
神道・歌;常磐井守貫もつら門/歌学;小沢蘆庵門、宗圓そうえんの父、1834「ありよし集」著、  
[大洲和歌集]4首入/[ひなのてぶり]1首入、1811(文化8)没、  
[咲きにほふ花は昔にかはらねどともに見し世の友ぞすくなき](春懐旧)、  
[有儀(;名)の通称/屋号]通称;半兵衛、屋号;麓屋
- F1092 **有義**(ありよし・笹塚ささづか、通称忠左衛門)?-? 江後期加賀笹塚和算家;宮井光同門;三池流算法、  
1823「算法初門」著/「連幣算法」校訂、息則久も和算家
- H1005 **有善**(ありよし・今泉いまいずみ/旧姓;福井、)?-1874 福井又兵衛の養子/江戸幕臣、のち今泉に改姓、  
梵漢の学に通達/晩年平田篤胤の国学に傾倒;井上頼圀門、  
[有善(;名)の通称/号]通称;忠四郎/唯一郎、号;鴻斎
- H1073 **有徽**(ありよし・柴田しばた、) ? - ?1907(明治40)頃没 尾張の生/備前岡山住;  
歌人;藤原忠朝(1820-93)門、歌;蔵知矩[岡山の歌人]入
- I1007 **有慶**(ありよし・内藤ないとう、旧姓;国府/中臣) 1849-191365 筑前夜須郡の秋月藩士、  
国学・神道;名和大年(高鍋藩明倫堂教授)・平田延胤門、のち日向の高鍋八坂神社祠官、  
[有慶(;名)の通称] 充吉/斧一郎
- 有悦(ありよし・柳) → 檜悦(ならよし・柳やなぎ、藩士/測量術) G 3 2 9  
有義(ありよし・岡村) → 有長(ありなが・岡村おかむら/源、藩士/歌) H 1 0 3 4  
有儀(ありよし・山田) → 明遠(あきとお・山田やまだ、家老/詩歌) I 1 0 6 8  
有慶(ありよし・六条) → 有藤(ありふじ・六条、廷臣/画) F 1 0 7 6
- C1005 **有頼**(ありより/-瀬あるせ・綾小路あやのこうじ/本姓;源、信有男) 1295-132935 廷臣;1309越前守、  
1317左兵衛督/26参議/正三位/右京大夫/備中権守、家伝;郢曲、  
1328後醍醐天皇催馬楽灌頂御師賞、1317「源有瀬卿記」著、1327「糸竹口伝」奥書  
在原艶美(ありわらえんび) → 艶美(えんび・在原ありわら、洒落本作者) F 1 3 3 2
- F1093 **阿林**(ありん・山田やまだ、伝太夫男) 1719?-? 江中期書家;朝比奈玄洲門、1724「洛陽道詩」書:6歳、  
以後消息不明  
有人(ありんど、山々亭) → 有人(あるんど、山々亭、人情本/落語) C 1 0 0 6
- I1090 **ある局の女房**(あるつばねのにようぼう)?-? 平安期;待賢門院の後宮1118-23頃のある局の女房歌人、  
周囲から窃盗を疑われ冤罪に苦悶する歌;清輔[続詞花集]入、  
[待賢門院后宮と申しける時 女房のきぬの失せたりけるを ある局なる女房、  
あやしきさまにいはれける、北野の宮にこもり侍りける 御前の柱に書き付けける、  
おもひきやなき名をたつはうかりきとあら人神もありし昔を  
此のちほどなくあらはれにけりとなん申す](続詞花;神祇379)
- G1036 **或女房**(あるにようぼう) ? - ? 鎌倉期早歌;1296?「宴曲集;源氏恋/源氏」作詩/調曲  
阿仏尼説あり → 阿仏尼(あぶつに、歌人/日記)[外村説] 1 0 2 7
- 1036 **可有**(あるべし・呉陵軒) ? - 1788 江戸の川柳作者;上野山下桜木連の中心人物、  
八重垣・山水・若菜の各連にも所属、1765-88「諷風柳多留」初篇-二二篇編(:星運堂板行)、  
川柳風の基礎構築、1777「繁栄往来」/81洒落本「傾城異見之規矩かぬ」著(堪忍菴呉陵軒名)、  
辞世[雲晴れて誠の空や蟬の声](柳多留;二三)、  
[呉陵軒可有(;号)の別号] 木綿もめん/水禽舎/縁江
- G1038 **アルメイダ**(Luis d' Almeida) 1525?-8359 ホルトガル人外科医/イエズス会士、1552来日;伝道、  
医療活動;豊後府内に育児院・病院建設/天草で没、「日本通信」著
- C1006 **有人**(あるんど/ありんど・山々亭さんさんてい、姓;条野) 1832-190271 江戸日本橋の生/人情本作者、落語家、  
仮名垣魯文・河竹新七・円朝らと粋狂連に参加;落語の興隆に寄与、1868江湖新聞刊行、  
1872東京日日新聞/86やまと新聞創刊、1862「池園物語」「今様三題噺」著/「粋興奇人伝」編、  
1864-「春色江戸紫」66「花暦封じ文」66-「藪黄鸝八幡不知」67「春色延命袋」「浪輝黄金鯰」、  
「詩人どゝいつ」「自作都々逸」「新編甚九婦詩」「太平記英雄伝」外著多数、  
[山々亭有人(;号)の名/別号]名;伝平/伝兵衛でんべい/孝茂、別号;朧月亭/東籬園/興阿弥

- G1037 **阿礼**(あれ・稗田ひえだ;猿女君さるめのきみ一族)?-? 舍人;711太安万侶「古事記」編纂時に旧辞を口誦、女性か?
- C1034 **安連騷界子**(あれそうかいし、数名の戯名?)?-? 1831狂詩文「赤油行せきゆう」和車知難陀わしゃしらなんだ校  
 視吾堂(あれみどう) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8  
 視吾霊社(あれみれいしゃ) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8  
 安房(あわ・直江) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9  
 安房(あわ・伊達) → 成実(しげさね・伊達だて、武将/記録) R 2 1 0 5  
 安房(あわ・伊達) → 宗実(むねざね・伊達だて、領主/銃術/歌) B 4 2 3 6  
 安房(あわ・伊達) → 村成(むらしげ・伊達だて、藩士/武術) 4 2 1 4  
 安房(あわ・伊達) → 宗恒(むねつね・伊達だて、領主) B 4 2 7 1  
 安房(あわ・勝) → 海舟(かいしゅう・勝かつ、幕臣/海軍) I 1 5 7 1  
 安房(あわ・伊達) → 邦成(くにしげ・伊達、領主/北海道開拓) C 1 7 7 9  
 安房(あわ・福田/平内) → 廷臣(まさおみ・平内へいのうち/福田、幕臣;工匠) B 4 0 6 1
- F1094 **櫛丸**(あわぎまる/あわぎまろ/あおきまる・秦はた:本姓/村上) 1764or60-180845or49 伊勢度会郡の探検家:  
 江戸幕府に出仕/幕命で蝦夷地を踏査、地理/書画に通ず、  
 「蝦夷風俗史」、「蝦夷常用集」、「蝦夷島奇観」、「蝦夷風凶説」、「蝦夷見聞記」、「松前考」著、  
 「奥州駅略図」、「安房国地名考」、「東山道志」、「上総社縁起」、「臘膈膾漁凶説」、「魯斎亞文字」著、  
 [櫛丸(;名)の通称] 島之丞[允]、村上貞助さだすけの養父  
 阿波御前(あわごぜん・堀) → 成子(なりこ・しげこ・堀ほり/蜂須賀、歌人) O 3 2 6 6
- H1038 **澹**(あわし・村瀬むらせ) 1827 - 190478 美濃岐阜上竹屋町の蠟燭製造業;柏屋、  
 歌人;氷室長翁門/香川景恒門、楊園社を結び岐阜桂園派の中核となる、高橋古道と交流、  
 辞世[ゆふゆふとたゞよひかへる山の端の雲さへ道に迷はざりけり](墓碑)、  
 [澹(;名)の通称/号]通称;篤二郎、号;蓼園りょうえん/白馨居士、屋号;柏屋  
 淡路(あわじ・土井) → 利徳(としなり・土井とい/源、藩主/歌人) N 3 1 3 3  
 淡路(あわじ・榎/竹内) → 享寿(きょうじゅ・竹内たけうち、法眼/歌人) C 1 6 5 7  
 淡路(あわじ・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1  
 淡路(あわじ・児二井) → 秀時(ひでとき・児二井こにい、神職/国学) J 3 7 5 4  
 淡路(あわじ・笹木) → 祐雄(すけお・笹木ささき、神職/国学) I 2 3 5 6  
 淡路(あわじ・加倉井) → 砂山(さざん・加倉井かくらい、儒者/教育) B 2 0 6 1
- F1095 **淡路守**(あわじのかみ・嶋村しまむら) 1568-165184歳 武将:毛利家家臣、1650「嶋村淡路守覚書」著  
 淡路守(あわじのかみ・山澄) → 英重(ひでしげ・山澄、藩家老/和学) M 3 7 1 8  
 淡路守(あわじのかみ・村垣) → 定行(さだゆき・村垣、幕臣/蝦夷踏査) K 2 0 1 3  
 淡路守(あわじのかみ・村垣) → 範正(のりまさ・村垣、定行孫/幕臣/日記) F 3 5 7 8  
 淡路守(あわじのかみ・戸田) → 氏房(うじふさ・戸田とだ、藩主/歌) E 1 2 3 2  
 淡路守(あわじのかみ・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主/歌) E 4 4 4 0  
 淡路守(あわじのかみ・大久保) → 忠順(ただより・大久保おおくぼ、旗本/歌) U 2 6 2 2  
 淡路守(あわじのかみ・伊藤) → 常信(つねのぶ・伊藤いとう/岩淵、神職) F 2 9 2 1  
 淡路守(あわじのかみ・岡本) → 季宝(すえたか・賀茂かも/岡本、神職) F 2 3 4 8  
 淡路守(あわじのかみ・島津) → 忠寛(ただひろ・島津しまつ、藩主/国学) X 2 6 5 5  
 淡路守(あわじのかみ・蜂須賀) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9  
 淡路守(あわじのかみ・脇坂) → 安斐(やすあや・脇坂わささか/藤堂、藩主/歌) H 4 5 0 3  
 淡路守宗増(あわじのかみむねます) → 宗増(むねます・信濃小路、狂歌作者) C 4 2 4 9  
 淡路正(あわじのしょう・斎藤) → 義彦(よしひこ・斎藤/荒船、神道家/歌) G 4 7 2 0  
 阿波将監(あわしょうげん) → 清氏(きよじ・細川/源、武将/歌人) C 1 6 5 3  
 阿波上人(あわしょうにん) → 幸西(こうさい:法諱・成覚房、浄土僧) B 1 9 1 1  
 栗田(あわた/栗田殿) → 道兼(みちかね・藤原、栗田関白/歌) B 4 1 3 8  
 栗田口(あわたぐち) → 忠良(ただよし・藤原、廷臣/歌人) G 2 6 0 2  
 栗田口(あわたぐち) → 定雅(さだまさ・花山院/藤原、右大臣/歌) C 2 0 4 3  
 栗田口帥(あわたぐちのそち) → 顕時(あきとき・藤原、廷臣) C 1 0 5 4

粟田口中納言(あわたぐちのちゅうごん)→忠成(ただなり・粟田口あわたぐち/藤原、廷臣/歌) F 2 6 4 8  
 粟田口別当入道(あわたぐちのべつとうにゅうどう)→惟方(これかた・藤原) E 1 9 1 4  
 粟田口法印(あわたぐちのほういん)→静明(じょうみょう;法諱、天台僧/臨濟禪法) L 2 2 6 7  
 粟田右大臣(あわたのうだいじん)→道兼(みちかね・藤原、関白/歌人) B 4 1 3 8  
 粟田関白(あわたのかんぱく)→道兼(みちかね・藤原、関白/歌人) B 4 1 3 8

C1007 粟田女王(あわたのおおきみ) ? - 764 系統不詳、723従四下/739従四上/48正四上、  
 761光明皇后忌齋会に供奉;正三位、万葉三期歌4060、  
 [月待ちて家には行かむ我が挿せる赤ら橘影に見えつつ](万葉;十八4060/赤い橘の実)

粟田宰相(あわたのさいしやう)→四条宰相(しじやうのさいしやう、中宮謁子女房) E 2 1 1 3  
 粟田左大臣(あわたのさだいじん)→在衡(ありひら・藤原、廷臣/詩人) C 1 0 8 2

C1035 粟田二品親王(あわたのにほんしんのう)?-? 1676「穴太寺縁起」筆:狩野永納画

C1008 粟田大夫(あわたのまえつきみ・人ひとor人上ひとかみ)?-? 万葉三期歌817:730年梅花宴に少弐として参加、  
 [梅の花咲きたる園の青柳は縵がづらにすべくなりにからずや](万葉集;五817)

C1009 粟田女娘子(あわためのおとめ)? - ? 万葉四期歌人、家持へ贈歌707-8、女官か?、  
 [思ひ遣るすべの知らねば土垠かたもひの底にぞ我は恋ひなりにける](万葉;四707)  
 (土垠は土器;片思いを掛ける)

阿波院(あわのいん) → 土御門天皇(つちみかどてんのう、配流/歌人) 2 9 0 9  
 安房守(あわのかみ・伊達) → 成実(しげさね・伊達だて、武将/記録) R 2 1 0 5  
 安房守(あわのかみ・榎田) → 直猷(なおみち・榎田かした、儒者) C 3 2 5 6  
 安房守(あわのかみ・坪内) → 保之(やすゆき・坪内つぼうち、幕臣/歌) E 4 5 8 8  
 安房守(あわのかみ・行弘) → 正諭(まさのり・行弘ゆきひろ/中原、国学者) T 4 0 6 5  
 阿波守(あわのかみ・大伴) → 宣光(のぶみつ・寺部てらべ/大伴、神職/歌) G 3 5 4 4  
 阿波守(あわのかみ・杉浦) → 国満(くにまる・杉浦すぎうら、神職/国学) 1 7 2 2  
 阿波守(あわのかみ・藤木) → 従直(よりなお・藤木/賀茂、神職) J 4 7 2 4  
 阿波守(あわのかみ・村田) → 矩勝(のりかつ・村田むらた/源、幕臣/歌) G 3 5 7 0  
 阿波守(あわのかみ・戸田) → 氏壽(うじひさ・戸田ただ、旗本/歌) E 1 2 4 0  
 阿波守(あわのかみ・蜂須賀) → 斉裕(なりひろ・蜂須賀はちすか、藩主/歌人) I 3 2 0 8  
 阿波守(あわのかみ・宮崎) → 信教(のぶあつ・宮崎みやさき、神職/国学者) H 3 5 1 6  
 阿波守(あわのかみ・鈴木) → 之邦(ゆきくに・鈴木すずき、歌人) G 4 6 2 9  
 阿波守(あわのかみ・伊高) → 重雄(しげお・伊高いだか、神職/歌人) N 2 1 8 2  
 阿波守(あわのかみ・伊藤) → 直江(なおえ・伊藤いとう、神職/教育) L 3 2 0 8  
 阿波守(あわのかみ・石尾) → 氏信(うじのぶ・石尾いしお/藤原、幕臣) E 1 2 5 1  
 阿波権守(あわのごんのかみ) → 季才(すえのぶ・北村きたむら、神職/歌人) I 2 3 4 2  
 阿波介(あわのすけ・山田) → 以文(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実) B 4 4 6 3  
 安房介(あわのすけ・岡本) → 保興(やすおき・岡本おかもと、神職) F 4 5 5 6  
 安房介(あわのすけ・北村) → 季才(すえのぶ・北村きたむら、神職/歌人) I 2 3 4 2  
 阿波霊瑞(あわのれいずい) → 霊瑞(れいずい;法諱、真言僧) B 5 1 4 3  
 安(あん→やすし?・小川) → 南堵(なんと・小川おがわ、医/儒詩) J 3 2 3 3  
 安(あん→やすし?・多湖) → 栢山(はくざん・多湖たこ、儒者) D 3 6 0 9  
 安(あん・松村) → 芳洲(ほうしゅう・松村、藩士/儒者/詩人) B 3 9 3 9  
 安(あん→やすし・会沢) → 正志斎(せいしさい・会沢あいざわ、儒者/尊攘) B 2 4 9 1  
 安(あん・麻場/中村) → 柳坡(りゅうは・中村/麻場、医者/儒者) F 4 9 4 2

C1056 闇鴉(あんあ) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、  
 [漸やや九年悟らぬ夢に納くほら重し](二葉之松;385/前句;恋して遊べ よしやわざくれ)  
 (納は掛絡からで禅僧の肩掛け布、九年修業しても悟れない、恋でもすればよかった)

安々(あんあん・矢倉) → 安々(やすさだ・矢倉やぐら、商家/歌人) G 4 5 9 2  
 安々庵(あんあんあん) → 昌純(しょうじゆん・里村[南家]、連歌師) T 2 2 0 8  
 庵々々(あんあんあん) → 黒露(こくろ・山口やまぐち、俳人) C 1 9 4 0  
 安々亭(あんあてい) → 庸政(つねまさ・前島まえじま、医者/詩人) D 2 9 7 3  
 安々洞(あんあんどう) → 虞山(よ山ぐざん・加藤、藩士/地誌/歌) B 1 7 3 6

- 闇々堂(あんあんどう) → 恒久(つねひさ・芝原しばはら/岡、国学者) F 2 9 7 8  
 安威左衛門入道(あんい→あいさえもんにゅうどう)→ 性威(しょうい;号、神資脩、幕臣/歌人) Q 2 2 8 3  
 G1096 安倚(あんい・池城いげすく、唐名;毛天相) 1669-1710<sup>42</sup> 琉球の三司官/毛姓池城家の八世、祖父;安憲、  
 1696耳目官として正議大夫鄭弘良・都通事程順則らと渡唐入京、1698薩摩に進貢  
 安懿(あんい→やすよし・三宅)→ 瓶斎(へいさい・三宅みやげ、藩士/詩歌人) 2 7 3 4  
 杏逸(あんいつ・桂;変名) → 竜雄(たつお・雲井、藩士/詩人) G 2 6 1 7  
 安位殿(あんいどの) → 経覚(きょうかく;法諱、法相僧) G 1 6 6 2  
 杏隠(あんいん・多々羅) → 正誠(まさのぶ・多々羅たたら、医者/歌人) Q 4 0 6 2  
 安殷(あんいん・谷) → 安殷(やすしげ・谷たに、商家/歌人) G 4 5 2 5  
 安運(あんうん・松井) → 安運(やすゆき・松井まつい、里正/和学) G 4 5 6 5  
 F1096 安慧(あんえ;法諱、俗姓:大狛) 794-868<sup>75</sup>歳 河内大県郡生/天台僧;下野小野寺広智門、  
 さらに最澄・円仁門、827大日経試験及第/12年間籠山/844出羽に布教/846十禅師、  
 862内供奉十禅師/64天台座主、  
 847「愍論辨惑章」、「顕法華義抄」「金剛界私記」「即心成仏義」著  
 F1097 安慧(あんえ;法諱、号;勝国道人) 1819-1901<sup>83</sup> 肥後阿蘇の真宗善正寺住職/漢学/国学、  
 仏教天文学研究、「護法新論」、「古の中道」「神代の道分」「利剣記」著  
 安英(あんえい・森/森本) → 百丸(ひやくまる・森本、伊丹の酒造業/俳人) 3 7 1 2  
 安英(あんえい・武広) → 安英(やすひで・武広たけひろ、藩士/刀工) C 4 5 7 6  
 安栄(あんえい・馬島) → 西山(せいざん;号・馬島まじま、詩人) I 2 4 4 6  
 安永勾当(あんえいこうとう) → 安永検校(やすながけんぎょう、音曲家) C 4 5 4 3  
 安釋(あんえき→やすつぐ・重野)→ 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5  
 F1098 安遠(あんえん;法諱、俗姓:秦) 842-923<sup>82</sup>歳 讃岐生/三論僧;元興寺律師、914「三論宗章疏」著  
 安延(あんえん・小山) → 安延(やすのぶ・小山こやま、神職/歌人) F 4 5 8 9  
 庵園(あんえん;号) → 本純(ほんじゆん;法諱・守篤、天台学僧) F 3 9 4 3  
 杏園(あんえん・森本) → 甄里((せんり・森本もりもと、藩士/儒者) N 2 4 2 7  
 安屋(あんおく・三島) → 安屋(やすいえ・三島みしま/越智、神職) G 4 5 7 9  
 安河(あなか・賀島) → 安河(やすかわ・賀島かしま、国学者) B 4 5 2 1  
 安雅(あなが・北村) → 安雅(やすまさ・北村きたむら、国学者) F 4 5 8 4  
 F1099 安海(あんかい;法諱) ? - ? 1003存 平安期京天台僧;叡山で剃髪/横川で天台教学修得、  
 宋の智礼に源信と天台義釈を送る、「恵心疑問」著  
 G1000 安海(あんかい、諡名;閑信院、俗姓:下間、正楽寺順定3男) 1820-86<sup>67</sup>歳 長門の真宗本願寺派僧、  
 長門阿武郡正楽寺の生/幼時に儒学;日田の広瀬淡窓門/野坂三益門、仏教;肥前の不及門、  
 不及没後に智旭門、1854頃本山学林修学;知蔵となる、文久1861-64頃長門萩の三千坊住職、  
 護法館設立;学徒を教育、維新後;1876本山編輯場副監に就任、没後;贈司教、  
 「八轉声略頌講」「玄義分講録」著  
 安海(あんかい・沖) → 安海(やすみ・沖おき/源、商家/国学/歌) D 4 5 0 1  
 安雅斎(あながさい・久藤) → 俊輔(としすけ・久藤くどう、歌人) V 3 1 0 1  
 安嘉門院(あなかもんいん) → 安嘉門院邦子(あなかもんいんぼうし) C 1 0 3 6  
 安嘉門院越前(あなかもんいんのえちぜん) → 阿仏尼(あぶつに、日記/歌人) 1 0 2 7  
 安嘉門院右衛門佐(あなかもんいんのえもんのすけ・右衛門督) → 阿仏尼(あぶつに) 1 0 2 7  
 安嘉門院甲斐(あなかもんいんのかい) → 甲斐 ⑦(かい、邦子内親王家女房) 1 5 0 0  
 安嘉門院三条(あなかもんいんのさんじょう) → 御匣(みくしげ・式乾門院) 4 1 7 6  
 安嘉門院四条(あなかもんいんのしじょう) → 阿仏尼(あぶつに) 1 0 2 7  
 安嘉門院大式(あなかもんいんのだいに) → 大式(だいに・安嘉門院) C 2 6 0 2  
 安嘉門院高倉(あなかもんいんの高くら) → 高倉(たかくら・安嘉門院) C 2 6 7 4  
 C1036 安嘉門院邦子(あなかもんいんぼうし、邦子内親王、守貞親王[後高倉院]女) 1209-83<sup>75</sup> 後堀河天皇准母、  
 出家、阿仏尼(安嘉門院四条)を育成/女房に歌人多数;御匣・甲斐・大式・高倉など  
 G1001 安環(あんかん;法諱) ? - ? 真宗大谷派嗣講;円環門、敦賀了福寺住職、  
 学寮で文類聚鈔/無量寿経を講義、1536「超空師行状」著  
 安寛(あんかん・鈴木) → 安寛(やすひろ・鈴木すずき、歌人/歌学) C 4 5 8 7



安間窟(あんかんくつ) → 石鼎(せきてい・末広すえひろ、俳人/篆刻家) K 2 4 4 1

安閑自適(あんかんじてき) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8

G1097 安規(あんき・池城いけぐすく親方、唐名;毛有斐) 1829-77 49 琉球王国末期の官僚;毛姓池城家の15世、1873三司官、1875使節団代表として明治政府大久保利通と交渉;明治政府の日本軍の鎮台設置・清との外交断絶などの要求でことごとく対立、明治政府への直訴運動を展開/十数回の嘆願書提出するも拒絶される;不眠症となる、東京の琉球藩邸に没、没後;1879琉球藩廃止;沖縄県が設置される

安規(あんき・寺島) → 美言(ぼくげん・寺島/西尾、本陣職/俳人) D 3 9 0 5

安輝(あんき・三浦) → 安輝(やすてる・三浦みうら、藩士/歌) G 4 5 7 8

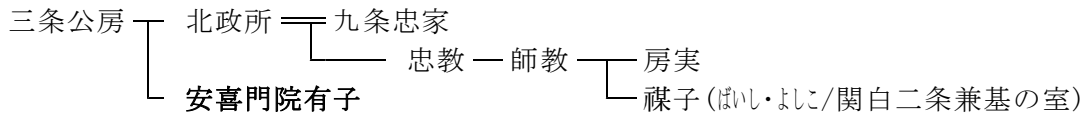
安暉(あんき・柳沢) → 吉里(よしさと・柳沢/源/松平、藩主/歌) D 4 7 4 1

安歡(安喜あんき・鷺見) → 安歡(安喜/保喜やすよし・鷺見すみ、藩士/歌) D 4 5 5 8

安義(あんぎ・関口) → 安義(やすよし・関口せきぐち、藩士/歌人) G 4 5 1 1

安誼(あんぎ・杉江) → 安誼(やすよし・杉江すぎえ、歌人) G 4 5 0 3

I1096 安喜門院(あんきもんいん、藤原[三条]有子ゆうし/ありこ、三条公房[浄土寺相国]女) 1207-86 80 鎌倉期;母;太宰大貳藤原範能女の修子、異母兄に右大臣三条実親、教養が高い、1222後堀河天皇(1212-34)女御(16歳)/23(貞応2)中宮、1226(嘉禄2)女御の近衛長子が中宮となり有子は皇后(三条殿の後きさい)となる、1227(安貞元)院号;安喜門院/46(寛元4)剃髪出家、1286(弘安9)没、教養が高い、徒然草107段;[浄土寺前関白は幼くて安喜門院のよく教へ参らせさせ給ひける故云々]、(浄土寺前関白;九条師教[1273-1320]?/その父忠教説もあり)



行脚散人(あんぎやさんじん) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3

G1002 安休(あんきゅう・やすよし・服部はつとり、名;尚由、伝兵衛男) 1619-81 63 江前期江戸の儒者:林羅山門、1657会津藩儒官(藩主に講義)、1664神道;吉川惟足これら門、65山崎闇斎と神道太極論争、神社管領職、「会津神社志」編纂参画、「中臣祓口解」「中臣祓童蒙抄」「神代卷蒙訓抄」著、[安休(;号)の通称/別号]通称;仙菊/門十郎/八兵衛/平兵衛、別号;春庵/春齋、神号;進功霊社

安休(あんきゅう・松村) → 種常(たねつね・松村まつむら、幕臣/和学) Z 2 6 6 3

闇牛齋(あんぎゅうさい) → 秋童(しゅうどう・闇牛齋、絵師) Y 2 1 1 0

安居(あんきよ・尾張) → 安居(やすい・尾張おわり、廷臣/舞楽) H 4 5 1 5

安居(あんきよ・橋本) → 安居(やすい・橋本はしもと、神職/国学者) 4 5 9 4

安居(あんきよ・糟谷) → 次郎(じろう・糟谷かすや、歌人) U 2 2 5 0

安居(あんきよ・十市) → 安居(やすおき・十市とおち、藩士/絵師) G 4 5 3 0

安彊(あんきょう・中曾根) → 仙庵(せんあん・中曾根なかそね、医者) L 2 4 5 3

安郷(あんきょう・長谷川) → 愚童(ぐどう・長谷川はせがわ、盛岡文筆家) C 1 7 5 3

安郷(あんきょう・長谷川) → 安卿(やすあきら・長谷川、幕臣/歌人) 4 5 8 5

安金吾(あんきんご) → 笠沢(りゅうたく・岩井いらい/源、儒者) F 4 9 1 3

安敬(あんけい・三島) → 玉昭(たまあき・三島みしま/越智、神職) Z 2 6 6 8

安卿(あんけい・長谷川) → 安卿(やすあきら・長谷川、幕臣/歌人) 4 5 8 5

安卿(あんけい・武居) → 筋庵(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人) K 2 4 6 9

安継(あんけい・椎名) → 安継(やすつぐ・椎名、狂歌) I 4 5 5 8

安経(あんけい) → 安経(やすつね、神職/連歌) I 4 5 7 2

按卿(あんけい・中川) → 淳庵(じゅんあん・中川、医者/蘭学者) J 2 1 1 9

安穴(あんけつ) → 間拔安穴(まぬけのあんけつ、洒落本) K 4 0 0 1

安月堂(あんげつどう) → 不扇(ふせい・立羽たちば、俳人) B 3 8 7 4

安穴道人(あんけつどうじん、安穴先生、狂詩) → 棕隠(そういん・中島、詩) 2 5 0 4

安兼(あんけん・重松) → 安兼(やすかね・重松しげまつ/藤原、神職/国学) F 4 5 9 7

安堅(あんけん・近藤) → 安堅(やすかた・近藤こんどう、国学/歌人) F 4 5 9 2

- 安賢(あんけん・岡) → 安賢(やすかた・岡おか、商家/国学) F 4 5 5 5  
 安元(あんげん・斎藤) → 安元(やすもと・斎藤さいとう、武家/連歌) D 4 5 2 5  
 安元(あんげん・脇坂) → 安元(やすもと・脇坂、藩主/歌/蔵書) D 4 5 2 6  
 安元(あんげん/やすもと・多湖) → 貫斎(かんさい・多湖たこ、儒者) Q 1 5 6 3  
 安元(あんげん・多紀) → 元徳(もとのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医) D 4 4 8 3  
 安元(あんげん・多紀) → 元胤(もとつぐ・多紀/丹波、元徳の孫/幕臣/医者/詩) D 4 4 0 8  
 安彦(あんげん・朝見) → 安彦(やすひこ・朝見あさみ、神職/国学) F 4 5 1 5  
 安固(あんこ・山口) → 安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人) G 4 5 9 5
- G1003 **安興**(あんこう;法諱、俗姓;山梨)?-? 江戸中期日蓮僧、1724「五人所破抄一覽」著  
 安孝(あんこう/やすかた・竹内) → 東門(とうもん・竹内たけうち、儒者/医者) H 3 1 4 6  
 安亨(あんこう・桜井) → 竜淵(りゅうえん・桜井さくらい、儒者/詩歌) D 4 9 0 2  
 安行(あんこう・奥野) → 安行(やすゆき・奥野おくの、国学/神職) F 4 5 6 0  
 安綱(あんこう・関口) → 安綱(やすつな・関口せきぐち、藩士/歌人) G 4 5 1 0  
 安綱(あんこう・八木原) → 安綱(やすつな・八木原やぎはら、国学/歌人) G 4 5 9 1  
 安興(あんこう・名倉) → 安興(やすおき・名倉なくら、商家/国学者) G 4 5 3 1  
 安興(あんこう・奥野) → 安興(やすおき・奥野おくの、鍛冶職/国学/歌) F 4 5 5 9  
 安康天皇(あんこうてんのう) → 穴穂皇子(あなほのみこ) B 1 0 5 0  
 安克(あんこく/やすかつ・矢口) → 養達(ようたつ・斎藤さいとう/矢口、藩医) B 4 7 4 5  
 安国(あんこく・藤原) → 安国(やすくに・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 4 5 3 1  
 安国(あんこく・中井) → 安国(やすくに・中井なかい、歌人) G 4 5 3 2  
 安国(あんこく・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5  
 安国院(あんこくいん) → 日奥(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 4  
 安国院(あんこくいん) → 日講(にちこう;法諱・恵雄、日蓮僧) B 3 3 8 0  
 安国院(あんこくいん) → 日習(にっしゅう;法諱・恵雄、日蓮僧) E 3 3 0 2  
 安国寺(あんこくじ) → 淡雲(たんうん;法諱・佩石;字、真宗僧) T 2 6 1 6  
 安国寺恵瓊(あんこくじえいけい) → 恵瓊(えいけい;法諱・瑤甫、臨濟僧/外交) D 1 3 7 5  
 安故堂(あんこどう) → 玄長(げんちょう・坂上さかがみ、医者) L 1 8 4 2
- G1004 **安斎**(あんさい・武野たけの、名;知信、宗瓦男) 1597-1656 60歳 和泉堺の僧:沢庵門/還俗、尾張藩士、  
 「沢庵和尚行状」編
- 1037 **闇斎**(あんさい・山崎やまさき、名;嘉/柯、字;敬義もりよし、鍼医浄因男) 1618-82 65 母;佐久間舎奈、叡山僧、  
 妙心寺で禅修業/儒;谷時中門/京で還俗/1671神道;惟足門、垂加流神道を主唱;子弟教育、  
 「会津山水記」「垂加草全集」「垂加文集」「垂加翁神話」「前修詩語彙」「十種伝」外著多数、  
 [闇斎(;号)の通称/別号]通称;清兵衛/嘉[加]右衛門、  
 別号;垂加します/梅庵/似切斎/垂加霊社  
 [崎門三傑(きもんさんげつ)] ; 闇斎の3人の優れた門人  
 → 直方(なおかた・佐藤:破門) 1650-1719 3 2 8 6  
 → 綱斎(けいさい・浅見:破門) 1652-1711 1 8 0 3  
 → 尚斎(しょうさい・三宅) 1662-1741 M 2 1 8 2  
 学統 → **崎門学派**(きもんがくは)を参照
- G1005 **安斎**(あんさい・西にし) ? - ? 江中期茶道家/講釈師;  
 1716門左衛門の浮世草子「国姓爺御前軍談」を素読
- D1011 **安斎**(あんさい・岡島おかじま順/忠甫、通称信夫、冠山[1674-1728]男)?-? 長崎儒者;父門/萩藩儒、  
 1754「唐詩選故事」58「増註大学」/66「古尺牘」/70「国語訂字」、「唐詩要解」著、  
 [安斎の別号] 竹塙ちくお/ちくう、竹塙館/慧日山人
- G1006 **安斎**(あんさい・山口やまぐち忠居、字;湛玄/湛夫)?-? 江中期医者;山脇東洋門/名古屋在住の藩医?、  
 1765「和韓医話」66「病家示訓余議」、「病家薬訓」「安斎漫筆」著  
 安斎(あんさい・竹内) → 岑延(みねのぶ・竹内、自安/商家/歌人) F 4 1 5 1  
 安斎(あんさい・伊勢) → 貞丈(さだたけ/ていじょう・伊勢いせ、故実家) B 2 0 9 5  
 安斎(あんさい・吉田) → 自休(じきゅう・吉田よしだ、外科医者) Q 2 1 1 5  
 安斎(あんさい・泉谷園/鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学/俳人) F 1 0 5 1

- 安齋(あんさい・喜多村) → 香城(こうじょう・喜多村、幕府医官) F 1 9 1 2  
 安齋(あんさい・久子) → 翠峰(すいほう・久子くす、儒者/詩人) E 2 3 9 8  
 安齋(あんさい・大野) → 祐之(ひろゆき・大野おの、和算家) H 3 7 6 5  
 安載(あんさい・上野) → 片石(へんせき・上野うえの、藩士/俳人) B 2 7 3 2  
 晏齋(あんさい・山田) → 昌巖(しょうがん・山田、藩家老/記録) H 2 2 8 4  
 晏齋(あんさい・小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9  
 安材(あんざい・平松) → 安材(やすき・平松ひらまつ、商家/歌人) G 4 5 4 9  
 安齋楽(あんざいらく) → 保美(やすよし・安齋あんざい、名主/歌人) F 4 5 2 4  
 按察(あんさつ) → 弘鑊(こうばん; 法諱、真言僧) L 1 9 0 1  
 按山(あんざん・阿保) → 邦彪(くにたけ・阿保あほ/中川、国学者) D 1 7 9 3  
 案山子(あんざんし) → 洪川(こうせん; 道号・宗愷そうぐん; 法諱、臨濟僧) K 1 9 2 1  
 案山子(あんざんし→かかし・山田) → 意齋(いさい、書/狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3  
 案山子(あんざんし→かかし・山本) → 祖月(そげつ・山本やまと、俳人) D 2 5 6 6  
 案山子(あんざんし) → 案山子(かかし・達摩堂だるまどう、俳人) B 1 5 2 0  
 案山子(あんざんし→かかし・佐倉) → 笑種(しょうしゅ・佐倉さくら、俳人) S 2 2 8 7  
 案山子郎(あんざんしろう) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
- C1011 安子(あんし・天曆贈太皇太后宮てんりやくのぞうたいこうたいごうぐう、藤原師輔女) 927-964<sup>38</sup> 946村上天皇女御、  
 958中宮/皇后、967皇太后/969贈太皇太后、母; 藤原経邦女盛子、冷泉/円融天皇の母、  
 957「師輔五十賀屏風歌」主催、歌人; 勅撰3首; 新勅撰(1207)/続古今(1781)/新千(2245)、  
 [露霜つゆじものよひあかつきにおくなれば床にや君がふすまなからむ](新勅撰; 雑1207)、  
 (少将高光が横川にのぼり出家の際ふすまを調じて賜はせて詠)
- G1007 安子(あんし) ? - ? 平安期歌; 1038「源大納言師房家歌合」左方参、  
 [降る雪は消えあへずとも吉野山いつしか春のかすみ立たなむ](師房家歌合; 18)
- C1037 闇指(あんし・中村なかむら) ? - 1741?90余歳 越前福井藩士; 150石/俳人; 其角門、  
 1697「末若葉」独吟歌仙入、「袖目金」編、1698「続猿蓑」10句入、  
 [宵の雨しるや土筆つきの長ながみじか](続猿蓑; 卷下)、  
 [闇指(;号)の名/通称/別号] 幼名; 弥五作/名; 政方、通称; 太郎左衛門、別号; 梅宇軒
- G1008 安枝(あんし) ? - ? 大阪俳人; 1690之道「江鮭子あめご」1句入、  
 [終夜やすがらや野分に落ちし鬼瓦](あめ子; 159)
- G1009 安士(あんし) ? - ? 俳人; 珪林卯時庵に出入り、  
 1736紫坊竹郎「茶話稿」俳話入
- 安子(あんし・柳原) → 安子(やすこ・柳原/正親町三条、歌人) 4 5 2 1  
 安之(あんし・早川) → 安之(やすゆき・早川はやかわ、俳人) E 4 5 7 7  
 安之(あんし・玉置) → 安之(やすゆき・玉置たまおき、神職/俳人) D 4 5 3 6  
 安之(あんし・伊) → 安之(やすゆき・伊[いい?])、歌人) H 4 5 0 7  
 安之(あんし・小宅) → 処齋(しよさい・小宅おやけ、藩士/儒者) M 2 2 3 3  
 安之(あんし・栗田) → 安之(やすゆき・栗田くりた、幕臣/和算家) D 4 5 4 1  
 安之(あんし・谷) → 安之(やすゆき・谷たに、書家) D 4 5 3 9  
 安之(あんし/やすゆき・常松) → 菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文) K 1 6 0 7  
 安之(あんし・柏) → 安之(やすゆき・柏かしわ、史家) D 4 5 4 4  
 安之(あんし川名) → 安之(やすゆき・川名かわな、藩士/国学者) F 4 5 7 7  
 安止(あんし・長沼) → 詮政(あきまさ・長沼ながぬま、和算家) D 1 0 8 9  
 安至(あんし・木内) → 御年(みとし・木内きうち、国学者) F 4 1 3 4  
 安枝(あんし・横須賀) → 静齋(せいさい・横須賀よこすか、儒者/教育) I 2 4 3 4  
 按司(あんし・向/上原) → 朝庸(ちようよう・上原うへはら/向、廷臣/歌) M 2 8 1 5  
 按司(あんし・向/護得久) → 朝置(ちようち・護得久ごえく/向、廷臣/詩人) J 2 8 4 5  
 按司(あんし・向/護得久) → 朝良(ちようりよう・護得久ごえく/向、朝置男/廷臣/詩) M 2 8 5 4  
 安時(あんじ・猿丸) → 安時(やすとき・猿丸さるまる、庄屋/溜池築造) F 4 5 9 4  
 安七(あんしち・竹内) → 修敬(しゅうけい・竹内、和算家) X 2 1 0 1  
 安実(あんじつ/やすざね・富田) → 育齋(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1

- 安実(あんじつ・田宮) → 尚施(しょうし・田宮やみや、藩医) S 2 2 6 6  
 安守(あんしゅ→やすもり・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学者/歌) J 2 2 0 4  
 安樹(あんじゅ・多) → 安樹(やすき・多おの、大歌師/琴歌譜) I 4 5 7 1  
 鞍樹(あんじゅ・石井) → 鞍樹(くらき・石井いし、歌人) D 1 7 8 5  
 安州(あんしゅう:道号・玄貞) → 玄貞(げんてい:法諱・安州、曹洞僧) L 1 8 5 5  
 安秀(あんしゅう・歌川) → 安秀(やすひで・歌川うたがわ、絵師) C 4 5 7 7  
 安周(あんしゅう・柿崎) → 安周(やすかね・柿崎かきざき、神職/国学) F 4 5 7 4  
 C1038 **安重**(あんじゅう・内海うつみ) ? - ? 山城/京の俳人;梅盛門、1657梅盛「鸚鵡集」140句入、  
 1658「口真似草」入、63「木玉千句」参加(倫員「木玉集」所収)、  
 1668梅盛「細少石さざれいし」/72「山下水」入  
 安重(あんじゅう・荻野) → 安重(やすしげ・荻野おぎの、砲術家) B 4 5 6 6  
 安重(あんじゅう/やすしげ・磯野/宮沢) → 欽斎(きんさい・宮沢みやざわ、儒者) I 1 6 9 9  
 安重(あんじゅう・向井) → 安重(やすしげ・向井むかい、儒者) B 4 5 6 8  
 安重(あんじゅう・大形) → 安重(やすしげ・大形おおかた、飛脚/歌人) F 4 5 5 0  
 安住院(あんじゅういん) → 日念(にちねん;法諱・恵照、日蓮僧) D 3 3 1 1  
 安住軒(あんじゅうけん) → 友意(ゆうい・渡辺わたなべ、俳人) 4 6 6 5 4  
 安叔(あんしゅく・多紀) → 元堅(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医) C 4 4 3 6  
 安肅(あんしゅく・山崎) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9  
 安宿王(あんしゅくおう→あすかべのおおきみ) → 安宿王(あすかべのおおきみ、長屋王男) B 1 0 1 1  
 安寿軒(あんじゅけん) → 安鶴(あんつる、安寿軒、左官/巷談) C 1 0 4 3  
 安春(あんしゅん・牧野) → 安春(やすはる・牧野まきの/加藤、医者/国学) G 4 5 6 3  
 安順(あんじゅん・長沼) → 安定(やすさだ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 0  
 安純(あんじゅん・牧野) → 安純(やすずみ・牧野まきの、医者/神職) G 4 5 6 2  
 安処(あんしょ・藤田) → 安処(やすずみ・藤田、藩士/奉行) B 4 5 8 0  
 安処(あんしょ・桜井) → 霽松(せいしょう・桜井さくらい、儒者) I 2 4 7 9  
 安緒(あんしょ・玉置) → 安緒(やすお・玉置たまおき、神職/国学/歌) G 4 5 2 6  
 C1012 **安性**(あんしゅう・沙彌、俗名;中原時元) ?-? 1192存 平安後期歌僧、1178別雷社歌合参加、  
 1191若宮社歌合参加、1177前「拾遺歌苑抄」撰(散佚)、千載1198、  
 [武蔵野に朝なくきぎす声すなりかすみのなかにつまやこもれる](別雷社歌合:霞28番右)  
 C1013 **安照**(あんしゅう・金春こんばる、喜勝[法号岌蓮]男) 1549-1621 73歳 能役者;金春大夫6世、  
 旧来の正統的芸能を主唱、秀吉/家康の庇護を受ける、  
 1606「金春安照秘伝書」07「金春安照装束付」10「安照能伝書」著、  
 [安照の通称/法号]通称;八郎、法号;誰庵禅曲すいあんぜんきょく  
 C1039 **安昌**(あんしゅう・藤井ふじい) ? - ? 江戸前期俳人:幽山江戸住の時の連中、  
 1678幽山「江戸八百韻」入/81似春「芝肴」入  
 H1090 **安詳**(あんしゅう・太工廻だくじやく、唐名;毛文魁) 1791-1851 61 琉球朝臣;義村朝頭の与力、歌人、  
 1804尚灝しょうこう王即位謝恩使の楽童子を務む/八重山在番/普請奉行、  
 越来間切太工廻地頭職を歴任、歌;宜湾朝保編[沖縄三十六歌仙/沖縄集所収]の 1  
 安昌(あんしゅう・戸川) → 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5  
 安昌(あんしゅう・小島) → 安昌(やすまさ・小島こじま、幕臣) C 4 5 9 7  
 安昌(あんしゅう・会田) → 安昌(やすまさ・会田あいだ、国学者・歌人) C 4 5 9 9  
 安章(あんしゅう・菊池) → 和久(にぎひさ・菊池/菊地きくち/藤原、国学/神職) H 3 3 0 1  
 安照(あんしゅう・庄田) → 安照(やすてる・庄田しょうだ、幕臣/記録) C 4 5 1 4  
 安照(あんしゅう・脇坂) → 安照(やすてる・脇坂わきさか、藩主) C 4 5 1 5  
 安勝(あんしゅう・藤田) → 安勝(やすかつ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 1 6  
 安勝(あんしゅう・重松) → 安勝(やすかつ・重松しげまつ、神職/国学/歌) F 4 5 9 6  
 安証(あんしゅう・桜井) → 安証(やすあき・桜井さくらい、能楽師) 4 5 7 9  
 安尚(あんしゅう・七条) → 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌) G 3 8 3 0  
 安尚(あんしゅう・河田) → 安尚(やすひさ・河田かわた、藩士/歌人) C 4 5 7 5  
 安祥院(あんしゅういん) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、側室/中藪/歌人) B 4 6 5 4

- 安祥寺僧正(あんしょうじのそうじょう)→ 道實(どうほう;法諱、真言僧/歌人) H 3 1 1 7  
 安祥寺僧都(あんしょうじのそうず)→ 恵運(えうん;法諱、真言僧/入唐) D 1 3 4 5  
 安祥寺律師(あんしょうじのりっし)→ 宗意(そうい;法諱、真言安祥寺流開祖) F 2 5 9 5  
 闇章堂(あんしょうどう) → 宗辰(むねとき・前田まえた、藩主/和学) E 4 2 2 3
- G1010 **安心**(あんしん) ? - ? 平安後期歌人;1172広田社歌合参加、  
 [もしほ焼くけぶりたつらし見渡せばうすぐもまがふあはじしまやま]  
 (広田社歌合;海上眺望24番右)
- G1011 **安心**(あんしん:通称・安立あだち、名;倡佐)?-? 1703存 元禄1688-1704頃尾張津島の医者、  
 1703「理学専要」著
- 安心(あんしん・大島) → 吉綱(よしつな・大島/横江、槍術家) E 4 7 7 1  
 安臣(あんしん・朝見) → 安臣(やすおみ・朝見あさみ、神職/国学) F 4 5 1 6  
 安臣(あんしん・三村) → 安臣(やすおみ・三村みむら、藩士/国学者) G 4 5 8 0  
 安親(あんしん・藤原) → 安親(やすちか・藤原、廷臣/歌人) B 4 5 9 8  
 安親(あんしん・西松) → 安親(やすちか・西松にしまつ、連歌作者) C 4 5 0 1  
 安親(あんしん・河田) → 安親(やすちか・河田かわだ、藩士/歌人) C 4 5 0 2  
 安信(あんしん・狩野) → 安信(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師) C 4 5 5 4  
 安信(あんしん・脇坂) → 安信(やすのぶ・脇坂わさきさか、武将/歌人) C 4 5 5 3  
 安信(あんしん・寺島) → 安信(安宣やすのぶ・寺島、商家/俳人) C 4 5 5 6  
 安信(あんしん・舟木) → 伝内(2世でんない・舟木、料理人) D 3 0 3 6  
 安信(あんしん・松尾) → 安信(やすのぶ・松尾まつお、和算家/測量) C 4 5 6 0  
 安信(あんしん・小沢) → 安信(やすのぶ・小沢おざわ、京増七平、役人/歌) E 4 5 8 9  
 安信(あんしん・小沢) → 安信(やすのぶ・小沢おざわ、京増七平、役人/歌) E 4 5 8 9  
 安辰(あんしん・長谷川) → 安辰(やすとき・長谷川/藤原、幕臣/歌) C 4 5 2 1  
 安眞(あんしん/やすざね・竹内) → 東門(2世とうもん・竹内、儒者) H 3 1 4 8
- C1014 **按針**(あんじん・三浦・ウイリアム=アダムズWilliam Adams) 1564-1620 57 英国人;  
 水先案内(按針)人、蘭船の水先案内;1600豊後に漂着、幕府から相模三浦郡逸見へみ拝領、  
 徳川家康の外交顧問となる/平戸に病没
- 安心院(あんしんいん) → 雑華(ぞうけ;道号・蔵海;法諱、曹洞僧) G 2 5 8 6  
 安心院聖人(あんしんいんしょうにん) → 重清(じゅうせい・安心院あじむ、僧/連歌) H 2 1 8 7  
 安睡(あんすい・法名) → 正記(まさのり・比留ひる/藤原、幕臣/歌) L 4 0 6 0  
 安崇(あんすう・伴部) → 安崇(やすたか・伴部ともべ、儒・神道家) B 4 5 8 3
- C1015 **安静**(あんせい・荻田おぎた/荻野おぎの、名;重和)?-1669; 50余歳没 俳人:貞徳門:貞門七俳仙の1、  
 歌人、能書家;手習師匠、1657「狭細布けふのほそぬの」/62「鄙諺ひげん集」編、「誹諧うちての小槌」著、  
 「如意宝珠」編(途中で没;1669門人似船せん刊)、1656貞室「玉海集」/66重徳「独吟集」入、  
 [我が庵いほや都の茶つみ宇治の里](鄙諺集)、  
 [安静(;号)の通称/別号]通称;九郎兵衛、別号;似空じくう[軒]、似船・調和の師
- C1040 **安世**(あんせい) ? - ? 俳人:1696長水「桃舐ももねぶり集」歌仙入
- 安世(あんせい・良岑) → 安世(やすよ・良岑/良峯、廷臣/詩人) 4 5 1 1  
 安世(あんせい・上田) → 安世(やすよ・上田、藩士/兵学者) D 4 5 4 5  
 安世(あんせい・良村) → 良村安世(よしむらのやすよ、狂歌) H 4 7 6 4  
 安世(あんせい/やすよ・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩) H 4 0 1 3  
 安世(あんせい/やすよ・板倉) → 璜溪(こうけい・板倉いたくら、儒者) E 1 9 9 7  
 安成(あんせい・藤原) → 安成(やすなり・藤原ふじむら、廷臣/詩歌人) C 4 5 4 4  
 安成(あんせい・多久) → 顔楽斎(がらくさい・多久たく、儒者) H 1 5 7 7  
 安成(あんせい・桜井) → 安成(やすなり・桜井さくらい/西川、能楽師) C 4 5 4 5  
 安清(やすきよ・藤原) → 安清(やすきよ・藤原ふじむら、廷臣/歌人) H 4 5 0 9  
 安清(あんせい・佐阿彌) → 安清(やすきよ・佐阿彌、日吉四郎次郎/能役作者) B 4 5 2 5  
 安清(あんせい・和田) → 安清(やすきよ・和田わだ、藩家老/詩文) B 4 5 2 7  
 安清(あんせい/やすきよ・岩崎) → 求斎(きゅうさい岩崎いわさき、儒者) M 1 6 5 9  
 安清(あんせい/やすきよ・多紀) → 元簡(もとやす・多紀たき、幕臣/医者) E 4 4 4 9

- 安清(あんせい・武藤) → 安清(やすきよ・武藤むとう、幕臣/和学者) G 4 5 8 5  
 安清(あんせい・戸川) → 安清(やすすみ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人) B 4 5 7 6  
 安清(あんせい・森山) → 安清(やすきよ・森山もりやま、藩士/国学者) G 4 5 9 0  
 安精(あんせい・新藤) → 安精(やすきよ・新藤しんどう、藩士/文筆) B 4 5 3 0  
 安静(あんせい・小西) → 似春(じしゅん・小西、俳人) E 2 1 0 0  
 安静(あんせい・関) → 一陽(いちよう・関せき、儒者) G 1 1 5 3  
 安静(あんせい・福島) → 満政(みつまさ・福島ふくしま、藩士/書簡) E 4 1 8 8  
 安盛(あんせい・林) → 宗二(そうじ・林りん・饅頭屋、商家/和漢学) 2 5 0 9  
 安盛(あんせい・矢野) → 安盛(あさか・矢野やの、砲術家) E 1 0 2 9  
 安正(安政あんせい・喜多村) → 槐園(かいえん・喜多村きたむら、幕府医官) I 1 5 4 1  
 安正(あんせい・高島/浅見) → 綱斎(綱斎けいさい・浅見、医/儒者) 1 8 0 3  
 安正(あんせい・綾部) → 綱斎(けいさい・綾部あやべ、儒者/詩歌) E 1 8 6 6  
 安正(あんせい・喜多村) → 香城(こうじょう・喜多村、幕府医官) F 1 9 1 2  
 安正(あんせい・真下) → 安正(やすまさ・真下ましも、薬商/国学/歌) G 4 5 6 1  
 庵静妥什山人(あんせいだじゅうさんじん) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5  
 安正堂(あんせいどう) → 長清(ながきよ・織田、藩主/文筆) D 3 2 5 5  
 G1012 安石(あんせき;通称・小林こばやし勝、号;秋水) 1794-1854 豊後日田医者/詩;淡窓門、堺で医業/  
 1849牛痘接種を試行、詩/書、「牛痘略説」著  
 安碩(あんせき・中山) → 元鵬(げんぼう・中山なかやま、医者) M 1 8 3 6  
 安積(あんせき・石川) → 安積(やすづみ・石川いしかわ、藩士/国学) E 4 5 8 7  
 I1095 安節(あんせつ・根城ねしろ、名;不詳)?-? 江前中期;陸奥盛岡南部藩士:江戸詰?、  
 詩人;1690元禄三年江戸桜田邸詩歌会参加;詩2編、  
 [苦熱時移りて爽氣清すがし 満襟まんきんの涼意南榮なんえいに在り、  
 礎声ちんせい為すを休やめよ秋風を促すを 残暑は猶なほ堪ふ細葛さいかつの軽かるきに]、  
 (桜田邸詩歌;初秋衣/苦熱;酷暑/南榮;南面の軒/礎声;砧打つ音/細葛;細い葛織の衣)  
 安節(あんせつ・佐藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2  
 安節(あんせつ・中台) → 元(はじめ・中台なかだい、藩士/儒者) E 3 6 4 3  
 安節(あんせつ・南条) → 八郎(はちろう・南条なんじょう、藩士/記録) E 3 6 9 7  
 安節(あんせつ・橋本) → 因碩(いんせき・井上、棋士) D 1 1 5 6  
 安節(あんせつ・黒岩) → 雲東(うんとう・黒岩/黒巖くろいわ、医者/儒) D 1 2 9 9  
 安節(あんせつ) → 恭斎(きょうさい・根市ねいち、藩士/儒者) N 1 6 7 9  
 安節堂(あんせつどう) → 清貞(きよさだ・可畑/源、歌人) P 1 6 5 4  
 安宣(あんせん・寺島) → 安信(あゆのぶ・寺島、商家/俳人) C 4 5 5 6  
 安宣(あんせん・別府) → 安宣(あゆのぶ・別府べつぷ、藩士/国学者) C 4 5 5 8  
 安船(あんせん・荒瀬) → 安船(あゆふね・荒瀬あらせ、商家/国学/歌) E 4 5 8 6  
 G1013 安操(あんそう・法師) ? - ? 平安期;雅楽、「喜春楽きしゅんらく」作?(行教ぎょうきょう作説?)  
 闇窓(あんそう・森山) → 孝盛(たかもり・森山、幕臣/国学) D 2 6 9 1  
 安叟(あんそう) → 沾洲(せんしゅう・貴志きし、俳人) F 2 4 8 8  
 晏窓(あんそう・駒沢) → 利廉(としかど・駒沢、儒/農本論) M 3 1 2 8  
 晏蔵(あんそう/やすそう?・宇田) → 深林(しんりん・宇田うだ、藩士/書家) Q 2 2 1 6  
 安則(あんそく・大中臣) → 安則(あすのり・大中臣/中臣、神職/延喜式参加) C 4 5 6 2  
 安則(あんそく・稲員) → 安則(あすのり・稲員いなかず、大庄屋;土木事業) C 4 5 6 3  
 安足(あんそく・土屋) → 安足(あすたり・土屋つちや、藩士/国学) B 4 5 9 7  
 安続(あんぞく・菊池) → 安続(あすつぐ・菊池きくち/常磐井、神職/国学) F 4 5 8 3  
 安素堂(あんそどう) → 耳水(みみづい・日高、藩儒/詩文) T 2 1 9 7  
 安泰(あんたい・宮井) → 安泰(あすひろ・宮井みやい、藩士/和算家) C 4 5 8 8  
 安袋(あんたい・森田) → 元夢(げんむ・森田、俳人) D 1 8 1 1  
 安代(あんたい・真野) → 安代(あすのり・真野まの、藩士/武家故実) C 4 5 6 5  
 G1014 安宅(あんとく・鶴岡つるおか) 1835-1872 38歳 上総市原郡高滝村の儒者;安井息軒門、

経義の研究、郷土史；「房総逸史」「房総志料」著

- 安宅(あんたく・脇坂) → 安宅(やすお・脇坂わかさか、藩主/老中/歌) B 4 5 1 0  
安宅(あんたく・原) → 半右衛門(はんえもん・原、藩士/写生/日記) H 3 6 2 9  
安宅(あんたく・谷口) → 安宅(あたく・谷口たにぐち、藩士/和算家) E 1 0 5 1  
安宅(あんたく・柳井) → 龜山(きざん・柳井、儒者/詩) K 1 6 5 9  
安宅(あんたく・大沢) → 秉哲(のりあき・大沢おおさわ、幕臣/日記) E 3 5 2 4  
安宅(あんたく・瀬尾) → 安宅(やすいえ・瀬尾せのお、海運業/歌人) G 4 5 0 9  
安琢(あんたく・多紀) → 元琰(げんえん・多紀たき、幕臣/医者) H 1 8 9 8  
安旦(あんたん・会田) → 安明(やすあき・会田あいだ、和算家) 4 5 8 0  
安治(あんち・脇坂) → 安治(やすはる・脇坂わかさか、武将/藩主/歌) H 4 5 0 4  
安知(あんち・前田) → 安知(やすとも・前田まえだ/菅原、幕臣/歌) E 4 5 8 1  
安致(あんち・須賀) → 精斎(せいさい・須賀すが/賀、儒者) B 2 4 5 4  
安致(あんち・吉岡) → 安致(やすむね・吉岡よしおか、藩士) D 4 5 2 1  
安智院軒道愚(あんちけんどうぐ) → 高広(たかひろ・京極きょうごく、藩主) N 2 6 0 5  
安仲(あんちゅう・五辻) → 安仲(やすなか・五辻いつつじ、廷臣/官僚) F 4 5 3 1  
安忠(あんちゅう・長沼) → 安忠(やすただ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 3  
G1015 安澄(あんちよう;法諱、俗姓;身人部[身人]むとべ) 763-814 52歳 平安前期丹波船井郡の僧、  
大安寺三論学僧、810頃法相宗と論争;論破、西大寺泰演と論争、  
「中論疏記」著、西大寺実敏/大安寺寿遠の師  
I1025 安趙(あんちよう・野村のむら里之子親雲上へ<sup>°</sup>チン、唐名;毛文揚) 1805-71 67 首里崎山の生、琉球廷臣;  
三味線歌;知念ちねん積高せこう門、安富祖正元と尚育王御冠船踊の楽師/のち尚泰王の楽師、  
王命で楽譜[工工四ククンソ]の改良、尚瀬・尚育・尚泰の3代王に出仕の音楽の御用、  
尚氏王統の古典音楽演奏家;沖縄三味線音楽野村流の祖  
安暢(あんちよう/やすのぶ・山本) → 簡斎(かんさい・山本/館たち、医者/本草) Q 1 5 7 0  
安長(あんちよう・須賀) → 精斎(せいさい・須賀すが/賀、儒者) B 2 4 5 4  
安長(あんちよう・多紀) → 元徳(もとりのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医) D 4 4 8 3  
安長(あんちよう/やすなが・多紀) → 元簡(もとやす・多紀/丹波、元徳男/幕臣/医者) E 4 4 4 9  
安長(あんちよう・多紀) → 元胤(もとつぐ・多紀/丹波、元簡男/幕臣/医者/詩) D 4 4 0 8  
安長(あんちよう・向井) → 安長(やすなが・向井むかい、大庄屋/国学) G 4 5 8 6  
安長(あんちよう・服部) → 安長(やすなが・服部はつとり、神職/国学) G 4 5 4 0  
安澄(あんちよう・平野) → 安澄(やすずみ・平野ひらの、絵師) B 4 5 7 7  
安直(あんちよく・里見) → 安直(やすなお・里見さとみ、故実家) C 4 5 3 4  
安直(あんちよく/やすなお・水足) → 屏山(へいざん・水足みずたり/水、藩儒) 2 7 3 8  
安直(あんちよく・大杉) → 安直(やすなお・大杉おおすぎ/日下部、国学) F 4 5 5 1  
安枕(あんちん:号) → 光隣(こうりん:法諱・芳郷[卿];道号、臨濟僧) C 1 9 0 7  
I1005 安通(あんつう・名嘉山なかやま、唐名;毛行仁) 1818-88 71 琉球廷臣;国主の近侍従、和漢学  
安通(あんつう・真野) → 安通(安道やすみち・真野まの、武家故実) D 4 5 0 7  
C1043 安鶴(あんつる・安寿軒、本名;小川おがわ鶴蔵) 1811-72 62歳 駿府安西の左官、巷談「安鶴在世記」著  
G1016 安貞(あんてい・湯川ゆかわ、多紀たき元恵男) 1757-98 幕府医官/湯川寛房の養子;寛房女と結婚、  
1773養家の遺跡相続/1790寄合、「安永二癸巳四日以降日記」著、湯川安道あんどうの実兄、  
[安貞(;通称)の名/別通称]名;忠房、別通称;左膳  
G1017 安亭(あんてい・石川いしかわ) 1773-1801 早世 29歳 常陸の儒者/詩人;谷田部東壑とうがく門、  
1794水戸藩彰考館入、「安亭遺稿」、  
[安亭(;号)の名/字/通称]名;信順/字;思甫/通称;乙五郎  
G1018 安貞(あんてい・桃井もものい) ? - ? 江後期上州須川の医者;吉益東洞とうとう[1702-73]門、  
1778「古文傷寒論翼」79「随証録」91「痘疹医事」94「配剂録」、1812「桃井医談」「医事答問」著、  
[安貞(;通称)の名/字/別通称]名;行、字;子忠、別通称;東奥隠医  
安貞(安鼎あんてい・三浦) → 梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩) 3 6 0 2  
安貞(あんてい・石川) → 香山(こうざん・石川いしかわ、儒者/詩人) G 1 9 3 5  
安貞(あんてい) 訓読はすべて → 安貞(やすさだ)

- 安定(あんてい)訓読はすべて→ 安定(やすさだ)  
 安庭(あんてい・久世) → 安庭(やすにわ・久世くぜ/深田/水原、歌) C 4 5 5 2  
 安諦雄(あんていゆう・小賀)→ 安諦雄(あさお・小賀おが/こが、神職/歌人) H 1 0 1 5  
 C1042 安適(あんてき・原はら) 1646?-1718?73 江戸の医者/歌人:初世山本春正しゅんしょう・清水宗川門、  
 江戸で古典教授を業とす/歌;1674「正木葛まさきのかずら」・91了然尼撰[若むらさき]6首入、  
 清水宗川・芭蕉と交流;「ほそ道」に記事、阿波徳島藩主蜂須賀綱矩に出仕;藩医、  
 [貝ひろふ蟹の子あまた数見えて霞む海辺の春の朝なぎ](茂睡[鳥の迹]春18)、  
 [帰るさを風より先に契りても花にわするゝ山の下風](若むらさき;18/行路花)  
 鷗適軒(あんてきけん) → 南洲(なんしゅう・青葉あおば、儒者) J 3 2 1 7  
 G1089 安田(あんでん・新城あらぐすく/毛) 1834-? 琉球首里の士族/官人;八重山島在番役、歌人、  
 [安田(;号)の別名/通称]名;徳昌、通称;親雲上ペーちん  
 安天星名(あんでんせいめい) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1 8 2 8  
 安都(あんど) → 安都(やすいち、俳人) 4 5 9 6  
 安都(あんど・青木) → 緬崩(かんたん・青木あおき、医者) R 1 5 3 2  
 G1019 安度(あんど・懐月堂、姓;岡沢or岡崎)?-? 江中期江戸浅草蔵前の浮世絵師;懐月堂派の祖、  
 英一蝶に私淑、宝永-正徳1704-16頃活動;門弟を集め工房を営む、遊女題材の肉筆美人画、  
 吉原遊女一人立肉筆美人画;「遊女と禿図」「遊女立姿図」「風前美人図」「蚊帳の美人」等、  
 豪商榎屋善六を利用し大奥に接近/1714江島事件連座;大島流罪、22赦免;江戸に帰る、  
 門人;安知・度繁・度辰・度種・度秀など、  
 1730露月撰「二子山」32「倉の衆あつまり」に懐月堂の名があり懐月堂常仙自画(花押)の署名、  
 さらに「常仙画(花押)」「常仙圖(花押)」「常仙書(花押)」があるので懐月堂常仙と同一か?  
 [懐月堂安度(;号)の通称/別号]通称;出羽屋源七でわげんしち、別号;翰運子かんうんし  
 俳人懐月堂常仙 → 常仙(じょうせん・志村むら;俳人1712-1744) T 2 2 9 3  
 安奴(あんど・坂本) → 定壽(さだひさ・坂本さかもと、神職/国学) O 2 0 5 7  
 安董(あんどう・脇坂) → 安董(やすただ・脇坂わささか、藩主/老中/狂歌) B 4 5 9 1  
 G1020 安道(あんどう・湯川ゆかわ、多紀元恵男、実兄湯川安貞[1757-98]の養嗣子)?-? 江後期幕府医官;  
 1798遺跡相続、1803番医/56奥医師、「傷寒論要抄」著、  
 [安道(;通称)の名/別通称]名;元俣げんたん、別通称;三郎  
 安道(あんどう・松浦) → 大麓(だいろく・松浦まつうら、医者/詩人) C 2 6 4 2  
 安道(あんどう・篠崎) → 三島(さんとう・篠崎/篠、商家/儒者) E 2 0 6 0  
 安道(あんどう・真野) → 安通(あんどうやすみち・真野まの、武家故実) D 4 5 0 7  
 安道(あんどう・堀) → 安道(やすみち・堀ほり/賀陽/香屋、国学) D 4 5 0 9  
 安道(あんどう・野井) → 安道(やすみち・野井のい/矢野、醸造/国学) G 4 5 3 7  
 安堂(あんどう・羽田) → 正見(まさみ・羽田はねだ、幕臣) H 4 0 3 6  
 安東左衛門尉(あんどうさえもんじょう) → 重綱(しげつな・藤原/安東、武家/歌人) C 2 1 4 6  
 あんどう 鮓屋(あんどうすしや;通称) → 庭李(ていり・蟋蟀亭、狂歌) B 3 0 7 7  
 安東太郎(あんどうたろう) → 俊季(としすえ・秋田あきた、藩主/歌) T 3 1 9 6  
 安都志(あんとし→あつし・可部) → 安都志(あつし・可部かべ、国学/歌) E 1 0 6 3  
 安内(あんない・吉田) → 穰(ひつじ・吉田よしだ/待井、歌人) J 3 7 9 0  
 安養院(あんにょういん) → 邦高親王(くにたかしのう) 1 7 7 2  
 安養軒(あんにょうけん) → 玄隆(げんりゅう・中西、医者/俳人) M 1 8 8 9  
 安如海院(あんにょかいいん) → 円忽(えんごつ;法諱、天台僧) E 1 3 9 4  
 安任(あんにん・大祝) → 安任(やすとう・大祝おほほり、神職/連歌) E 4 5 5 4  
 安任(あんにん・広沢) → 安任(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) C 4 5 2 0  
 C1041 安然(あんなん;法諱、最澄の俗系?) 841?-?897までに没 平安前期天台僧;円仁門/859菩薩大戒受領、  
 円仁没後に元慶寺遍昭門/877入唐予定が中止/悉曇しつたん学;長意門/悉曇学を大成、  
 884金剛界授職灌頂受;三部都法伝法阿闍梨/天慶寺座主/比叡山に五大院を構える、  
 880「悉曇蔵しつたんぞう」、「悉曇十二例」「安然疑問答数中未法」「玉泉抄」「理趣分釈」外著多数  
 [安然の称/号] 称;五大院阿闍梨/秘密大師、号;福集金剛/真如金剛、諡号;阿覚大師



C1010 **安然**(あんねん;道号・蘭渚らんしや;法諱)?? 1668存 江戸前期の曹洞僧;愚明祥察(双林寺15世)門、1668「愚明和尚行業記」著

安年(あんねん・吉田) → 安年(やすとし・吉田、商・農業/国学) C 4 5 2 2  
安範(あんはん・森川/上月) → 安範(やすのり・森川/上月/源、国学・神道家) C 4 5 6 4  
安斐(あんひ・脇坂) → 安斐(やすあや・脇坂わかさか/藤堂、藩主/歌) H 4 5 0 3  
安美(あんび・松本) → 安美(やすよし・松本まつもと、商家/儒者) D 4 5 5 3  
安弼(あんひつ・宮崎) → 安弼(やすすけ・宮崎みやざき、家老/歌人) G 4 5 8 3  
庵払子(あんぷつし) → 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1  
安分(あんぶん・岡坂) → 安分(やすわき・岡坂おかさか、歌人) H 4 5 0 6  
安分子(あんぶんし・岡本) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8  
安炳(あんへい・脇坂) → 安宅(やすおり・脇坂わかさか、藩主/老中/歌) B 4 5 1 0  
安平(あんべい・林) → 安平(やすひら・林はやし、武術家;柔術) C 4 5 8 1  
安平(あんべい・井手) → 安平(やすひら・井手いで/松宮、藩士/歌) F 4 5 2 7  
安平(あんべい・津田) → 安平(やすひら・津田つた、藩士/国学者) G 4 5 2 8  
安平(あんべい・杉本) → 安平(やすひら・杉本すぎもと、国学者) G 4 5 0 4  
安邦(あんぼう・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5  
安峯(あんぼう・赤松) → 顕則(顕範あきのり・赤松あかまつ、武将/歌) 1 0 7 9

C1016 **安法**(あんぼう;法諱、姓;源、名;趁ちん、適かなう男/祖父;昇/曾祖父;融)?? 983存 母;大中臣安則女、父の代で家運衰退/出家;天台僧、曾祖父造営の河原院住;歌人多数と交流、983天王寺別当、歌人;962河原院歌合など主催、家集「安法法師集」、勅撰12首;拾遺(137/589/1016)後拾(286/1080)新古(1472/1570/1663)続古(300)以下、  
[夏衣まだ単衣ひとへなるうたゝ寝に心して吹け秋の初風](拾遺集;三秋137)

C1017 **安法女**(あんぼうのむすめ、源趁みなもとちんの女)?? 平安期985-1012頃歌人;三条天皇東宮時代に交渉詠歌、河原院住、能因と交流(能因集入)、歌;勅撰3首;金葉Ⅲ三奏本411、新古1212・1217、玄々集・続詞花集入、  
[独りふす荒れたる宿の床とこの上にあはれいく夜の寝覚めしつらん](新古今;恋1217)  
[三条院 東宮(みこの宮)と申しける時 久しく仰せごとなかりければ、  
よのつねの秋風ならば荻の葉にそよとばかりのおとはしてまし]、  
(玄々;109/続詞花;恋645)

安本(あんぼん・御粥) → 安本(やすもと・御粥おかゆ、和算家) D 4 5 2 7

G1021 **案本胆助**(あんぼんたんすけ) ? - ? 1837随筆「江戸愚俗徒然断」著

あんま羽介(あんまうすけ) → 羽助(うすけ・音おと、歌舞伎作者) C 1 2 9 1  
安万(あんまん・越田) → 安万(やすま・越田おだ、絵師) E 4 5 6 4  
安民(あんみん・野上) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C 3 5 8 5  
安民(あんみん・秋元) → 安民(やすたみ・秋元あきもと/藤原、藩士/国学者) B 4 5 9 5  
安民(あんみん・高島) → 安民(やすたみ・高島たかしま、歌人) F 4 5 0 0  
安明(あんめい・渋谷) → 安明(やすあき・渋谷、俳人) E 4 5 6 7  
安明(あんめい・塚口) → 安明(やすあき・塚口、俳人/狂歌) E 4 5 5 7  
安明(あんめい/やすあき・竹内たけうち) → 東門(とうもん・竹内、儒/医者) H 3 1 4 6  
安明(あんめい/やすあき・会田) → 安明(やすあき・会田あいだ、和算家) 4 5 8 0  
安明(あんめい・諏訪) → 安明(やすあき・諏訪すわ、大庄屋/歌人) G 4 5 0 2  
杏茂(あんも・大場) → 寥和(初せりようわ・大場、俳人/五色墨) J 4 9 6 6  
安門(あんもん・遠藤) → 安門(やすかど・遠藤えんどう、藩士/弓/歌) F 4 5 4 7  
安雄(あんゆう・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1  
安雄(あんゆう・菅沼) → 安雄(やすお・菅沼すがぬま、歌人) F 4 5 0 1  
安雄(あんゆう・松井) → 安雄(やすお・松井まつい、里正/和学) G 4 5 6 6  
安祐斎(あんゆうさい) → 玄貞(げんてい・木梨きなし、藩士/医者) L 1 8 5 3  
安雄美(あんゆうび/あゆみ?・村田) → 橋彦(橋比古はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7  
安誉(あんよ;法名・穩蓮社) → 虎角(こかく;字・雲潮;法諱、浄土僧) L 1 9 8 6  
安養(あんよう) → 恭斎(きょうさい・根市ねいち、藩士/儒者) N 1 6 7 9

- 安養院(あんよういん/あんによういん)→ 邦高親王(くにたかしんのう、歌人/連歌) 1 7 7 2  
 安養軒(あんようけん/あんにようけん)→ 玄隆(げんりゅう・中西、医者/俳人) M 1 8 8 9
- C1093 安養尼(あんように、尼和氏;和氣氏?)?-? 和氣清麻呂姉広虫(法名法均、本朝一人一首入)か?、  
 平安期女流詩人、「経国集」入  
 安養尼(あんようのあま) → 願西(がんさい、平安中期の尼僧) E 1 5 0 2  
 安養比丘尼(あんようのびくに)→ 瓊子内親王(けいしなしいんのう、後醍醐皇女/歌人) 1 8 6 7
- I1099 安楽(あんらく;房号・法諱:遵西(じゆんさい、外記中原師秀男)?-1207刑死 平安鎌倉期浄土僧;法然門、  
 初め武士;大蔵卿高階泰経に出仕、のち出家;浄土僧/日本第一の美僧(法然上人絵伝)、  
 1192(建久3)法然の東山八坂引導寺で念仏の際に同門の住蓮とともに六時礼讃の勤行、  
 1198(建久9)法然[選択本願念仏集]の執筆役;それを驕り途中解任、  
 音楽の才あり;六時礼讃に哀歓悲喜の音曲;念仏者多数の合唱;専修念仏の普及に貢献、  
 1205(元久2)興福寺僧徒より[興福寺奏状]の専修念仏停止訴状、  
 1207(建永2)鳥羽上皇女房達が安楽に感化され出奔出家等で捕縛;羅切/六条河原で斬首、  
 この事件を契機に[承元の法難](法然の讃岐配流・親鸞の越後配流)が起きる、  
 [安楽(房号)の俗名]中原師広  
 安楽(あんらく・赤井) → 忠常(ただつね・赤井あかい/源、里正/歌) V 2 6 0 9  
 安楽庵(あんらくあん) → 演義(のぶよし・由比ゆい、藩士/歌人) E 3 5 0 6  
 安楽庵策伝(あんらくあんさくでん)→ 策伝(さくでん・安楽庵あんらくあん、浄土僧/茶人) 2 0 1 4  
 安楽院(あんらくいん) → 義観(ぎかん;法諱・極妙、真言律僧) J 1 6 8 8  
 安楽院(あんらくいん;号) → 達巖(たつがん;法諱、真宗木辺派僧) R 2 6 6 0  
 安楽院太呂(あんらくいんたいりよ)→ 太呂(たいりよ・安楽院、修験僧/俳人) L 2 6 2 0  
 安楽窩(あんらくか) → 真薬(しんずい;法諱・季瓊きけい、臨濟僧) 2 2 3 6  
 安楽窩(あんらくか・無弦) → 信英(のぶひで・竹内たけうち、藩家老/歌) I 3 5 1 2  
 安楽閑人(あんらくかんじん) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0  
 安楽常院(あんらくじょういん)→ 家長(いえなが・高辻たかつじ、廷臣) E 1 1 9 0  
 安楽精舎(あんらくしゅうじや)→ 眞鏡(しんきやう・寿福軒、文筆家) N 2 2 8 6  
 安楽道人(あんらくどうじん) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0  
 安楽坊(あんらくぼう) → 幾暁(きぎやう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2  
 安楽廬(あんらくろ) → 維周(これちか・佐藤、儒者) O 1 9 5 0  
 安蘭(あんらん・藤原) → 明衡(あきひら・藤原、廷臣/詩文) 1 0 1 1  
 安瀾堂(あんらんどう・石井)→ 夏海(なつみ・石井いひ、絵師/狂歌) G 3 2 7 3
- D1000 安利(あんり) ? - ? 京の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」3句入、  
 [沓くつのだしろほしくばわめけ杜鵑ほととぎす](犬子集;三704/異名沓代鳥(つてどりをきかす))  
 安利(あんり・多湖) → 安利(やすとし・多湖たこ、藩士/記録) C 4 5 2 4  
 安利(あんり・柳沢) → 安利(やすとし・柳沢やなぎさわ、幕臣/和学) G 4 5 9 4  
 安理(あんり・吉成) → 安理(やすまさ・吉成よしなり/清原、神職/歌) H 4 5 0 2  
 安履亭(あんりてい) → 婉(えん・野中、医者/詩歌) E 1 3 3 8  
 安立坊(あんりつぼう)→ 周五(しゅうぎよく・安立坊、高田派真宗僧/華道) W 2 1 9 3
- D1015 安隆(あんりゅう) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
 [花の色もよく染付けのはちす哉](犬子集;858/蓮の花を染付[磁器]に見立てる)
- D1016 安竜(あんりゅう・永島ながしま、長田玄明男)1801-69 永島家継嗣;甲斐都留郡新倉村の代々医者、  
 江戸で儒・医を修学/帰郷し医を業とす、  
 息子審しんと新倉村への河口湖の引水工事を計画;1847私財を投じて着手;差配頭取、  
 1866(慶応2)隧道完成、「永島安竜桑原洗竹往復書簡」「理療令辯」「農家心得」著、  
 [安竜(;通称)の名/字/号]名;丕頭、字;宗旦/信山、号;呑山/臥竜窟、法名;信暁  
 安竜(あんりゅう;道号・智穩;法諱)→ 智穩(ちおん・安竜、曹洞僧) 2 8 5 3  
 安立(あんりゅう・安達) → 栄庵(えいあん・安達あだち、医者) C 1 3 4 8  
 安立院(あんりゅういん) → 日源(にちげん;法諱、日蓮僧) B 3 3 6 8  
 安立坊(あんりゅうぼう)→ 周五(しゅうぎよく・安立坊あんりつぼう、高田派真宗僧/華道) W 2 1 9 3
- G1022 安良(あんりやう・山本やまもと、名;良阜/字;景岐)?-?1845-54頃没 出雲松江藩医学校存濟館教授、

詩人、「出雲風土記物産解」「鷄寮先生百絶句」「麻田美乃事書」「喰延食品」著  
 安良(あんりょう・山崎) → 宗運(そううん・山崎やまさき、幕臣/医者) G 2 5 0 8  
 安良(あんりょう・多紀) → 元胤(もとつぐ・多紀/丹波、幕臣/医者/詩) D 4 4 0 8  
 安良(あんりょう・多紀) → 元所(もとあき・多紀たき、元胤男/幕府侍医/詩) C 4 4 0 0  
 安良(あんりょう・深山) → 陸渾(りくこん・深山みやま、儒者/詩人) 4 9 7 2  
 安良(あんりょう・山口/紀) → 安良(やすよし・山口やまぐち、醸造業/国学) D 4 5 5 7  
 安良(あんりょう・梅谷) → 安良(やすら・梅谷うめたに、藩士/国学者) F 4 5 4 4  
 安良居(あんりょうきよ) → 清晃(きよあきら・星川、藩士/国学者) N 1 6 0 5  
 安隣(あんりん・摂津) → 安隣(やすちか・摂津せつ、国学者/歌人) G 4 5 1 2  
 安烈(あんれつ・翁) → 盛元(せいげん・伊舎堂いじやどう、琉球三司官) N 2 0 8 0  
 安連(あんれん・柳沢) → 安連(やすつら・柳沢やなぎさわ、幕臣/和学) G 4 5 9 3  
 安連(あんれん・中村) → 安連(やすつら・中村なかむら、庄屋/神職) G 4 5 3 4  
 安蓮社豊誉民阿(あんれんしゃほうよみんあ) → 靈応(れいおう;法諱、浄土僧) 5 1 1 4  
 安和(あんわ・能美) → 友庵(ゆうあん・能美のうみ/林、医者) 4 6 5 2